

蒼鋼少女—ReboostTune
(ポケモン擬人化の超
エツちな話！)

緋枝路 オシエ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

別称「蒼鋼少女―ReboostTune―

つまりエロいだよ！ ヴィヴィだよ！

目次

| | | |
|----|-------------------|-----|
| | エツチな占い師の場合―― | 1 |
| | エツチな占い師の場合―― | 2 |
| | エツチな占い師の場合―― | 3 |
| | エツチな占い師の場合―― | 4 |
| | エツチな占い師の場合―― | 21 |
| 50 | ソープランドの看板双子の場合―― | 4 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 14 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 10 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 1 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 2 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 3 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 3 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 104 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 86 |
| | エツチな反骨神の場合―― | 75 |
| | エツチな道化師の場合―― | 1 |
| 32 | ソープランドの看板双子の場合―― | 2 |
| | エツチな道化師の場合―― | 115 |
| | エツチな道化師の場合―― | 120 |
| | エツチな道化師の場合―― | 2 |
| | エツチな道化師の場合―― | 3 |
| | エツチな魔女の場合―― | 148 |
| 44 | ソープランドの看板双子の場合―― | 3 |
| | エツチなメイドお姉ちゃんの場合―― | 165 |
| | ソープランドの看板双子の場合―― | 6 |
| | ソープランドの看板双子の場合―― | 57 |
| | ソープランドの看板双子の場合―― | 5 |

エツチなメイドお姉ちゃんの場合―2

173

エツチな蒼鋼少女の場合―1

エツチな蒼鋼少女の場合―2

エツチな蒼鋼少女の場合―3

エツチな蒼鋼少女の場合―4

エツチな蒼鋼少女の場合―5

エツチな蒼鋼少女の場合―6

エツチな手持ちメンバー―全員との場合―

お姉ちゃんと朝エツチ編

エツチな蒼鋼少女―番外編

エツチな手持ち全員との場合―蛙くのい

ち登場編

エツチな手持ち全員との場合―蛙くのい

ち陵辱墮ち編

エツチな手持ち全員との場合―蛙くのい

ちと占い師とセックスその1

エツチな番外編―ヴィヴィと“あなた”

の初えつち!

エツチな番外編―ヴィヴィと“あなた”

の初えつち!―2

エツチな番外編―ラピ姉のおっぱいイキ

エツチな手持ち全員との場合―蛙くのい

ちと占い師とセックスその2

ヴィヴィのこっさりぱいずりえつち

317

302

290

279

259

242

225

208

193

328

404

351

378

397

エツチな占い師の場合——1

不思議な生き物、ポケットモンスター、縮めてポケモン。

そのポケモンが、人型となる現象が発生したのが30年前。

相棒や仲間として戦うのは勿論、恋人や嫁として愛を育む、人間×ポケモンは——地方で最も性に開放的なイツシュでも例外では無い。

寧ろ、多種多様な人種が集まる、イツシュこそパイオニア。

チェリムが永遠にポジフォルムを維持出来そうな優しく、母なる大地に産まれ落ちた奇跡へと謝辞するだけの価値がある日当たりは、愛する者に抱擁され——

「ほっ、ほっ、んしよっ………あら、旦那様♡ おはようございます♡」

「つゝゝゝ!!? ト、トロンちゃん!!? おはよゝ! くへっ!!? はあゝ! 目覚ましパイズリイゝゝゝ!!」

——朝勃ちしている男性器は、彼女のおっぱいに抱擁されていたらしい。

イツシュで一番の大都会、ヒウンシティのセントラルエリアに居を構え、既に婚約済みの美少女ポケにパイズリされているのは、海岸通りの研究所に勤めている「イザヤ」

18歳の彼はこの世界では成人済みとして扱われ、両親に頼らず労働し収入を得て生計を立てている。その産物が中々大きな軒家の購入である。

大きい、と言えば彼の——性の欲望に正直で、ベッドの上でバトルを繰り返し、努力の振られたペニスはイツシュ人の平均を遙かに超えて25cm。

通常時ですら14cmもあり、とある手持ちポケモンが珍造した薬を服用すれば、3cmから30cmオーバーまで思いのまま。

完全に♀ポケを悦ばせ、泣かせ、メロメロにさせてしまうペニス、角度も彼の意味でウインカーから時計回りまで思いのまま。

えげつない太さの力りで、何百もの膣を貫き、こそぎ、絶頂させていった。

彼は「擬人化したポケモンを調べる」研究者なので、身体を重ねダイレクトに対象を感じ取るのも、立派なお仕事なのだ！

肌寒くない4月だけど、毎朝おっぱい乾布摩擦で血行が促進されているので、お仕事に疲れてようが勃起しない、はありえない。

それどころか、疲れマラとなつて手持ちに抜いて貰つて、そのまま本番がデフォルト。イツシュに住まう人々の中でも、トップクラスにエロ漫画している男子。

「オチンポ様の循環が滞つては遅いです、婚約者として旦那様の、オチンポ管理を任せら

れているのですから」

むきゆむきゆむきゆ……………

褐色肌、即ち！ おっぱいもエキゾチック——されどマスターであり、旦那であるイザヤに甘々な破廉恥衣装のシンボラー「トロン」

彼女らが15歳の時にリゾートデザートで出逢って「20歳になったら結婚♪」を、誓い合ったパートナー。

互いに18歳の現在でも「旦那様」呼びしているが、結婚までは恋人として日々を楽しむのだという。

過酷な砂漠地帯で生活する、彼女達シンボラー一族は他の種族よりも、風通しが良すぎる衣装を好む。

砂漠なのに薄着？ 皮膚が焼けてしまわないのか？ ……………など、突っ込みは研究で説明されるのを待つしかない。

大半が『だって、ポケモンは不思議な生き物だし』で、片付けられてしまうと云えばそうなのだが。

砂漠一帯を統一する王族、その娘であるトロンはお姫様。つまり偉い。

（こんな可愛くてエッチで褐色でおっぱい大きくて優しく家庭的で痴女ルックでエッチな子と、お友達どころか婚約出来た……………くううッ！ 苦労してイツシユまで来た

甲斐があったよなあ……………！ 15歳で学者の資格取るの、めつつつちゃ！ 大変だったんだぞっ！)

早くて20歳、イザヤの「♀ポケモンの隅から隅まで接触を試みたい」……………色欲全開パワーで、史上最年少の研究者となった彼は以降、しあわせタマゴをゲットするよりも幸せ（の頭にエッチなも付く）イベントが軍勢のように押し寄せてきたのだ。

「どうですか、旦那様？ ワタシのFカップ……………ちゃんと気持ち良く出来ていますか？ はあ、はあ……………はんんっ……………♡」

たびゅ♡ たびゅん♡ ゆさゆさ♡ ゆさゆさ♡

彼女の胸が小さいのでは無い。

彼のペニスがキョダイマックスなのだ。

「スント、スンスンスント……………♡ 我慢汁、エッチな匂いが集まってますね♡ もう少しパイズリすれば……………♡ ワタシの褐色肌♡ 旦那様の妊娠熱願液でびゅー♡ びゅー♡ ………………♡ いつでもいいです♡ はっ！ はっ！ はっ！ はっ♡」

盲目の彼女は視覚以外の神経が発達している。

サイコパワーも活用すれば家の中何処に居てもイザヤが、ペニスを垂らし込めばぶつかること無く一目散にかぶり付ける嗅覚。

匂いフェチのトロンは、笑顔を向ける事が出来ないので、SNSと大げさに鼻を鳴らして、亀頭へ擦りつける癡狂とも言える、恥ずべき姿を「視て」貰い旦那様の精液タンクを膨らませ続ける。

——彼女と恋仲となつて、初めてして貰った行為……………パイズリであつた!

トロンは積極的に子作りを望んでおり、イザヤも歩くだけで射精してしまうくらいに他を圧倒する思春期少年なので、最低でも3回は中出しエッチをしている。

それが殆ど毎日、続けて三年。

未だに妊娠していないのはイザヤの精子が貧弱で卵子に辿り着けないのではなく、トロンの卵子が精子をぶつ殺しているのでもなく、人間×ポケモンの繁殖行為ではひじょくくくに妊娠確率が低いのだ。

恐らく色違いポケモンと出逢う——よりかは流石に高いが、1000回中出しして漸くな人×ポケの夫婦もいる。

二人は子供が欲しい! ならいっぱいセックス! 中出し! 中出し! 実らなければ実るまで中出しッツ!!

「んっ♡ はああああつ♡♡♡ 旦那様のっ♡ 口の中にも入ってきました……………♡
 ♡ 本日も元気な精液、勢いのある射精でしたよ、ちゆるっ、くっ……………♡ンツ♡ 濃度——くつつつきやすさ、なめらかさ……………オチンポ離れないですね♡ 朝食前にお腹

「いっぱいになりそうです………♡♡」

上半身は乳首だけを隠している布。

下半身は下着こそ履いている物の、パレオがシースルー加工なので縞パンが目を細めなくなつてご開示状態。

ハッキリ言つてドドドドスケベなので外に出た瞬間、ナンパ師も尻尾を丸めて後退る。

逮捕できるモンならやってみろ

………トロンはそんな事言わないけれど、治安維持団体に喧嘩ふっかけている。もしシンボラー族でなければ確実にアウトだ。

先述したがなんと、一族の中では『肌面積が狭い』

彼女の母親、女王様なんて『淫筋しか隠してない』のだからっ!!

乳首すらレントラーの透視も、みやぶるも効果無し。だって最初から見せているのだからっ!

——かくして、イザヤの手からはみ出てしまう、ぽよぽよFカップは精液で胸部一面が、布代わりに覆い隠された状態。

——ネチヨツ

パイズリ後の事後開示も忘れずに、朝の戦果を旦那様に確かめて貰う。

(俺の精液とトロンちゃんのお褐色肌っ!!? 見てるだけでムラムラするのにつ、最高の調味料で召し上がれされてるだろおおっ!!)

背は170のイザヤと、丁度キスしやすい158cm。

胸は転がしながらも隙間から逃げる大きさ、腰は騎乗位が得意な彼女のヒネリテクで、よりシエイプされており尻はT字となったパンツが食い込んでいる。

「どうぞ、シコってください」と提供されるオカズに、トドメをさすのがザーメン跡の似合う褐色肌。

俺色に染めている………トロンという最高の麻織物、欲望と性欲と本能を混ぜて混ぜての、ギトギトな絵の具を付けて筆をめた走らせる………!

綺麗に汚いで支配する、同じ感覚なのだ! これを毎日味わえる男、それがイザヤ!

「いいえ、旦那様の精液は汚く何てありませんよ? ワタシとの赤ちゃん………新し
い命を創世する清浄で崇高、起源となる物ですよ♡」

許されるのならば挾射された精液も、そのまま残しておきたいらしい。

糸を引かせて、千切って、またくつつけて……………

くにゆくにゆ、胸を弄るトロンは王族という立場というのを抜きにしても、少々変わった子だ。

「さ、旦那様。ラピさんが朝食を作ってくれてますよ、続きは夜へ……………楽しみに待ってますね♡♡」

「ありがとうトロンちゃん！ 朝抜きされないと陰囊が苦しくつてさあ……………手持ちとの中出しエッチを源に、今日も頑張れるんだぞい☆」

トロンはホドモエ橋の近くで占いを、イザヤは研究所へ出勤。

本来ならこのまま2〜3回戦は致したいのだが、社会常識のある彼らは「お仕事すらサボってセックスセックスセックス」な日常を送っていない。

セックスでセックスセックスするのは、ちやあんと各々の役割を果たしてからだ。

言わばご褒美！

『トロンちゃん、お疲れ様。おっぱいも疲れちゃったよね？ 俺が揉み揉みしてあげよつか？』

『あんっ♡ 旦那様こそお疲れ様です♡ オチンポ様が挟まれたがってますよ♡ まずはワタシからパイズリさせてくださいな♡』

これは昨日の会話である。

仕事↓ご褒美に子作りセックスのデイリーミッション。

トロンは「あくまでも一人目の嫁」なので、他の子と話し合って交代でイザヤの相手を務めているのだ。

一夫多妻制………ハーレム、イツシユ地方はそれがゆるされる

(夢とおっぱいはデツカク！ 手持ち全員の子供を作るっ！ 色々なポケモンとエツチする！ 俺は叶えられる力を持っている………持っているのだッ!!)

トロンちゃん。

エッチな占い師の場合—2

「あらあ？ 寝ぼすけさんが来ましたねえ♪ またトロンさんとエッチな事してたつて丸わかりな物音でしたよお？」

「ええ、俺の喘ぎとズリ音聞こえてたの？」

「それはもう♪ ご主人様のセリフ、復唱しましょうかあ？」

手のひら、前腕、二の腕。

載せられるだけ朝食を載つけて、絶対に落とさない割らない。

だってメイドさんですから。メイドとは常に完璧な振る舞いをしなければならぬ。

「つと、ラピ姉のおっぱいもチャージさせてっ！ うひよほほほっ！ おっぱい強調型

メイド服っ！ ラピ姉ったら優しいっ！ おブラの感触伝わりながら、生パイのたぶ

んたぶん具合も分かってしまうっ！」

「あらあらあ、五秒だけですよお？ それ以上はちきゅうなげの刑ですからねえっ！」

背面から乳揉みされようが、動じずにテーブルを彩っていく。

着水すれば大きく波紋、Hカップのお胸を触つても「こらあ♪」だけで許してくれる

！

……ただし、調子に乗りすぎたら、1トンもの岩を軽々持ち上げる怪力を誇る拳で“わからせる”

イザヤも散々調子に乗って病院へ搬送された。搬送先のベッドでも、あくくんしてくれる青髪ポニテのメイドさんは、大人の余裕を崩さず飄々とセクハラにも対応する。

世界を旅するフリーのメイド。

特定のご主人様を持たず、契約期間中の主は全員『ご主人様』

ニツクネームは特に無かったのだが、何時の頃からか——フランス語で使用人を意味し、神の声を聴いた聖女の異称である「ラ・ピュセル」の二つ名を授かるようになった。イザヤとは10年の付き合い、オバケが出た夢を見て一人でトイレに行けなくなった彼に付いていつてあげた過去もある………その他、恥ずかしい出来事は大体知られている。

ラグ姉から『ラピ姉』と呼ぶようになった。

契約期間は間も無く終わるが、少しの間を置いてすぐに戻って来てくれる。イザヤが多額の資金を前払いしているからっ！

「ふう、堪能したっ！ 朝から嫁とお姉さんメイド、二人のおっぱいに挟まれ揉んで！

こんな18歳が居ていいのかあくく?? 良いんですわあwww」

「あらくく、あくまで予想で言っただけなんですけどお、やつぱりパイズリされていたん

ですね。お仕事前からお盛んですね♪ イツシユの人口がまた増えてしまいますう♪」
 「……………増やしたい、ですね……………」♡ ラピさんは旦那様と——」

「私は『皆さんの』メイドさんですので。イザヤさんだけを鼻負する訳にはいきませんよお？ さあさあ、リクエスト通り山芋の磯辺揚げ！ 精の付く物でご飯にしましょう♪ 胃もたれしないのは凄いですよねえ。ルーシャさんは練習明けから就寝中、アリーさんはラボで研究中、ギラティナさんはダラダラしていたいそうなので、三人で食べていいそうです。どうぞ召し上がれ♪」

そう、彼女は正式な手持ちでは無い。

正式なマスターを持たぬポケモン。

……………イザヤの初恋にして、初失恋の相手でもある……………

(ラピ姉……………おっぱいは触らせてくれるけど、そこから先がどうしても無理なんだよなあ……………中出し、は出来なくてもパイズリ……………ッ！ されたいっ、今年が目標の一つだ)

だが諦めの悪いイザヤは、ラピの『本当のご主人様』になりたい。

お姉ちゃんでありながら従者。

シヨタ時代に授乳手コキされたかった……………それだけは悔いが残っているが、彼女を正式メンバーにすれば、授乳手コキどころじゃない。

18歳と28歳、イザヤが何才歳を取っても、永遠にラピはお姉ちゃんなのだ。

(他にもメイド業としてお勤めしてるポケモンは居るけどさ、俺はラピ姉以外じゃダメなんだ。トロンちゃんや他の子は居る、将来的に結婚するし童貞もとつくの昔に捨ててる、でも俺は——初恋の相手も欲しいよっ)

常にポジティブ思考なのが、イザヤの長所の一つである。

2つめはペニスが大きい、3つめはセックスが上手い、4つめは♀ポケモンを口説く

エッチな占い師の場合—3

お仕事を終えたイザヤ、トロン。

「お互いの声を聴いただけでムラムラしちゃうくらいのこと、リクエストしておいた亜鉛にビタミンEがビツフェの如く整列した夕食でお腹いっぱい。

シャワーを浴びた22時半からは——

「旦那様……………♡ 子作りしましょ♡」

スイッチを「弱」へ落としたイザヤの自室。

手持ちの皆と——偶に手持ちじゃない子とも、夜のポケモンバトルを繰り広げるには役不足だったベッドを取っ払い、6人7人が入り乱れても問題のないセックス用ベッドを購入。性関連の道具はショッピングモールR9で簡単に揃う。

「お仕事でも……………♡ 旦那様のオチンポ様挟んだり……………おしゃぶりしたり……………ぽつ」と頭に浮かんでしまい♡ ちよつと濡れてしまいました……………♡」

外観パラメーターがスケベ全振りなトロン、中身も相応にエロい。

というか『趣味：こづくり』

気が利く彼女は冬場、勃ち具合がやや劣り体温も下がっている朝勃ちペニスホット

パイズリー乾布摩擦―で暖めてくれるなど、お茶の子さいさい。

イザヤの第一の嫁となるべくして、産まれたと惚気ながら話す。

「トロンちゃん、慣れたのに思うんだよ、とんでもなくエツチな格好だなあって毎晩おっぱいなんて、少し布をズラせば……………ホラツ、カワイイ乳首が丸見え♪ 褐色肌に桃色乳首の組み合わせ♪」

特別な身分も位も持っていないイザヤ、こうして王族の肌を我が物に。

イツシユ地方はなんと……………っ！ 素晴らしいのだろうかつ！

身分違いでも猛アタック、相手からも猛アタック、口出す者など一人も居らず無事に婚約し現在に到る。

「ワタシはもう準備……………出来てしまってます……………ちゅつ、ばぁ……………♡
りゅつ、んっ……………♡ 旦那様あ……………♡♡」

サイコパワーで布を押さえていただけ。

旦那様との子作りでは、その必要もないので指一本で捲り上げる事が出来る。

ぶるっ――

慎ましくない、普通に大きいのが表現が適切なFカップのロイヤリティボイン。

イザヤの手持ちの中にはトロンよりも大きいおっぱいのポケモンは居るが、褐色肌というアドバンテージは真似できない。

インナーカラーは原型通りに、ビビットが多用されているがベースは黒髪、それもサラツサラロングの姫カット。

——イザヤ、仲間である手持ち以外は触れる事も許されない。

一族の前なら極刑で無様な死体を晒した方がマシな、エアスラ責めでゆっくり……………なぶられながら365日かけて苦しんで死ぬを強要されるだろう……………

「トロンちゃんは撫でられるのも好きだもんね」

「ハイ♡ 旦那様にされること、全部好きです♡」

独り占め、砂嵐が吹き荒れてもツヤツツヤな王族黒髪独り占めっ！ マジックガー

ド！

トロンをゲットし、暫くは「お姫様が自分だけの物になった」優越感、高揚感、幸福感で自分が世界一偉くなったと陶醉してしまった。

無理も無い、最初のパートナーは運命を感じた子——そうしてトレーナー免許を取得しても5年間は手持ちを持たなかったのだから。

「半勃起……………旦那様の準備をさせてください」

「そうだな、朝は出来なかったフェラチオをいい？」

「旦那様が望むままに……………♡ オチンポ様も、今からおしやぶりさせていただきます♡ チユツ♡♡」

トロンをゲツトし、彼の人生は上昇気流に乗った。

道化師、魔女、信じられないかもしれないが神様まで。

身体の関係を持つようになったポケモンも数知れず。性事情が15歳から解禁されたとも言えよう！

「はもお……………♡ ちゆつ、くりゆつ♡ つば、んちゆばあ♡ んもつ……………れひゆひゆつ、カリ首の横から……………♡ チユチチツ♡ チロチロチロ……………♡」

（「……ツ、……!! お姫様なのにエッチが超上手い！一緒に積み重ねて来たからなあ！ ああ……………四つん這いフェラされるのタマンネ……………本当にいいのか？ 俺消されない？ って、婚約した今でも時々思っちゃう）

セルフ目隠しプレイの彼女の姿、視覚的興奮は健全であるのに背徳。

まずは亀頭へ親愛の印であるキス。

疲れマラはピクツ、ピクツ、溢れんばかりの精力をゼンリヨク投球できる舌へ我慢汁を二回プッシュ。

朝にフェラ抜きする味と異なった、夜専用子作り汁の味を確認して、精液袋を両手で祈るようなポーズのまま跪く。

本来跪くのは自分なのに——湿らせた唇を少しずつつ開口し——パクツ。

「んぢゅっ♡ んふっ♡ ふぐぐぢゅ♡ ぢゅひゅっ、りゅずずっ♡——フハッ、はぁ——♡ はぁあっ——♡ ワタシの唾液と♡ 旦那様の勇み足液♡ くちゅくちゅ………ませませっ………♡ 立派なおチンポ様♡ テカテカに致しますね♡」

チヨコレートよりも美味しい肌、口元から胸元はフレンチドレッシング。お姫様とあろう者が品性に欠ける食べ方をしている——旦那ペニス。

上下へと小刻みに蛇行し、膣を抉り精液を埋もれさせる為だけに特化した、最強のペニス形状はツポ押し棒が最も想像しやすいだろう。

キスの後は鼻を擦りつけて、彼の匂いを存分に吸い込む。視覚が機能して無い分、嗅覚や聴覚が発達しているので、視覚の分を他で摂取し閉じ込めようとする。

ズツ、ズツ、クンツ、クンツ………♡

これくらい大げさに音を漏らした方が、自分も旦那様も興奮する。
フェラ音も——しかり。

「じゅほっ♡ んっぼっ♡ ふぢゅっ♡♡♡ ツポ♡ グッポツ♡ グヂュツ♡ ブ♡
ホッ♡ フヂュッ——♡ グゴ♡ グゴツ♡ グ!?♡ ブフツ、く!?♡ チュチュ
チュツくく♡ ふつくく♡ ふうくくツ♡ んっ——♡ ふっ、んっ——
………♡ チュククツ………つぶ、ふ、あっ、あ、ああ………♡♡ はっ、うっ

……♡ ごめんなさい旦那様っ……♡ トロンはエッチなのでっ……
 はぁーっ♡ 精液ゴクゴクしながらイツ……♡ てしまいまっ……♡ たっ
 ……♡

神に捧げる献上物を磨くように、陰嚢を支えたまま鈴口をくシャフトをくカリ溝を、舌の側面を使つたフェエラ。

もし——イザヤは嫁となるポケモンへ対して、そんな命令しないだろうが……「泥が付いた、舐めて綺麗にしろ」にもトロンは、喜んで汚れペニスをお口洗浄してくれるだろう。

一度ペニスを離すのを合図に、拝み、尊重するじつとりしたフェエラから——家畜場へ投入されたエサを我先にと齧り付く——同意義な勢いへ。

旦那様に愉しんで貰うフェエラから、射精させるまでのタイムアタックな緩急に、予想はしていたが——いつ、どんな時にされたって嫁業が炸裂すれば、気持ちが良い。

「はーっ♡ はっー……♡ あやとり……♡ 出来ちゃいますね♡ 濃くて……♡ 伸びて……♡ くっ、ちゅぐんっ♡ おっ、おいしくてっ……♡ んちゅっ♡ くむっ、くむんっ……♡ んぎゅっ♡ 旦那様の精子い……♡ 胃の中でピチピチしてますよ♡ ワタシの身体は妊娠したがつていますのに……♡ もっといっぱいエッチ♡ しないですっ♡♡」

「トロンの身体に施される——王族を証明する儀礼。地上絵を模したアートは、褐色に加わるアクセント。相乗効果でより肌を、ペイントをエロく魅せる。

——飲み込みきれず、精液に上乘せされてしまい、褐色ラインすら狭まった余波。

健気にも指ですくって、飲んでを繰り返す姿に前座は終わりだ——イザヤの心の声を代弁してペニスは、げんきのかたまり状態。

「ハー——♡ ハアア……………♡ 立派です旦那様♡ ワタシが精液を導かせていただきます♡ お疲れの旦那様は楽にしていってください♡」

（自分も疲れているのに手厚すぎるよトロンちゃん……………ツ！ 頑張つて応えるのが夫だろっ！頼むぜ——レベル1からの相棒っ！ 今夜こそ妊娠だぞっ!?!）

ギンツ——

ビギギツ……………

射精しても射精しても——

エッチな占い師の場合―4

(♡♡おつきき……………♡♡ キヤツ、血管が飛び出て来そうですっ♡ 余すことなくワタシの膣内に引っかかって……………♡♡)

同性にペニスを見せる趣味は無いけど——男ですら顔を赤くしてしまうであろう、勃起の努力値振りを完遂させた個体値31。

その長さたるや、トロンの乳首をスタート地点に鼻の頭まで到達してしまう……………3年間、トロンだけでなく他ポケとヤって、ヤって、ヤリまくったのでダークポケモンよりも邪悪なオーラを纏ったかの、黒鉄色が陰囊まで浸食している。

「旦那様っ♡ おまんこに挿入させていただきます♡ はっ♡ はっ♡」
縞パンを脱ぐのは愚行。

そこら辺の性的嗜好を把握して貰い、あの手この手で旦那様を興奮させる。

パレオだつて元は透けていなかったが、イザヤが「透けてた方が俺は好きかなあ（チラチラッ）」と冗談半分で伝えたら——次の日の朝にはおパンツ透け透けモードとなっていたのである！

勿論、パレオも巻いたまま巨チンに跨がって縦筋に誘導する。

準備は出来ている——その言葉通り、テカテカとなった褐色肌の内側は毎日抜き差しされているのに、ちつともガバつかない螺旋構造の受肉。開封済みなのに新鮮直送便のフレッシュピンク……………これが——砂漠のお姫様のおまんこっ……………!

ちゅくんちゅくんっ♡

又ググツ——

ぐっ——むぢゅぢゅっ♡

トロンが一番好きな体位は騎乗位——であるがっ——

「くっ……………♡ アはアアッ♡ ふっ、ふとっ♡ 子作りエッチ……………♡ その度にお腹……………♡ 産まれる前に裂けちゃいそう♡ ああっ♡ つー♡♡ うっ♡

ああ♡ オチンポ様オチンポ様っ♡」

背面からの『逆騎乗位』でも、トロンの大きさならおっぱい揺れているのが見える！ 背中、特にペイントが施されている位置が敏感で、愛撫されれば長くは持たない。

最大の弱点をスクリーンに、M字脚でスクワットを行っているような動き、イザヤのチン長を全て受け容れる膣内に進化させたので、中途半端な動きでは途中までしか挿入出来ないのだ。

「ヒャアア♡ ぬくうん♡ 血管がトゲみたいに刺さってます♡ ふああっ♡ あ

ああっ♡ 本気汁でぐちよぐちよしてるんですっ♡♡ 赤ちゃん欲しいっ欲しいっ

いつ♡ ぶお?!♡ ンンター♡ はああ、つゝゝ♡ のっ♡ 脳みそまでオチンポ様で貫かれえええっ♡ー♡」
 パンツ♡ パンツ♡ ぱぢゅっ♡ ぱぢゅっ♡
 部族を離れてもお姫様の自覚は忘れない、だらしない身体では祝福してくれた皆に示しが付かない——イザヤにも♡

初夜にこう褒められたのだ——

「トロンちゃんこそ、砂漠の秘宝だね！」

スリムでありながら、胸や太ももには異性を発情させるに充分な肉付きのミラクルバディを、維持させるエクササイズ——毎日のセックスだ！

ぐぢよっ♡ ぐぢよっ♡ ぐぢよっ♡ ぐぢゆんっ♡

背面の利点。

人間の女性であれば、本当に卵管すら食い潰されてしまい兼ねない。25cmペニスの持ち主は『もう人間とセックスは出来ない』

だが？ 擬人化したポケモン達ならば？——

彼のペニスも環境トップメタだが、螺旋の肉輪がギョルギョル……削り込む搾精力！

こんな一撃必殺おまんこ、とてもイザヤ以外の男性は耐えきれず1秒で射精してい

本当に好きになった相手にだけ、母親から伝授された特別なダンスを——
 一目惚れ、だがトロン自身が決断したので誰も異論はしなかった。

ギョツ！ 彼女の両腕を握り締め、万が一の抜け落ち防止——と共に膣内の刺激を加
 速させる。

ゾクゾクゾクゾクツツツツ♡

王族が発する事は許されなかったであろう、寝室に響かせるのは膣底からのマジイキ
 アクメ声♡

ほびゆっ……………——

ドビュビュビュビュツツツ♡ ブグツ♡ ビュツ——どぼっ♡ どぼんっ

……………♡

「あ♡ あああ♡ ツツツツ♡ ひっ……………♡ ひフツ……………♡ しひゆう

……………♡ らんにやしやまのっ♡ おひんポしやま……………♡ キツくしほっへええ

……………♡ ん、ああっ……………♡ ツ♡」

中出し——一発目完了！

「けどっ！ 俺のチンポは精液出し切ってないからねっ!? 続けてイクよトロンちゃ

んっ！」

「んんツ♡ んひやう♡ う……………!?♡ おとこりやしいイイ♡ んオ♡ ツ!?♡

お尻を回したって途切れない、すり下ろしたばかりのトロロよりもしつこく粘る。性器と性器を繋ぐは結婚式の憧れ、ウエディングアーチなのか。

痙攣しながらエロ漫画みたいなセリフを吐いてくれるノリの良さ♡ 子作りエッチは作業にせず楽しんでイキまころう♡

※

「ワタシはトラップカードを発動——してました。サイコシフトです」

商売道具でもある、絵柄の無い白紙のカードデッキ。

一目惚れしたイザヤと恋占いをしてハートマークが浮かび上がった♡

浮かんだ相手は初めて♡ 一目惚れでなくても伴侶になる運命だったのだ♡

バトルでの武器としても扱い、ドローする事で効果を得られる——罫カードだけはドローせずとも、自動的にデッキから発動する。

マジックガードなので状態異常ダメージを受け付けないが、トロンにどくどくを撃つた相手側が悪い。他の特性と読みミスしたのだろう。

猛毒をそっくりご返却され、息苦しく首を押さえた相手ポケモンに追撃——

「ドロー、エアスラッシュ、ドロー、エアスラッシュ、ドロー、エアスラ、ドロー、エア

スラ、ドロスラドロスラ、ドスドスドス……」

カードを引く風圧すら——彼女の武器。

こんな戦い方、他のポケモンには出来ない。というか、お姫様がこんなTCGしているのだろうか？

真空の刃が連続する、強引に怯ませた相手へとトドメの指示を与えれば、彼女のデッキも必ず応えてくれる——

「フィールド魔法発動、ねっぶう。場のポケモン全てに炎ダメージです」

フィールドの中心へカードを投擲、設置されれば白紙から——灼熱の嵐へ絵柄は変化する。

タイマンなので味方を巻き込む心配はない。八大地獄の一つを食らえば、こんがり焼けた相手は春疾風の勢いでHPが減少し——

「ワタシ達の勝ちです。対戦ありがとう御座いました、たいあります。………旦那様あゝ♡ 貴方に勝利を届ける事が出来ました♡」

「よくやってくれた♡ トロンちゃん！ 大丈夫？ 疲れた？ おっぱい揉もうか？」
それは女性のセリフだが………

対戦したトレーナーは「そのシンボラーがエッチすぎて、冷静な判断をさせてくれなかった。お家に帰ったらオカズにしてやるっ！」と捨て台詞。トロンを相手に敗北した

ら大体同じ事を言われる。

(ポケモンバトルは甘くないぜっ！ 初めから嫁ポケをボールから出しておく、所謂お色気攻撃だな！ 勝つための手段は選ばんよ！ ハハハハッ！ トロンちゃんを負けさせるなんて出来っこないからなっ！)

ぽよ♡ ぽよ♡ ぽよっ♡

薄布をズラせるのはイザヤだけ。高速で左右にズラせば乳首が擦られてしまうので

……………

「あんっ……………♡ 乳首虐められちゃってます♡ はっ♡ ……あゝ♡ ツ♡ ワタシ
の体あ、温熱いの……………ねつぶうの後遺症ではありません♡ うっ、裏路地ですし

……………♡」

「おまんこも熱くなつてそうだね♪ 見られちゃつても手持ちとの合意だから通報されないしね！ 昼食前の一戦はコッチでも、ね？」

「はいいつ〜♡ 身体も心も旦那様を求めております♡ グボグボツ♡ し

てください♡ 赤ちゃん♡ 子作り♡ ラブラブエッチい〜♡♡」

性に優しいイツシュ地方。

他地方の童貞がイツシュに来訪しては、童貞卒業し永住を誓うまでがテンプレ。

生息している擬人化ポケモンが可愛すぎて、エッチに興味がある子ばかりなので、少

しばかりアタックすれば了承……………なんてのはザラだ。運が良ければ相手から……………♡

他地方と比べれば「人間女性の価値が著しく低い」けど、ポケモンと子作りすればいいだけの話。受精しにくい難点があるから——イツシユ政府が認めているのだ！

『合意ならエッチ中心の生活をして国民を絶やさず未来を創れ』……………そう、嫁ポケにペニスをしゃぶらせながらイツシユ全土に号令を報道、国民の人間男性とポケモンの少女は我慢汁と愛液と涙に包まれたのだ——

ソープランドの看板双子の場合—1

イツシユ地方の路地裏——スリムストリート。

昼間でも街灯を頼りに歩き、退廃的な回廊にはチンピラがたむろ。

子供に「ねーお母さん、あのお店はナニをする場所なの？」と質問されても「大人になれば分かるわよ」………としか答えられない。

「ハーイー、営業妨害でーす。さっさと散らないとビッグ・ボスに——カシャツと、この写真送りますからね〜?」

パンパンツ、汗と肌と結合部が接触する音——ではなく、高級スーツと革靴でキメたオールバックの優男が手を叩いた音だ。

その音を聞けばスキンヘッドのチンピラ達は、煙草の火を携帯灰皿に落とし込み、食い散らかしていた飯を綺麗に片付け、一目散に裏路地から去って行った。

「邪魔者は排除しまして——おおっ！ 常連のイザヤ様あつ！ 本日もイツシユ地方N.O.1のソープランド——【ドリームワールド】へお越しいただき、誠にありがとうございます！

「どうも！ こんにちはー！ この間の割引値ケツト使いますね。いやー予約二ヶ月待

ちは辛かったですわあ……………チンポが！」

「大変申し訳ございません。あの子達はひつじよ〜〜に人気が御座いまして……………強化しましたが回線バンクするなどアクシデントもありまして……………ハイツ、チケツトを確認しました！ お値段の先払いは——おトイレは利用されますか？ ……………了解しました！ では奥の階段にお進みください！ どうぞ——夢の世界へ——」

皆が汗水垂らして働いてる最中、我慢汗を垂らすのがお仕事です。

お天道様がギンギンに自己主張する13時過ぎ、ソーブランドで遊ぶのもお仕事です。

（だって擬人化研究者だもん！ イツシユ中のポケモンとエツチしなくちや論文書けないしっ！ くうう〜ツ!! この職業に就いてほんつつつッ！ とうに良かったあああつ！ 勝ち組やり過ぎ人生始まってまだ三年（15歳から数え）俺のポケセックスライフはまだまだこれからだ！ 〜完〜）

イザヤ先生の次回作——じゃなくて、今回お相手となるポケモン、それは——

「おにーさん♪ はじめましてシユガールです♪ ニヶ月もまつたんだよね？ わたし“達”を指名してくれてありがとう♪ いっぱい楽しいことしよーね♪」

この店は5階建て。その全てがプレイルームで構成されている。

「はっ、はじめましてえ……………！ 見た目そっくりだけど私は妹のムルディです。素敵な素敵なおにいさん、よろしくお願いします……………！」

イツシユ各地から選りすぐりにして、極上の美少女・美女ポケモンを集めた最高のソープランド——その看板に偽りの無い夢のような快楽を誓う島——ドリームワールド。

性病検査はどのソープよりも念入りに、極微量にでも問題があれば強制休暇、もしくは退職。

避妊薬を必ず服用規約となっているが、面接時に「ウチはゴムを置いてません」に聞き返さず「ハイ、生ハメ中出しOKです」と即答しなければ落とされる。

この姉妹は別店舗から移動してきたばかりの目玉嬢。
本指名率はぶっちぎりのNo. 1。『そういう属性』が無い者ですら、パネルをチラ見ただけでチンピク。

急いで電話予約するも——数ヶ月先まで埋まっているので、他の嬢を紹介されるまでがテンプレとなっている。

バナラクリーム色のボブカット、極寒地で使用されるウシャンカという帽子からは、クルンと渦巻き状のアホ毛が飛び出し、ソーダ色のケーブから両手を広げ仲良く挨拶代

わりのハグ。

もにゅっ♡

ぷにんっ♡

見た目も身長も——130の中盤……………ランドセルを背負うにもまだ早いだろうかっ!?

バイバニラの双子！ 年齢は驚愕のツ！

三 歳 ！

（流石に三歳と一歳じゃなかったか。人間だったらアウトってレベルじゃねーけど、ポケモンだから三歳でもソープで働ける♪ ギラティナさんよりもちっちゃい……………ガチのペド……………はあはあはあ!! ここまで犯罪チックな子は久々だあっ!）

言葉遣いがざつくばらんなのが姉・〔シユガール〕

言葉遣いが丁寧なのが妹・〔ムルデイ〕

「いやっ！ もつと分かりやすいのがあるぞっ！ おっぱいが大きいのがシユガールちゃん！ おっぱいが小さいのがムルデイちゃん！」

右側からもにゅもにゅん♡

ソフトクリームよりも柔らかく、ケープで隠せないだけの自己主張♪

イザヤが大好きなロリ巨乳、サイズを伺えば少しだけ困った顔をしながら——

「Eだったんだけどねー、いっぱい揉み揉みされたからなのか、美味しいごはん食べられるようになったからなのか、Fになってたんだあ♪ バイバニラだけにフローズン、つて覚えてねおにーさん♪」

3歳のロリ巨乳……………この世に在ってはならないハズのパワーワードが人型に与えられてしまった。

「私はそのつ……………見た目通りのAですつ……………お姉ちゃんみたいに発育良くなくて……………すみませんおにいさん……………」

オーパーツなのは姉の方、数値こそ違いはあるもカップサイズはトロンと同じなのだから。

ロリ巨乳は嵌まる者はトコトン嵌まってしまおうが、スタンダードで誰もが想い浮かべる「ロリ」は左側の妹の方へと当て嵌まる。

ぶにぶにっ♡

左右から貧と巨、双子のおっぱいアイスサンド♡ プレイルームまで案内している間にも、サービスを怠らないのが在籍嬢の心得である。

ソープランドの看板双子の場合―2

「おにいさん、お風呂は入らなくていいんですか？」

プレイルームに入室したイザヤと姉妹。

大人五人が余裕で大の字になれる浴槽には、予め39℃にセットし湯を張っていたので、おっぱいスポンジや潜望鏡での洗体サービス——の過程を今回はすっ飛ばして
.....

「シャワーはもう浴びて来たよっ！ 洗って貰うのも良かったんだけどさっ、シユガちゃんもムルちゃんと一刻も早くエッチしたくって!!」

研究所勤めの同僚から、バイバニラ姉妹の評価を聞き及んでいた。

——『このイツシユにあの子達より上質な双子は絶対に居ない。すっげえ.....:気持ち良くしてくれた』

ソープに通うのは慣れてるが、勃起させながら姉妹を両手に抱く仕草をする同僚の恍惚とした——アへ射精顔。

そんなにイイのか……………っ、自分より先に予約した男共をはっ倒して割り込んでしまいたいっ！ この双子との3P——バイバニラは必ず姉妹なので、通常料金でも3Pが楽しめるのがお買い得ポイントの一つ。

「えへへっー♪ せっかちなおに〜さん♪ いいよお、わたしとムルのダブル攻撃……………耐えられるう？ ふっーふっー……………♪」

「大丈夫です、おにいさんから嫌な香りは漂いませぬので。では……………始めさせていただきますね、おズポンを……………あつ……………ねえお姉ちゃん……………おにいさんの♡ おちんぼさん凄いいよお……………♡」

「わわわっ……………♡ こんなに大きいのアリなお……………？♡ まだぜんかいじゃないよね？♡ ふっ〜ふっ〜ふっ〜♪ もおっと、おにーさんのアイスクャンディー♡ カチンコチンにしちやおー♡」

「ひゃああつ……………／／／ ネットネット汁出てきたあ／／／ ゴクツ……………とつても美味しそうなおちんぼさん♡ 食べちゃいますね……………♡ にゅっ——れろっ、んりゅっ♡ レフツ、レフツ……………♡ しよっばい♡ 塩バニラ味です♡ ふ〜〜っ……………♡」

ふわっ——

冷凍庫の中に入ったら同じ香りがするのだろうか？

風味にも拘った天然バニラの香料。アイスクリーム屋で最もポピュラーなフレーバーが、耳の中と亀頭へやさしくしく——エッチなおりのいぶき。

「ふーっ♡ どおどお？ うえもしたも♡ つめたい息なのに身体の中はあつくなっ
ちやうでしょ♡ ふっ——ふっ——♡」

「んっ………ぷっ、ん♡ ぬぷっ♡ ふっ、じゅじゅっ♡ 又チ又チ又チッ………♡
♡ ぷひゅっ♡ おちんぼさんビクビク♡ あったかあ♡ カイ口みた
いになってますよ♡ ほっぺにペタペタあ♡」

ぞぞぞゾぞっ——ッ!!?

全身が敏感肌、内側へ向かって鳥肌立つ！

ガチで幼い三歳児のソーブ嬢、数で劣勢だが抜群のコンビネーションで性交百戦錬磨のイザヤですら赤信号。

姉のシユガルルには、二の腕を寄せたFカップで胸板ツンツンされながら、耳をふー

ふー♪

妹のムルディイには、18歳でも大人ペニスを舌愛撫され亀頭をふくふく♪

ヌチャヌチャ——♡

双子に翻弄されれば我慢汁の出は、雪山を滑走するソリだ。

ソフトクリームに見立て、ペニスへ垂らし込んだ唾液を巻き巻き♡

途切れるまでに多少の時間を必要とした。この業界でも滅多に相手する事のない25cmをしゃぶれて興奮しているのだろう……古来から「大人しい妹はむつつりスケベ」の法則——ムルディイもそうだったらしい。

「わぁん♡ おにーさんのちんちんさん♡ 本当におつきい……♡ ワイドトップコーンだね♡ わたし達もこのちんちんさんに……♡ ふっ——♡」

「むぐんっ♡ ちばちばっ……♡ むむっ！ つん♡ また膨らんで／／おにーさんの……はーはーっ♡ 太すぎて唾えきれないですっ……ごめんなさい……♡ でも——あむああ……♡ なんひよか♡ はんぱりまあひゅ♡ ぼぢゅぢゅっ♡ んんっ!?♡ んんぐっくっ♡ ふぶううっくく♡ ぶ、ぢゅ、ぢゅ、ぢゅ♡ ふっ……くく♡」

『双子ばわー』炸裂！

ウォーミングアップ段階で料金の元が取れてしまう！ 射精回数は——時間内はどのコースも無制限っ！

肩や手首をグングン発育Fカップで挟みながら「イッてもいいんだよ？ おにーさん♡」……………耳の周りへキスをしながら、ここまで我慢した苦勞を勞うように頭頂部も抱きしめる。

胸以外は何もかも小さな子なのに、興奮材料の投入が上手すぎる。紛れもない「プロ」
下半身からのジユポジユポ音、呼吸回数が減りウシヤンカが落下するも、気にも止めずに内頬をへこませながらスパートをかけてくる。

緩急の付け方が予測通りなので安心して気持ち良くなれる！ 僅かな表情や息遣い、ペニスのビク付きを見逃さず「もう少し強く」と声に出さずとも瞬時に切り換えてくれる！

妹のムルデイも悶絶天国の案内人。男をイカせる「プロ」なのだ。

エッチが苦手、恥ずかしい……………なあって顔をしていた癖に！ イクまでおしゃぶりし続けるデカチン精液は全部こちらへ専用真空ポンプ搾精器

「あ♡ あ♡ あ〜〜ん♡ わあん♡ おにーさん思った通りい〜♡ 射精の勢いも

凄いんだーっ♡ わたしの太ももベツトリいっ♡」

「んっ?!♡ んぶうう?!♡ うっ むううう♡ んぐっ♡ むうー♡ ぶっ、
むっ……♡ ふううーっ♡ ゴグッゴグッ♡ ふじゅじゅーっ♡ くっん
ギユッ♡ チュチュッ……♡ ぷっ♡ ひゃあぁ……♡ はあー
はーっ♡ んっ、キユッ♡ はわぁ……♡ お口の中♡ まだ残って……
ゴクッ……ンッ♡ はあっ♡ おにいさんの美味しいです♡ でも身体が火傷状態
になってしまいそーです……♡」

口コミや体験談である程度どんな性術を繰り出してくるのか。予測はしても——神速並の優先度で精液を天井まで飛ばしてしまった。

畏怖すら抱く双子のエロさ、頬張りすぎて息苦しい涙すら凍り付かせる冷気を発しても未だに、ペニスを筒状にした手で握っている。

その体温は湯豆腐と同じ鍋に追加されたアイス、氷も溶け出せば——

「うっ……うっ、ふうううー……♡ シュガちゃんもムルちゃんもエッチ
だなあ！ この身で体感してキミ達が支持される理由がよおおお分かったよ！
初っぱなから常人四回分の射精……♡ ぬっ!! 脱げてるのは何でかなあ……!!?!? (乳
だけ、お股だけ破けてるっ?! エッコおっ?!)」

バイビニラの——第三の特性は『くだけるよろい』

バトルでは素早さが上昇し、防御力が低下する効果となっているが――

ソープランドの看板双子の場合—3

「やあん♪ おっぱいの部分だけ砕けちゃったあ♡ ブラはつけてないよ、おにーさん♪ うりやうりや〜♡」

「うううっ……………下着があ……………♡ お、おにいさん？ 私の下着はどうですか？
かわいい……………ですかっ？♡」

エッチでは衣装が砕け、エロの値が上昇する効果となるらしい！

（物理技を受けて反応する特性じゃなかったっけ？ もしや——俺の精液は物理タイプだったのか……………？）

後で脱がそうと思っていたテープの内側からぶるっ♡ 脱がなくても大きかったけど、脱いだらもつと大きく！

都合良く下着は砕けずに、スカートだけ石屑のように——どうやって復元するのかは聞かないでよく——なったムルデイ。

3歳児だというのに縦筋しか隠されていない赤色紐パンツ!!?! その縦筋もおちんぼしやぶりしながら滲出した液で、お豆さんも一緒に立体的にあぶり出しされている！
「ち・な・み・に♪ 双子だからわたしのパンツも同じいろ〜キヤツ♡ でもムルのが

全然エツチな形状だよね〜！ 人見知りだけどちんちんさんには社交的で、とつ〜
〜てもエツチなんだよ♪」

「あううううううう………お姉ちゃんやめてえ………」

双子の仲を今一度見せる為に、舌ペロしながらミニスカートをペろんっ♡

………お揃いの赤色は舌色とクリソツ。バニラ味だけでなくベリー味も楽しめて
しまうのだろうかっ!?

逆三角形ではなく、ナプキンを1/2にカットした物体でしかないムルデイと比べ
て、常識的な面積のパンツとなつているシュガール——だが三歳児！ 赤下着は大人に
なつてからなんて誰が決めたっ!?

「おにーさん♡ キスしましょ♡ ……ちゅっ、ちゅろっ………♡ んひやつ♡

おにーさんのキスうま〜い♡♡ 今のは“上手い”と“美味しい”のりよーほーだ
よお♡♡ むんっ！ ちゅぷちゅぷちゅっ♡ んっ………♡ んくっ、ふあっ、す
んっ、んふう♡」

射精跡を処理するなど、興奮するお客様を放つておくような物。処理をして時間を稼
いでると思わせてならない。

まだ下半身をピク付かせながら、余韻に浸るイザヤへ二度目の先制攻撃。

「シュガちゃんだって“美味く”て“上手い”よっ！ 香りはバニラなのに甘酸っぱい

ラズベリー味だ♪」

舐める箇所が違う味がする、人型のアイスクリーム屋さん。

上手いと褒められて嫌がる男はいない！

「私はおにいさんの下を……………♡ シコシコさせていただきますね♡ んっ、んっ

……………♡ 一度射精したと思えない硬さ……………大きさ……………♡ 袋もズツシリ

……………♡ さつきの精液でヌルヌルしてます♡ あっ、新しい我慢汁も出て……………

♡ へちよ、へちよおっ♡」

上半身と下半身担当で、別れているのだろうか？

下着の形状や感じていた事がバレて、顔全体をバナナからベリー色にしてしまったム

ルデイ。

彼女の手を一体何個縦へ並べれば、イザヤの勃起力・硬度・直径・持続力・形状……………

まるで「ぼくがかんがえたさいきょうのチンポ」——の根元から鈴口まで届くのだろうか。

か。

いっぱいに広げても亀頭までしか握れない、未成年よりも遥かにペドい幼女の手のひ

らは、ひんやりとした感覚が若干薄れている。

「あ、あッ……………！ 逆手に持つのエロいよムルちゃん……………ハアハア……………

！ ああああ……………っ！ 鼠径部にヘソに……………うおお、っ、!? チン毛を

一本一本!? そこまでしてくれああ……………くくくくつ、!?」

「へ口れるおくく♡ んぱつ、んぱつ♡ へりゆりゆりゆつ♡ (いいなあお姉ちゃん……………私もおにさんとキスしたいなあ……………)」

三歳の姉にキスされながら、乳首をカリカリ……………爪で軽く引つ搔いたりされても

三歳の妹に逆手コキされながら、ペニス周辺を徹底的に舌で舐められても——犯罪にはならないのだつ!! 合意ならばボルノをすりぬける!

しゆりしゆり♡ にちゆにちゆ♡

——ビクツ……………!

妹の方がエツチと姉は口にしていたが、本当のようだ。

瞳をハート型にさせながら、草を食べている羊——陰毛に口内を埋めに夢中。

手コキで可愛がるのも忘れず、筒状にした両手で精子を持ち上げるようにシゴキ、不規則なタイミングで右手人差し指を亀頭へ移動させ、鈴口周りをくりゆつ、にちゆン♡

円運動を加えイザヤを低く喘がせる。

上下で別々の、だが意思疎通が完璧な双子だけが成せる業は、努力値振りの為に倒さ

れるコイキングの数ほどお客さんをイカせまくった独自の凶悪コンボ——さつきは次の一手が予測出来たけど、これが彼女らの本気ッ……裏の裏を読まれ構えを取らず射精欲がぐぐーんとあがる!

「……………はあい♪ ムル〜? こーたいだよ♪ おにーさんとチューしたいんですよ? わたしが下を気持ち良くするから♪」

我慢汁の量が増えて、鼻を小刻みに鳴らす妹の姿を確認し、このままコンボを途切れさせなければイザヤは十数秒でイクと判断。

スタツフのスーツ男から「イザヤ様はパイズリが好き」と情報を得ていたので——射精するのであれば……………

「ぶはっ♡ はあ〜〜♡ お姉ちゃんありがとう♡ ふーっ……………ふーっ……………♡ おにいさまん……………キスしてもいんッ!? んぐう!?♡ ……♡ んっ♡ ちゅっ、ぴりっ♡ (おにいさんおにいさん……………♡ すっごい……………ドキドキ……………♡)」

流星は双子の姉。言葉にしなくたって妹の思考は常に丸裸であるに等しい。

これが初めてのキスのように、断りを入れてから目を瞑り——をぶった斬って、男らしい硬い質感と骨太い手で顎を固定され遠慮せずにチュッ♪

エロ超人：イザヤにはドキドキさせる立場なのに、ドキドキさせられてばかり。

指名してくれたから、お兄ちゃんのような………ではなく、一人の男性として慕いたい、本当にムルデイは状態異常：メロメロとなったようだ。

「も〜〜♪ ムルつたら嬉しそ〜♡ おにーさんの首に手まわしちやつて………：妬けちやうじやない！ そつちがその気なら——むふふつ〜♡ はあーい、Fカップのおっぱい♡ これでえ〜——」

お仕事なのを忘れてしまった？

イザヤとイチャラブするバデイー半身と表現したい妹。

寝転んだイザヤへキス、とにかく唇をくっ付ける、鼻で息をするのも忘れ口を離して酸素を得るも、すぐに唇を挟み込んでいる。

可愛がられているのはムルデイだった。イザヤのキステクに迫いついて、自分からも気持ち良くしたいから殆ど直線上の胸を、彼へと擦りながら「おにいさんおにいさん♡」と——完全に超人気ソープ嬢からイザヤを好きになった女の子。

「んぷっ!? シュガちゃんのおっぱおっぱ!! スモールボディなのにおっぱいだけラー
ジサイズううう!!」

ほいーん♡

比較的浸透し、共感する仲間は増えて来たけど、まだまだ邪道を往く背教属性——【口
リ巨乳】

ソープランドの看板双子の場合—4

イザヤはおっぱいが大好き。小さいのも大好きだけど大きいのは大大好き。

そんなもって身体はロリロリ未成年なのに、おっぱいだけはアダルト成人済みなのが
大々々々好き!!!

「理想のロリ巨乳!! ふおおおおおっ!! 写真なんかより全然っ……………! うわっ?!? おっぱい軽っ!?!」

その道の出口を塞ぎ、死んでも礼賛する姉のおっぱい!

押しつけられていた時は分からなかった——かるいしを取り付けたみたいに、下から
チヨコツと指を接触させただけでフヨフヨとお空へ消えてしまう!

厳密な数値はアンダー／トップが違うので、差はあるけどトロンと同じFカップ。

アルファベットの半分は握り締めてきたおっぱい計測器たる手のひらで質量を——
感じない! ゴースの体重よりも軽いかも知れない! 空気を含んだのではなく空気
その物にふわっふわっ!

「よっ♡ わはあ〜ん♡♡ ちんちんさん大きくて、つつみこめない〜♡♡」

保育園児帽を被っているボディに、不自然なFをぶち込んだ。整合性など考えず——

シユガールはそんなロリ巨乳。

単純な迫力ならば、手持ちの「魔女」やトロンに軍配はある。

しかし——二人よりもずっとロリな顔、屈んでもまだ追い越される身長は真似出来ない。

「わぁ♡ お姉ちゃんのおっぱい、他のお客さんなら背面まで回るのに……♡ 側面をギリギリ……♡ 凄いですっ、凄すぎるおちんぼさんです♡♡ (あとで私のおまんこに♡ おにーさんにズシユズシユされたいですよお……♡♡)」
毎日見ている姉の自慢のF。

お客のペニスを挟み込むパイズリだって、見慣れている——でも恥じらいは残されたままのムルデイも二度見三度見した。

みちゅっ♡

——と、おっぱいで埋める事は出来ずにきゅっ……♡

止むを得ず両手を胸の前で重ねて、ホールD性能を強化させたシユガール。小細工を使ったのは何時以来だろうか、イザヤのスペシャルペニス——

「もつと早くパイズリしたかったかも♡ わたしのも大きき足りないや、くやしいなあ♡♡ ちゃんつつんであげたかったなあ♡ ふふん♡ それでも手を抜かずにパイズリ♡ しちゃうからねえ♡♡ ……♡ はっ♡ んっ♡ よっ、しよっ

♡ ちんちんさんとおっぱい♡ あはっ♡ イチャラブパイズリどおどお?♡♡
 「ほおっ、おとおおっ!! ああああああーっ、くっツ!! チンポが飛んで行きそ
 うなんだけどホオ、オ、!」

ばふんっ♡ くにつ♡ もふんっ♡ にもにもっ♡

ペニスにもかるいしを付けられ、Fカップのシユガパイと一緒に天へ……………

普段のペニスは直径も段違い、なので胸を上下させるのではなく膝上に潜った身体
 をクイツ、クイツ♪ 斜め前へとヒネっている。おっぱいがワンツーパーンチしてる動き
 ! ただ擦るだけでは刺激不足だろうから、上下ではなく横方面へパイ圧入力!

プロ根性を魅せた『頭のいいパイズリ』でTitty fuck is my li
 feをモットーにするイザヤも、脚先がピン立ちながらあつぶあつぶ!

「そりゃ♡ えへっ♡ くいくいくいく♡ おっとお、ちんちんさんそっち行っちゃ
 やだ♡ ……よかったあ、おにーさん気持ちよくできて♡ わかるよおく? 先っば
 がぷくぷくうくく♡ おっぱいの中で血管びくびく♡ 我慢しないでイツてね♡
 時間内ならいつだって♡ なんかいでも♡ パイズリしてあげるからっ♡ んっ♡
 んっ♡ んっ♡ はあ、最初のより濃くてドロっとするやつ……………♡ 来るのっ?

♡ 来るの?♡ んう♡ んっ♡ んはあっ♡

掴み所も、捉え所もない。

大抵のペニスは挟み切れる大きさ——相對する重量は無乳よりも軽く。

パイズリ好きが血を沸騰させ興奮する、傑出口リ巨乳が上体捻りしながら——

「んきゅッ♡ おにいきん♡ 私のおっぱいも美味しいんですかあ?♡ くうう♡

ちっちゃいのに私は気持ちよくってええ♡ ふにイ、!?!♡ あああちゅぱちゅぱ♡

エッチですよお♡♡♡

「ンチュパパパッ! フーフーッ! チュッ、ヂュッ、リビュビュッ! ムルちゃ

んのおっぱい! 小さいのも好き嫌いせず完食するよ! タピオカみたいな舌触りだ

ね! キミ達の身体には何十個のフレーバーが楽しめるんだろ〜! ンツッ!

パッ! チュハアッ!」

「小さいのも好き」と直接言われ、無い胸が揺れそうなくらいにドツキドキ♡

早鐘がバレてしまう、上と下で乳と乳の合わせ業——抱きしめながらの授乳♪

何百パターンの「双子ばわー」を持っているのだろうか。されたい事・したい事は全

て「おみとおし」

口からは唾液、ペニスからは我慢汁、同時進行の粘質液。

それはパイバニラ姉妹も——パイズリしながら正座を崩して、持ち堪えての貧乏揺すりのな動きはおまんこがウズウズし、セックス欲求で子作りしたがるメスの顔つきになっっている。無邪気な笑顔よりもそちらの頻度の方が高くなるシユガールは珍しいの

だ。

ムルデイは大好きなおにいさん、イザヤが直接——毛穴すら皆無の幼児おまんこを弄くって本気妊娠懇願汁をぷしっ♡ ぷしゅ♡ 真下へ垂らしている腕なのに、肩から首周りまで液が飛んでくる……………姉よりもスイッチ入れれば淫乱！

授乳手マンで防御力の下がっているムルデイは「おにいさん♡」と復唱しながら、イキ逃れようと背筋を外側へ曲げず寧ろ、引っ付きながら——姉は勿論イザヤとも同じタイミングで同じ場所へイこうと口姦ネッチヨリ乳首をふやかされ……………——

「んゝわっ!? あっ♡ うわっ……………♡ うわうわっ……………♡」

「にゅはあああああっ♡♡ あゝうう!?♡ ほわわあ!?♡ ふーっ……………♡」

ふっ、ふっ……………♡ お、にさっ……………♡ ふううっ……………♡ ああらめえ

れすっ……………♡ キヤふ……………♡ やああんまたイちやつ♡ ますからああ

……………♡♡♡

誰がどう見たつての——三人同時絶頂達成！ 3つの画面で同じ内容のゲームをプレイし、同じタイミングでクリアした光景と似てる！

（わんっ……………♡ はわっ……………♡ あ♡ イツちやいました……………♡ お姉ちゃん

とも……………おにいさんとも……………♡ お仕事なのに……………いっぱい気持ち良

くさせられちゃってますっ♡ ああ、おにいさん……………♡ すっ、す……………き

……♡♡♡)

「もおお〜♡ バニラアイスに練乳かけちゃつてえ♡ この練乳………ムグ♡ んにゅつ、くむ、にゅつ………んっ、けほつ……… あま〜くくないよお、おにーさん♡ んっ………♡ あ、は、ははっ………♡ おっぱい♡ 精液で固まつて………♡ んうう〜♡ しよっ♡ あははっ、やつと開いたあ♡ うっわ………だ、だしすぎだよお♡♡ (パイズリ良かったんだあ………♡ おにーさんのちんちんさん♡ 挟んでるだけでわたしもイツちやうつて………♡ ハアハアハア………♡)」

興奮のあまり内側から——アイスだけに溶解されそうなムルデイは、イザヤの肩に掴まりながら姪瘴気がハッキリとピンクに見えている、個室内で肺機能を正常に戻している。

イク直前に「好きです♡」と無意識に発したが——二人の耳に届かなかつたのは、幸いなのかどうか。

お仕事だからの形だけな「好き」じゃない。プライベートでイザヤとデートしたり、エッチしたい♡ でも本気の恋はソープランドを辞めなくては出来ないジレンマ。

諸事情により、まだ辞める訳にはいかないけど——遠く無い内に………♡

ぐぢゅっ………♡ デロツ——

妹を散々エッチだエッチだとアピールしていたが、パイズリする側なのに同時イキし

た姉も、釣り合いが取れているエツチな子!

下乳を持ち左右へ解放——パイズリマナーの一つである、乳内射精の事後開示。

特濃♡ 巨乳を揺らせても精液が動かない♡ おっぱいに根を埋めている♡

「ゆかに落つこちた精液くく♡ おっぱいに集めるね♡ すごすごお……♡ このまま——もう一度パイズリすれば、ぷちゅぷちゅつてつぶされて♡ ちんちんさんがもおくくくと悦んじやう……♡ かなあ?♡」

ピン勃ち三歳乳首から垂れる精液、落ちそうで落ちない弩白色のツララ。

(自分好みにデコレーション、アイスだけに食べたくなりそう——食べていいんだっ!!)
乳交星人たる者、ペニスには常におっぱいに挟まれないと思っている。本番と同じくらい大切な自説があるイザヤは追加オーダー。

「ほくら♡ ムルもパイズリしよつ♡ おつきい姉とちつさい妹でえくく——どやああ♡

♡ 双子おっぱいサンドだよお♡♡」

「んっ♡ 私達の得意技です♡ ひやつ♡ ふうんっ♡ 交互に動かして……♡ 同じタイミングで……♡ ああつ♡ おちんぼさんの力が強くって、もつと押しつきますね?♡ グイグイツくく♡ 残っている精液でヌルヌルですくく♡」

またしてもっ!!? 双子ばわーああ!!?

ソフトクリーム両手持ちイー!!

ソープランドの看板双子の場合―5

(シユガちゃんの谷間へチンポ挿入こもうと、逆サイドからムルちゃんの無い乳―文字通り壁が迫るうゝ！ あゝっ!? ちよつとそれダメだつてえつゝ!? 腰を捻らせる乳首ズリ！ その捻りはシユガちゃんと同じじゃないかっ！ よき双子じゃあゝあゝ

あゝ!!)

右側のシユガールはまだ三歳でこのおっぱい。

ロリ巨乳好きが借金上等で時間延長そのまた延長、パイズリを求めカントーやシンオウから長旅し入国するだけの価値あるF。

―歳を重ねれば乳首に、肌や形なども変化していくだろう。期待しない訳にいかない！

ペニスを挟みすぎて中心だけ肌がややチョコになつてしまふ……なあんて『谷間だけ色違い』でも勲章(撃墜マーク)扱ひして貰えるだろう！

……対してべつたん部分を自分でピリッ♪ 今後にも期待が持てなさそうなA。人間の三歳児よりはマシ、姉に全部吸い取られてしまったのかもしれない。

だが役割分担―一つの双子で大きいのと小さいのと、両方いっぺんに召し上がれる点

も評価されているのだっ！

貧乳を嫌悪していた客すら、双子とのバトル終了後は脳内タグに『貧乳』が登録される……小さいなりに尽くしてくれる姿、心もペニスも揺れ動かすに十分な説得力！ 推しは多くても困らない！

ぼわんっ♡ すりすりゆっ♡ むちゅっむちゅっ♡ ぷにぷにっ♡

——おつきいおっぱい、ちいさいおっぱい、そんなのひとのかつて、ほんとうのおっぱいすきならひていせず、りょうほうのおっぱいできもちよくなるべき——

全身ピチピチタイツにマント、覆面、もっこりと変態指数300%のルチャブル——巨乳しか認めなかった未熟なイザヤの性癖を拡張させ、どんな女の子ともセックスが出来る最強トレーナーに育ててくれた恩師——彼の名言、その本質は………コレだったのかもれない！

(小さいおっぱいも好きになつて本当に良かった！ 未成熟な乳首で一生懸命射精させようとしてくれる！ ある物全部使つてくれている！ 師匠と出会わなければ——シユガちゃんにムルちゃんともエッチする事は無かった………ッ！ 性癖が増えるつてエッチの機会に繋がっているんだ………そうですよねっ！ 師匠ッ!!)

だがイク間際にもっこり親父の姿は思い浮かべておきたくないので、彼のシルエツトをポイ捨てし双子の大小サンドイツチパイズリに集中！

「双子パイズリで三回め♡ イツちやうイツちやう？♡ どっぴゅん見せてえ♡ はーッ♡ はーッ♡ は……………ッ——♡♡」

「デコボコしてて気に入ってくださいましたか？♡ んううう♡♡ ナデナデえ……………♡♡ ありがとうございますおにいさん♡ いっぱいびゅーびゅーさせられたら、またナデナデされたい♡ ですっ……………♡♡ はあっ♡ あっ♡ あっ……………♡♡……………♡♡♡」

ムルデイが腰を捻れば乳首が横移動し、カリ溝を刺激——シーソーのように息を合わせ巨乳をふるふる、乳首ズリしてくれるシユガール。

挟んで押さえ、両手を繋ぐ双子のコンビネーション。不規則、読ませないっ！

ムルデイが挟み込もうと——挟めてないが——脇を締めれば、今度は巨乳で妹の方向へ押し込んでくるシユガール。経験豊富なイザヤも先読みが通じぬ責めと責めに、我慢汗が泡状となって——

ビュルッ——！

ブピューッ♡♡♡♡♡ リユグッ♡ ビュビュビュビュッ♡♡♡♡♡

どっ……………びゅんっ……………♡

「ツゝゝゝアアゝ!! くはっゝ、はアゝ……………! ロリぷに双子パイズリ
 ……………イゝ! ……泡ブク精液ドカ乗せ……………トツピングうう……………ゝゝツ
 ……………」

口をあゝゝん♡ させながら、パイズリしていた双子の口内が忽ち白く糸が引かれ
 る。

彼女らのプロフィールに記載されていた「双子ばわー炸裂! 病み付きになるダブル
 パイズリ!」

真実は自らで確かめるしかない。

イザヤが視た真実——化粧布を被って悪戯する姉妹……………ではなく、ように目も鼻
 も髪も、元の姿がほぼ精液で覆われた双子であった。

「あああ……………♡ えっ、えええゝ♡ じよーだんみたいな射精量でしょっ……………
 ♡ こんな初めてだよっ……………♡ そっかそっか! ムルと一緒にパイズリ良かった
 んだね♡ あっ……………♡ 精液がわたしとムルとおにーさん……………♡ 繋ぎとめてる
 みたい♡♡」

「はーゝゝ♡ あああゝ……………♡ あっ、ついですっ♡♡ おにいさんのでいっ
 ぱい♡ クンツ、クンツ……………♡ 全身がおにいさんで……………フスフスンツ
 ……………♡」

「主役であるバニラアイスに、トッピングの練乳が勝った瞬間である——

どっちが姉で妹なのか、この状態では——やはり胸の大小で見分ける！」

「んちゆりゆつ♡ おにーさんの精液いっ♡ 美味しいよねムル♡」

「お姉ちゃん……………♡ ちゅぐつ、りゆりゆつ……………♡ おにーさんの……………胃の中にずつと残つてしまいそうです♡♡」

「ここで双子同士のレズキスシーンを持つてくる！ バケツプリンならぬバケツザーメンを、互いの喉へ流し込みチュツチュツ♡」

「二人だけで盛り上がるのではなく、吐精してなお剛直したまま射精を狙うイザヤを樂しませる為である。」

「シユガちゃん……………ムルちゃんも、また洋服が砕けちやつてる……………帽子以外すつぽんぽん……………ツッ！ 防御力下がり過ぎだよっ！」

「うんっ♡ おにーさんの精力に驚かされてばっかり♡ こおんなに濡れてたんだよお、わたし♡♡」

「はっ……♡ おにーさん私達……………♡ な、生おちんぽさんで……………ゴム無し射精……………♡♡ このお店は——私達は大丈夫♡ ですからあ……………♡」

「……………っ！ よっしや！ 前戯はここまでっ、本番セックスするよっ！ 最初は……………——ムルちゃんからっ！ いいよねっ？」

ベッドを浸水させておいても “前戯” として、済ませる精力に双子はゴキユンツ
 ……♡

嘘下音だけでもペニスが黙っていらなくなる、後退る双子は恐怖を覚えているが—
 —それ以上に期待で三歳児おまんこで、最強18歳ペニスを迎え入れてみたかつて
 ……♡♡ 発情キマってしまった♡

「ーッツツ!? お姉ちゃんよりも先でいいんですかあ……………♡」

「うん♪ 最初にするのはムルちゃんがイイな！ シュガちゃんも後でね？ 女の子気
 持ち良くするのは趣味とお仕事を兼ねてるからさ、自信あるんだ。遠慮無くチンポを口
 リマンにズシヨズシヨしたいけど——」

「こちらからもおーっ♡ 激しいの大好きなんです♡ 壁に押しつけられたっていい
 です♡ 止めてって言ってしまいかもしれませんが、止めないで欲しいんです♡
 ハッーハッー♡♡♡ どうぞおにいさんっ、この膣なもおにいさん好みにトツピング
 して——召し上がってください♡♡」

に、ゆる……………♡

煮立った水飴、しつこい粘性は彼女の想いを示唆している。

(ムチュツ♡ ふにうう♡ おにいさんおにいさあん♡ はっっ♡ はああ……………♡
 来てくださいっ……………♡)

姉へと「先にイッてるね♡」のアイコンタクト。髪や谷間にぶち撒けられた残り液を、忘我とした表情をしながら指で伸ばしていた姉は、ペロツと舌を出しながらサムズアップ。

(本当に仲良しだなあこの二人……………ほっこりして、チンポも涙の代わりに——受精強要汁出してるよ！　ソープで働いてようがなんだろうが、妊娠させるつもりで出し！　決行！)

にるゝつ、にるゝ♡

つぢよつ♡　ぢゆくんつ♡　……………ヌルゝ——ズズズズゝゝツゝ!!

驚異の身長差、対面のまま抱きかかえられたムルデイは、ベッドに脚を浮かされたままおまんこ挿入♡　このお店はコンドームなんて無料なゴミは取り扱い御座いません

♪

「はッゝ!?!♡ゝゝんゝんうあああああつゝゝゝああ♡ゝゝツゝ♡　おお♡　に、さんの……………♡　うやつ……………かはうううう……………ゝゝツ♡　全部入つてしまいましたお……………♡　ふつー♡　ふはつ……………♡　ふえつ、ふええ……………♡　おにいさんが膣内射精を楽しめるように……………♡　頑張りますね♡ゝゝ」

一日で何十回もペニスお迎えしているのに——三歳児おまんこは出口を塞がれた一人用のかまくらっ!

部っ………ほしっ、ですからあ♡ 頑張つて………ますっ♡」

筋力トレーニングしていて良かった事・その1：駅弁が楽に出来る！

今回の双子は軽すぎて鍛えて無くても楽勝ではあったが………背がイザヤよりも高く、片乳5kg以上の爆乳を誇らしげに合わせ挟んでくる【魔女】すら両手とペニス、3つの支えで醜態さらす事はありえない！

ふわああ——

我慢汁を混入させられながら、部屋の壁に背を押しつけられているムルディ。

激しいのが好きと聞き容赦の無いピストンで膣内射精してやると決意したイザヤは、飴と鞭を使い分けるようにして頭は撫で、膣はダーツの矢よりも鋭利な切っ先で卵子への的当てゲーム♪

ぶぢゅっ！ ぶぢゅっ！ ぶぢゅっ！ ぶぢゅっ！

妊娠させる気が無ければこんなピストンしてない♡

排卵を探り当てる着床スナイパー♡ イツシユ中のポケモンの弱点を突けるペニス♡

「持ち上がってます♡ 身体も子宮もお♡ おちんぽさんでグボグボされへえええええ♡♡♡♡♡♡ おおおんっ!?!♡ ほっ♡ はああっ♡」

「ねっト口くて甘さたっっっぷり！ マン汁の香りすら食べちゃえる！ んっっっ？ 口

パクパクさせてキスしたいの？　ちゅっ、くぢゅりうう〜！

「んふっ〜♡　ちむう♡　ふやあぁー♡　ぬぎゅっ♡　れぶつれえぶ♡　おにい

さん♡　はわ、わあ！〜♡　んちゅんちゅっ♡　もっひよっ……………♡　おねがし、

ますっ……………♡　あっ♡　ああっ♡　ふきやああっ♡　あああおにいさんのお〜♡

ちゅーにゅーしてくらはあい♡♡　ころもうまへれええくらひやひっ♡♡　す

きッ……………すきすきッおにいさんすきイイ♡♡

ソープで働いているから普通の恋愛は——してはダメなのにつ……………♡

秘めも隠しも出来ず「おにいさん♡」と「好き♡」を交互に呟く艶botとなつたムルデイが、精子一つも殺さず受精したいママの顔になつて両脚を痙攣させながら正面に突き出す♡

「スキイ……………♡　好きなのおにいさあん〜♡　アンッ♡　オフフッう

♡　フッー♡　ウッ♡　あああぁー溶かしてください♡♡　い？イふ……………

ううううううッ〜♡♡♡

——おにいさんの精子さん……………♡　1匹1匹に「私がお母さんですよ♡」

……………♡　させて欲しいですよ〜……………♡♡

シン………防音壁すら貫通する蛮声、腹部に力が入れれば膻も縮小される………

「………っつ………ん………ん………せーえき♡ おまんこにこすりつけられへ………♡ ホントにおにいさんとの………♡ ハッ………♡♡ ハッ………♡♡ ンツ、チュ、チュ♡」

避妊薬を無効化出来るチンポ特性が欲しい。

擬人化の研究が進んでいけば、作れる自信と頭脳を持つのがこの男！

彼の夢である「ハーレム」は手持ちⅡ6匹を妊娠させる………否！ そんなこじんまりしたスケールじゃないっ！！

(イツシユだけに留まらないっ、別地方の恋愛性交法律をもイツシユと同じにする！

全世界のポケモンとセックス！ 中出し！ 妊娠！！ 俺は『世界』を手にする男だアアツ！！)

………悪の組織のボスよりも危ない、それでいて正に男の夢—下半身に正直利己的ドリーム。

「——ムルちゃんに出した精液………で、出てこないねっ………！」

「………／／んっ、くんう………♡ ハッ——ハッ——

………♡ おちんぽさん………抜いても………♡ おまんこの中で張り付いて

………?♡ キヤ、あ♡ どうし、ましょつ………♡ (避妊してるけど♡ 妊娠しちやったのかな?)♡ えへえへっ♡ そうしたらおにいさんの手持ちに………♡

♡ いつまでもらぶらぶ………♡(♡♡)

泡立て器を使ってツノの生えたメレンゲ、彼の亀頭と彼女の膣内に繋がった弾力線はそうとしか形容出来ない。

ムルデイの推測は当たっている、四度目にして最も精液の量は多かった。膣だけではとても足らない容量を無理矢理収めてしまった。

ひび割れを修復するパテのように、微かなヒダとヒダの間にすら精液が埋まっているから落ちてこないのだ♡

「良かったよムルちゃん! 一先ず休憩していてね、まだ中出しエッチする予定だから………♡ねっ?」

「ハイッ………♡♡ お姉ちゃ——あつ………♡ お姉ちゃんオナニーしてますっ♡ 私とおにいさんの受精セックス♡ ずっくと見て待ちきれなかったんですね♡」

おでこにキスしただけで大げさにビクッ♡ 軽イキした妹と——乳揉みしながらクリを円運動させている姉と交代!

「ふああ♡ だつてだつてえ………♡ おにーさんとムルの♡ パンツパンツなんて

物じゃ無いもん♡ ズガツズガツとか♡ ブヂユツブヂユ……………だよお♡

はっーはっー、くあっ♡ おにーさん……………わたしにもお♡ 同じくらい激しいセックス♡ 妊娠させるつもりでシテ……………♡♡♡

オナつてしまったのは生理反応だが、三年間で妹と客の交尾を視姦していても愛液は出たがオナりはしなかった。

それだけイザヤという男性は特別、妹がハメハメされた25cm♡ 二人の分泌汁が付着したまま♡ おまんこされたら確定1発♡

「オツケ〜！ 避妊薬より俺の精子のが強いかどうか、そっちの勝負にもなっちゃうね♪ シュガちゃんはどうやってハメよっかなあ〜??」

（ふうふううん〜♡ おっぱいにちんちんさん挟んで焦らすのやああ♡ 早くおまんこして欲しいよお♡ わたしもムルと一緒に連れてって欲しいっ♡♡♡）

書道家は筆置きを使う——イザヤは少しでもロリ巨っぱいを味わっていたいから、馬乗りパイズリ状態で姉を犯す体位を思案していた。

おまんこを開きながらモゾモゾ、焦らされているシュガールはまた一人エッチを始めてしまいかねない。

イザヤペニスが欲しくて欲しくて、舌を無意識に垂らせればパイズリフェラになつてしまおうで……………心臓の脈動と挟んでいるブツの脈動、完全にシンクロした刻——

「ンツ?!? にイイイー」

茹だる陽射しの中で放置されたアイス、トロ気眼でピチャピチャ鈴口を舐めていたがハツとすれば胸から（惜しみながら）ペニスに脱出しており——ツチュブブツ♡♡

「かハツ?!?♡ おにーさはあぁ〜ンツ♡ んハツ♡ おはう♡ ダメええ〜ちんちんさん太すぎるのに入ったらダメな場所ヒツ♡ つ♡ 〜♡ ツ♡?!?♡♡ ダア……らへつ♡ こわれはうひやひやあー♡♡」

「処女膜無いけどプチプチツ〜♪ 子宮口まで届くんじゃなくて、チンポ悦ばせてくれたシユガちゃんに——子宮内までお邪魔しちゃったよ！ おわホホオオーツ！じゅわ蒸しただけどひんやり感が残って………ほらっ、子宮から出ようとすると『ヤダヤダ行かないでー♡』てマン汁絡んで来てるよ♪ 子宮内ピストンで同時イキしようね！」

バコツ！ バコツ！ バコツ！ バコツ！

ぬりぬりゆつ〜♡ グリグリ〜♡

進行不可な揺り籠、どれだけ潤滑良好にしても挿入出来るハズが——出来てしまうんですっ——！ イザヤならっ！

彼が師匠から教わった秘技、本来なら使う予定は無かった……けど、あまりにもロリでおっぱいでチンチンは怒り心頭！

(ブチ切れさせた責任を取ってねっ!! 孕ませたら責任取るからっ!!)

シユガールのHPが0になるまで連続種付けピストン! 防御が下がってる? 関

係ない孕めっ!

瞬時に練られる精液が射精管カタパルトで撃ち出されるのを心待ちにしている!

「ムギイイううう♡ おにーさんチンポオオー♡ そんなトコまでグほッ!?!♡

オッオッ♡……………♡ エッホホ♡ おボッ♡ ブおオッ♡♡♡」

無邪気な笑顔は恐慌に歪む。

どちらかと言えばその性格上、お客を少しからかいながら牽引するのがシユガール—
—妹が引っ込み思案なので自然と生成された彼女は「絶対に妊娠しない薬」を服用し
てるに関わらず『絶対に妊娠させるペニス』に、アクメられるがまま。

イザヤという剣、避妊薬の盾、ソード&シールド……………どちらが勝利するのか♪

ドスドスドスドス♡

「くニひイ、イイー♡♡♡♡♡ おっぱひらけれ——イツイ♡♡ ギユツ♡♡ さ
れるられイッ♡♡!?!♡ イツイヒ♡♡ へりゆはらあア♡♡ らめら
めええ♡♡ おう♡♡ あつあはア♡♡ はえええ♡♡ んあ♡♡ ゆっ♡♡ るひ
へえ♡♡」

左右の胸を中心へ、おっぱい同士のキス♡

乳握りスタンプ！ 他の内臓まで妊娠するっ!?」

腰を動かすのではなくロリ巨引っ掴みシユガールを引き寄せるっ！ レイプ紛いで
激しいのが好きなのは姉妹共通のようだ♡

「ンンンン~~~~ツ♡♡♡ンあ、ああ、あ♡ギしひい、いイイツ、~~~~♡~~~~♡♡
~~~~♡」

おっぱいを絞りながら——精液を搾る。

アイスだけど……………膣内射精中のシユガールは、生地にクリームを注入された  
シユークリーム——完成品となる工程を体感してしまった♡

「おおっ~~~~ ムルちゃんと違って逆流しまくりじゃん♪ 壊れたソフトクリームメー  
カーみたいになってるよ♪」

どぶっ——ゴポツ……………ゴポツ……………ドポポツ♡ ぶりゅぐツ♡  
膣蠢動すればするだけ、無限に精液が溢れ出していく。

「~~~~♡ ……フツ~~~~♡ ふふ…………ウ♡♡ ハツ♡ ハアア……………

♡ 姉妹揃って……………妊娠させちゃうなんて…………… おにーさん悪い人だっ♡

♡ あははっ♡ おそまつ、様、でしたあ♡♡」

実は——まだ受精は叶わなかったと知るのは数ヶ月後。シユガ&ムルは信じ切つて  
しまっているが、まだ避妊薬の方がイザヤ精子に打ち勝つ力を所有している。

あんな量を出しされても妊娠しない！ かがくのちからってすげー！

まあ、その科学を利用して避妊を打ち破る薬を開発するのか、はたまた精力をさらに増強させた生チンポでゴリ押ししてしまうのか……………どちらにせよ、擬人化女子達は妊娠お覚悟の未来に歓喜するがいい♡

「ふああああ……………さっすがに出したなあ〜〜！ ——でもっ、まだっ、時間内っ！  
いいよね？ シュガちゃん？ ムルちゃん？」

ピロートークしながらゴロ寝してゆっくり……………な客もいるけど、イザヤはそんなんじゃ満足しない！

「……………もっちろん♡♡ どうする〜？ おっばいでギュツ〜てするう♡  
おまんこの奥でギュツ〜てするう……………？♡ ていうか萎んでないって

……………♡ おにーさん本当に人間??♡♡  
「ほわああ……………♡♡ 私達の膣内……………♡♡ 溶け始めてますからさつきよりも—

—おにいさんを気持ち良くしてあげられますよ♡♡♡ 気持ち良く出来たらちゅー……………して欲しいです♡♡♡」

精子が埋め込まれた腹部——子宮に位置するであろう地点をスリスリ♡

三歳なのにお母さんの顔！ 不動立ちするイザヤチンポを見上げながら、仲良く左右の睾丸を頬張る♡

夢のような——だけど現実なセックス密度！ ふやけチンポ！ 粘膜同化！

双子もこれ以上イッたら絶頂覚えすぎてメス穴機能不全になる！

結局ボーイから「イザヤ様、お時間を過ぎましたが延長なさっておりますか？」と、電話が鳴っても絶賛おまんこサンドイッチ中だったので無視してしまい、追加料金を支払うハメになってしまった。割引代はパーになったが——帰り際に右頬にキスした双子のおっぱいとおおきい方から、小さな紙切れをこっそり手渡され、お土産として最後の乳揉み♡

左頬へキスしてくれた双子のおっぱい小さいほうからは、筆跡だけで血管がパン張りするあつゝいメッセージ♡

腕に引っ付いて出口に付いても離れない、そのまんま両手を上げたら双子も持ち上がる！ 気分はパパだ！ まだ受精してないけどっ！

——おにーさん♡ また来てね！ パイズリさせて♡ 今度来る時までにはおっぱい……♡ 少しでも包めるような大きくなってたらいいなあ♡

——おにいさん♡ ありがとうございます♡ 私達はおにいさんの味方ですよ♡ お姉ちゃんと心よりお待ちしております……♡ んっ、上手に出来たら撫で撫で……♡ して欲しい、ですっ……♡



## エツチな反骨神の場合——1

——シンオウ神話に語り継がれる『三柱』をご存じだろうか？

時間を与える神——ディアルガ

空間を作り出す神——パルキア

この2匹はシンオウで知らぬ者は存在せず、ハクタイシティでは原寸大の銅像を奉られている。

ディアルガの心臓が動くから時が刻まれ、パルキアが呼吸するから空間が安定する………と「シンオウむかしばなし」なる古文書に記されている。

あまりにもスケールが大きすぎるので「そんな神話など私達の世界やルールを説明する為に作られたに過ぎない」と否定する歴史研究者も一定数居るが、大半の者が「自分達が生きているのは2柱のお陰」と信教している。

——ディアルガとパルキアと、2匹と直角の力を持つ第三の神——命の終わりと命の始まり、反物質を司る『ギラティナ』

2匹と異なつて歴史に姿を見せた記述もほぼ無い。ギラティナという名称すら末梢されており「相当な暴れ者だったので世界の裏側に追放された」が、最もスポットを当てられた精一杯の資料だろう。

「……………暇じゃの……………ふあつ、あああつ……………くねむつ、仕事が無いと神は暇なのじゃ、誰か死なんのかくく？ 余が“いつせくくの！”で転生させてやるぞく……………はああく……………適当にヒウンでも監視するかのつ、ポリポリガリガリツ」

太陽も月も昇らない、青白い背景が渦を巻く無限に広がる彼女だけの世界は歪であり——正常。

ぶよぶよぶよつ……………重力が180度反転した浮遊島は、適当に手を突っ込んだ場所から盗……………永遠に所有者権限を譲渡してもらつたベッド。

透明のディスプレイやキーボードを指先で操作するかのようになり、人差し指をやる気の無い表情でフリックさせていけば——ヒウンに住まう全住民は、リアルタイムで監視カメラを起動させられているに等しいシチュウとなつてしまう。

「スケベしてる奴はおらんのか？ 平日の正午も関係なく交わる性欲旺盛な……………おおっ♪ ×ビルの26階、ズームアップなのじゃ♪ ほつ、ほほおおお——！ 擬人化したジュベツタと主である巨漢の男お、らぶらぶの対面座位じゃ！ 見せろ見せろつ、結合部をハアハア……………♡ マラを飲み込んで“メス”として乱れ振る舞うジュ

ペッタ………力の限り愛を告げながら腰を打ち付ける巨漢………♡ 体格差のある伴侶は萌えるのじゃあ〜♡ 余とイザヤがそうであるからなあ………♡

コンソメパンチ味のポテチ——これもパクって来た——をほっぽり投げ、拡大したスクリーンに映し出されたカップルに釘付けとなった、癖っ毛金髪ショートの極口りっ子は神様である。

仕事が発生しない時は完璧にグータラ。お菓子食べて寝て、ゲームしてネットしたら寝る。職業：神なのでニートではごさいません。

決して語られぬシンオウ三柱の一角——

【ギラティナさん】がこお〜〜んな小さくて可愛くて、起伏など空漠したままのシルエットでお察し下さいいな口りであるなんて！

イザヤの手持ちとしてはカウントされていないが、彼を気に入って現実世界と——現実の常識が通用しないやぶれた世界を行き来しては、しよっちゆう姿を現している。語られぬ神とは一体………

第三の神は虚構では無い、閉じ込められたが『暇過ぎて反物質パワーで自分の物にしてやった世界』から神としての職権乱用………。「神だからいいのじゃ！」を免罪符とした覗き見をギラティナは娯楽にしまっている。

世界を監視するのもお仕事、だからって名も知らぬ赤の他人の営みを絶対バレない位

置から覗くのは……………神には神の道徳があるので、人間の道徳は通用しないのだ。

「いやっ、知らぬ者ではなかったな、イザヤと同じ職場に勤めている擬人化研究員の先輩じゃな！ 伴侶の為に有給を使ったのだろうなあ！ 腹を空かせる為に一戦行うと……………ほほお……………背面から腕を掴まれて……………ハアハア……………♡ ジュ

ペツタの方からも尻を揺らせて……………ハア、ハア……………♡ ホホホツ……………♡

後ろからされるの……………余も好きじゃぞ♡ ん、ツ、♡ すつ、ふ、ああつ♡ 暇過ぎて

死にそうなのは……………自慰をするか性交尾をするか♡♡ 二足歩行生物が繁殖活

動を覚えてからずっと♡ 余は……………くや、ハア♡ 興奮材料として“視”てきた

からのお……………♡ ふくううん！?♡ 中々の激しさじゃな♡ 余の右手もお……………

♡ くちゆくちゆ♡ ああ、余の世界に響き渡っておるっ♡♡

口癖のように「○○だから死にそう」と、ダラけ転がりながらイザヤの頭や身体を揺すってくるが、ゴーストタイプだわ神様だわ……………

白金に輝く装甲を（極一部の器官のみに）纏うつるぷに口りは、不老不死でありながら常に死んでる。0に0のかけ算や割り算したって0のまま……………胸的な意味でもだ。

イザヤの現メンバーからは『脱がない（外さない）方がエロさある』……………感想はさせるぶつちぎりの露出度。イザヤと出会ってから衣装変更したのではなく、現実世界から

追い出された○○万年前からこのまんま。

こちゅつ♡ ぬりゅつ♡ ちゅこちゅこつ♡ くりくりつ♡

あまり育乳されていない胸をビキニで隠しながら、パーカーを羽織りヘッドホンを付けているのが引き籠もりのジユペツタ子。

バトル以外は自宅でゴロゴロしてゐる彼女は、マスターである眼鏡を掛けた肥満体の男から「おまんこ見えているよ……」と内股になりながら指摘されてやつと気がついた。

女子に対する言葉としてはオブラートを缺でちよつきんしてるが、デニムシヨートパントの内側に下着を履いてないジユペツタ側が挑発行為しているような物であった。

女子としての意識が欠落しているが、マスターだから見られてもヨシ！ な思考なので「おつ………おう………」とゲームする手を止めたが、多少頬を紅くしただけでゲームを再開させた。

一日中ゲームに付き合おうとしていたけど、股間がザワ付いてしまった男は——である。

他者の交わりをオカズとして盗覗し、オナってるギラティナは二本の指を駆使して膣内をかき回す。

「ふうふう〜〜♡ うふつ!?!♡ はやつ、やああつ〜♡ このジユペツタ ♪ ダルデレ ♪」という奴か♡ ズボラな生活を送っている女とて、巨漢に対して愛情がなければ女

陰で誘惑などせぬわなあ♡♡♡♡♡

名前を叫び合う、ビキニの紐が外れる、男のダルマ腹が揺れる、ビターチョコを示唆するジユペッタの胸サイズだって、セックスの勢いが激しければそれなりに揺れる。ギリテナは無理だ。

今のギリテナには——処女膜がある。

誰にも許したことの無い縦筋でありながら、宇宙で一番ペニスを迎え込んだ縦筋——居住地であるやぶれた世界でなら、処女膜再生など寝返りよりも簡単だ。

膣奥、処女膜を自壊しないギリギリまで人差し指を突っ込み、膣壁の粒絨毯をぐにつ、ぐにつ……エアパッキンを一つずつ潰していくように、ヒダ感触を一つずつ確かめていきながらくすぐる。彼女ですら気が得なりそうな初自慰から、変わらぬ動作でも飽きか来ずに注意を払わなければ処女膜を破ってしまう、スリルも楽しんでしまっている。仮に破けても出血するだけで、修復は早いのだが。

「お、おおー♡♡♡♡♡ あああつー♡♡♡♡♡ よいぞよいぞつ♡♡♡♡♡ ポルチオを執拗に責められヨガる前にイッてしまつておる♡♡♡♡♡ 巨漢のマラもジユペッタ以外はイカせられない特化型じゃあ♡♡♡♡♡ にゅああつ♡♡♡♡♡ ひゃあ♡♡♡♡♡ はああつ♡♡♡♡♡ はひゃうう♡♡♡♡♡ 好一對♡♡♡♡♡ 恋愛を司る神になつた気分ぞ♡♡♡♡♡ 見せつけおつてええ♡♡♡♡♡ ひゃあん♡♡♡♡♡ ンクツ?!♡♡♡♡♡ ひゃくりゅ♡♡♡♡♡ クる♡♡♡♡♡ うううー♡♡♡♡♡ 神イキクルんにやは

あ、あああ〜♡♡」

ピユツ——ーツツ！　ぷしあああああつ！！

覗き見オナニーなど神にあるまじき「戯れ」であろうと、神は神。

ギラティナを前にすれば人もポケモンも子供、そして母の一人がギラティナという見解も出来よう。

命尽きる瞬間と命再び輝く時、靈魂を管理し輪廻転生を催すのが彼女に与えられた役割。

朽ち果てた影翼で羽ばたけば災いが起き、錫杖から発射される——りゆうのはどうで地図から大陸が消える、創造神にすら『はんこつ』した冥界の王、それが——

「ひゃひ……………ツ♡　くあひい……………♡　ヒ、ふう……………♡　ひふうう

……………ん♡　よひゃああ……………ギラティナじよ……………♡　かみらつてえ

……………は、きゆ、く……………りゆツ〜♡　お、おニヤニーくらいしなきや♡　やって

りやれないんにや♡」

——一人アクメで顕微鏡を使うまでもなく、ロリ神マンコの組織を精査され放題なV字大開脚♡　涎を啜りながら指先にねっちより……………♡　シロツプ状の神愛液をプシャつかせたスクリーンでは、例の二人がラブ握りしながら第2ラウンドをおっぱじめていた。

「はぁー♡ はぁー♡ はぁあん……………♡ シタイ……………♡ 交尾した  
 いっ♡ 余は悪くないのじゃ♡ あの二人が交尾などしているから……………スケベな  
 ポケルスに感染したんじゃああく♡ ……………そうじゃ……………余も恋人と交わる  
 しかっ……………それしか熱を抑える方法は知らぬ……………♡」

小学生みたいな言い訳をする神様である。

万年発情期かもしれないギラティナは創造神に喧嘩を売ってから返り討ちにされ、広  
 大無辺なやぶれた世界に幽閉されてからと言うもの、懐寂しく誰かの体温を求めるよう  
 になってしまった。一人ぼっちで宇宙の果てを彷徨っていたのと同じだから、理由は分  
 からなくもない……………

性的行為に興味を示してからはドツプリだ♡ 手頃な男子を自らの世界に（何の告知  
 もなく勝手に）ご招待。

語られぬ第三の神の御前、ポケモン界に住まう男子はロリ神様の姿に大いに興奮して  
 しまう♡ 例え無乳ロリが大嫌いな者であっても神の前では強引に嗜好をねじ曲げら  
 れる♡

神隠した男子と交尾！ 交尾！ 中出しっ！ ギラティナは神という立場、絶対に妊  
 娠は叶わないので膣内射精されまくって、妊婦腹となつても暫くすれば縮み込む。

——世界の男子達と『戯れ』を繰り返してきたギラティナ。よっほど気に入った者以



外は交わった後、帰り際に記憶を消去しているので何をしていたのか、何処に居たのか、誰と会ったのか……さっぱりと抜け落ちてしまう。

伝説と語られるポケモンで、実は最も人間の前に姿を現したポケモンだったりするのだ……記憶を消去されていない者は極々一部だし、決して口外するなど約束されているからだ。守らなかつたら……彼女の座布団にでも強制転生させられてしまうかもしれない。

えっ、幼女のお尻を味わえるからそれもイイって？ ……あつ、ハイ。

「イザヤああー♡ 余を助けるのじゃ♡ ハアハアーツ♡ 『エツチな擬人化プレゼンテーション♡ あのポケモンはここが性感体です!』はたつた今制作が終わったのじゃろ♡ 疲れマラになっておらんか?♡

陰囊が重くなって椅子に穴が開いたらどうするのじゃ♡ 早くその性欲を余に向ける♡ イザヤが満足するまで膣液を流し続けてやろうぞ♡ ハアーツ♡  
ハアーツ♡

彼女が先天的に所有している能力の一つ、パルキアの空間を自在に操る物とは似ているが、パルキアよりも状況は限定されている。流星に専門家には劣るにしろ、危険かつ

強大な力に変わりは無い。

シャドーダイブー影と影を繋げれば、距離概念をゼロにする。いわゆる瞬間移動、彼女はコンビニからジューズをパクするのに使ったり、過去には自身が気に入った——主にペニスが大きく男性を攫う為に使ったり……………ダラけ生活するには最強の錬金術となってしまうのだ。

同僚の時間神と空間神は、さぞや嘆いているだろう……………それとも、暴れたり役割を放棄する事も無くなったから多めに見ているのか……………??

「あああつー！ ギラティナさん俺のコンソメポテチ食べたでしょっ!? パソコンしながら食べるつもりで買って来たのにいいー!!」

「……………すまん♡ 余は『イザヤの』ポテチが食べたかったんじや♡ 許しておくれ♡ 償いは身体でするぞ♡」

クルンツ……………♡

今回はコンビニからパクるのではなく、イザヤの部屋にある戸棚から拝借したらしい……………

泣き真似しながら背を向ければ、布きれ一枚分の面積すら省いているプリケツ!!

彼女が隠している部位を詳しく解説すれば、両乳首とおまんこだけっ！ 児童ポルノ自薦体形臀部はどなたでもご自由に尻コキ妄想を許可されている♡

……その装甲も、オナっていたから二つしか取り付けられておらず、心を許した相手が触れば驚く程簡単に撤去できる。

「……………もおくくエツチな神様だなあ！ 俺のチンポ欲しくなっちゃったんだね、本気セック——ギラティナさんは本気交尾のが好きなんだよね♪ 仕事も丁度終わったしポテチの件も水に流すとして……………可愛いロリ神様に誘われちゃったからな、連れて行ってください！ そしてギラティナさんが満足するまでやりましょう！」  
ペニスは常にハードマウンテン！ 正式な手持ちとしてカウントされないが、自分を慕ってくれている伝説のロリババア！

女が疼いて苦しい、そのように助けを求められ応じぬ男は去勢すべし！

例えお仕事中であろうとも、やぶれた世界は時間の流れが限りなく遅いので中出し100回しようが、現実世界では10秒しか経過していない。その辺りは神の領域を支配するギラティナの気まぐれとも言える。

イザヤの脚元に青白い輪が出現——やぶれた世界の影へとリンクしたので、クイズ番組の持ち点を全て没取されたノリで輪の中へ吸い込まれていった。

前触れなく引きずり込まれた事はしよっちゆうなので、これしきではイザヤは驚かない。オナニーするギラティナが頭上から降ってきて、冷静にお姫様抱っこしてくれるだろう。無論、勃起をしながらであるが。

## エッチな反骨神の場合—2

「んちゅううん♡ ちゅー♡ ちゅぶううー♡ んはああ♡ もつとするのじゃ♡  
れぬゆつ♡ んつちゅぶあ♡ はみう♡ ぢゅりゅりゅ♡ イザヤあイザヤあ  
……♡ びひゅんっ♡♡♡♡ ちゅぶぢゅううー♡♡♡」

落下地点である神様ベッドへ寝転ぶや否や、顔を引つ掴まれて呼吸困難なラブキス！  
ガンガン唾液を流してくるギラティナ、ゴーストポケは総じて体温が低い体質である  
が、発情している彼女は出来たての味噌汁を冷ますことなく、胃袋へ流し込んでいる物  
だ。

イザヤもギラティナと関係を持った当初は、最強性欲を持つ25cmの狂人と言えど所  
詮は人間カテゴリーから脱却してないので、本気交尾をせがむ神様とのキスは身を削る  
思いだったのだ。

「ちぶうう♡ んんっ♡ んにやつ、はあああ……♡ イザヤとのキスいいん  
じゃあ……♡ 人間のオスで一番気に入っておるぞ……♡ ハアハア♡」  
「ふふ、少しだけポテチの味がしますよ♪ オス代表として光栄に思いますよ！ 伝説  
のポケモンと遭遇だけでも一生分の運を使い果たすのに、こうしてイチャラブする関係

になれたんですからっ!! 俺のチンポはギラティナさんのモノですよ! あなたがお腹いっぱいになって発情収まるまで萎まないのをご安心を!」

人間最強の男とのセックス♡ ギラティナは生命の管理能力として、あらゆる場所を覗き見出来るけど——

(こつちから生配信したいくらいじゃ♡ 世界中の者達にイザヤとの交尾を公開してやりたいんじゃない♡ 興行収入主位は間違いないぞ♡)

身長が136cm、言うまでもなくシンオウ三柱の中で抜きん出たロリ体形なので、立ちながらキスをする場合は浮遊している。

踏み台を3つも4つも使っているような光景! 偶にイザヤの方から背を屈めてもまだ届かない! 差を埋める為に首に抱きついてよじ登る神様もまたキュート!

「チンポする前に俺の方から——いっぱい気持ち良くさせますからね」

一先ず——現実世界に変換すれば30分もの間となるが………キスを終えた二人は再びベッドで横になる。

ブレンド唾液で唇をベチャつかせながら、急に黙りこくってしまうギラティナはイザヤに両腕を押さえつけられドキドキしてしまっている。

神なので男女の力の差など関係ない、デコピン一発で本来ならイザヤは瀕死の状態であるが——その力を発揮させず、やつと彼氏と二人きりになった女学生の如く脚に到っては自分からクロスさせセルフ緊縛。

彼女は神であるからこそ「ひ弱だが愛すべき人間に反逆されたい」と熱望する。

どちらかと言えば責められる方が好き♡ 絶対的な強者である神、男根一本で覆されるシチュウが大層気に入っているのだ♡

あとは誰かの人肌で温められる事も欲して居るので、ねっとり密着しながらのイチヤラブプレイ♡

「ひゅうッ!?♡ うう~~~~ンッ♡♡ イザヤに愛されてる♡ たくさん愛されてると実感するのじゃあああ♡♡」

——男の象徴を使わずとも、彼女を甘美に光らせる術を体得している。

全身性感体だが、耳と翼の付け根は撫でるだけでケモノ耳と似た癢っ毛に電気が発生し、影で生成される翼でイザヤを抱き巻いてしまう程の快感♡

むにゅうっ♡ だの あにゅうん♡ とか……………神は自身を知り尽くされた愛撫に、辛うじて保っていた威厳を崩落させながら、常識反転世界へ引き摺った永久未変声2000Hzで腰を浮かせてしまう。

無意識のオネダリ、だがイザヤは口リ艶声のリズムに乗って噴出する弱アクメ液おま

んこはまだ弄らない。

頭頂部の王冠を避け頭をヨシヨシ、遙かに歳上の神を宥めるようにすれば、姿勢の都合でダイヤモンドスされたペニスがお尻をふニンツ♡

腰を回すだけで「あつ♡ あつ♡」挿入されてないのにノーガードの神尻穴をヒクらせてしまう♡

——後背部から耳の根元までを啜え込んで頬袋状態で口内愛撫♡ れろんツ、もむ

もむ♡♡ レロロロツ♡

「それダメじゃあ、あ、っ!?!♡ 耳の中にイザヤのがあはん♡ ひいううう………

♡♡ トロトロするんりや………♡ とけひやよお♡ んやあ♡ はあ………♡ つく

くく♡」

まさか絶対倒せない反骨神が、耳を舐められただけでギブアップ寸前になると、創造神以外で予測出来る者は居るだろうか。

耳の中を舌先でねぶったり——

耳たぶを甘噛みしたり——

もごもご啜えながら大げさに動いたり——

「やああ………♡♡♡ ふニヤああ………♡♡♡ つ♡ りやめなんりやあああ♡ みみらけ

れイツてしまうんりやあ………♡♡♡」

「耳だけでいいんですか？ まだ——翼！ こつちを愛してませんけどっ！ すりすりすりすりい〜い〜！ 人間に身体を委ねちゃうギラティナさん可愛い♪ こすりこすりっ……………」

「りやらあああああつ♡♡ しゅぐイツひやはらああつ……………♡♡ にやふふ♡ ニヤ……………♡♡ にいううううううう♡♡」

影の翼は実体がない。触れる事が許されるのはイザヤと、手持ちである仲間達のみ。背中を「ヨシヨシ」する仕草で、付け根辺りをマツサージすればピーーンツ!? 顎を反らし肩からつま先は垂直のまま動きを停止させる。

もうイキそう……………♡ と、ギラティナは装甲ニーソでの素股もおぼつかず、数段飛ばしで襲う快樂に耐えられまいと絶頂警告——発令前にイザヤは動いていた！

仰け反ったままの顎——喉仏の膨らみが無い喉に狙いを定めていた！

——猫にとつての急所である腹を見せるのと同じく、人型生物の急所である喉を晒す意味・心理は『無防備な自分を知って欲しい愛情表現』

神オーラによる威厳を纏わせず、喉元を甘噛みされ唾液マーキングされたギラティナは涙と、冷や汗と、愛液と……………生理前の少女よりも小さな身体をありったけ震わせ、イザヤの名を叫びながら硬直イキしてしまった♡

ブシユツ♡ シユツ♡ きゆうううん……………♡



イツてる彼女に追い打ちの形で、痙攣キスやリップによる乱れ突きで連続アクメも乙だが——今回は胸板をピツタリ付けながらラブ握り♡

偶に握つてから離す意地悪すれば「行つちやりやめえ♡」と引つ張り直してくる♡

ディープキスや結合時にも同じ事が言える、焦らしたり引き抜く素振りをしながら、ラブラブエッチと快楽に弱すぎる神様の姿を着に、オナニーしていたら「自慰するなら余を襲えば良からう?♡」……………エンドレスで求め合う。

誰一人として暮らせず、静寂だけが友達だったギラティナは「戯れ」をしなければ、再び破壊の限りを尽くしていただろう……………戯れは創造神や他の二神に黙認されている言わば、ギラティナの心と身体を安定させるケアでもある。……………綺麗に表現したが品性を排除したら『ギラティナはエッチ大好き』だけで済むっ!

「ふにゃああつ……………♡ イザヤは技巧まで一番じゃ……………♡ もう余が満足を感じる男は貴様しか居らぬ♡」

性感が高まっていくと、猫が混じつたり舌が回らなくなつたりと、イザヤが責任を持つてエッチしなければ職務放棄して延々とオナつてしまふような、外見年齢一桁の金髪口りが完成する。外ハネ癖つ毛がケモノ耳に見えてしまつた所以はここからである。

交わつた当初はいちいち羞恥していた——それもまた可愛いが、吹っ切れてしまつたし喉を見せてしまえる関係だ、神のポジションではなく一人の女の子のポジションで、

扉をオープンにしている。

「わあ、こつちの方もオープンしてますよ……………」

「んニヤあくくくんっ♡ 止まらないのじやあ♡ イザヤの体温心地いいからあ♡ 余も所詮メスとしての性を持つ者♡ 好きな男に弄られ根底が啼泣いておるんじやあ……………ああ♡ はにゆう♡ う……………!!?♡」

オリジン—ロリババアフォルムを得て〇〇万年か。——脳みそがこね回され性癡理念を『ロリ』に統一させる彼女の喘ぎ。不足分の肉を寄せてあげるニーソに挟まれたままのペニスガ、すぐ傍にある亜空間おまんこに突入したくつてウズウズしている♡

とある国の伝承に、天から振る甘い露が甘露……………とあるのだが——

(ギラティナさんの下拵え交尾汁あつま〜い♪ 本気じゃない時はもう少し控えめなんだけど、この糖度はガチだな！ 疲れた身体の血糖値補充は神様のロリ汁で！ 沁みるぜっ！ ちゆるちゆるぢゅうううッ！)

「アア、にやにや、あ!?!♡♡♡♡♡ しよこもしゆきニヤああッ!!♡♡」

！  
イツたギラティナさんは思考回路がどん底！ ツボツボの素早さよりもおそ〜い

彼女をイカせ慣れているイザヤは小陰唇をくぱっ♡ 修復された処女膜を確かめさせるように開脚しショートケーキに欠かせぬ苺ならぬ、おまんこを構築するに欠かせな



の男なのだ！

「ひゅああ……………♡ ふっ、やつ♡ イザヤあ……………♡ 攻守を『反転』させるぞ♡」

ギラティナがオーガズムから復帰するまで、首の後ろや肩をキスされただけでビクン♡ 悪戯のお陰で復帰までの時間が倍以上となったが——否が応でも彼女は神。人差し指をくるっ……………それだけでイザヤはベッド上でひっくり返ってしまう。

——やぶれた世界はギラティナその物、理屈の通用しない神の領域では全てが思いのまま。

「あはあ……………♡ 抱きしめている時から当ておってからに♡ 人間離れたマラじゃあ〜♡ はっーはっー♡ この太カリじゃ♡ 芯もナスのように太くて……………♡ パンパンに浮かぶ血管♡ 余の膣内に食い込むの堪らないんじやあ〜♡♡」

シコツ♡ シコツ♡ チュコツチュコツ♡♡♡

サファリゾーンで全裸になれば、イザヤのペニスを狙って♀ポケがひらいしんで引き寄せられる電気技の如し。イツシュ地方にサファリが無いのが大後悔やまれる！

むしやぶりたくなる男性器、長くて太くてエロい、トレードオフにせず全部のアビリティを所持する反則イカセペニス。

(手コキうまああ……………ツ！　なんて優しいんだギラティナさん！　エッチしてるって気がしなくなる、母親に子守歌を唄って貰っているみたいに……………でもチンポは寝ないでエネルギーギツシユさが増すばかりなんだっ！)

ギーーンッ！

ジユウト地方の風俗店へお世話になった際に「あんたのチンポ♡　スズのとうだねえ♡」とお褒めに預かった——天井からは雨漏りという名の我慢汁！　シコリ往復の度になゆるっ♡　ぴちゅっ♡　くりゅッ♡　雫型が産み出されては右手と包皮の中で弾ける♡

「はあく〜っ♡　ぬふう……………♡　いやらしいマラじゃ♡　しゃぶらせておくれっ♡  
 ♡　ダメだと言うても勝手にしゃぶるがなっ♡　びっ……………ちゅぐう♡　んぷっ……………♡　んもひひいんはあく〜♡　ほひやのやひゆらへわらひはくなひはあく〜♡　ぶっ、ちゅばっ♡　れにゅっ♡　れにゅっ♡　ぢゅっ、ぢゅっ、ぷぷっぢゅりゅぶ」

握々させる右手で——ナニかを掴んでいる風に見える輪を作りながら、唾液線が欠陥したお口をあーん♡　フェラチオジェスチャーでペニスから色彩の濃い雫を垂れ込ませたとみれば、それを合図とし2.5cmもあるペニスは陰囊含めて輪郭を消してしまつた。





ら直角に折れ曲がった25cmに酸素の出入り口が塞がれる♡ 死なないけど鼻から呼吸する、ぶひゅぶひゅ鳴らし鼻水が出ても構いはしない♡

びちよつ、ぴとつ♡ イザヤの視線は飲み込めず仕舞いの唾液膜で覆われてしまったけど、こんなことも……………と言わんばかりに逆の足下へも、新しい——第二の視点カメラを作り出す♡

出会ってからの年月はさほど経過して無いけど、エッチ回数は手持ちの皆と互角以上♡ 自らの唾液で第一視点がベチャ濡れになるタイミングは経験で予測出来るのだ♡

「ヂュボヂュボツヂュボツ♡ むうんんっっっ♡ ンパあ……………♡ りやグう♡

りやふう♡ う……………♡ うぶ……………♡ ほふう……………ボヂユ♡ ボ

ヂユツ♡ ボヂユツ……………ズズズツ♡ いぢややああー♡ フヂユツ♡ フ

ヂユう♡ よのこういんれりやせえ♡ え♡ ツツー♡ ジゾゾーツ♡ ググぢ

ヂユヂユヂユツ♡♡♡

……………!!?

前立腺まで貪り尽くす神様のバキュームフェラ!

尊大だけ慈悲深く、暇つぶしの誘いを断れば泣きついて無い胸をスリスリしてくる神様が、半白色な上目遣いのままボコツ♡

完璧にイザヤの形を顕現化させた両頬♡ 空気を押しつぶす筒状真空口内も、啜えき



れるサイズでないのに——啜えられてしまうのが神なのだっ！

「ギリティナさんそれエロツォー!! 射精ちやいます全部飲んでくださいイ、イ、イ！」

底知れぬ性欲のパートナーには、底知れぬエロさのパートナーが必要だ♡

口内でペニスがさらに膨張♡ 根元から塞き止められていた精液が、徐々に登つていき射精管の中間部までアガツてきたら——

「ん、ッ、!? ン、ッ、ォー、ふ、む、ぶウウウ、ウ、………ツ、………

………♡ ぼぼ、ボお、………♡ 後頭部………♡ 押さえつけおつてええ………♡

ぷひや、ひやああ………♡♡♡ 余は呼吸困難になるだけ気持ちがいい………♡

♡ 余でなければ窒息していたぞ………♡ 余は呼吸困難になるだけ気持ちがいい………♡

のどがなつ♡♡♡ ケホツ、ンツ………♡♡ はあ♡ 美味しいのじゃああ………♡

こつてり精液イザヤの味い………♡ 老体じゃが薄味より濃い味付けの方が食べ

たくなるんじやあ♡ は………♡ は………♡ つ♡ チュチュツ………♡

——ギリティナは神、人間や通常ポケモンとは生体としての階級ピラミッドがあまりにも離れている。

絶対的な力と知恵を持ち、不老不死であるギリティナ。イザヤがどれだけエロ方面に優れたとしても所詮は人間、本来であればフェラチオされるなど想像すらおこがましい

（上の上の存在にイラマチオしてしまった………ッ！　ギラティナさんは強引なくらいがお好き！　力無き人間からの違背エッチ！　エッチでは『人間に屈服される』を望みだからなっ！）

そう——神として産まれた彼女は、自分より上の存在がアルセウスしか居ないのだ。他2柱とは完全に同等な関係なので、彼女の玉座からは見下ろしてもゴマ粒としてすら認識出来ない、矮小な生物からの反逆エッチが大好きなのだ♡

気に入った男子を誘拐し、あの手この手でリードするも、男子に主導権をこつそり譲渡し理性崩壊肉欲奔放！　………がギラティナの筋書き。責めに徹する機会は勿論あるのだが、超高位種だとも関係なく組み伏せられ、ペニスでダメにされちゃう♡　そんな自分に陶酔してしまう♡

「神として性別が在る雌じゃ♡　雄の英姿たるマラには勝てぬのじゃ………♡　もっ

♡　もう一度ハアハア♡　口淫させておくれっ♡♡」

「………ええっ！　今度は俺もギラティナさんのホラッ、太もも伝つて水溜まりになつてる甘露おまんこ舐めたいですっ！」

「よっ、よいぞ♡♡　愛する雄にイラマイキされたらしようがないのじゃあ………♡♡」

内股になつて甘受液を隠そうするグラティナは「神の力をエツチに利用するだけの幼女」

威厳はやぶれた世界の何処かへ置いてきた、瞳をハートにしながら指先をクイツ、クルンツ！ 違和感なくシツクスナインとなつた二人が前戯を再開させる！

「チュパツ、レロツ、ちちうー！ うーうーん！ 湾曲したマゴのみよりも甘ーい♪ 神様のおまんこをクンニ出来るだなんて、男代表として冥利（冥府）に尽きますよぢゅろぢゅろぢゅろーお♪」

「うも、もお、くくくつ♡♡♡ チャプツ♡ プチュルツ♡ リユプチュツ♡ ふあああああつー♡ おまんこペロペロ好きなんじゃあー♡ イザヤのをペロペロしながらされたのにイ……………♡ ぐぶツ！ んぶんぶツ♡ ひやふうううう♡ 感じすぎてマラが離れちゃうよおー♡ きやわわあ♡ かぷんツ！ ぢゅば！ ぢゅば！ ぢゅば♡」

肉眼で捉えられない膣拡張器具を取り付けられたかに、イザヤが両手で広げずともぐ、ばあ……………♡ 太マラを頂戴する事前準備として、解された縦筋はぱっくり二手に割かれている♡

老婆的な台詞回しも段々と崩れる、どちらが素なのかはイザヤも存じないけど、エロの極地点が近づいている証明なので舐める勢いは緩めない！

「うみゆブツ♡ ふびユ……………ツ♡ ふうゴツ♡ りゆヂ♡ チュボツヂュボツ♡  
ガフツ♡ ガフツ♡ ハーハー……………！んゝゝゝふむゆうゝゝゝ♡  
」

何かを閃いたギラティナは、また影と影を繋ぎ止めイザヤにおまんこ——ともう一つ、極大修羅ペニスの造形が頬越しからでも細部まで、余すこと無く炙り出した自らの吸引顔を映し出した視点も作り出す！

「ギラティナさんあゝっ……………ゝ！ そんなっ、歯磨きフェラまでえ……………っ！  
はっ、あっ……………ヤバッ、い……………ですっ……………！ 視覚って重要だなあと何  
回も認識出来ますよホント！ ハッ、ハハッ……………ッ！」

「よによはじゆかひいかおおゝ♡ みへみへええ♡ ンボツ♡ ンボホ……………オオ♡  
ぴちゆちゆゝゝゝうう♡ んっ……………♡ ぶほオオー♡ ぐぼっ♡ ぐぼっ♡  
ちゆっ、ちゆっ、ちゆっずずずずずずうう♡♡  
じゆぷっ♡ じゆほお♡ よほお♡ イフううううううッー♡ゝゝぐばッ♡  
ぐばッ♡ ぐぶぶぶぶぶツツ♡♡ ギユプププツ♡♡」

——神が人間のペニスを口愛撫する。

それだけでも本来ならば異常、神は恋愛や性交の概念が無かったりするとすれば、同じ神同士……………なの？が道理なのではないか？

ギリティナが特別性欲に正直な存在ではあるが………神様でもイザヤのペニスに  
は勝てなかつた♡ 優位性を保てない♡ ただのメスにされてしまう♡

ドブツ♡♡ びゆるツ♡ ブルツ♡ びゅびゅツ♡

## エッチな反骨神の場合—3

「ニヤ……………♡ ふあああ……………♡♡♡ 神殺しのマラああ……………♡♡♡ な  
んと男らしい勢い♡ 腹の中が一瞬で満たされる莫大な量♡ ばっ、ばっ……………♡  
化け物めがっ、じゃあ……………♡♡」

ちゅっ、ぽっ♡ ダブル淫行視点はギリテイナとエッチする際の特権だ。何百何千と  
体感したってほぼ初見時と同じ興奮で陰囊がぐぐっ……………♡と浮き上がる射精を実現  
♡

射精が途切れた——と思えば続きが放出される♡

陰囊まで頬張れる常識外れのお口でも何度も何度も……………♡ びくんびくん跳ね  
回るのだから連続イキしちゃうのもいつも通り♡ 彼女は連続イキしやすい体質かつ、  
しやすいシチュエーションばかり選ぶ♡ なんと淫乱な神なのだろうか？♡

「ゴキュツゴキュツ……………♡ はふっ、うう……………♡ イザヤああ……………♡  
♡ 交尾♡ 生の交尾して♡ さもなくば世界壊すぞ……………♡」

喋っている間くらい性器から手を離す事が出来ないのだろうか、この神様は♡  
装甲が2つ外れている——ナイチチ……………♡ 自己申告ではAだけど、イザヤの

「おっぱいサーチアイ」の分析結果はA.A。

スリスリッ、シユリシユリッ♡ しかし はきむことは できません！

なので あたまのいい ギラティナは ちくびをつかう ことにした！

「キャニャああゝゝゝ♡ ハアー……♡ はあゝ あつゝゝ♡ 余も気持

ち良くなるうう……♡ カリ裏でなぞられてしまうのじゃあ……♡ つ♡

はあはあ……♡ でっ、でもおダメえ、じゃ……♡ 交尾っ♡ 交尾交尾っ♡ 交尾

じゃああ♡ パイズリは後でするから交尾いゝいいー♡♡」

手持ちの皆がおっぱい揃いなので、ギラティナの貧相さが際立つ。

胸をエツヘン！ とはればギリギリで小山になるかなあレベル、表面でぶにぶにした  
り乳首を鈴口に突っ込んだり♡ 神のエ口知恵でどうとでも補える♡

くぷっ、あ♡ おまんこご開帳しながら、現実世界を取るか生挿入腔内射精を取るか  
……スケールがデカすぎる脅迫される、ペニスがデカすぎる18歳。

——迷いはしない、世界は壊させない！ 生のエツチもする！ 彼女が冗談で言っ  
ている訳では無いと、後ろを向きお尻を高々と……ふりふり♡ しっほをふつても防

御力は上がってしまうっ!!





後背位がお好きなロリ神様♡ 四つん這いでニヤアニヤアと喘いでしまう姿♡  
 癖っ毛もビクビクッ♡ 震えながら神尻に爪を立てられ手のひらの痕が埋め込まれる

♡

「ケモノ交尾大好きなんですよねっ♪ 神様なのに視線を低くさせられちゃうのも♪  
 神だからこそ慥伏したいんですよね!!? おまんこグツチャグチャにして、膣海の花虫綱  
 ですよチンポに絡んでくるあなたのヒダ!」

「ひゃヌ、ヌッーっっ♡ しようニヤろ、おおー♡ たちば、はんてん、しやれ  
 りゆのしゅきいー♡ まりやにまへひやうザコかみににやれりゆのお、お♡  
 こうびのときらけえ……♡ ニヤれりゆんらも、おんくっ♡」

グプンッ! グプッ! ズヂユツグジュヌヂユヌヂユっ! ギリリッ、

……

25 cmものチン長を持ってしても、先端部が一向に子宮口との会遇を果たさない。  
 そんな女性器の持ち主はギラティナ以外に絶対備わっていない♡ 反骨神特権のお  
 まんこ♡ もうイザヤだけの物♡

例え50 cmだろうが1メートルだろうが、ギラティナに子宮キスが出来るのは——間  
 も無く、その刻が訪れる!

………神イカセのペニスで串刺しにされても、ドスケベな彼女は能力の酷使を忘れ

てない♡

イザヤの次は自分！ 目元が影に覆われた黒海苔線、何処に繋いだのかと言えば

.....

(余の結合部うゝ♡ 恋人のデカマラがあゝンヒイゝゝゝ♡ 無修正で処女血が荒らされておるつ♡ あゝつ♡ あゝ.....つ♡ ニゝイゝ.....ゝギツゝ！♡ あゝ.....つゝ.....♡ あー.....♡ 余を.....妊娠させようとお.....卑陋だけのほオゝ.....♡ 雌にさせられてりゆつ♡ 二あゝ.....あゝあゝ

♡)

ずしやつ♡ ずしやつ♡ ずぶつ♡ 25cmがピタンツ！ 陰囊をクリにぶつけながら潜つて♡ ズポツ♡ カリで膣肉打ち砕きながら抜いての結合部をズゝムイン♡  
 とつても好きなバックセックス！ イザヤとの繋がりを見界に入れながら後ろから

♡

「イグツゝ♡ イグ♡ イグツうゝうゝー.....うゝうゝツゝ♡ ヒギにやあ あゝ あああんゝゝツゝツー.....♡ゝゝゝゝ♡」

たつぷり、たあゝゝぷり♡ 絶頂間際に出現した神の子宮口、ゴリゴリゴリツイイ!!

♡♡ ここぞとばかりに赤ちゃんの部屋に、空き巣な亀頭を投入♡

上唇と下唇を噛み合わせ ∞ 型に食いしぼるギラティナは、体質上妊娠は適わないがそれでも……………どうしても、イザヤのペニスは妊娠させてやろう！ 気概を感じてしまうから流される♡

「ドチユドチユ出てますっ！?! ああ……………ギラティナさんの背筋方面まで精液染みこませてあげますからねっ！ まだ膣内射精1回目ですよ、へばらないでくださいよっ!?! 何億年分もの過去を記憶する神の頭脳、知能指数を1にしちやいますからねっ！ ふあっ！ うお オツ！ ほア たあ ああッ!!」

「お ほっ……………!?! お お お お お くくっっ♡♡♡♡ ほうっうっお おお♡♡ ホッ♡♡ ああ♡♡ ん♡オ……………♡♡ おうっっ!?! ううお……………♡♡ お お お くくっくく♡♡」

ズッ♡ ズッ♡ ズズッ♡ ヌルヌルヌルッ♡ ズヌッ♡ ズヌッ♡  
壊れた、神は壊れた。

子宮が現れっぱなしなのは、イキ止められずどうにもならなくなった証拠。

ガンガンガンッ♡ ラブノックは膣ドンッ♡ 玄関などどつくにブチ壊されてる♡  
膣内射精された白と処女貫通した赤、気泡が斑に頷いては消える桃色絵の具♡ ベツドシートなキャンバスにバラ撒いている♡♡

パンツ！ パンツ！ パンツパンツパチユパンツパチッ♡♡ 薄い衣のような尻肉



「ラ〜〜ピ姉♪ スキありい!」

ギラティナとの「ドピユツ♪ 連続中出し300発しないと帰れません☆」——現実世界にしてたつた5分、夜の精液をストックしている彼……………実は人間ではなく『ぜつりんポケモン』……………な説も浮上している。主に風俗で。

ギラティナ腹ボテミツションから帰還早々、フライ返しとハンドルを握り両手が塞がっているのをシメシメと……………、シヨタ時代はお風呂にも付き添ってくれた、優しくて料理が超絶美味くて美人でおっぱいデカくておっぱいデカくてポニテで身体を縛ってみたくてガーター外してみたくてスリット反則でおっぱいデカくて爆乳ピチピチメイドの乳を揉む♡

ぐニヨン♪ ぐム、ぐムムンツ♪

アンダーベルトの無機質感、すぐ上に移動させれば反発係数0.9のナチュラルIカップ!!

ラピは18歳の頃でも大きかった、旅する大人になってからはもお〜と♡ ここまで♡ イザヤにパイズりする為に——

「はぁーい、そろそろオシマイですよ♪ そお〜れつ!」

「ツッ!?——ぺえエ!? グペツ!! 踵あゝ ああゝ くくく!? ボキボキくくくいつたあゝ あ痛ったあゝ ああゝ くくくつゝ!!」

「ウフフ♪ 止めてくくください♪ ……………言いましたよ? 胸に全てを抜き取られて、心此処にあらざでしたよ、ご主人様♪」

けたぐりによる足払い。全神経を両腕に注いでいたご主人様が、忠告を無視したのが悪いのだ。

スウ——スカートが捲れそう! でも見えずつ! 洗濯物洗うからラピの下着の色や、どんな種類を所有しているかなどは観察しまくったから知っている……………けどつ!

「男だからさ、イチチチ……………おっぱいは触りたいしパンツも覗きたくなる生き物なの」

「もおく……………めっ! ですよお? ご主人様の場合触りすぎなんです、すぐに手を離すとか数回に分けるとか、工夫をなさってみたらどうですかあ? ウフツ、それとも私が恥ずかしがる姿を見たいと思いましたがあ?」

（くそお……………ラピ姉、昔はおっぱいタッチすればするだけ恥ずかしがつてくれたのになあ……………その後ちきゆうなげかまされて、一週間意識不明だったけどさ）

学習はしているが関係ない、ムチムチ歳上おっぱい青髪メイドがそこに居るから、セ

クハラを本能でするだけなのだ——

「トロンサーン、ルーシャサーン！ お夕飯出来ましたよお〜♪ アリーさんは後で私がラボにお持ちします、ギラティナさんは……………あつ、エッチ♡ ご主人様としてたんですねえ〜♪ シャワーを浴びてもまだ……………スんツ、交わった香りが漂ってますよお？ 外出でしたら考え物でしたね♪」

下ネタも華麗なスルー。それどころか消臭のご指摘を受けて、イザヤの方が軽く勃起させてしまう。ラピのウイスパーボイスは、睡眠音声CDとして売りに出せてしまう！

……………無断でしたらたきのぼりアツパー、許可を取ろうとしても首を縦に振らないけど。

「ご主人様のことです、今夜はトロンさんとお楽しみでしようかあ？ 明日は普段より1時間早く出勤なので、程々に、ですよお？」

——経験豊富だから動じない？

ラピは大量の『ご主人様』に仕えているが、彼氏やセフレなどの浮ついた情報は一切聞き及んでない。

（そつかあ、経験皆無な訳ねーよなああの落ち着き……………誰にも内緒で恋人作ったのかなあ、各地のご主人様の誰かと……………旅の途中でセックスしてとか……………ああああ〜！！ ヤダー〜！！ 憶測に過ぎないけどヤダなあ……………まあ、ラピ姉くらい美人

でパイズリ胸してれば早い者勝ちだよなあ………くう、あの時俺も18歳だったら  
………



## エツチな道化師の場合——1

テーマパークが立ち並ぶ、活気溢れる娯楽都市。朝も夜もイツシユ地方最大に煌びやかなライモンシティ。

ある時はサッカーやアメフトの会場、ある時はポケモンバトルの戦場、今夜は——  
 「1万、5万………20万人の観客のみなさあ〜ん♪ ナイトカーニバルへようこそお越し下さいましたあ〜ん♪ 朝まで7時間ぶっ続けで笑顔をおっ！ 届けするよお〜ん！ ヨロシクThank you感謝感激Heavy rain〜ん！  
 ジェノサイドつてきましようYO♪」

真夜中でも眠りを知らない都市、1年に1回のビッグイベントが開催！

ポケモンリーグ本部のスタジアムに勝るとも劣らない、小さな街ならすつぽり余裕を持つて覆える、収容人数20万の観戦席——電光案内板を埋め尽くす赤赤赤っ！！ 空席など一つも無くチケットは2時間でSold out！

世界中からイツシユが誇る曲芸団のショーを観賞する為に、ヒウン遊覧船乗り場は超絶ブラック労働であった！

「我ら「レフォール・プレゼンス」の新しいお・な・か・ま♪ 異銀の道化師にオープニ

ングを頼んでまつせえ〜！ お客さんもご一緒にいーーツ——」

——ルーシヤアアアア！！

20万人の心も言葉も1つに、カロス宮廷だった道化師少女の名が星よりも眩しい、オールLED照明を震盪させた！

——魔法に掛かった感動は非日常となり日常のエネルギーへ変換させる。

進んで滑稽な姿を演じるポジション、集まってくれた観客を笑顔！ 笑顔に！

スタジアム上空にて巡回していた、ナイトカーニバルの報告飛行船。

ゴンドラの扉が開く、事故に陥ったとしか思われない光景が巨大なスクリーンに映し出され、パラシュートも背負わずに落下したのは……………メインでありながら、場を温めるに徹した役回りが性に合うと鍵が重なり合うような声色で宣する。

2つのガラス球——赤と青のオッドアイは、死の直前すら破顔一笑に？

観客はオープンングの一部だと直感しているが、プログラムには表記されていないので極僅かにでも「自殺かつ!？」と、口を手で覆ったり悲鳴を漏らしてしまうのは生理的な反応だ。

それだけに留まらず、銀の輪が8つ空中に——カクレオンの体色変化メカニズムを解析して作り出された——スタジアムと同化していたから観客誰もが気がつかず、別の空間から呼び寄せたように錯覚させられた。

……………そうして目を向けている間にも、飛行タイプでもない少女は自由落下に抗えず、幕が上がったと同時に閉幕になるつ、約1名を除き——客席は阿鼻叫喚の渦に飲まれ……………

「なーんちゃってえ♪　とうおおーうっ！　えっへへへ、悲壮な時間は瞬きの間、幸福のまま欲張ったってイイんだヨー♪　ほおっ！　笑顔はくやりすぎなくらいがあくく！　ちよーどイイくく！　キーヒヒヒッ♪　道化師ルーシャー！　いっちばくん乗リイ♪　観客の皆さあん、魅惑の世界へヨーこそお♡」

——地面と最も距離が近い輪に、足首を引っかけ逆上がり、勢いを付け2つ3つ4つ、登って昇って内膝支点に半回転。

（あつ♡　お兄ちゃん！　20万に紛れてたって分かるヨ♡　ンツ——くく♡）  
練習であつた命綱は無い、足場にするしか無い銀の最頂部——最初に落下した輪へ筋力は一切用いず、物体の軸を的確に見切れなければ途中で失敗していた。

地面が実はクツション……………なんて気の利いた環境にしたら、脚光は浴びられない。

額の鍵穴はペイントやタトゥーではありません。銀幕のメインカラーをスタイリッシュに彩る、配色はブラックとゴールド、かつて専属していた貴族に与えられたので、贅を極めながら嫌みを感じさせないゴージャスさ。

演目中は艶を抑え、オープンングが終わればあくまで脇役として7時間を飾る。

レースとチェック模様が交錯し、鍵型のピエロハットを手直しする彼女……クレツフィのイェルーシャ、愛称の「ルーシャ」とファンは呼び劇団登録名にもなっている。

片脚、しかもつま先立ちのまま、髪に括り付け——備わる効力が異なっている鍵をジャグリング。胸を中心に八の字を描きながら後ろ向きで、輪をなぞりながら歩いて行く。

観客の声援と笑顔がまだ足りない！ 鍵も4つ程度じゃまだ足りないっ！

今度は自らハットを脱げば——種も仕掛けも御座いません!? 質量を持った分身、紫で統一された鍵を2本取り出した!?

大きさに考えなくても無理がある、けど悩ませるよりも驚きと感心がウエイトを占め、ポンツ、ポンツ——道化師はさらに魅せる。

ポップコーンが出来上がった香ばしい音、ルーシャの両手に現れたのは——額から取り出した残りの鍵であった!

本当は何らかのギミックがあるはず——内緒、バレてはならない、プロであるなら「魔

法」を演じきつてみせる。

（——俺は見てるぞっ！ 朝までずっ／＼とお前だけをな！）

案内役として場を温め終わったルーシヤは、使役する鍵と共に深くお辞儀。カーテンコールにや6時間55分ほど早い！ オールナイトでノンストップエンターテイメント！

イザヤも有給を使い、夜通しルーシヤの活躍を見守ってくれている。お辞儀したルーシヤは——無料で配られるカフェイン飲料を摂取し、交感神経が高まっている観客達へ投げキスをしたが——

唇から産まれた♡ が届く距離であるなら——イザヤの唇が吸い込んでいた♪

ショーが無事に終われば自宅へ帰るのだが——イザヤと久々に二人つきりになれる日！

ルーシヤにとってショーをやり遂げたご褒美、パフォーマンスに集中しながら、期待“ によって、少し内股にシワを作るシヨートパンツ。

チロツ……………

もしも……万が一、性的興奮を顕す内部要因がバレてしまっても、彼女は道化師。「種も仕掛けも御座いません」で切り抜けてしまえるだろう。

## エッチな道化師の場合—2

「お兄ちゃん！ オハヨー♪ ずう〜と、あてを見ててくれてたヨね？」

報道機関も感動が溢れ、一夜限りの興奮なんかに収まっていられない15時。

休みだからとこんな時間まで寝て——たのは仕方が無い、ルーシヤは劇団一味として公演が終わるPM07:00まで笑顔を提供し続け、誰一人として席を立たせる事はさせなかった。

公演まで残り一ヶ月を切ってから、猛練習で昼夜逆転の生活を送っていたルーシヤ。

……………明記すると一般サラリーマンが、血の泡を吹いて倒れ転がるお給料と一週間の公休を手にしたので、連休を取ってくれたイザヤと暫くは二人きり♡

【魔女】はラボに籠もりきり、ギラティナさんは新しく買った（パクった）ゲームをプレイ中、トロンは占いへ、ラピは別のご主人様の下へ。……………気を使ってくれたのではなく偶然を物にした。

「あたぼーよ！ 俺の嫁だぜ？ 大活躍だったじゃん！ 道化師は脇役つつーけどさ、道化師が居ないサーカスは味噌の入ってない味噌汁、キングシールド覚えてないギルガルドみてーに『あつて当然』が欠如してる失敗作だよ、他のキャストや演技がどんだけ



波動”を！ ハツハハアツ！ ルカリオすらキャッチ出来ない育乳スピリチュアル、数多く備える俺の特技の1つでねえ！」

「旦那様……………♡ ワタシのおっぱい、もつと大きくなった方がいいですか？ アリーさんも越えるくらいに？ ……………♡ 旦那様のオチンポ、ガッチガチ

になつて……………♡ ポーリー♡ 挟んだらもつと？ 硬く……………／／／

可愛いポケモン全員俺の嫁と謳う最強セックストレーナー&セルフ目隠しをする褐色肌シンボラーであつた。

「お兄ちゃんと毎日っ！ エッチな事……………したかつたヨお……………♡ 特訓頑張つて、シヨも大性交し……………せつ、成功して……………♡ むううん……………溜

まつちやつてるから……………すぐエッチな方向に……………はっ、はっ、はっ……………♡

お兄ちゃん、あてら二人以外はだあれも……………♡ しヨ？ しヨ……………♡ あっ

♡ おつきい……………♡ えへっ、あて？ カワイイ？ エッチな女の子？ ……♡♡

無実を証明し真犯人を問い詰め、裁判に逆転勝利してやった。

——理由など「一目惚れしたから！」……………トロンは嫁だが「第一の“

承諾さえあれば何人とも結婚や同棲が許可されるイツシユに住民票を提出しているので、第二第三と嫁を増やしまくつて、超ハーレムエッチな生活を死ぬまで築くのが彼の『おっぱいアルカディア』



「エッチだぞ！ 声がチンポ勃たせてくれたんだ、疲れマラじやないぞ？ ルーシヤにご褒美エッチしてあげたくって、風呂にも入ってきたし準備はいいぞ？ —— 勝手知つたる皆の家で二人だけの……しちやお？」

ルーシヤは 9 歳 だ け ど 関 係 な い イ ツ シ ュ は 素 晴  
ら し い

褒められて伸びて濡れちやう道化師は、寝起きで僅かに毛先が乱れていた銀髪ツインテール——点在する光は月でも星でも無い、日光浴でもすればミラーボールになりそうな真昼。

「あつ！ 毛先がちよつと……お兄ちゃんの前なのに、みつともなかったゴメンネ……」

「グツスリだった証だよ、あるがままのルーシヤが見れて嬉しいぜつ！ うりうりイ！」  
「ふわああくく♡ おお、お兄ちゃん♡ ふつ……くああん……♡ はやつ、  
はああ……♡ 撫で撫で、あてもウレシーんだ……♡♡」

手持ちでは一番露出が少ないルーシヤも、ブラジャーを着用せず下乳を晒しているの  
で、エッチパーセンテージにそれほど差は無い。

ツボを押さえているので、こちらの方がエロいとチンポを握り締めながらルーシヤが

過去に出演した映像を、オカズにシコるファンは少なくない。

イザヤの手持ちになっても応援してくれている者達を蔑ろにせず、握手やサイン会にも積極参加のルーシヤは、オフ日が少ないのでイチャ付ける時には誰よりも性欲を解き放ちたがっている♡

エッチじゃなければ、イザヤの手持ちはやつてられないのだ♡ 彼女の場合は『1から教え込まれた』

ついでに——トロンは最初から子作り推選だし、【魔女】は元………イザヤのセフレだ。

「えへっ♪ ぎゅ〜〜〜〜♡ あはあん………お兄ちゃんの♡ あての身体ヨじ登りたがってる?♡ スリスリスリ………♡ じんわり出て来た♡ んっ、もつとお………ギユツ! てして欲しーヨお♡ 待つてたんだから………あ♡」

素直に気持ちをぶつけてくれる甘えん坊。パフォーマンス中に下着が滲んでしまった件は、隠し通せたけど——あんなの経験が無かった。

それだけルーシヤはイザヤとの肌でする、コミュニケーションが不足していた。

念の為に言っておくが、毎日キスはしているし不規則な生活をせざるを得ない彼女に気を使い、一緒に朝ご飯を食べられる時間まで起きているなど——トロンとのセックス明けだとしたって、マスターからすりや面倒をみて当然、精力と体力超人なイザヤ。

少ない時間でありつたけを与えていたが、ミスもアクシデントも皆無に閉幕し、一触即発の糸を切つて許されるようになった――

「ちゅっ♡ んふっ♡ ふんっ、れふゆ♡ ちゅっ、ちぶっ、ちぶっ、お兄ちゃん♡ ちゅふっ……………♡ なが〜〜く、キス、もつと……………♡ したいヨお……………♡」

死ぬ気で努力した結果は、20万人の拍手と歓声と笑顔、SNS上で拡散されたアンケート結果――低評価が0%の偉業が証明している。

イザヤとキスをしていても、短い時間しか許されず自宅に居る時間よりも、劇団事務所やテントで過ごしていた時間の方が長かった。

「したい、イザヤとエツチな事を一日中♡」

「ご褒美として彼はプレゼントしてくれるだろう♡ 観客全員笑顔で帰っていただく――と同じくらい、ルーシヤは目標に設定していたから頑張れたのだ。」

「んちゅっ、ちゅふう……………♡ ペチャツ……………♡ レロツ、レロオオ……………♡」

ちゅっ、チュツ♡……………♡ 唇ペロペロ、湿らせたりヌルヌルにした方がエツチ……………♡ な、気分になるし後で役立つんだヨね？」

「ああ、ルーシヤのおまんこ小さすぎて超気持ちがいいけど、本当にゴメン、俺のチンポがムゲンダイマックスでさっ……………」

「へソ出しサスペンダーも、イザヤの提案(エロ)にて改造してくれた物♡ 劇団やファ

ン達からの評価もアップ♡

ブラまで取り除いてしまったのは、チヲを恐れるよりも「最初から無ければ恐れない」……ルーシヤもすっかりイザヤ色に染まってしまった♡

広背筋付近に手を置き、上から下へ髪を梳くように撫でてあげれば、丁度衣類ガードを失った部位なので「あ、うう、ッ!?♡♡」と、驚かされて怯んでしまう♡

「はあつゝ♡ん、……♡ん、んう、……♡ピクッ……♡ 謝らないでヨ、お兄ちゃん……♡あてこそ……♡おまんこ小さくてゴメンね？ お兄ちゃんの早く……全部飲み込みたいのにつ……♡！」

「焦るな？ ゆっくり拡張していけばいいよ。その♀ポケには、その♀ポケ特有の膻特性が備わってる、拡張が早く済む子も居れば、長い時間を掛けて飲み込めるようになる子が居る。ルーシヤは後者つてだけだよ？ 悪い事じゃないし、今のURシリンダー型おまんこ好きだよつ！ ヨイツ！」

「わあ!?! ああ……♡ お姫様抱っこ♡ えへええ♡ あて、おっぱい大きくなつたから、少し重くなつたかな？ ちゆぞつ……♡ ちゆうう♡ ぷあああ……♡ 舌でこちよこちよするキス♡ キス♡ スキ♡ 洒落じゃない、ヨ♡ ちゆゝぢゆぢゆ♡ ぺちよお……♡ はあう、んゝゝ♡ お兄ちゃん……♡♡」

片手で持ち上げられてしまう軽さ。鋼タイプだからヘビーな印象、擬人化したら捨てた方がいいだろう。

銀髪ツインテオッドアイロリ巨乳、人間に「おぼえられるわざ」ならぬ「すきなせいへきのかず」制限はない！

推しと性癖は多く持て！ ……………イザヤの精師（し）匠も仰っていた。

お姫様抱つこで、ご自慢のセックス用ベッドの上へトサツ……………

「チュンツ♡ チュツ♡ チュツ♡ チュツ♡ キヒヒツ♡ お兄ちゃんからいっぱい  
 吸収くく♡ んんツ♡ りゅぐつ、ちつ、ちゅう♡ ぱつ♡ ふうくくん……………♡  
 あてが一番元気になるの……………キヒツ！」

イザヤとのキスが好き、25cmもイザヤの一部⇨ペニス先端へのキスも親愛の印♡  
 曲芸中はただの投げキス、イザヤの唇だけには真のドレインキス。

活力と精力を奪い取ってしまう！ サキュバスのレベルドレインを彷彿とさせる、  
 エツチな技。

無論、スケベ超人の精巢を根絶やしに出来やしないので、ドンだけ吸い取られてもマ  
 イナス効果が現れない。

結論：半永久射精プログラム、ザーメンターミネーター。

「♡♡ お兄ちゃんの………さつきよりカチカチになってるヨ？♡ ペロペロ………♡ していい？」

「いいよ♪ あつ、毎度の事だけど、無理して奥まで啜えちゃダメだよ？」

「えへっ♡ あてにはあてのペースがある、そうだよね♡ でっぱりから先の部分まで、にゆるにゆるにしちゃうね♡ ……ねるっ……♡ チャプチャプ………♡ んううばっ♡ チュクチュク………♡」

ガチガチ具合はペニスと同じ、男らしいモチ要素構成の為に鍛えた腹筋を触られながら、フェラチオショータイム♪

ルーシヤはお口の中も、極めて小さなサイズなので、冗談みたいな25cmなど精々が、亀頭までの収納だ。

無理をすれば——Lの字に曲げながら食道まで辿り着かせれば、その限りでもない。が、人間と身体の構造が同じようで違う、擬人化したポケモンだつて異物感で、嘔吐く種は大勢居る訳で………ギラティナは神なので除外する。

マルノームしちゃうトロンの方が、フェラパラメーターに努力値振られているだけだ。

「チュチュツツ♡ チュツ♡ チュツ♡ くちゅつ、むぐ………はむっ♡

ふぶぶぶぶつ……………!!? ーーーン、ゲホツ!! あう……………やつぱりでつぱりから先はまだ……………キヒヒ……………♡ その代わりい! すちゅつ♡ るるる♡  
 ♡ 先つぽの鍵穴♡ ペロペロするヨおく♡

「そうっ、だなっ……………っ、っ……………! 出来る範囲まででなっ! 気持ちいいよ……………鋼だから平熱低いけど——お口は火傷しちゃうくらい、じゅわじゅわ唾液でチンポまぶしてくれるんだよな♪」

「おいしいヨくお♡ お兄ちゃんのおちくくんちんっ♡♡ ネチャツ♡ えへっ、ンチュツ♡ えへえ♡ ンパツンパツ♡」

カギをあげると とてもよろこぶ ただし マスターキーじゃないと イヤみたい  
 (ポケモン図鑑から引用)

ルーシヤにとつてのマスターキー、イザヤの25cm!・25おくくcm!!

もしも、身体目的で襲いかかる命知らずは、イザヤが尻穴にワザビを塗りたくった、まがったスプーンと、きちようなホネと、こうこうのしつぽを、ブチ込んでお仕置きする、ていうかしたけど……………

他の者がペニスを挿入しようとしても、絶対に挿入されない構造になっているのだ!  
 クレツファイ族の習性であり体質、セックス出来るのは生涯で一人、それだけに軽率短慮で相手を選ぶのは、御法度。

道化師のイメージは、一貫性も主体性もなくフラフラ、他人をペテンにかける空気の読めない愚者……ではないだろうか？

産まれた頃から道化に走っていたけど、笑顔にする為の手段は選んでいた。1人が笑顔だが99人が涙する、それはルーシヤも笑顔の1人も望まない。

100の笑顔を実現させる、恋愛もせず貴族から寵愛されたって、努力を惜しまず奮闘してきた。

「チュパパツ………♡んはっ、はあ、はあ………♡お兄ちゃん♡お口では『タネも仕掛けありません』出来ないけど………キヒヒツ♡成長したあてのおっぱいに——あぁ〜〜らふっしぎい〜♡お兄ちゃんのちんちん♡挟まってしまいました〜♡キー〜ヒヒヒツ♡」

無罪の罪を着せられたルーシヤを、助け出したイザヤに惚れて「生涯の一人」と誓い、手持ちに加わった。

適当に選んだパートナーではない、道化に戯けている時はファン達のスターだけど、お家に帰ればその瞬間………——女の子の素顔となる♡

「うわー！タネも仕掛けもない、イリユージョンパイズリだー！（棒）射精しないと出れないよー！怖いよー！助けてえルーシヤー（棒）」

むにイ♡もちゅちゅつ♡



ルーシヤが得意になった、性器の大脱出シヨ—♡  
 特性：いたざらごころ、変化技の優先度を上げる。

……パイズリやフェラチオは、変化技として判定されているのかもしれない。

器用かつ迅速な手捌きで、大半のロリにマウント取れるEカップの隙間——下着を着ない理由は『お兄ちゃんにすぐ、いつでもパイズリしてあげられるから』

気がつけばペニスが挟まれていた——男として至極に達する悪戯パイズリ♡

サスペンダーが押しつけてしまうが、衣装を脱げばサスペンダーに突起が守られる——擦られる。だからノーブラでも平気らしい。

「わアわア♡ キヒヒ、お兄ちゃんのマスターキー………♡ かたあい♡ あての涎で銀色に光ってるヨ♡ 無事に脱出出来るかなー？ レッツGO♡♡」

くニユツ♡ ぼむっ♡ ぼむっ♡

ちゆりっ♡ ちゆりりっ♡ ちゆくちゆくっ♡♡♡♡

変化技の台所、クレツフィは野生であつても、気になった人間のペニスを一舐めして来る光景も多々ある。

ヤラれた側は舐められ終わってから気がつく、開いたフアスナー、剥けられた亀頭、ヌルい感覚が後出しされる唾液——ちよつと特殊なシチュ、それだけが目的でカロスへ引つ越す本能に忠実な者も。

「あちや〜♡ Eになつてもお兄ちゃんの後ろまで挟めないヨ♡ 早くお兄ちゃんのを、ずつぽり包めるようになりたいなア♡ レロレロレロオ〜♡ ちゆりゆりゆりゆ〜♡ つ、ぼツ♡」

着衣状態でのパイズリ！ 亀頭は首へアクセサリーとして身に付ける、南京錠の真下へ刺さっているのに——

「(バトルでもエッチでも恐ろしい特性だぜっ!? フェラ音は響いてくる、今はカリ首を真横からっ!?! だがルーシャの唇は動きを見せてないっ……………!?! タネも仕掛けもないエッチな悪戯っ!! くうう〜!! チンポでちようはつしなきや封じ込めない! 封じ込めたい訳ねーだろオオ〜) おく〜! ルーシャならすぐにHとかKとかQカップになれるんじゃないかあ〜♪ 育ち盛りだからな、今のおっぱいも大好きだけど、超乳になったルーシャも……………ハアハアハア!! おやとして期待せざるを得ない!!」

まるでっ……………複数のクレツファイに、アチコチをペロリンチヨされているようだ……………

乳首、膝裏、鼻の先に脇の下まで。

各所を舐めれば、イザヤも……………慣れたってリップは気持ちいい、ちゆぱつと短くなった方向へ意識を向けても、ちゆぱちゆぱつ♡

陰囊をキスされ背筋が浮いたら、くにゅつくにゅつ………♡ 地の底を這う低い声で感じるイザヤを眺めながら、パイズリ中のルーシヤも畝がふつふつしている♡

(出ちやうなア………♡ 皆に比べたら小さいけど、まだ成長過程だもん！ お兄ちゃんのエツチしてから大きくなった♡ アリーが安全圏内に胡座かいてるのも、今の内だヨオ♡)

コチュココチュ、コチュココチュ♡

ズリ方法はナイズリと一緒に、ロリ巨乳だがイザヤ級は包み込めないのです、おっぱいを垂直に重ねてしまい、着衣の圧も加えたら逃げ場を塞げる。

「出くくして♡ 出くくして♡ おちんちんは食べられたけえ〜ど！ はあ、はあ、はあ

！ はあ………♡ せえ、精液はハイツ………♡ ひやううーん♡♡ こ

の………通りい………♡ 脱出………♡ キヒヒイ………はあ、はあ♡ 道

化師なのにあての方がビツクリかなア♡」

ギトツ………♡ じわつ、じわああ………♡

内側へ挟射する着衣パイズリ、かくも淫奔の帳が下ろされる物なのだろうか？

南京錠にまで貫通、黄銅色が白錆に腐食しかかかっており、無機物でも関係なく受精させてしまおう………♡ イザヤの「威嚇射撃」を魅せ付けられ、流れ落ちる精液をぽくく………♡ と眺めていたルーシヤは、耳へキスをされ「ひやああ♡」とオツドアイ

を滲ませながら——それだけでまた達してしまった。

「ハア……………♡ ああう、んう……………♡ おにー、ちゃん……………はあはあ♡ あての鍵穴♡ メンテして欲しいヨお……………マスターキーから注油♡ 久しぶりエッチだから……………♡ いつもより感じてるヨお、辛いヨお兄ちゃん……………♡」

## エツチな道化師の場合―3

ショートパンツを片脚脱ぎ——イザヤからフェチズムを教え込まれたので、当然ひし型チエックと縦ボーダーのタイツも、中心部分だけ……………ビリビリッ♡

ぬゆばっ……………あ♡

(鍵穴の構造って、おまんこの構造と似てるよなあ♪ おっほっ！俺が解錠したルーシヤのロリマン……………！ おっばいは今後も大きくなるだろうけど、おまんこは子供のままがいいなあ♪)

9歳とセックスしても、合意なら手持ちだろうが野生だろうが、イツシユ条約に基づいてるのでお縄を頂戴されない。

注油と言ったが、内側から潤滑油が既に溢れて、脚を置いたら転倒するだけの泉が出来る上がつている。

鋼タイプは頑丈、だが衣装を脱げば案外脆い子が多い。

糸引く鍵穴をM字開脚しながら腰を回す、これもイザヤに教え込まれたおねだり方法。

「お兄ちゃん♡ ちょーだい？ 鍵穴は鍵が無ければ死んじやうんだヨ……………♡ 二

つで一つなんだヨ……………はあ、はっ♡」

ベッド上。パフオーマンスも一流になった。

道化師とは本来、君主に対して唯一無礼な言動・行為を働ける特異な存在。だからと彼女は節操も無く、大事なお仕事として受け持っているシヨを控えているのに、大きなお兄ちゃんとのエッチすら自重していた、オンオフを使い分けられる偉い子。

だから……………オフの時ならいいよね……………と、ベツタベタにイザヤに甘えたい♡

お仕事の後にビールを飲むリーマンならぬ、お仕事の後にエッチが待っているから、マスター不在時代よりもルーシヤは輝いているのだ！

くちやつ……………ぬぶぶつ……………んっ♡

「はっ!!? はあ、あ、ああつ、くく♡ お兄ちゃんのおー♡ うう……………長かったヨお……………♡ あて、頑張ったヨ♡ 途中で求めちゃってたら……………ふっー♡ んうくく♡ 失敗……………しちやつてた、かもっ……………♡」

「あ……………つ、くく!!? 見事つ、だったぞルーシヤ……………! 皆お前を褒め称えてた! 脇役としての出演だったけど、お前はずっとメインだ! 俺もイチャラブエッチしたかったよ……………二人きり、ずつくと! 出来るよ……………?」

巨根男としては、名誉なのか心苦しくなってしまうのか……………?」

セックス慣れしたが、胸以外は小さいままのルーシャは、おまんこだってロリのまんま。

25cmものペニス、残念ながら半分も挿入が出来ないっ！

——みちゆっ……………♡

「お兄ちゃんお兄ちゃん♡ あてのおまんこきもちーい？♡♡」

「最高に決まってる!! 腰の動き……………エロっ……………!! 流石俺のポケモンになった女の子だっ！」

亀頭の姿だけが隠れた段階で、鍵穴の最奥に到達してしまう。

相手がギラティナならば、情け無用のデストロイセックスくらいが丁度良いのだが、激しければどんな子も気持ち良くなってくれるのか？

答えは否、種族が違えばおっぱいサイズも異なるように、イザヤは各人の「お気に入りを」を瞬時に見つけ出し、速やかに実行させる能力を持つ！ どんなポケモンが相手でも、必ず満足アクメさせてしまうのだ！

ぐっ……………♡ ぐんっ、にくくっ、くにくにいい♡

イザヤは殆ど不動姿勢、正常位で重なるもメインをルーシャに仕立て上げるセックス、初体験で見つけ出す彼の経験値はイッシュ一番の性豪。

子宮キスしたまま、ルーシャが喘ぎ、悶えれば勝手に身体がビク付いてしまうので、膣

を痛めず最適な刺激を与えられる。

トロンやギラティナは、壊されたいくらい激しくイザヤ主体（後者は組み伏せられたい）セックスがお気に入りに。

ルーシヤは色々小さいので、激しさ無縁の優しいセックスがお気に入りに♡

手持ちを心から愛し、2番目の嫁となったルーシヤ。強い力でズコツ！ バコツ！  
それは竿だけへの快楽、膣へは快楽よりも激痛が走るだろう。

（俺はこのヤリ方も好きだぜっ！ スローセックスみたいで！ 他の子達が速い方が好きとか、レイプ紛いが燃えるとかばっかだし、ルーシヤみたいな子は貴重なんだ！）  
かりっ、ちゅん、ちゅんっ、くぬくぬっ♡

縦の膣内領域は狭くとも、横の膣内領域まで狭い——とは限らない。

キスしている子宮ごと動いてる感覚っ！ 可動範囲が60度！ リビングで寛ぐが  
如く！ 広々と膣内で寛げるっ！！

「んう♡ んう♡ くあ、ううくく♡ おまんこお……………腰に力入っちゃうよお

……………お兄ちゃんが腕でもお♡ ちんちんでもギユツ……………♡ してくれて

るからあ♡ ピリピリ麻痺っちゃう♡ ふああっ♡ ふんっ—♡ フツ、フツ

……………♡ のげぞっ……………ちやつ……………♡♡」

お尻を左右に動かせば、ペニスは子宮口を追いかけ続ける。



きゅっ、きゅっ、ちゅくん♡

イザヤは突っ込んでから、只管にルーシャを撫で、抱きしめ、キスをする。極端な話、下半身は自分の意思で動かさなくていい。

先程のパイズリもだが、ルーシャの『穴』に差し込んだら、体液を放出しなければ逃げられない！ フェアリーロック……………なので、委ねてしまえる。

(ああ……………っ、くくキそう……………鍵穴おまんこ、カリが引つかかる場所多過ぎ……………っ！)

「お兄ちゃんお兄ちゃん♡ あてえ……………へえ♡ へうツ……………♡ 怖いからもつとお♡ 抱きしめて♡ 抱きしめるのは強い方がいいヨお♡ んんうくく……………♡♡ はあ、はあ……………はっつ……………♡ ありがとう♡ あてもお……………♡ ヒンツ?! くくキちゃっ、キ……………ちやあ、あ、はああっつ♡♡」

グツ……………ギユツ♡ グリユグリユツ♡ ……………ヌビユツ——ルルツ……………♡ ピユツ、ピユツ……………♡

なんと、この男！ 射精の勢いまで自在にコントロールが出来てしまえる!?

人一倍（ポケ一倍）デリケートな口りおまんこの持ち主なので、通常運行が常人の4〜5倍のハイドロ射精をぶちかまし、ルーシャを気絶させてしまった過去を反省し、取得した業とされている。

ゆつゝくり、ながゝく 徐々に剣を鞘から抜き出すように、勿体付けたスロー  
 腔内射精

「はやっ…………… はややあ…………… あん♡♡♡ なかだしい♡ おなかあ……………  
 おにいちゃんのおとお…………… キヒヒ……………♡ こうやってこども…………… つくら  
 れていくんだネ……………♡」

日の明るい内でも夫婦の営み、イツシュでは珍しくも何とも無い『少子化撲滅子作り  
 協賛国』

人とポケモンが結婚すれば、周りの者達が——例え見ず知らずの者達だろうが、賛美  
 と祝賀を惜しまない。子供が出来たりしたらもう……………

「ぎゅっ……………♡ お兄ちゃんエネルギー♡ じゅーでんちゅ……………♡」

「こらこらっ、またチンポにキスしたるもおろろ！ 悪戯心強すぎイ……………」

「キヒヒ♡ タネも仕掛けもないったらあ♡ お兄ちゃんは笑顔でもカッコイイなア  
 ……………♡ お兄ちゃんが居なかつたら、あて…………… 牢獄で一生を浪費していたんだ  
 ろうなア……………♡」

トロンよりは恥ずかしがりで、身体もおまんこも小さいけれど、彼女だつて妊娠を望  
 んでいる女の子。他地方のポケモンでも、イツシュに居を移せばこの通り……………だ。  
 元は性知識皆無な子だつたと、忘れてしまいうくらいにエッチな道化師となつてしまつた

♡

「……………ねえ？ アレ……………する？ 今する？ すぐする？

……………♡ キーヒヒヒ♡ あてがシタいだけええ♡ ——こお♡こ

……………♡ ドキドキ……………♡ おちんちん挿入して欲しいなア♡♡」

お口、おっぱい、おまんこ——と攻略し、まだ挿入していない『穴』があると……………

あるのだっ！ クレツファイ属は額に……………——

（まだ俺も緊張するっ……………こんな場所にチンポ差し込めるとはっ……………！ ク

レツファイもルーシヤも最高っっ！！）

ピトッ……………オ

ちゆりッ、ちゆちゆっっ……………くんっ……………うプッ♡

「うわッ、っっっ！！ アアアアッ、ッ——♡♡♡♡」

ぷちっ♡ くちゅっ、くちちっ♡ にゅっく♡ につくン♡

人型、四足歩行生物なら守られていて当たり前、頭部への侵入——解錠は、心も身体も許してくれる、たった一人の夫だけに許されるのだ♡

「きゃお、お……………!!??♡♡♡♡ お……………おッ♡ ふっ♡ えええっっ!!??

によーみひよっ♡♡ おひいひやおお!!? えアア、あ、あ、っっ——っ

!!?」

脳姦（をしている気分になれる）

かなり危険な性行為、大脳ネットワークにアクセスを果たした、イザヤは一握りしてしまえば、豆腐の如く崩してしまおうだろう、中区神経のヒヤリとする扱いには、どんなセックスよりも集中して行うのだとか。

「（ハハ）……………ア、!? 前頭葉かな、分かるか……………ルーシャ？ お兄ちゃんのチンポ……………おまんこよりも大事な——入っちゃいけない場所に到達してるよっ！」

「うオ、アア、ツ♡♡ ほ……………ほウ、ウ……………あ、ーあ、  
……………♡♡ りやア、!? おっ……………♡♡ ズ、ツ……………♡♡ の、ツ、  
……………♡♡ のオ、♡♡ イイ……………♡♡」

天真爛漫な笑顔は何処へ。跪いてイザヤの腰に手を回すルーシャは、オツドアイを白目にチカつかせる。

糠に釘な脳クチュされ、ペニスを引き抜く度に、ぷちゅん、ペリリっ……………なるべきではない、音も彼女には聞こえていない。内耳神経と繋がる場所に入り込まれたのだろう、射精されるまでルーシャは、脳をこねられる感覚に唾液を流し、オツドアイから凶相で涙を着飾るだけの機械だ。

じわああ♡ 脳姦エッチでも彼女は濡れてしまっている♡ 歯を食いしばる事も出来ないの、声と膣以外は無気力状態——特に四肢はイザヤが肩を抑えておかなけれ

ば、後ろっかわへ倒れている。

「————♡ Σ!?! ~~~~~♡ !!~~~~♡ Σ……………♡」

「……♡♡♡……………!?! Σ————♡♡」  
 どうやら、絶叫で快感を少しでも逃がす事すら、彼女は封じられてしまったらしい。  
 フェアリーロックが掛かっているの、ルーシヤが脳イキしても——射精まで離して  
 くれません♡

「ルーシヤああああつ！ 脳からも妊娠させちまう。う。ッ！ うあ、ああッ!!」

——ポピユツ、ガクツ、ガクツ♡ ゴツ……………ポツ♡

「……………♡♡♡ひゅ、ひゅ……………っ————♡ ふゅ……………っ————♡」

うあ、ああ、あ……………♡ はっ、へ、イツ……………♡ ヒヒツ……………♡ セロト

……………♡ ニン……………♡ すっ……………♡ へっ……………♡ 幸せの

手品……………♡ 彼の皆よりっ、キヒ、イ♡ 使える穴あ♡ 多いのってアドバンテー

ジ……………だヨねえ♡」

イザヤにもよく分からないが、脳を犯されれば神経伝達物質が、沢山分泌されてしま  
 うらしい？

周囲の物品が音響で吹き飛ぶ、凄まじい絶叫も痛覚が訴えているのではなく、快楽と  
 幸福がゲージを打ち破ってしまうからだそう。こぼお……………♡ イザヤレベル

の性豪でも、ダイレクトフアックには手を焼いている。クレツフィを嫁にしたからと、一歩間違えたら命の保証は無い……………禁断の業。無事にイカす事が出来た辺り、やっぱり彼は普通の人間ではないようだ……………

「ちよつと休憩……………しヨ? はあはあ……………キヒヒ、頭から精液がア……………」

「難しいな、額解錠……………大丈夫だったか?」

「ん? ダイジヨープだよ♡ 綱渡りと同じだよ、危ないから……………やりたくなっちゃう♡ 火遊びじゃないけどさ、あてらはそういう生き物だから……………付き合ってくれてありがとう……………お兄ちゃん♡♡」

膝にルーシヤを乗せたまま、身体が落ち着くまでラブ握り。焦らなくても、皆の帰宅時間までには一通りエッチ出来るし、彼女だつて満足してくれるから。

「お兄ちゃん♡……………あて、このまんまエッチ……………したいかも♡」

「ハハハッ! 乳首ピンピンにしちやつて! 向かい合いながら好きだよなあ、ラブラブギョクしながら、膣奥でユサユサ……………俺のステージでエッチパフォーマンズする姿見せて!」

「もっ♡もオ……………♡言われたら恥ずかしくなるヨお♡キヒヒヒ……………」

※

「ねえねえラピ姉？ 明日は朝食終わったら、別の『ご主人様』の下へ行っちゃうんだよね？」

晴天のベランダで、洗濯物を干しているラピのスカートの中で、オレンジ色——スリットからチラ見えする、ニーソと同色なのはラグラーズのエラを反映させたからだ。

「そうですよお♪ 悲しいですかあ？」

「うん……………ラピ姉のおっぱいが暫く見れなくなっちゃうし……………朝パイズリで起床……………ブヴォ アッピ ャッアッアッ!？」

「くくくらあ！ パイズリなんてした事ないですよ？ それと——よおいしよ♪ スカートの中に入っているのは5秒まで、契約書に記載してくださいましたよお？ イザヤさんは破りすぎです」

セックス跡を綺麗に洗ってくれたシーツを干しながら、前面に黒リボンが3つ縦に並んで、後方が微かに透けているけしからんパンツを触ろうとしていた、イザヤをつま先だけで蹴っ飛ばし、庭の太木へとナイスシュート。

これがメガトンキックなら……………どうせ

イザヤは不死身だけど、流動食を二週間は食らっていただろう。

それにしても、セクハラを禁止せず軽度(?)な物は許してくれる、懐とおっぱいの広さにはイザヤでなくとも、雇いたくなる理由しかない。

「暇ならお手伝いしてくださいますかあ?」

「えー! 家事はメイドさんのお仕事じゃん!」

「ふうん? お手伝いしてくださいるなら、……………胸、20秒は触っても許してあげるんですけどねえ……………」

ム、ギユギユツ♡ おっぱいを追求したメイド服。少し前屈みになって、ウインクでもすれば――

「あらあら♪ ご主人様ですのに悪いですねえ♪ はい、トロンさんやルーシャさんとのエッチで、あなたが汚した洗い物がコチラです♪」

……………こんなのを洗って、干して、たたむ。シーツを洗濯機に入れてるだけでもセクハラなのに、ちよすいされる水ポケモンな顔して、スイスイ手洗いし始めるのがラピ。(干されている下着、俺以外は女物だけ……………——ブラがラピ姉のしかねえんだよなっ!! 改めてすげえわ、俺の手持ち……………)

ギラティナは乳首だけ隠す装甲、トロンはズラせば余裕な布きれ、ルーシャは覆う面積は厚いがノーブラ、【魔女】はパイズリの際に邪魔だからと……………ラピが異色に見えてしまうが、年頃なのに付けてない他がおかしいのだ。(ギラティナは除くが)



イザヤはラピを振り向かせたい。

失恋を経験した唯一の相手……………だからじゃない。

初恋、精通もラピ。今だつてずっと好き……………嫁が居たつて——ラピを嫁にしてしまえば無問題だ！

こつそり、オレンジ色のブラジャーをポケットに仕舞いながら、彼女へ想いを伝える作戦を練り続ける。

（冗談だと思われたら意味がないっ！ ラピ姉……………！ 俺だけのメイドさん——お姉ちゃんになつてくれっ……………！）

## エッチな魔女の場合

イザヤが購入した一軒家、入り口から見ても北西の方角には、虹——だが決して美しいと感想を持たないであろう、原色のみで構成したサイケデリックな重厚配色の小屋。

このセンスは所有者にしか理解されない。が、本人が美しいからと塗装させた物、彼女が「美しい」と思えば、1 vs 99でも強引に白星を勝ち取れるだろう。ようするにワガママ。

「へアツくくくハツハツハツ！ ようこそ、アリーの研究所、略して『アリラボ』へ！ お仕事前にご苦勞様ですわねえ」

「いや、お前から呼び出したんじゃない!? アリーとエッチ出来るんなら、可能な限り応えたいけどなっ！」

ゴポゴポツ………：臍口から精液がこぼれ落ちる、同じ音が大量に敷き詰められた試験管や、何十世紀も前に使用されていた錬金釜から、継続的に水分や気泡が弾け飛んでいる。

寝巻き姿のまま午前の6時、起床はトロンが朝フェラ、または朝パイズリからの臍内射精2〜3回がテンプレであるが、トロンと交える前にお呼ばれされるケースも偶にあ

る。

それがラボの責任者、好物はホットドッグにステーキと肉食系（どちらの意味でも）ヤマジタウンで不定期に妖しい黒魔術店も経営している、なぞのポケモンスターミーの擬人化、名乗るのはアバリエル。皆には『アリー』と強制し呼ばせている。

「わたくしのマスターは、性関連の理解力が特に優秀で大助かりですわあ」

「お前とは結構な付き合いになるからね、セフレ時代からシテる事は大して変わらんし」七色の声色を持つアリーは、奇妙な高笑いをしながら、台座となつてゐる十芒星に腰を降ろしながら浮遊。地に脚を付ける機会は限られている、それこそ就寝も忘れ研究に没頭するので、入浴や——セックス時くらいだろう。

イザヤの言葉通り、トロンをゲットしヒウンシティへと拠点を変更、目的のハーレムを作るために新しいポケモンを探していたら——

（へアハハハツ、チンポがデカそうなお兄さん？ わたくし、ちよつと困つておりますの、助けてくださるかしたらあ？ お礼は身体でお支払いさせて貰いますわあ♪）

路地裏に出現した魔女、左右の布を交互に紐で繋いでいるだけ、ワンピースタイプの衣装は、最大級の胸がぼにゅんッ！ 紐に食い込みボンレスハム状態、であるのに肉感はたつぷり、ミニスカなのに脚を組む物だから、真つ赤な紐Yバックが露わとなつていて……………

誘われるがまま路地裏で膣内射精、パイズリ。出生や過去が一切不明の彼女は、精液を素材にした魔術や研究に日々を費やし、精液提供という条件の『逆援助交際』を、各地方で繰り返していた。

「パイズリさせなさいっ、朝一の粘度と濃度、トロンには渡さなくてよ」

こんな爆乳魔女に「チンポ挟ませろ」と迫られ、断れる男性がこの世に1人でも居るだろうか？

眼帯に映るのは25cm、朝勃ちのままアリラボへ入ったので、イザヤも要件を飲むつもりでしかなかった。

「美味そうなチンポですわぁ、相変わらず。着たままの方が好きでしょう？」

「縦に挿乳させてくれっ！ 紐の締め付けがプラスされて、手っ取り早く挾射出来そうだぜっ!？」

「へアハハハッ、精液提供するならばいっくらでも！ アリーの胸がデカイのは、チンポ挟む為ですことよっ!？」

だふんっ♡

ググンッ、ブヌッ………!! ピチンッ♡

ぐニッ、ぐニッ♡ ギュプギュプッ♡

イザヤが『ギザギザおっぱい隠し』と称する、異性も——同性すらも欲情を纏わ

せるエッチな衣装、紐の内側へペニスを潜り込まされる。

「アリーのデカ乳イイ！ この圧迫感が堪らんあゝ……………！！　パイ圧強める仕組みになつてるもんな」

たほムチ、精液を搾り生きて来た魔女は、右手ではメモ用紙へペンを走らせながら、左手では片手間のようにJカップのパイズリ。

イザヤへの奉仕精神は持ち合わせない、実験に必要な精液が不足した、イザヤこそアリーが知る中で、最も優れた精液を生成出来る人物なので、言わばビジネスパートナーに近い関係となっているのだ。

「クスクス、アリーのパイズリが恋しかったのかしらあ？　トロンやルーシャには出来ないパイズリ、してあげてもよくってよ？」

そっちの方が、沢山精液を頂戴できるから、それ以上の意味は含まれていない……………ハズ。

アリーは机に腰をかけると、イザヤに命ずる。その際には散乱している、研究道具や書物を退かすことになったが、どれも性交に関する物ばかりであった。

「へアハハハ、如何かしらあ、イザヤあ？　あなたのチンポが根元まで埋まる——縦からの挿入は？」

自らの身体は最強の武器、精液以上の素材があれば、そちらを根こそぎ奪い取るだろ

う。現状、精液が一番だからこうして………おっぱいでセックスし、おまんこでもセックスして、ラボに常備させておく必要があるのだ。

「うはあ、あああつ！俺の飲み込めちゃうの、ガチでアリーだけだぞつ………内側でカリ首が引つ張られてっ」

「いいですわあ♡ 挟み甲斐のあるチンポ、我慢汁をどれだけ増やしたって、アリーの胸は離しません事よ♡ ノーハンドで縦パイズリ、好きでしよう？」

恐るべきJカップ！ 自然とペニスが紐の隙間へ進み出し、掴み犯している光景にも見えるが、アリーが挟みながら適当に動いているだけだ。

パイズリにも種類がある、好みのパイズリを提供すれば、それだけ上質な精液が早く手に入る。アリーは新しい実験へと早く取りかかりたいらしい。意識を集中させているのはペニスではなく、夜通し書き込んだレシピ帳である。

「乳内で震えて来ましたわあ、みっちみちの乳肉、イザヤだけの物になったのですわ♡

男10人にパイズるよりも、イザヤなら10どころか20人分は精液くれますわ♡ ほらっ、出しなさいっ♡ アリーの胸は受け皿でもありますわ、金玉のウズウズを放出しなさいっ♡」

セフレから手持ちへと変わったアリー、好きな時にイザヤを呼び出して、精液を頂戴する契約を交わした。

逆にイザヤは、好きな時にアリーの身体を借りてエッチが出来る！

「へああん♡ これですわあ、コレが欲しかったんですのお♡ あらあら、胸を妊娠させるおつもりかしらあ？ まだ……………♡ 出て♡ あっ……………♡ もつとしなさいっ♡ 足りないですわ♡」

ビュグッ、ポポッ♡

ニユバアアツ……………♡ ボチャツ、ボチャツ……………

腔内射精しても解放して貰えない、男側はご褒美と感知し、自動的に勃起を強要させてしまう。

谷間にバチユルが住み着いて、ネバネバネットの巣作り、そう言い張れば信じて貰えるであろう。イザヤの精液濃度にも注目していただきたい。

「あなたの精液量でも、まだ足りませんのよ♡ 5発くらいはイッてくださいりませんとね♡ この研究が成功すればあ……………へあはははっ！」

アリーの れんぞくパイズリ！ イザヤは にゆうないしやせいを くりかえしている！

壁ドンならぬ「乳ドン」状態、男性器を押しさえつけられた男は、抵抗の術を失う。

彼女のJは、乳圧加減を誤ってしまえば、種としての機能を失いかねない、デッドオアアライブなおっぱい。

それでもパイズリ予約で殺到し、正気を失うまで馬乗りする男達を、アリーは見えてきた。射精の瞬間すらも。

「男は危険を求める生き物、チンポ潰されそう、考えた事ございませんの？」

「アリーは、そんな事しないっ！ あっ、そこそこっ！ 玉が動いてるっ、パイ射した精液でヌルヌルになってるからっ!? はあッ!?」

「へあはははっ………♡ 大切なチンポですもの♡ 痛覚への刺激などアリーは長年の経験がありますわあ、少しだけ痛い———そうですよねイザヤ♡ カリ首をこうつ、横から圧迫ですわあ♡」

突然、ノーハンドだったアリーがグリツ、グリントツ、左右から丸めた両手で円を描いてきた。

回転運動には、とても敏感に反応するのが男性器。

膣内挿入でも、乳内挿入でも変わらず。不変等なりズムで切り込まれて、陰囊からぶっこ抜かれそうだ。

「ひゃはあんっ♡ アリーの縦おっぱいオナホール♡ 朝勃ちはいつ鎮まるのか、イザヤ次第です事よお♡ 次、次の精液ですわ♡ 早く挾射しなさいっ、はあ♡ はあ♡」

段々と、白い泡が乳内から湧き出ても、アリーは必要量を搾精するまで、パイズリを終わらすつもりはないらしい。



「アリーちよつ、まっ！ 気持ち良すぎて脳がトビそうなんだけどオ！」

「トビなさあい♡ 射精し続けるだけの機械になりなさあい！ イザヤなら死なないでしょう？ 他の男なら逝ってしまうかもしれないけどね♡ ヘアアハハハ♡」

「うオほオオ！ またしやせーしちやふううツ！ アリーのおっぱいぐちよぐちよれおとやばひインっ!?!」

短期時間で一定の射精量、回数を超過すれば脳は退行する。

言語がさんさいじになったイザヤは、アリーのデカ乳を「お母さんのおっぱい」と認識し、生まれ故郷に還って行く。

「おっぱい！ おっぱいおっぱい！ ちんちんはさまれてなんかでちやあううう！！」

「くくく♡ ゾクゾクしますわあ♡ まだ半分にも満ちてないですよ、もっと、お寄越しなさあい♡ んう、んはア♡ 胸が、挟れてしまいますわあ♡」

パイズリは激しさを増して、ウィッチハットを落としてしまう速度に到った。

さつさと摘出させて欲しいだけだったのに、アリーもスイッチが入って、アシンメトリーの紫髪を覆うようにして、金色のパールが輝き出す。

彼女が発情したか否か、髪を視ればすぐにわかってしまうのだ。

「チンポ放しませんわよ♡ 精液が糊になってひっ付いていますもの♡」

「うぎぎぎ……………あがが……………パイパイ、ズリズリ……………はあはあ、出るツ!!」

サドい笑みを浮かばせ、上唇を舐める仕草に、血管はビキリツ、大きく脈動すれば投石機の如く、精液は真つ正面へ飛び出す。

「♡♡ わたくしの身体、イザヤの触感も、香りも、全部♡ 忘れられなくなつた……………のですわ♡ 責任取ってくださいな♡」

挟んだままニチャニチャ、胸を開いては閉じて、衣装がズレ込みかなり大きめの乳輪がお出まします。

男性を翻弄するアリーが唯一、逆襲されてしまうのがイザヤである。

他の男性とは違うぞ、思わせてくれる者に惹かれるのが女性、アリーのお目に掛かるだけの超人は、右手に纏わりついた精液を凝視する七色の魔女を、挟射快楽で気絶——  
——したふりをして、虎視眈々と機会を狙っていたのだ。

「へああん!! イ、イザヤあ、何をしますの!?!」

「次はアリーが気持ちよくなる番だろ? 赤色紐パンに包まれたおまんこ、ぐっしよりで床にお汗が漏れちゃってるよおろろ!!」

「わたくしはあ! 精液が集まつたからもういいですわ、必要ありませんわあツ、ふはアア♡……………♡」

「乳首つねって、それだけでイツちゃうんだ。研究素材が不足したからって言うけど、本

当は不足になるまで待つててくれたんじゃないの？ アリーは一人でスルよか、男を吹っ掛けてスルタイプだし」

谷間に精液池を作ったまま、高ぶる呼吸をひた隠すように、その場から立ち去ろうとするアリーを——後ろから抱きしめる！ 当然、ペニスはミニスカとニーソ、狭間に存在する艶とムチの肌面積と接触させて！

「アリーは責められると、コイキングよか弱くなつちやうからなあ！ チンポ、欲しかったんでしょ？」

「は——♡ ああ——♡ わたくしがあ………欲しいの、精液なのであつてえ………♡ も、十分、ですからあ………♡」

「優位性を保てなくなつたら、逃げようとする。覆せる自信がないからなんだよね？

こんなセックスが生命維持ですみたいな、おっぱいボディで男たぶらかしてるんだから、自業自得でしょ！」

獲物である七色の宝石を停滞させている、ロッドを取り出しパワージェムとして放せば、イザヤから脱出など造作もない。

………それをしない、彼女はサドでありながらマゾ、快楽の為ならばどちらにでもなれてしまえる、ハイブリッドエロスなのだ。

「へあつ!? はあああ♡♡ くう、んくううツ♡ チンポお♡ わたくしの胸で何度も

射精したのがああ♡ はへああああ♡ おつきくて、ドシドシ♡ しきゆう、当たるへらああ♡」

「んんんん！ お尻と腹が当たってパンパンツ、大きさに鳴らす方が好きなんだよね！

アリーとはヤリまくってるんだから、身体も心も知り尽くしてんだぞお！ 俺がイッた回数分だけ、アリーもイカせてやるっ！」

「んへああんん♡ ああ♡ んんんんんん♡ ふくううツ♡ んつくツ♡ んんんんんん！！？」  
「っ！ーくはああ♡」

………実は、アリー側も「こうなるように仕向けて動いていた」一方的なパイズリで搾った後は、無抵抗で犯されつくす。二人の炎をさらに燃えさせる興奮剤として、お仕置きシチュに余念のないセツティングだったのだ。

「へはあ♡ はふッ！、ふくああんん♡ チンポお♡ 子宮が食い込まれてえ♡ はああ、ああんツ！」

「こつちからだとアリーと繋がってるの、よおく見えるよ！ アリーからお尻振っちゃって、凄い発情した香りがおまんこから漂うよ！ こりやあ、抜かずに膣内で連続射精しなきゃ満足しないかあ！」

「♡♡♡」

アリーも超越人種、イザヤの25cmもの巨塔ペニスには敵わない、横幅も膣口に留

められない太きであるが、人体とはかくも神秘性がある……………

「挿入つちやうんだよねえ！ ヤリマンなのに天然鉱石な未発掘の硬さったら、研磨し甲斐のある矛盾おまんこ！ これも魔術なのかな？」

「それはあゝゝゝ♡ 体質なのですわああ♡」

二人で形成したシチュエーション、トコトンまで楽しんでしまいたい。

あつて無いような細さの、水タイプなのに烈火に灯る赤く、ズラし易く挿入し易いから穿いている紐パンを、オナニーのオカズとして貰ったこともあった。

イザヤに夢中となつてから、「オナニーするくらいなら、わたくしの胸か膣内へ出しなさい」と釘を刺されている。

「アリーののおっぱい長いよなあ！ 後ろっからでもぢゆううツ！ 吸い込めるんだもん！」

「へやあゝゝゝ♡♡♡ んおツ！ んああ♡ にゆうりん♡ びんかつ、なつてへ♡

らあゝゝゝ♡ はああツ♡ ふっ、っ、っ、ゝゝゝ♡ ツ、ア、ア、ゝゝゝ♡」

ブヂュツ、ブギユブツ♡ ドブツ……………ドブツ、ギユツ、グヂョツ……………♡

彫りの深いヒダ、何処へ動いてもカリがフィットし、力を込めて引つ張らなければ、ピストンすらままならない。

世界中のポケ擬っ子の中で、最強の経験人数を——ギラティナは神なので除外する——有するアリー。

ガバ知らずのヤリマンも、乳腺に大きな衝撃を立て続けに与えられ……………ピュツ♡  
「母乳出しながらイツちやったな！ オレの手持ちになってから、母乳が出る体質になっただんだっけ？」

「はっ♡ ふへああつ♡ くすりをお♡ ふくようしているからああ♡ けんきゅう♡ せいかなのですわあ……………♡」

ポケモンは中出しされても、身ごもる確率が天文学……………とまではいかないが、かなり低い。

妊婦の気持ちを味わえる世のため、メスポケのため、変わったセックスをお求めのあなたのため、キャッチフレーズとして自身が営業するシヨップで、販売予定の薬は数年の研究期間を費やした——が、アリーは服用しておらず、実は身ごもっておらずとも、母乳が出てくるおっぱいになってしまった！

……………一番最初に「お母さん」となるのは、意外にもアリーなのかもしれない。

「はぁ♡ はっ、あああ……………♡ 交代、ですわあ♡ わたくしが泣かされてばかり、プライドを立て直させていただきます事よ♡ ヘアハハハハッ、跨がってからガン腰を振ってさしあげましょう♡」

繋がったまま体位を変更、アリーは男を見下せる騎乗位を好む。

自分の身体がどれだけ素晴らしいか、ねっとり価値を教え込んでいく。

「ヘリヤアアツ♡ ヘアンツ♡ ア、ヘア~~~~ア♡ チンポオー~~~~オ♡  
ハヒアア、ツ♡ アオオア、ア、ツ♡」

一時期は「男のチンポは、わたくしのマンコに負ける為にある」とまで断言していた。「おいおいっ！ 責めてるのはどっちやらっ、アリーのおまんこ強烈吸引だからなっ、チンポデカくして迎えねえと、なアツ！」

「アへ♡ ンン、ツーー♡ チンポれ♡ わたくしが♡ はらまされっ♡ へうう  
くくツ♡ フヘエ、エエ、ンツア、アaryanaああ♡ イキオチイ♡ す  
るからア、ア、ツ♡」

研究を重ねていくに連れて、精液はあらゆる研究素材に適応出来ると発覚。男は大切な研究素材をドロップする、自分もセックスは好きだから一石二鳥——その提案をしたのが、両手を引つ張りながら、魔法でもかけられたかの如く、極狭に充血する魔女膣を専用玩具へ改造する、内側からペニスの形を浮かび上がらせるイザヤであった。

「ンへエエエツ♡ へハア、ア、ツ……………：……………：へうう、あ、あ、ア、ア、  
♡♡♡」

膣イキの振動だけで、ガクガク全身を揺らしているアリー。

何でも挟める100cm越え爆乳は勿論、ミニスカートが一人で捲れ上がるもっちり尻肉も、精液を誘い込むダンスを絶やさず、眼帯に浮かぶコアの形状は、精液搾取の目的も忘れ粘膜接触を試みる、アリーの心情を投影させたハート型となっていた。

「ハハツ♡ あ、あ、♡♡♡♡♡ イザヤあ、はぁーはぁー♡ 明日も、また、このラボへ、来なさいい……………♡ ストック、あればあるだけ、いいのですから……………♡ ヘアハハツ、ハハハア♡」

プライドの高いアリーは、素直に「イザヤとセックスしたい」と言い出せない。そういう所がカワイイのだと頬にキスすれば、妖艶で同性をもかどわかす魔女は「へぁぁん♡♡」、奇妙な笑い声だけど、信頼出来るパートナーとやつと出会えた……………白馬の王子を見つめるお姫様になっていた。

※※※

「お洗濯っていいですよねえ、色々な子の下着を合法的に観察出来るんですよえー！と、思っている、そんな事はありませんよね、ご主人様？」

「いえいえ、全く思っておりませんとも。ていうか、ラピ姉以外はブラ付けてないし！

パンツはダンスに仕舞ってあるの隅から、隅まで、把握済みですとも！ はぁはぁ、ラピ姉のはオレンジ……………！ ラピ姉の寛容なる陽射しと同じオレンジ色ですよお

！ ふげモゲゲアア!!」



「た〜き〜！ のおぼお、り〜い！ 早めに出ていれば、屋根をベッド代わりにしないで済みましたのにねえ！」

お日柄も良いので、洗濯物を干しているラピにセクハラしよう！

経験を活かし5秒で脱出する……ハズが、大好きな「お姉ちゃん」の下着、ずっと眺めて、触れて、くんかくんかしたい……健全で性欲絶倫な少年、またしても病院で栄養食案件。

だつてだつて、スカートの中に侵入したら、Yの字に食い込んでるオレンジ、細パンが現れてしまったのだから……やばいと思つたが、屋根の上までアツパーカットされ、背中の骨が1本か2本は折れただろう。すぐに復活するので、心配は無用である。

「もお〜！ お仕事が捗らないからめつ！ ですよお？ 毎日飽きませんねえ、私なんかより可愛い子達が手持ちに居るでしょうに」

「ぐががつ、ラピ姉だから、いいんだよ……あつ、あばらイツてるなあ、はははつ」  
エツチで全てを解決する超人は、金玉を踏まれる方が重傷を負う。骨どころか性行為に関係の無い臓器なら、いくらでも持つてけドロボーである。

「ふうん、分かりませんねえ、私なんかを狙うよりも、いい子はお側に——」

「なんか、とか言わないでラピ姉。ラピ姉はいつだって、俺からすればお姉ちゃんなんだよっ！」

二つの洗濯ばさみで干されている、唯一のブラジャーもオレンジ色。

ラピの所有物だ、トロン・ギラティナ・ルーシャ・アリーはブラジャーって何？ な衣装なので……………

付けているのと同じブラを見られたって、羞恥心を抱くことはありえなかったメイドが、俯きながらその場を去って行く。

ポニーテールを追いかけながら、10年前のラピの姿と重ね合う。

おっぱいも背も大きくなったけど、人前では決して晒せずに溜め込んでしまう。

変わったようであり——何も変わってない「お姉ちゃん」

肩を抑えながら、ラピが何処へ向かったのかは予測出来ている——主特権の屋根裏を利用し、覗き見をさせて貰う。

ラピはこの日が何なのか、覚えているのだろうか？

「俺とラピ姉が初めて会った日、10年も経過したんだよ。やっぱさあ、変わらないんだよ、好きっ、この気持ち。逃がさないよ——雇われメイドとしてじゃない、『ラピお姉ちゃん』としての気持ち、ハッキリさせようぜ」

## エツチなメイドお姉ちゃんの場合

「はあ……………はあ、スカートの中に潜り込むだなんて……………もうっ、ご主人様たらっ、……………お仕事が続きます、あります、のにつ、はあッ！ はあッ！ こんなに、ネバネバ……………」

「イザヤ専用メイドさん」として、契約期間中のラピが仮住まいしている、コテージは旅道具が整然と置かれており、女子力よりも生活感が溢れている。

基本的に日中戻る事はなかった、しかもお洗濯が終わっても、本日のメイド業務は山積み予約。

夕食の買い物をしなければならない時間帯、鍵を閉めて閉じこもってしまったラピは、ロングスカートのスリットから、人差し指だけを潜らせ——クチユツ、ガーターベルトにまで募らせていた、愛液の出所まで辿らせる。

「は……………んッ！ 毎日毎日……………ア、ん、ふああ……………胸やら、太ももやらっ……………どれだけ、我慢……………していたと……………ひゃフツ!? ああ……………！ ご主人様の手が、私の奥までえ……………！」

カーテンも全て下ろされているが、家主特権でマスターキーを持つ事が許されるイザ

「やは、片目で覗ける範囲まで扉を開け、あの“ラピが強い力で胸を揉み、シートまで滴る発情液の多さ、「ラピ姉もオナニーするんだ………」と、神格化していたお姉ちゃんも、普通の女の子だと納得しながら、25cmに到達した枯れ知らずのギガ巨根を、高速扱きさせていた。」

「二チ二チッ！ 私のアソコからあ~~~~ッ!? こんなものつ、ご主人様——イザヤくん  
にイ！ 聞かせられませんよお！ やあつ、ひやにやらあ！ ふくう~~~~ッ！  
本物はあ！ もつとお！ おつきくてえふとくつてえつ！ ああう！ イザヤくんっ  
♡」

扱かすには居られない………ッ！

「ご主人様は実に100人以上、明日から暫くは別の場所でメイドさんをする、ラピが他でも無い自分の名を叫びながら、子共の頃ですら拝めた事の無い女性器に細指を突っ込み、かき混ぜ、折り曲げ、可憐な容姿に似合わない激しい自慰を行っている。」

「はあ~~~~はあ~~~~ッ！ 私があ、イザヤくんを起こすつもりでしたの………  
トロンさんとセックス♡ していてえ………♡ 朝食後はルーシャさんと♡ ギラ  
ティナさんも混ぜて複数プレイで♡ 先程はアリーさんのラポに………清々しい  
表情………つ、イザヤくんはパイズリ♡ 大好きだもんねつ、私だつて………ッ！  
毎日してあげたいの♡♡ んつ、うう！ ダメッ、だめっ♡ 我慢してたから♡

イツちやいそうっ♡ イザヤくんイザヤくん♡ またお姉ちゃんと……………♡ は  
わああ……………ツ!! ひくっ、ひくイ♡ イク♡ ひくあああツ、ツ、~~~~♡  
」

(うわああああん! ラピ姉がイツたあああっ!!) おお、おまんこオ!! 大人だもんな、  
毛を整えて……………綺麗で触りたくて……………ハアハアッ! 射精したけど硬くなっ  
てやがるっ!)

イザヤがどうしても手を離せず、寂しさを覚えたら他の手持ちだって、オナニーくら  
いはする。トロンとギラティナの場合は、襲って欲しいからオナ挑発しているのだが  
……………

憧れのお姉ちゃんが、自分の名を叫んで絶頂。おまんこからはみずでっぼう、耐水性  
のあるメイド服、胸部は透けてこそないが乳首の盛り上がりが見て取れる。

「はあ~~~~♡ はああああ♡ イザヤくんので……………♡ お姉ちゃん  
……………気持ち良くさせられちゃったあ♡」

子供の頃の呼び方、皆のメイドさんになつてからは「ご主人様」と呼ばれているから、  
酷く懐かしい。

ラピは変わった、自分だけの「お姉ちゃん」ではなくなった、イザヤがトレーナー免  
許を取得しつつも、数年間トロンと出会うまでポケモンを持てなかったのも、ラピが「皆

の物」となったショックによる物であった。

「据え膳食わずは……………チンポ中折れ野郎だろっ!! うわああああラピ姉——っ  
!!」

「ひゃゝ わゝ ツゝ ! ? イイイ!? イザヤク……………ご主人様あゝ ! ?  
なっ、なんで……………え♡」

「何でつて……………宿主だから鍵持つてるよ……………? イキ疲れて頭回ってない感じ  
かラピ姉!」

「あつ……………♡ この件はそのお……………♡ご内幕に……………♡」  
他のご主人様じゃない、イザヤを名指しにして、妄想オナニーをってしまったていたら  
ピ。

少しくらいのセクハラならば許してくれる(調子に乗ったらブン投げられるが)けど、  
基本的にエッチな話題には乗らず、大人の余裕でスルーがラピ姉であったのに——

「そのラピ姉が仕事ほっぽり出して、エッチな事してるんだから! 実は興味あったの  
かなっ!! ムツツリってやつ!!」

スリットを横へズラしすぎて、ガーターベルトは当然の事、洗濯物として干してあつ  
たのと同じの品、海岸に沈む夕日を彷彿とさせるオレンジ色のパンツが——中心部の縦  
筋が浮かび上がるまでに、オナ汁を染み渡らせているのだから! 意味も分からず手を

伸ばしていた………なあって、言い訳は通用しない！ 気持ち良くなるために弄っていたのだっ！

「ラピ姉、いやっ——お姉ちゃん！ 俺の事、好きっ、なんだよねっ?!」

「そっ、それはあ………♡ あくまでも『ご主人様』としてですっ………♡」

「素直になつてよお姉ちゃん！ じゃあ聞くけど、ご主人様は皆好きだとして、なんで俺の名前を出していたの!? 少なからず俺は特別に想われている、そういう事じゃないのっ!」

イザヤだつて我慢していた方なのだ。

各地のご主人様に仕えている、旅するメイドさん。

誰か一人を特別扱いには出来ない立場、恋心は隠さず、一步は立ち入らず、彼女のメイド人生を邪魔しない程度に、セクハラをしていた。

「俺は今でもお姉ちゃんの事！ 大好きなんだよっ?」

「っ………♡ イザヤくんには私なんかよりも、いい子とエツ………♡ エッチ♡ しているじゃないですかっ♡ アリーさんなんて私より胸が大きいし、トロンさんとルーシャさんは素直ですし、ギラティナさんは——」

「止めてっ、他の子と比べるつもりはないよっ！ 皆は皆、お姉ちゃんはお姉ちゃんとして愛したいんだっ!」

「♡……………分かっておりました、イザヤくんの気持ちは……………ずっと。  
……………怖かった、んです……………『お姉ちゃん』から『恋人』となるのが  
……………」  
ペニスを扱く事も忘れ——だが勃起は維持させながら——ラピの両肩に手を乗つけ  
る。

普段の怪力を発揮させれば、天井を突き破らせるのは簡単であったが、今のラピは豪腕にして完璧なメイドさんに非ず。

「メイドさんになって、女として……………イザヤくんは小さな頃から頭が良くて、様々な才能に恵まれていて……………相応しい女になりたいから……………修行、だったの……………」

「……………10年間、お姉ちゃんを忘れた日は無いよ？ もっと美人で、おっぱいもさらに大きくなって！」

「もっ、もう……………っ♡ 10年間も誤魔化してごめんね……………♡ 私は、イザヤくんを、好きでいて、いいの、かなっ……………?」

メイドとしての立場も心地よかった。

ご奉仕の名目で彼を見守れるからだ。変化を恐れ、何時でも恋人になれたのに、強力無比なライバルとなる、ポケ擬の子達は——イザヤとの関係を持つ女の子が——世界中



に要る。

自分は絶対に一番になれっこない、もつと相応しい子がいるだろうと、ラピは自信を身に付けたのに、肝心な相手だけには振るう前に、後退してしまっていたのだ。

「うん！ 俺にとつて皆が一番だからなあ〜！ ラピお姉ちゃんとラブラブしたいよつ？ 研究者を指摘したのもさ、女の子達とエッチ出来るからつ……………もあるのは間違いないけど、お姉ちゃんに「頑張つて資格取つたんだねえ！」……………褒めて貰いたかったから！ 認めて貰いたくて！」

「イザヤくん……………♡ そうだったんだね、私——お姉ちゃんは、もつともつと♡ 抱きしめてあげたかつたんだよ♡ それを『おめでとうございます』の一言だけで……………ごめんねつ、お姉ちゃん、ヘタれちやつた自覚あつたけど……………イザヤくんを好……………♡ 好き過ぎて♡ その後オナニー……………しちやつてたんだあ……………♡」

「あつ……………何処かに消えたと思つたら……………ツ！ ええ、俺に隅々まで調べられる妄想を、オカズにしてたりとかつ!？」

「それはつ……………♡ ナイシヨ！」

口調も畏まったメイドサイドから、10年以上は退行しただろう、かつてイザヤの『お姉ちゃん』として接していた、口調へ自ら修正舵を切っていた。

「お姉ちゃん、もっかい言うよ? ——大好き、俺と付き合つて欲しい!」

「イザヤくん……………」♡ ちゅっ、ぴっ……………」♡ んッ、んッ……………」♡ んちゅっ♡ はあ、はあ……………」♡ んんっ、ちゅぷっ♡ イザヤ……………」♡ くうん♡ ちゅっ! ちゅっ!」

どんなご主人様にも許していない、30近くの歳になつて情けないな、自分で思うも簡単に差し出すこともせず、練習しようとも割り切れず、——初恋の弟と会遇を果たす。……………」ラグラージだからなのか、リップを軽く塗った唇は、湿り気があり興奮で乾ききつた、イザヤをオアシスで水浴びしたかの如く、恵みを与えてくれた——

## エツチなメイドお姉ちゃんの場合―2

「しちやっただなあ……………イザヤくと、キス……………」

両エラを象ったりボンを弄くりながら、白馬の王子様からのキスで、目が覚めた白雪姫のようだ——こんな表情、未だかつてイザヤは、見たことが無かった。

おっぱいツンツンしても、「こおら♪」で許してくれる、懐の広く頼れるメイドお姉ちゃんとして、他の者達にもイザヤ本人にも、歳上の余裕を保ち続ける女性。

「やったあ……………」  
 「イザヤくと、キス……………」  
 「キスキス……………」  
 「スキ♡」  
 「はあぁ〜〜〜んツ♡ お姉ちゃん、初めてなんだよつ……………」

「え、ツ、！、？、ちよつ、ちよつ!？」  
 「俺はてつきりラピ姉は、高収入イケメンな♂擬人化ポケか、契約を結んだご主人様の誰かと付き合ってるのかと……………」  
 「違うのツ!？」

「……………ふうん♡ そう思ってたんだあ、嫉妬、してくれていたのかなあ……………」  
 「♡」

キスをした事がキツカケになったのか、開き直った口調でにじり寄るラピ。

……………四つん這い——ラグラージの基本姿勢——只でさえ、愛情たっぷり、Iカッ

プがパツンパツンに強調されている、デザインのメイド服を身に纏っているのに、絶対に逃げられない乳壁となつて、狙いを定めたのは——

（お姉ちゃんのおっぱい……………っ、!! 高値交渉でパイズリご奉仕、してるもんだとっ……………）

（酷いなあ♡ イザヤくん♡ うゝゝん、28歳にもなつて恥ずかしいんだけど……………私、エッチ……………♡ したこと無いんだよ♡ お誘いはそのっ、数えるのも億劫になる程だつたけど……………イザヤくんに貰つて欲しいからっ……………♡）

彼女の美貌と巨乳があれば、富と名誉を兼ね備えた王族すら、簡単に骨抜きにして一学生活には困らない家庭を、手に入れる事ができる。

自分でも分かっている筈だ、女としての価値を。

「んっ……………ちゅっ♡ れぶっ、んぱッ、れりゅっ♡ イザヤくん……………♡ ちゅりゅうう、んぷ、れはう、ううっ、はむっ、ちゅっ、れびゅ、れびゅっ♡」

「お姉ちゃん、そんなにキスしたかったんだね……………」

「はむ、んにゅっ♡ んぷっ……………♡ したかったよお♡ ごめんねイザヤくん、お姉ちゃん、経験ないからキスも……………これでいいのかなあつて♡ メイドさんてそういうの上手いイメージあるでしょう?」

上手いか下手か、どちらかで判定すれば後者か。

しかし、キスだけでイカせるテクを持つイザヤは、大好きなお姉ちゃんと十年以上キスがしたい！ アプローチしても難なく交わされてしまっていたが、遂に接触を許可された喜びで、血管も瞳も血走って、波打ち際の香りのするポニーテールを撫でながら、舌を入れ込んで反応を確かめる。

「ん、ニユツ♡ ……♡ レロ………レロ、レロツ♡ ピチツ

………♡ 真似、してみたけどっ、これで良かった………？♡」

「お姉ちゃんの舌、細くて隙間まで入って来たよ！ 口の中溶岩みたいに熱い、興奮してるんだね………」

「こっくん………♡ しちゃうよお♡♡ イザヤくんと、大好きな人とキス

♡ ねっ、イザヤくんは私にどんな——ご奉仕♡♡ して欲しいのかなあ？♡」

もう後退するスペースはない——後退する理由も無い。

毎日のように触って、揉んで、だけど全然味わい尽くしていない、ラピのおっぱいは後背部からでも、横にハミ出てしまっている。

メイドとは本来、男性主が恋愛心を抱かぬように、色気とは皆無の服装や立ち振る舞いをしなければならぬのだが………ザク切りされたスリット、毎秒見えるガーターベルト、乳は言わずもがな。

「おっ………！ おっぱい！ ラピお姉ちゃんのデツカイので、俺のチンポ挟んでき

つゝつゝ締め付けて！ズリユズリユのたっぱんたっぱんされたいっ!!」

パイズリ、男なら誰だつてされたい、魅惑の淫語。

ご主人様の、ペニスというペニスを、むにゅ挟んで来た熟練おっぱいで……………はななく、パイズリ処女を保ったまま、28歳になってしまった件を少しコンプレックスとして、ラピは思っているので視線を合わせられずに、下を向いて顔を隠している。

「経験……………しておくべきかなあつて……………何度も考えたんだけど……………出来なかつたの、初めてはイザヤくん……………つて♡」

泣かせてくれる、我慢汁もだだ溢れてくる、真っ直ぐな想いを秘めながら、関係を崩したくないと自らアプローチしなかつたラピが、プツツ、器用にブラジャーだけ外してイザヤへプレゼント。

「知つてたお姉ちゃん？ おっぱい揺さ揺さ乳袋だから、偶にパイズリ穴出来ちゃつてるの……………」

「う、うん……………♡ 仕方ないよ♡ イザヤくんを考えながら……………オナニー♡

イザヤくんのを挟んだり、揉まれたり、パンパン……………されたり♡ エッチなおっぱいでしょ♡」

まだラピ肌に保温されていた熱を残す、オレンジ色のブラサイズは「I」と確かに記入されていた。

サイズだけでも射精しかねない、愛情たつぷりなIカップ、くにゆにゆにゅつ……♡ ボタンを一つ外せば、自動的にもう2つが弾け飛び、彼女のパイズリ最適解おっぱいの威容、その下半分が露出されていく。

「行くよ？」……♡ ああつ♡ これがイザヤくんのおちつ……♡ おちんぽなんだねつ♡ おっきいのは分かっていたけど……♡ つ♡ お姉ちゃんの胸からも飛び出ちゃうんだあ……♡ そつかあ♡」

むみゆみゆつ♡ ギユツ♡ キユツうう♡

「うわあああヤツター……！ ラピお姉ちゃんのパイズリイーツ！ 10年以上の悲願に埋もれるチンポオツ!」

トロン達から惚気話しされるのは日課である。

エグイカリ首で後ろからされるのが好きだとか、啜えきれない大きさは舐めている側もびちやびちやだとか、おっぱいでも包みきれないとか……♡

紅茶を飲みながら涼しい顔していたが、どれくらいの大きさなのだろう、棒状の物を手に取りながら推測して、最後はオナイキ……♡ しよつちゆうだった。

「動いてみるね♡ ん♡ ……♡ これっ♡ カリ首に胸の中削られそうっ♡ はあ、はあ、はあ、はあ……♡ ふ、ああつ、はあつ♡ もつとおっきくなつちやうんだ

……♡ パイズリ、難しいんだね♡」

下手だったら教えて欲しい。

挟みながら乳軸を右にズラしながら、上目遣いで懇請するも、何処が下手要素あるのか……ご主人様及び、ペニスを悦ばせるセリフ、メイド服に滲出する我慢汁の上層からは、サラツとした触感の唾液は、ねっとうよりも熱く、ずちゅっ、ぬちやつ、ぷぢゅっ、聴覚にも訴える混合液が捏ねられ、粘りを与えられ、空気を含ませた硬さで側面を愛撫してくる。

「…………お姉ちゃんは初めてでも、凄く上手にパイズリ、出来てるからねっ！ 練習とかしてたのかな？」

「ああっ♡ 良かったあ……………♡♡ 練習は……………してた、かもしれない♡10年間、ずっと……………♡」

かもしれないは、照れ隠しなのだ、許してやって欲しい。

本物の肉棒とは触れ合わずとも、ご主人様の期待に応えるのがメイドの役目である。……………ラピがむつつりドスケベ、という理由もあって、乳圧加減と摩擦速度には、特に気を使ったパイズリを実現している。

パイズリされ慣れているイザヤは、ソムリエの如く、大興奮のままペニスをピック付かせても、お姉ちゃんのテイストを冷静に評価するのを忘れない。



「お姉ちゃん、ズリ穴から我慢汁落ちてくるよ……………唾液が乳内でねっとり再構築されてつてる、ん、お、!? くくくくくツ、横からスリスリつ、その業いいねっ！」

はあっ……………すうっ、ううあっ……………!」

「撫あで撫あで♡ 練習だけはいっぱい……………したから♡ ——『ご主人様』♡ 到らぬ点が御座いましたら、何なりとお申し付けくださいね♡ んっ、んふふっ♡ 谷間でおちんぼ暴れてる♡ 持ち上げられちゃいそう♡くくくく♡」

随所で「イザヤくん」と「ご主人様」を使い分けてくる。

濡れ場などで遭遇し、イザヤのペニスを見るのは初めてではなく、熱量に戸惑ってしまつたけれど、形状や直径に応じたパイズリがあるのだと、ラピは理解しているし、十年という年季の入った挾射練習を武器に、着々とペニスを波打たせている。

「到らぬ点……………在るわけないよおー! 初めてなのにパーフェクトだよっ! 流石は俺のお姉ちゃんだぜっ! あっ、あ、っ、あ、あ、くくくく出るツ、出る、ツ!?

乳内射精を受け止めてっ、お姉ちゃんツくくくく!!」

亀頭が痺れる、の太い喘ぎが自重せず、喉仏をまくし立てながら、「オスであるが所以を出すぞ」……………そう、威嚇しているかの表情で斜めからの、乳摩擦を繰り出すラピもまた、初体験であるのに、他の子達よりもイカせ上手なIカップから、脈動を感受して股間に粘質な、膜を張り付かせている。

「いいよっ♡ はひっ……………う♡ おちんぼ出たり♡ 入ったり……………♡  
 はあう、イザやくんのびゅ〜〜て♡ 見たいなあ♡ お姉ちゃんにかけて♡」

彼女は斜め挟みで、絶えず——あの頃とはベツモノ、だけど変わらぬイザヤのペニス——を刺激させながら、口を大開させている。

ピクツ……………充血している舌が、ラピの深層心理を代弁しており、体感したことのない珍味を待ち望んで、唾液を募らせ跳ねている。

——口を開かせたと同時に、誰にも捧げず、受け容れてない膣筋までも……………くばっ♡ 下着は既に役割を放棄させている……………

「お姉ちゃんツ……………! はあっ! はあっつ〜〜! お姉ちゃんに! いっぱいっ!!」

「んう♡♡ きゃああああ♡ うう♡ ツ〜〜♡♡ はあー! ああ♡ イザやくんのお♡♡ こんなにつ……………暖かいんだあ……………♡♡ 胸も顔も……………おベツチヨリだよ♡」

間近でセックスを見てしまった事はある、射精（乳内や膣内も含め）の瞬間、偶然見かけた事もある。

それでも見飽きたとは思わない、すぐにオナニーで鎮めていた、10年間もひた隠していた、趣味とも言える射精観賞。

ついに、自分に照準を向けてくれた♡

「はあつ、うあああつ……………ヌメルゴンよりもヌメヌメ……………なっちゃったね、お姉ちゃん！ いやつ、濃い……………お姉ちゃんが相手だからだよつ、ペンキじゃん！」

「もお♡ お姉ちゃんのパイズリ♡ またするっ？♡」

「するう!! お姉ちゃんエツチエツチすぎる！ 今度はさつ、フェラも一緒にしてっ！」  
「……………♡ 分かった、パイズリでむぎゅむぎゅしながら♡ お口でもくちゅくちゅ♡ ……………えつとね、イザヤくんのおちんぽ……………舐めたり、啜えたり……………♡ したかったから……………♡」

（うわつ、俺のお姉ちゃんむつっすりスケベ!? 世界を旅してる博識メイドさんは、エロ知識で経験の無さをカバー出来ちゃうんだなつ……………!）

挟射しても彼女は、眼を瞑らずに25cmから噴出する、白い乾留液に身も心も焦がされていた。

膝上パイズリは、射精の特等席。下方から噴出したのに、ポニーテールまで飛び越え付着させた、驚異的な精力は他の子ではなく、ラピにだけ向けられている。

「あ……………ツッ！ ふかあ！ つてキタああつ!! そのままおしやぶりしてっ！」

「精液でヌルヌルして♡ ふあ、んっ♡ イザヤくんのおちんぽ♡ 本当におつきいし

硬い……………♡ ゴクツ、ンツ……………♡ おしやぶりご奉仕♡ するね……………♡  
 チユツ♡ んちゆつ、れりゆつ、ちぶつ、れぶつ……………♡ 我慢汁つてこん  
 な味なの♡ あつ♡ また出てきた♡ ちう、ちう♡ 男の子だなあ♡ ………………で  
 も、同年代の子はここまで凄くない、よね？♡ ぢゆつ……………ぷちゆつ、りゆぢゆつ  
 ……………ぢゆぢゆつ♡ んつぶ、ふりゆつ♡ んう…………ぢゆつ♡ れぶつ♡ にゆ  
 ぶつ、はあつ♡」

視線を封じられてしまえば、炎タイプのフェラチオと思うかもしれない。

彼女は水タイプ——しかし、イザヤがおしやぶりされて来た、どんな炎ポケモンより  
 温度が高く、粘液が一瞬で蒸発して、息継ぎ（フェラ継ぎ）の合間から、煙が発生して  
 いる。

正直、身体は「熱すぎる！」と、危険信号を送っているが、イザヤは女の子の気持ち  
 を最優先にする男だ。

「もつとお！ 根元まで啜えて欲しいっ！」

「んもつ……………♡ おへえひゃん、やつへみりゆれ♡ ……………んつ、ぷぷ、ぶぢゆつ

♡ じう♡ じう…………ぢゆつ、ぢよぞぞつ♡ れぶんつ♡」

「うはあ、あ、つ?! ラピお姉ちゃんがヂュポヂュポしてくれてる?! 頬もそん  
 なに…………べつこりと…………あつ、あつ……………」

「ぢゅっつ♡ ぢゅっ、ずずっ♡ ずるう♡ りゅぼッ♡ つくつく♡ ん♡  
 おひんほまはおっひくなっひやよ♡ じっ、ぢゅっうう♡ るぢゅっ、んっ♡ ぢゅ  
 ぐっ♡ ふぐっ♡ るぐっ、れりゆりゆりゆりゆっ♡ んぢゅ、んぢゅっ♡ いじや  
 やふうんくくく♡ ぬぢや♡ んりゆりゆっ、ぢゅぢゅっ……………♡♡」

聴覚へも訴える、フェラチオ——エッチの流儀を完璧に把握しているエロメイドは、  
 初動こそ微かな怯えがあった物の、顎を背けさせてラピの口内に、身を任せる姿を捉え  
 て自信が持てたのだ、「私はこの人を気持ち良く出来ている♡」のだと。

大げさに、ぶぼぶぼっ……………自分までせり上がってくる、蓄えた性知識に性業、相  
 手を選べる立場であっても、一途に想い続けた相手に、お口でご奉仕。

スリットからガーターどころか、オレンジ色のパンツまでも開示されている、フェラ  
 チオご奉仕に夢中で、両脚を折り曲げたラピを、指摘するだけの理性はイザヤに残され  
 ていない。

「お姉ちゃ……………あああ、つくつくーっでる、っ！ー」

「んむっ、……………！♡ うんっ……………♡ んッ♡ ングッ……………♡ ゴグッ  
 ………………♡ ハア、ハア、ハア……………♡ イザヤくんのっ♡ さつきよりも濃い、  
 よお……………♡ 熱すぎて♡ 味は良く分からないけど♡ ぷちゅっ、レロッ♡  
 ぺちやあ♡」

イク直前に、亀頭だけを咥えながら、ペニスを突っ込みたくて堪らなかった、乳袋を簡単に作れるIカップを小刻みに、上下させ精液を搾り取られた。

「んむっ……………♡ ペロツ♡ テロテロツ……………♡ ふあい……………♡ ばいじゅりによ、まにやーれふっ……………♡」

精飲みが終わっても、彼女は中々お口から離さない♡ どころか、谷間まで零れた精液跡を……………にゅぽああ♡ おしやぶりしながらパイズリ事後開示、逃げられない効果も相まって、正しく「クモのす」だろう。

「ラピお姉ちゃんっ……………っ！ 先っぽ、う、甘噛みは敏感でっ……………！」

「イザヤくんの精液♡ はあん……………うむ、むぐっ、んぐんぐっ♡ エプロンもネバネ

バだね……………♡ ……!! 身体、熱いよっ、お姉ちゃんね♡ イザヤくん専属の

……………エッチなメイドさんになりたいなあ……………♡」

片手でイザヤをぶん投げる、怪力——は、発揮されずちよこん……………か細かい力で両手両脚を掴まれ、腹部に馬乗りされる、マウント姿勢を取られた。

背の高さやおっぱいのデカさ、口にはしなないがラピはそれなりにある。苦しくはなく、発情したおっぱいが、呼吸の度にぶるつぶる震え、長い髪がイザヤの顔をくすぐるので、幸せの重さとして受け取っている。

「お姉ちゃんとエッチ……………してくれる?♡♡」

「しようッ！ 自分から求めちゃうのって、メイドさんとしてイケナイんじゃないの……？」

「そう、だけどっ……♡ イジワルだよお、イザヤくんっ……♡ ——厭らしいラピに、ご主人様の逞しいおちんぽ……♡ 私の初めてを捧げさせてください♡」

てつきり夜のご奉仕を、他のご主人様達に施しているのだと、勘違いしていたが……♡ 自分が初めての相手になれるだなんて。

「はぁ♡ ふうう……♡ んっ♡ んっ♡ 私のとイザヤくんの絡まって♡ やんっ♡ おちんぽだけで身体浮いちやう♡ (こんなに立派なの♡ 挿入るのかなぁ……♡ 挿入なきやつ♡ イザヤくんの……♡)」

馬乗りのまま、竿裏を秘所で擦り合わず、素股。

エプロンは唾えさせているから、大人の膣筋が丸見えだ。

その概要は……♡ 美しい、イザヤ以外に見せるつもりはないけど、毎日ミリの領域に整えた、陰毛の手触りは……♡ 愛液だくりゆうで、束になっていたけど、チクリともしない。

「挿入……♡ するね♡ よっ……♡ ん、んっ♡ 先っぽが太くて……♡ もつと、力を入れないと、かなあ……♡ んんっ、はあはあはあ……♡ すごっ、

くぶくぶ鳴ってる………あつ、飲み込めて来た♡ ふツ、ふアアツくくくも  
 うちよつと♡ もうちよつとで♡ んはツ♡ アアツーー♡ 半分つ………挿  
 入つ、たはつ………待つ………イザヤくんは、動かなくても………い、か  
 らあ………ご奉仕させてっ♡」

イザヤがお尻を落とし込んで上げたり、腰を持ち上げればズルリツ、数多の処女を貰  
 い受けて来た手順も、今回だけは実行しなくてもいいらしい。

歳上として、メイドとしてのプライド、待たせてしまっていた罪を償おうと、「いい顔」  
 をさせてあげようと、大の字になってガニ股挿入する彼女を見守るだけだ——

ヌグツ………う、プヂユツ、ぐツ!! プヂヂツ♡

28年、保ち、求められても守ってきた、純潔の華は今ココにチル——

「ふあああああ♡ んんああああくくく♡ イザヤくん♡ おちんぼ全部う♡

挿入たよおおお♡♡♡ ゴメンね………ずっとずっと♡ はっ、

………ああ、くふツーーくふツ………♡

あれだけ、ビシヨビシヨでもっ………っ♡ 結構痛いんだ♡ あははっ………

う♡♡

処女喪失——ラグラーズの隠れ特性は「しめりけ」だが、ラピはげきりゆう。

隠れ特性ならぬ、膣特性が「しめりけ」なのか………、くだらないギャグなどイザ



ヤに思いつかず、眼の覚める程に真つ赤な、鮮血が結合された性器から、ベッドシーツを徐々に、浸食していく光景に固唾を飲んでしまった。

「はうう……………痛いつ、けどっ……………幸せの痛みだよっ　こんなに大きくて太いおちんぽ　血が出るだけで済んだって……………」

「ラピお姉ちゃん……………！　やっぱり俺が動こうか？」

「んっ……………お姉ちゃんに任せて　イザヤくんは楽にしてて　頑張るから、見ててね　ああ……………んふっ　血がっ……………パンパンッ　騎乗位っていうんだよね　ひっ　んはっ　アハッ　あ、あ！　？　くくくく　私達の液がぜんぶうう　赤くなつて　ふやつ　んくッ、あああ　は　ここっ　奥で曲がるからっ　はあああ　っ　くくく　イザヤくんのいよいよ　初めてなのにいっぱいい　おまんこ感じちやつてるよお」

せめて——イザヤは腰を引き上げるにも、相当の労力を用いて息切れさせている、ラピの両手を握り締める。

一本一本、指を交互に絡ませたラブ握りだ、ベッドに手をつけて支えるよりも、不安定になるハズ——だが、瞳から落とした雫は、どんな宝物よりも美しく……………ラピも強く握り返した。

「イザヤくん　私の　お姉ちゃんのエッチなご奉仕　あ　はあ　あ　ー!?」



はっ♡ あくああっ♡

イザヤくんっ♡ イふ……………っ♡ りヤ————はッ……………!? あ♡♡  
 ツ♡ ツ♡ ……♡ ああ♡ つ♡ んッ♡♡ しゅひイイ♡♡  
 はううううん♡ん♡♡

ボコボコと、竿がゴブを作り出す。射精目前にして、ラピの脳内では膣内の光景が、プロジェクターに映し出されたように、鮮明に描かれていた。

粘液をだだ漏らす狭肉を、かさつさばいてくるペニス。腰を上げればエラ返しが、抜け落ちるのを拒みながら膣内を引つ掻く。自分の指では絶対に、届かないしこんな快感も得られない。

ラピが体勢を崩さないように、両手に力を込め続けていたイザヤ。

口が閉じられず、唾液が落下しイザヤの口内へ入った。

もう達すると、大振りになった腰使いは、とても初めてとは思えない。練習の成果、というよりも、エッチな素質が高いのかもしれない。

「あああ……………♡ ……♡ ……♡ はッ……………♡ ふ……………♡  
 ふう……………♡ しちやった、ね……………♡♡

「お姉ちゃん……………♡ ラピお姉ちゃんッ!! まだッ、お姉ちゃんと中出しラブラブエッチしたいっ!!」

「キャッ………ッ、キャううう………ッ♡!?♡♡ イザヤくん待ってえ♡ お姉ちゃんイツ………ッ………ツ………ッ………♡ イツちやつ♡ もうイツちやつてるからああ♡ 頭おかしくなっちゃう♡ エッチすることしか考えれないう………ッ………ひゃあアツ♡ はやあ♡ はアツ♡ ひツ♡ んんん♡ ほんと、イツ、ちや………イザ………くつ………♡♡♡ イん♡ ん♡ ゆ♡ う♡ ううう♡………ッ………♡♡」

エプロンまで白と赤、パヂュツ、グヂュ、ヌリユツ、空気を含ませ再往復しだした結合部は、ピンク色になったイキ汁を返り血のように、全弾受け止めてしまう。

ラピとしても一回線——一回での膣内射精で、終わらせるつもりは毛頭なかった。

繋がったまま、愛を呟いたり、抱きしめられたり、普通の女の子として生きなかつた彼女は、期待していた——のだが、イザヤは強ピストンで応えた。

膣の筋肉以外はヘタっている、あらゆるポケモンと騎乗位や、駅弁を行えるだけの腕力を、今こそ発揮させて真上へ！ 斜めへ！ その場で旋回させ！ 気持ちいい部分を弄る。

「お姉ちゃんがエロすぎて………はあーはあー………あ………、すげっ、おまんこからピンクの泡が………」

「フッーフッー、あはあ………♡ もう………♡ そつかあ、私、エッチだっ

「たんだあ………♡　ねっ、膣内でビュツ、ビュツした責任♡　どうしてくれるのかなあ♡♡」

ベツドのスプリングが激しく軋む、二度目の膣内射精は、組み体操のような体勢になつてしまつたが、お互いに上半身は逆方向に反らせ、下半身はべったり密着させながら、奔流に身を震わせていた。

種が植え込まれた、皆のメイドたるラピを妊娠させてしまえば、パッシングを受けてしまふだろう。

「ああ………♡　俺の嫁になつてラピお姉ちゃんっ！　俺だけのメイドにもなつて、欲しいっ！　幸せにするっ」

まあ、イザヤが何と発言しても、ラピはそのつもりだつたのだが。

「言つたなあ………♡　有言実行男くくく♡　他の子達にも同じセリフなの知つてるんだぞお♡」

「嘘は付かないから俺は！　皆、俺の、ヨメ！　誰が一番とかじゃなくて、皆種族も個体値もおっぱいも違うけど——皆俺の嫁だからっ！　幸せを平等に育むよ！」

「………♡　ねっ、イザヤくん………♡　明日のお昼に私、次のご主人様の下で働いてくるね。明日が契約の切れる日だから………♡——イザヤくんだけのメイドになりたいから………♡　終わりにしてくるね♡　少しだけ、待っていて♡」

スケジュールが埋まりに埋まっている、途中で放棄など責任皆無な真似はしない。

28歳の大人、勤めは果たしてくる——全てが終われば、イザヤだけのメイドさん——お姉ちゃんとして、愛して欲しいとキスをしながら。

「そうそう、寝る前にトロンちゃん子作りするんだけど、ラピ姉もどぶヴ オ あ ！  
？」

「はいはい♡ それも全てを終わらせてから、ですよお？ ご・しゅ・じ・ん・さ・ま♡」  
照れ隠しか、嫉妬か、一指し指だけで10歳年下の弟は、フリスビーと化す。

何千倍もセックスしているトロンは、未だに孕まないの、一発受精したラピは、寧ろ嫉妬される側になっているのだが………トロンはそんな事はしないでらう！ ラピとイザヤの赤ん坊も。可愛がり——自分も欲しいとオネダリしてくるだらう！

「旦那様♡ ラピさんとのエッチおめでとうございます♡ 見守らせていただきました、ポツ♡」

「トロンちゃんんんんツ~~~~!!? まあいいよっ！ 大家族作ろうね！ 寝かせないぞおー！」

「キヤああああ~~~~ん♡ オチンポ様あ♡ ワタシのお腹に命を宿させてください♡  
ぴちゅっ♡ ペちやつ、ペちやつ♡ ぬぐんツ♡ くぶ♡ くぶ♡ くぶっ♡」

## エツチな蒼鋼少女の場合——1

ヂュグツ♡ ニユルルンツ♡

ズグツ、ニユプツ♡ ニユプツ♡ ズププツ♡ ヌヂヤヂヤ♡

「はあああああつ♡ イザヤさん♡ 初めてなのに私い♡ ハア♡ やああ♡ とつてもお♡ んんうツ♡ らららら♡ ハアららら♡ ハアアアアツツ♡ きもちよくなつてしまいますううーあうあああツツ♡♡」

開幕早々に、膛内射精をキメるのは、我らが無敵性豪主人公イザヤ。

上司から直々に任命された、「古代の城を調査してくれ」の一環、王家の財宝目当てに侵入する不屈き者を、その棺桶に取り込んでしまい反省するまで閉じ込める、かんおけポケモンデスカーン——トロンのお友達であつた——とエンカウント。

彼女は暑がりなので、褐色肌に包帯をテキトーに巻いただけ、デフォルトで包帯がおまんこに食い込んで、トロンとは正反対の慎ましいお胸、褐色に映える桃色乳首やら乳輪やらがハミ出している。

「ありがとう、デスカーンちゃん！ トロンちゃんのお友達だったんだね、キミも可愛いよー！」

「かつ、可愛いだなんて……………♡ トロンの方がずっと——」

「自分を卑下に扱わないで、デスカーンちゃんだって凄く魅力的だよ。こんなに可愛くてエッチな子になら俺、ずっと閉じ込められてもいいなあ……………」

手持ちポケモンである、トロン、アリー、ルーシャ、そして戦ってくれないけどギラティナさんを連れて、古代の城最下層へと続く道のりを、同行してくれていたのだ。

「彼女はこの城で生活してます、本来なら複雑な地形ですが……………」

砂漠の民である巫女、トロンも古代の城内部は完全に把握しきれていない。それほどまでに広く、未だ謎が多い埋もれた迷宮もデスカーンが、新しいルートを発掘してくれていたのです、お言葉に甘えて長い時間を掛けることなく、最下層、最奥の扉まで殆ど戦闘を回避しながら辿り着いたのだ。

「最奥でデスカーンちゃんとの最奥と接触しちゃった！ ひんやりしたおまんこって珍しいね、チンポ閉じ込めたいってギツチンギツチンに狭まって、棺桶よりもギロチンかな！」

「ハッ……………ハッ……………あ、あんっ……………♡ イザヤさんの精液……………♡♡  
中出して凄いですねっ……………ハアツ、ハア……………♡」

道案内してくれたお礼……………ではないけど、トロン達に負けず劣らずのエロ衣装。イツシユは性に開放的な地方とされるが、中出しを熱願するのは——超人イザヤがお相



手だからである。男として魅力に思われているから、「ごめん、デスカーンちゃんがエツチすぎて、チンポオオタチになっちゃった」と、通常なら霊体腕での平手打ちを食らうシチュでも、「責任取らせてください♡」の承諾をあつさりされるのがイザヤだ！

「ふふっ、デスカーンさんも旦那様のメスにされてしまいましたね♡」

「トロンちゃん……………♡ うん、気持ち良かった……………♡ トロンちゃん達は毎日シテるんだよね？ いいなあ……………♡」

棺桶の中でセックスしていたので、正常位くらいしか行えなかったが、ガタンガタン満員電車で揺れるように、棺桶は動いては転がり、中出しの激しさを物語っていた。

ギリティナに到っては、やぶれたせかいへ逃げてオナニーをしていた。

「では皆さん、お気を付けてくださいね！……………イザヤさん♡ 近くまで訪れた時、またお相手してください♡ あなたの種を何度だって植え付けてくださいませ♡♡」

デスカーンとは別れる事になったが、そのまま仲間になってもいいフラグがピンピンにおっ立っている。……………またしても、野生のメスポケモンを虜にしてみました。

「へアハハハッ、外見通りにスケベな娘でしたわねえ」

「アリーがそれ言っちゃダメだろオ……………お兄ちゃん、お仕事終わったらあてらも相手にしてヨね♡」

発声だけで男の根底にある生殖願望を刺激させ、有無を言わず行為に持ち込む眼帯

魔女は、独特の高笑いをしながら星形台座で脚を組み直す。真つ赤な紐パンは正面にいれば覗き放題だ。

イザヤからの提案で、下乳をこっそりカットした道化師衣装になったルーシャは、腕に引つ付いて——Eカップをむにゅ押しつけながら、先手を取るのだと一番に中出し予約をする。

「どうでしょう旦那様♡ 5Pで仲良くイキ倒れしませんか♡♡ 8つのおっぱいでオチンポ様を挟みたいですよ♡」

友達の棺桶セックスを想像して、ぐしよ濡れした縞パンにイザヤの手を誘導させながら、平等に気持ち良くなれる方法を思いつく。

トロンは喧嘩を好まない、イザヤがどんなポケモンとセックスしようが浮気だとも思わない、第一の嫁は自分なのだからっ！

「盛っておるのお♡ 昨晚余の分身も含ませて4Pしたばかりじゃろっ♡ 乳首に亀頭に陰囊に唇に………♡ 一斉に舌淫され絶頂した顔は忘れられんわ、ホホホッ♡」

創造神も呆れている、性欲強すぎ問題のロリババア。イザヤこそ唯一ギラティナにマウント取れる性欲を持つ男性、「余が戦えば勝敗など決まっておるじゃろ」なので戦闘には出せない（戦ってくれない）けど、好きな男とは常に一緒に居たいと思うのは、恋する女として当然なのだ。○○億歳だけど。

「ここってウルガモスが居たところだ。あん時はここまで来るのに4日かかったけど、数時間で辿り着けるとはなあ」

事情があつて逃がしてしまつたが、サンバ衣装に身を包んだエツチなウルガモスは、イザヤの手持ちだつた事がある。

情熱的なパイズリは、乳内射精される精液すら焼き尽くし、頑強肉厚なチンポでなければ、挿入も許さないマグマのような腔温度、処女膜を破つて淫らな「ほのおのまい」……トロンやルーシャが見ていると忘れ、三日三晩交わつた。炎タイプとして最高にいいメスポケモンは、ここに居ないので、何を目的にしているのかと言うと――

「この石版だ。はかいこうせんぶつけても、ウンともスンともしないつて。ギラティナさん、悪いけどドラゴンクローかなにかで、壊して貰えませんか？」

「それは構わぬ、戦闘ではないからな。しかし古代の城は遺跡に近い歴史的な跡地なのじゃろう？ 取り返しが付かなくなってしまうぞ」

黒、白、そして灰色の聖杯に囲まれているのは、異質な雰囲気を漂わせている、大昔の出来事を何者かが描き残した巨大な石版。

「ヘアハハハツ、戦争でも表現させているのでしよう。イツシユ神話に登場する、陰と陽、理想と真実の英雄の姿、中心のポケモンは知りませんけどね」

黒板を指指し棒で叩くように、ガキンツ、七色の宝石を展開させるロッドで、石版の

中心を指すアリー。

イツシユに住む者なら誰でも知っている、ゼクロムとレシラム。

雷と炎が石版半数を占めており、龍の姿をしているので判断は容易い。

「エッチすれば戦争など起こらなかつたのではなくて?」

「昔の人達は、エッチよりも武力行使だったのかもね。俺は絶対身体でわかり合える世界のいいけど」

寧ろ、一度世界を消滅させる戦争があつたから、性に明るいイツシユが作られたのでは?」

「社長からは『探索出来る場所はそこが一番怪しい、他のフロアは調べ尽くした、許可をしよう』と命じられたので……………俺も気になりますし。可愛い子が眠ってたら起こしてあげないと……………はあはあ! おっぱい大きい子がいいなあ!」

「ホホホツ、責任はそやつに押しつけなければいいじゃろ、ホレツ——ちィっただけ、風穴開けておいてやつたぞ」

擬人化ポケモンの生態(性体) 研究者が、なぜ遺跡探索部隊としてかり出されているのか。

(可愛いポケモンと出会えるチャンスは自分で作るのさ!)

……………らしい。脳みそが上と下にあるから、彼は頭が良くてチンポをダウジングマ

シン代わりには使えるのかもしれない。

「へアア〜ン♡ 胸がつかえてしまいますわあ♡」

「正面から入ればいいじゃん、あても横向きながらだと……………やんっ♡」

「メ、メスポケモンへのトラップでしょうか♡ 乳首がちよつと擦れてしまいました♡」

トラップでも何でも無く、ギラティナが翼で切り裂いた跡が偶然、ある程度胸の大きな女性が侵入するのに工夫が必要な、サイズになったただけだ。

言うまでも無いが、ギラティナだけは引つかからない。ゴーストタイプだから……………と、胸が小さすぎるからだ！

「ほえええ……………コンピューターがいつばいだヨ……………この中だけ未来の技術で作られているみたい……………」

「……………ッ!? なんだこれっ、古代からこんなのが存在してたって言うのか？

チラ見だけでも明らかに、現代よりも遥かに科学力が発展している時代から流れ込んできた、としかいいようが無い！」

石版を抜けたらそこは——UFOの内部のようであった。

青白い空間、駆動音が止まず、地面には閃光がイザヤ達の下を走り、モニターが所狭しと並んでいる。

……………揺り籠形状の窪みには、等間隔で色を放たない玉がめり込まれており、ガラ

スに覆われた中身を覗けば——ミイラ、ではなく……………

「ポケモンだ、メタグロスかな……………?」

各部の × 印から推測するが、メタグロスは大変希少なポケモン。

ピツチリしたボディースーツで、秘めし裸体——特に胸部装甲値の高さが浮き彫りになって、視点を変更すれば縦筋まで……………これはイケない!

「何でメタグロスが……………ここを寝床にしている? 馬鹿なつ、叩けば割れる代物でもないし、酸素経路の確保もされていないじゃないか?」

「まあ、メタグロスは機械ですし。呼吸の1つや2つ塞がった所で死にませんけどね。良かったわねえイザヤ、大好物のロリ巨乳じゃないですか! ヘアハハハツ! 大収穫ですことよ、隠し部屋で眠る謎のメタグロス、ボール投げて捕まえてしましましょう」

どうせ実験台にする為だろう……………が、ゲットすれば戦力アップは勿論、思う存分可愛がれるし、おやの名目で保護が出来る。

「ボール投げたいけど……………ガラスに遮られてどうにもならないんだけど」

四肢や頭を無数のコードと接続され、動悸すら通わせていない鋼鉄少女に、手が届きそうで届かない。

「ギラティナさん、お願い出来ませんか?」

「……………ダメじゃ、余でも砕けぬ材質じゃな。あらゆる干渉を受け付けぬ余でも、この

ガラスの質量を形成する、核が捉えきれぬのじや。ふうくくむ……………余でも壊せぬとは、想定されていたかの作りじやな……………余も知らぬ文明、世界線、流れ着いたのかもしれぬな」

まさか、反物質を司るギラティナが「無理です」と、白旗を振るだなんて。

想定と簡単に仮説を立てているが、ギラティナの存在は極々僅かな文献にしか記されていない、名称すら葬られている。

「アリーは思います、ギラティナさんと同等か、……………怒らないでくださいませ？ ギラティナさんより神格が上のポケモンの仕業であると」

「ふむつ、そうだとすれば余を越える物……………想い浮かべる事すら腹立たしいが『あの馬鹿』しか考えられぬが……………？」

あの馬鹿は創造神の事である。ギラティナ曰く「レシゼクはシンオウ三柱よりも位は高くない」らしい。時、空間、反物質を司る神々なのだから当たり前といえそうである。

アリーが唯一「さん」を付けるのが反骨神。

ぐむによん♡ 最大級のJカップ——世界中のチンポを挟んできた——がのし掛かつて、ひび割れしないガラス、エッチに利用出来ると唇の端をツリ上げ、七色の宝石をロッドから切り離す。

パワージェム、アリーの十八番だ。

「ほら見なさい、傷一つ付きません。ギラティナさんが無理なのですから当たり前ですけど」

巨大化した宝石を、見えない糸で操るかの如く、少女を覆うガラスに直撃させた。大抵のポケモンは押し潰されてしまうが、弾かれるどころかシユウウンツ……………

「攻撃が無効化されておりますね。ブラックホールの一部でも併用されているのでしょうか」

「うーん、あての鍵使っても無理だなア……………お兄ちゃん、ここまで来て諦めたくはないヨね?」

トロンがエアスラッシュをしても、ルーシャがイカサマをしても、ガラスは沈黙を貫いている。

「何とかなさい、イザヤ。メタグロスもガラスも両方手に入れますわよ」

「俺が殴ったって無理でしょ……………攻撃したって結果は変わらない……………仕方ない、研究機関に報告するとして——あのさつ、この子で見抜きしていいかな? 現物おっぱい触りたいし、パイズリして貰いたいけど……………無理ならせめてっ!」

正直、イザヤでも解決策が尽きている。思いつく限りの方法を試したが、物量作戦すれればいいって問題でもなかった。



どう足掻いたって、今の技術力では追いつかないだけの、謎材質で阻まれてしまっている。だから——眼に見える範囲でだけ、オカズに使わせて貰うのだ！

「まっ♡ 旦那様つたら♡ いいですよ♡」

「あてらは外に出てるヨ♡ ヌキヌキし終わったら教えてね♡」

「ヘア~~~~ハツハツハツ♡ なあにを言い出すかと思えば……………♡ お好きになさ

い（このガラスの上でバックから責められたかったですけど……………♡）」

「これは睡姦になるのかのお……………♡ 良いぞ、足りなかつたら余がむしゃぶつてやるからの♡」

ベチンベチンツ、俺が最後のポケモンだと主張する25cmで、ガラスを引っぱたくがノーダメージ。

ならばガラス越しに、蒼のツインテールと2つのヘビーボールに、ぶっかけを行う！  
「ありがとう皆……………さて、ロリ巨乳なメタグロスでオナニーするか……………ハアハアハア！ デスカーンちゃんとシタばつかなのに！ チンポ痛くなるくらい勃起してやがるっ！ ガラス越しで眺めるだけでコレだ！ 揉む事が出来たらハアハアハアツ！——ん？」

空気を読んで退散してくれた手持ち達。

ガラスを抱きかかえる姿勢で、へばり付いてチンポを擦りつけたり、穴を開ける勢い

で突っついてみたり、頭のおかしいと思わざるを得ない行為を連発するが、観察も研究になるのでびっちり張り付いた、ボディスーツを血眼になって視姦しながら、心のレポートに投写させているだけだ。普通、普通。

「ちよッ!? 邪魔ガラスが開いたんだけどwww チンポ取り出したから? 何でやねんwwwww チンポだけにキーアイテムってかwww」

神様の一撃でも破壊出来なかったガラス、……………イザヤがジーンズを脱ぎ捨て、メタグロスの少女に切っ先を向けただけで、パカッと解放された。皆の苦労が水の泡になってしまったが、こうして触れる事が出来るから結果オーライだ。

「……………ゴクッ、スゲエ、身長はドレドレ……………142cm、研究者はメジャーを常備するのは基本、ついでにバストサイズも……………大雑把だが……………9、3……………だっつ、ほわああお! 推定Hカッププロリ巨メタグロスうwww」

「……………」  
 イザヤが鼻息荒く、身体測定していても、メタグロスの少女は息遣いさえも聞こえなかった。

死んでいる……………と、言い切れば誰だって信じてしまう。

「ホントだ、心臓……………メタグロス的にはコアか、稼働してない……………スイッチが何処にあるのか? 例えば——おっぱい! 谷間に隠しているのかなああ〜〜!」

はあ、はあ、セクハラじゃない、好奇心と研究者特有の探究心が俺を動かす！」

ぴっちんぴっちんのスーツは、肌を絶対傷つけさせないナイフを使つて、胸部をくり取るつもりだったが、刃が通らず失敗。

「ならばっ！ そおい！ うおおっ!! 何て柔らかさだっ!! 指が沈み込んでいくう!!?

おっぱい底無し沼はソフトクツキー、いやっ、シュークリーム！ 触っただけで壊してしまいそうだ！ ぐあっ!?! はあはあはあはあ！ この、手応え！ 手でカバーしきれぬ面積！ 小柄だがズシツとくる重さ！ 乳首は……………ココかあ！ 勃起はしてないけどへへへっ！ クリクリしちやお！」

せめて、谷間の真下にズリ穴を作りたかった……………妥協して、乳首——ボディーツなのでブラはしていない——をプツシングしながら、キョダイマックスしたチンポを挿入させていく……………

「又、ウウ……………！ 乳圧パねえ!?! 俺の弱い部分に張り付いてきやがるっ!?!

ハッ、ハッ！ ハアアアッ！ ロリ少女に馬乗りパイズリ！ 最高に興奮すつぜー!」

ズパッ！ ズパッ！ たゆんっ♡ スポツズボツ！ ぐちゃ♡

胸の中程を抑え付け、名も知らぬ美少女の胸を蹂躪。

これは研究だと言い訳しながら、信じられないくらい温和——体温が徐々に高まって

いる——な白肌は、高々と登山者をふるい落とし雪が降り積もるテンガン山のように  
 ……………

「体温……………っ！ この子、パイズリされてから熱が入ってきてるっ！ パイズリ救命処置なのかつ!? 待ってる、鋼タイプなのにプリンの身体よりもやわっこい、キミのHカップでハアハアハアッ！ イクからっ！ ぶっかけするからっ！ うオハアアア!!」

「……………」

ミチツ、着衣パイズリだが生地にくすぐったい感覚が希薄で、ズリ続けていれば少女の肌の、吸い込まれる感触や色まで、どんどん透けていくからお見通しだ。

「服だけ溶かすようかいえきかつ!? 俺の我慢汁がその役割を担っているだっ!?」

人外染みている彼も、尿道口からピユツ、ピユルツ、ロリ巨情欲体液を吹き付ける度に、ボディスーツが消滅していくのだから、腰を止めるなどあつてはならない、メタグロスの全てが見たい。

「……………」

「メタグロスつゝゝゝ！ 乳内射精ツ、キミのおっぱい気持ちよ過ぎてあつ、あつ！ ああああつ！」

「……………っ、……………?」

古代文明の遺産、と思われるオーパーツがすし詰めされた隠し空間内で、少年は「貴重な物だから汚さない、壊さない」思考など、すつ飛ばして思いつきり——少女の顔、身体、さらには周辺の機械にまでハイドロカノン。

「射精の勢いで……ぐうあああつ、身体が……こんなに出るとは、濃すぎておっぱい隠れちゃってるし……ハア、ハア……」

デロンデロンになったメタグロス、白い軟体生物に覆われ、天然の拘束具となつてしまっている。最も、乳内射精されようが身じろぎ一つもせず——

「これ、は……成分分析、……男性器からの生殖体液と認識します……あ、な、た……あなたがわたしの……マスター？　なのですか？」

務めて冷静、感情のブレが生じない、予め録音されていたCDのように、Hカップのメタグロスは起動した。

ボディスーツが完全に消え失せた、全裸状態で首を傾げる仕草がまたキュートで……

血管をビッキビキに蔓延らせ、さらに性欲をくすぐられるイザヤは誓った。

「新しい嫁ポケにする」と。

## エッチな蒼鋼少女の場合—2

謎の電脳空間で発見した、謎のロリ巨乳ツインテメタグロス。

イザヤが睡姦パイズリをキメたら、精液に呼応するように彼女は眼を覚ました。全裸で。

「理解不能です、射精とは女性器に行く物ではないのですか？ 乳内へ射精しても生殖

行為にはなりません」

「えっ!? じゃあ膣内の射精はオツケーなのっ!?!」

「わたしがあなたと、生殖行為を実行する理由もありません。他の女性をあたつてくださー」

ヘビーボールを投げてゲット、皆と職場の擬人化研究機関へと報告。責任を持って面倒を見る事となり、「メタグロスの身体の隅から隅まで調査しレポートせよ」の命を受けた。望むところである！

これだから精液も滲む努力をして、研究免許を取得したのだっ!!

「メタグロスさん、あなただけのお洋服を買いに行きませんか?」

「衣類なら身に付けておりますが?」

「それは……………旦那様のワイシャツですよ♡ 下着も買わなければいけません、今着けているのはワタシのですから……………♡」

パイズリかセックスに、勢いでなだれ込みたかったが失敗に終わり、嗚咽するイザヤを後方から——おっぱい押し付け——抱きしめるトロンは、こつそり手コキまでしながら旦那様を励ます。

言葉通り、メタグロスの纏っている物はイザヤのワイシャツ——手先まで隠れ、ワンピースになってしまっている——と、コスプレエッチの為だけに購入したブラジャー、縞パンだけである。胸のサイズが合っていない。

起動したばかりのメタグロスは、「何か問題があるのでしようか？」とキョトンしながら、落ち着きとロリさが同居する、透き通るような、……………同じくらい機械的なような、魅力的な声で疑問を投げかけたが、問題大ありだ。

「ノーブラノーパン、全裸で過ごせる訳ないでしょっ！ 俺を含めた野郎を皆勃起させるつもりっ!? 外出禁止令されちゃうよっ！ 世界的な問題になるからちゃんとしたの着ない」と

「そうですね、メタグロスさんの胸が大きくて、下着が浮かび上がってしまったておりますし……………破廉恥なので、せめて下着を隠せる衣類にしませんと」

など、透け透けパレオと布で乳首隠してるだけの、褐色盲目痴女に言われたくは無

のだが……………

「よく分かりませんが、分かりました」

ぷるっ、無表情のまま、声には何処か諦めが混入したメタグロスは、立位しただけで重力の仕事がよおおく可視化されている。

ワイシャツの中心からやや上、パイズリ穴を作ってズコンズコンしたい！ 今日中にパイズリに持ち込んでやると、指先で尿道を刺激するトロンが「相変わらず逞しい旦那様です♡」と、ガチンピキンに太くなった血管に生唾飲んで、お出かけ前の一戦をオネダリすれば膣内射精で応じてくれる、生殖活動に最も優れた男性であると、褐色肌のお腹を擦る嫁へ認識させてしまったのだ。

そして数時間後、舞台は再びイザヤの私室。

メタグロスは「何でも言い」としか口にしない、興味が無かったのだろう……………トロン達は幅広いジャンルから、選りすぐりの服を探し、着せ替えていた。

男子憧れの服No. 1、メイド服も悪くなかったが、いかんせんラピというおっぱいがデカくて優しいお姉ちゃんと属性が被るので——

「ブレザー制服！ 似合うじゃないか！」

「トロンさんが選んでくださいました。女子学生に指定される洋服……………ですね、ス



カートが短い気もするのですが、校則違反——」

「大丈夫！ イザヤ学校では膝上30cm以上じゃないと入れないんだ！ メタグロスは合格だよ！」

「……………？　そうですか、ではこのままにしておきます」

適当な意見を述べるが、イザヤのスケベ心に驚く程簡単に順応してくれている。

青銅色の髪飾りに合わせベストを選んで、インナーは黒のワイシャツでひき締める。

（服着てもデカイ……………！　申し分の無いロリ巨乳！　あのおっぱいで俺のチンポ……………挟まれてたんだよなっ……………ハアハアハアッ！）

一発退学宣告のプリーツスカートは30……………は過剰表現だが、25cm以上の膝上  
に変わりなし。少しでも歩行すればパンツが……………見え……………そう！

素足のまま生活させられないので、制服とベストマッチするローファーを選択した。  
最も、彼女は履ければサンダルでも良かったらしい。

「ねえメタグロス？　メイクアップ果たした直後に悪いんだけどさ、キミの名前ってな  
んだい？」

「……………名前？　ありません、ですが、型式番号なら存じております」

「型番……………？　えっと、どんな物なのかな？」

起動し始めたばかりなので、名前が無いとでも言うのか？

詮索は後回しにして、おやとして保護するのだと上司に報告したので、暫くは共に行動してもらおう事となる。ヘビーボールでメタグロスを捕まえるのは夢だったのだ！

お胸がヘビー！ だけどぼよんぼよん跳ねおる！ かるいしは所持してないぞ！

「XX型949—slib:2×2、variable improvement vaccine innocentで御座います、復唱してください」

「……………ヴァリ、うゝありあぶる、いむぶるーうゝ……………うん、分らん。……………そうだつ！ キミの事は『ヴィヴィ』って呼ぶよ！」

「ヴィヴィ？ ……………許可しましょう」

あまりに長すぎる呪文、流星に“949号”やら“ヴァリアブルさん”と呼ぶのは憚れる。

……………ので、アクロニムだ。それぞれの頭文字から拝借して、別の名称を作つてしまえばいい。

「してヴィヴィよ」

「ハイ」

ちよこん、カーペットに女の子座りするヴィヴィは、立位すれば足下まで届くツインテールを、猫を抱くかのように撫で上げている。

キュートな仕草にチンポをキュンキュンさせながら、マスターとして初の命を与えた

のだ、それは――

「……………パイズリ！ いいかな？」

この男、欲望留まらず！ 彼女の乳内で射精した感触つ、ずっとチンポに残っており、鋼タイプなのにむにゅやわっこいHカップと、濃厚接触を再び交わしたくて堪らないのだ！

「……………？ パイズリとは、どのような行為なのでしょうか？」

「教えよう！ マスターを持ったポケモンが、毎日マスターの……………ほらっ！ ガツチンガチンに血液が充満したビルドアップチンポに、ご奉仕しなきゃいけないんだ！

このまま放置されたら俺は……………チンポ破裂して死んじゃうんだっ！？ わああああ助けてー！ーヴィヴィー！ーわー！ーわー！ーわー！ーっ！！」

「……………男性器、を、わたしの胸で？ ……………むぎゅっ？

一度無許可でマスターがされていた物ですね、それで宜しいのでしょうか？」

首を傾げながら、両胸を二の腕で寄せるヴィヴィ。

ぼわわんっ♡ ぐぬん♡

まん丸おっぱいの端がへこみ、弾力と柔軟さは間違いなくイザヤメンバー随一を誇る、無自覚に主張してくれる。

正直、睡姦パイズリはヴィヴィのおっぱいを、味わったとは言い難いのだ。久しぶり

に驚愕する身体で、おっぱいのティストをチンポに染みこませ切れず、ただただ我武者羅に腰を突き続けてしまったのである。

「その前に、お口でチンポ仕上げて貰っていいかなっ!？」

「仕上げる……………ですか？」

「うん! まだ半勃ちだからさ、本気チンポにして欲しくって!」

「……………男性の生殖器は性的興奮を抱くと、勃起、生殖器が本来の姿を取り戻すとされている……………なるほど、ですがマスター? あなたの生殖器は既に大きくなっていると思われるのですが?」

通常時ですら平均男性の勃起数値を超えている、序の口と言わんばかりの14cmからさらに11cmもプラスされる。

骨が入っているかと思うまでに硬質化、だくだくと我慢汁の汗を拭きだしながら、カリエラを左右へ震わす凶悪なチンポを前にしても——なお、ヴィヴィは無表情のままであるし、本気チンポで無いと言い切ってしまうイザヤも凄い!

「お口? 舐めるのでしょうか?」

「そーそー! 唾液でべちゃべちゃにして欲しいの! おしゃぶりしてもいいんだよっ!？」

「……………ふむっ、ではやってみましょう。……………ペロツ、ちゅっ、ぢゅぢゅぢゅっ

……レロレロレロツ、はむつ、んつ、ぺろつ、ちゅぼつ、んぼつ、ぶつぶぶつ  
 ……んぼつ、ムクムクと口内で膨らみました、本勃起状態になりましたか？」

涼しい顔してチンポをぴちやぴちや、蒼い身体で唯一の真紅を持つのは、瞳だけでな  
 かった……舌、血を彷彿とさせる色合いは生命の息吹を感じられる。

そう、イザヤに（パイズリで）助けられた彼女は、恩をエツチで返そうと——な気持  
 ちは特にない。

「んちゆるつ、んりゆつ……ぶぼつ、ビクビクと振動しておりますね、快感を得てい  
 るのですね？ 側面からの刺激に弱いと判断、……ちゆくちゆくつ、ずずつ  
 ……くぶう、ちゅぼ、ちゅりゆぐ、ぢゅううう……ずぢよぢよずつ、  
 じゅぶじゅぶつ……」

「おおおつ……つ！ ずげつ、フェラチオ初めてでしょつ、ヴィ……く  
 がアア！ ヴィヴィ……！」

「れりゆ、んつ？ はいめへれふよ？ ちゅぼツ、んみゆつ……まふふあー？ ひも  
 ひいいれふはあ？ ちゅう、ううう……ちゅこつ、ちゅぶつ、ちゅぶつ、んつ……  
 ぢゅつ、んぼつ、んぶつ……」

性知識は皆無であるが、メタグロスの頭脳はスパコンよりも賢い。

ヴィヴィは生まれたばかりに等しいので、フェラチオなど本当に知らない、そこら辺

に生息している野生よりもずつと無垢で、真つ新たな状態だ。

(フェラチオ、歯を男性器に当てないように、口を窄める……………こうでしょうか？ 頬がへこんだわたしの顔を見て、マスターが喜んでいます……………)

ネットの海——電脳空間へと意思をアクセスさせれば、いくらだってダウンロード出来てしまえる、莫大な知識を吸収し、直ぐさま実演して見せる。

「ヴィヴィ、もつと……………そのフェラ顔で俺を見て！」

「んぢゅぢゅつ……………コクツ、えりゅ、れえりゅりゅつ、じゅぐつ、んぽつ、ふむつ……………ぢゅつ、んつ、これへ、いいれふはあ？」

「そうッ！ それそれくうう……………ツツ!!? エロすぎい！ 何も知らなかった子に 一からエロを叩き込んでイクう！ 背徳よりも快感が勝ってしまう！ 男の子だも んっ！」

「ちゅぶつ、ちゅう、ぼつ、ちゅうう、ぢゅぢゅつ……………」

二の腕で両側から、おっぱいを挟み込みながら、イザヤの巨チンをむしゃぶるヴィヴィ。

酸欠になる心配が無いので、上目遣いのまま……………ズズズンッ！ 食道までチンポを斜め下へ曲げながら、首を振ることが可能だ。

「あつ、あつ……………ヴィヴィ、ダメだつ！ 仕上げる目的を忘れちゃいそう！ もう離

しても——」

「ぢゅぱつ、ぢゅぱつ、まふひゃーの、わはひのおくひへらひふあそうれふは？ くちゅりゆううつ、ぢゅぱつ、ぷりゅあつ、ちゅずれるろおくくくぐんう……………ちゅばばつ、ぐぢゅつ」

なんと、イザヤの腰へ両腕を回し、『フェラチオ♡ だいしゆきホールド♡』を繰り出して来たのだ！

イザヤは もう にげられない！

お口でロツクされ、泡立つヴィヴィの口元、嚙下すれば実に卑猥な水音が弾けながら、喘ぎとのデュエットで淫らに染まる。

「ンツ……………！ んつ、んんんう、ちゅぢゅぢゅるう、んぢゅつ？ ………………」

こくつ、ングングングツ……………えりゆう？ くぼつ、ちゅうううううううう」

口内射精を体感し、ネバっこい体液が体内へ流し込まれる感覚に、やや眉を顰めるも、扱きながら健気にも胃——に値する器官——へとお迎えしてくれる。

「ぢゅるつ……………コクツ、まふはあー？ わはひ、じえんぶによみまひはよ、あくくく

くくく……………？」

進んでお口エックしてくれる！ ダウンロードした知識では「射精された精液は全部飲む、飲んだ後は口内を見せてあげると喜ぶ」と、表示されていたので従っただけ。

何となくイザヤは予測出来ているが、それでも視覚からの情報がエロすぎて、徹底的にヴィヴィイを可愛がりたくなってしまった。

「はぁーっ！ はぁぁぁぁぁ！ イツたイツたぁ……………！ 初めてで俺の精液全部飲めたのは、トロンちゃんとかギラティナさんくらいだったのに！ ヴィヴィって外見に似合わずドスケベなのかな？ よよし！」

「ドスケベ……………？ わたしは手順を踏んだだけなのですが……………んっ、頭を撫でる、スキンシップの一種、ですか……………悪い気はしませんっ……………んっ、はぁ、ぁぁ……………マスター……………」

買ったばかりのブレザーを、盛大に汚してしまっても、ヴィヴィイは「あれだけの量だったので仕方が無い」と声質を尖らせる事もなければ、なだらかにする事も無かった。

「さぁて！ パイズリでイキたいなぁ！」

「承知しました、データはダウンロード済みですので……………どうぞっ、谷間に挿入なさってください」

ぷっつ——ぷりゅんっ♡ ぽよっ、ぽよっ♡

ベストは脱がざるを得ないが、ワイシャツのまま前開きするのが『わかっている』

ロリな顔立ちと相反する、365日が実りの秋を迎えているおっぱい、窮屈そうに閉じ込めるブラジャーは……………黒のレースとまあ、大人っぽくてギャップが凄まじい。



「ももももっ！ 勿体ないけど外していいかなっ?!?」

「どうぞ?」

「わああー!ーい! いったきまあす! うんほおおおお! ヴィヴィの生おっぱいおっぱい! やつと拝めたよおー!ー!」

「……………??」

見事なYの谷間を描くおっぱい。ブラジャーには「H70」と表記されていたので、イザヤの観察眼は的中していた!

「マスター? 胸を揉む事に意味があるのですか??」

「あるよ! ハアハアハアハアッ! ヴィヴィの倒錯的なまでの柔らかさは、砂のお城とかドミノアートみたいなんだよっ! 触れたら壊れちやうのに触れたくなるっ! ハアハアッ! この手触りっ、自由自在に歪んで俺を楽しませてくれる! チンポ突っ込むのすら憚れる! 突っ込むけどっ! うほんのっ! おっぱいだけ重たいっくくく!」

「……………??」

根元から両胸を絞っても、2つの胸を合わせて1つの巨大ボールを作っても、小柄とどこまでも相反する93cmのH、握る指の隙間から乳肉が逃げていく!

パイズ(られ)リマスターの異名も授かる彼も、童貞心を蘇らせたかの乳揉みには、

ヴィヴィも困惑……いやつ、行為の意味が把握しきれていないので、リアクションが取れていないだけだ。

「よおおシツ！ 立派なおっぱいでチンポ挟んでもらおっかなー！」

ミチヂチツ——むにゆううううくくくく♡

「男性器を挟み込みました、この体勢で胸を上下に擦るのですね？ 射精まで導かせていただきます、………暴れておりますね、わたしの胸はマスターの理想と嗜好に応えていると判断します」

ズリユツ♡ ズくくくリユリユツ♡ ぱふっ♡ むぢゆっ、ぬちゆっ、にゆぶんっ♡

ぶぢゆっ♡ むぢゆんっ♡

興奮と期待であればれるチンポ、数ターン持ち主の命令にすら背いてしまうが、ヴィヴィはおっぱいを抱きかかえて捕獲、精液が尿道口に残っていたので、少量だが潤滑油として無意識のままに活用させてしまっている。

「うヒイヒイヒイッー！ 桃色乳首のヴィヴィっパイズリフオオオオオ！！ 乳圧ミツチミチツ！ 窒息しちゃうっ、でもヴィヴィぱいになら溺れたっていい！」

（マスターは騒がしい方なのですね………胸で男性器を刺激する、そんないい物なんでしょうか？ 分かりません）

デカおっぱいを下側から持ち上げて、みちんっ♡ 重力のままに下がるおっぱい！



めておいた。チンポ挟まれているお礼も兼ねた……………のだが、様子がおかしくな  
 った。

「はやああつ……………♡ ふにやあああんつ♡ マア、マスター……………♡ わたしの  
 身体……………熱いですっ♡ へえ……………♡ へえ……………♡ へっ、へっ♡ さっきのや  
 つう♡ もーいつかいてください♡」

「なっ……………にイッ!?! 人が、ポケが変わったみたいにデレデレになってるがどうし  
 ー」

「マスターあ♡ ちゅっ……………♡ んっ! ♡ ぷにゅっ♡ ちゅむうう♡ はっ……………  
 ……♡ これえ♡ わたし好き♡♡」

「そうかつ! ヴィヴィはキスが大好きだったんだなっ!?! 洒落じやないぞっ!?! ヴィ  
 ヴィが欲しいんならいくらでもキスするよ!」

「くにやつ♡ れぶれぶっ♡ れえ……………るう♡ くちゅくちゅっ……………♡ ふあ  
 ああんっ♡ ふゆっ……………♡ 動力コアに異常発生♡ 対処できまっ……………せんっ  
 ♡ もっとキスしてくださいマスター♡」

キスをスイッチにして人格の切り替わる、システムでも搭載されていたとでも言うの  
 か?

ノルマをこなすように淡々と、主体性がなく一律に処理をしていたヴィヴィ。

おっぱいを揉まれても、口内射精されようと、際だった反応は皆無であった、のにつ

「ええっ、どうしよつかない？ なあんて嘘だから——」

「嫌あですう♡ キスう♡ マスターとちゅくくくくって気持ちいいのしたいですつ♡  
 ヤダヤダヤダア！ キスしたいんですつ♡ マスターの挟んだままするの凄いいん  
 す♡」

カマかけてみた、だけで世界から拒絶されたかの表情となつて、たった一人の味方で  
 あるイザヤをギユウウくくく♡ 唇でもおっぱいでも離そうとしない♡

「はあ、はああつ♡ はゆううう♡ マスターの大きい男性器い♡ ちゅつ♡ ちゅ  
 る、りゅんつ♡ 全部挟めなくてゴメンなさい♡ んりゅつ♡ ぬふはああつ♡ ちゅ  
 くりゅううくくく♡ ぬちちゅちゅつ♡ はくくくく♡ ああああつくくく♡  
 マスター——♡♡」

発情した猫、性接触を覚えたばかりの学生、パイズリもキスも疎かにせず、イザヤの  
 胸ぐらを引つ掴んでは、引き寄せる。

「可愛いよヴィヴィー！ これからもキスはずくくくとしてあげるからねっ！」

「本当ですか♡♡♡ あつ♡ 男性器の先っぽ♡ ぶくぶくしてます♡ 射精……………」  
 胸の中で精液受け止めます♡」

「あああああつゝゝゝかういいなヴィヴィは！ そうだつ！ 男性器じゃなくて『チンポ』って言うてごらんっ!? もつとエッチな気分になれるよ、キスだつてもつと気持ち良くなるよつ！ さあ、チンポ！」

「……………チンポ……………チンポ……………は……………」

ふつ♡ ふうううー……………チンポ♡ マスターのチンポ大好きです♡

へううん♡ チンポって言葉にしたら♡ へちゅちゅうう♡ ふ、ぷりやああつ♡

はつゝゝ♡ 気持ちいい……………ですつ♡ 動悸激しくなつて♡ マスターとエッチ

する事だけ考えてしまうんです♡ ちゅふうん♡ はぶつ♡ はれりゅううツ♡」

隙あらばキス、イザヤがわざと唇を引いても、ヴィヴィは首根っこを抱きしめながら、唾液を押し込んでいく。デーパーキスのやり方をダウンロードしているのは、明白である。

「はっ♡ はっ♡ はっ♡ 出してくださいマスター♡ ちゅぢゅぢゅぢゅ♡ キス

したままあ♡ 胸に精液びゆるびゆるお願ひしますつ♡ にゅちゅむつ♡ むむつ

ゝゝゝんんんっ……………」

たぶつ、たぶつ♡ ずりゅりゅつ♡ 又チヨヌチヨヌポツ……………」

## エツチな蒼鋼少女の場合―3

無表情がすつ飛んでいったヴィヴィは、無尽蔵にダウンロードしたエロ知識をすぐさま活かす、活かさせてしまう順応性の高さに驚く暇もない。

起動したばかりの少女は、エツチが未経験でありながら「もの凄いド淫乱」になっ  
しまっているのだ！

「ヴィヴィ！ おっぱいで挟みながら全部飲んで欲しいっ！」

「はあ♡ はあ♡ はああああ♡ マスター♡ 全部♡ びゆるびゆるするエツチで  
白い♡ 全部飲みます♡ マスターに喜んで欲しいんです♡ むっ、ぎゅううううう  
ううう♡ わたしい♡ とつてもイケナイ子になってます♡ むぷっ♡ ちゅっく  
くくぢゅっ♡ ぢゅっ♡ ぢゅっるいゅうううう♡ んぽんっ♡ つもっ♡ んむ  
ううっくくくく」

ヴィヴィの体重は（寝ている時にこっそり測って）30 kg！

ならばおっぱいには520 kg分の乳圧が加えられているのかもしれない、おっぱいサ  
ンドイツチに上下不規則なエレベーターの合わせ業、にフェラまで追加してくれる蒼髪  
ツインテール少女の頭を撫で、イク合図をすれば口内でもギュギュツ♡ 鼻の下を伸ば

しながらチンポをむしゃぶる！

二の腕でパイズリしながら、開けた両腕は……………イザヤの両手と握り合いつこ  
 ヴィヴィはラブ握りがしたかったらしい♡

「~~~~~♡　ングツ♡　うううう!?!♡　んぢゅぢゅ♡　ぢゅろツ♡　ぢゅう  
 ううう♡　ポっ、は、ああ……………♡　飲んじやい、ましたあ……………♡　さつきより  
 も濃くって……………♡　ングングツ……………美味し、ですっ♡」

複雑な体勢になりながらも、ヴィヴィは射精まで導けた事に快感を覚えて、超ミニスカという風吹けば捲れそうだが絶対に拝めなかった、ミニスカの中身を開脚によつてあつさり開示させている。

「マスター♡　ふやんっ♡　マスターが見ているのにつ♡　手が……………♡　あっ♡  
 ふゆん♡ん♡　エッチな事しちゃってるんです♡　マスターのおち……………♡　チンポ  
 ♡♡　欲しい欲しいってわたしの……………じよ、女性器……………おまんこ　おまんこ  
 我慢出来ないんですっ♡♡　くださいっ♡　マスターと一緒に気持ち良く♡♡」  
 黒い紐パンなのはトロンから聞き及んでいたが、言葉と実際に見るのとは興奮が段  
 違いだ。

染みどころか縦筋がキュンキュンっ♡　まるで「ここですよ♡」と誘惑するように浮  
 かび上がって、ヴィヴィが一指し指でオナれば、太ももまで愛液が伝っていく。



「んふっ♡ まひゆはああ♡ ぢゆるっ、くぶっ♡ ちゆりゆう♡ んぢゆぢゆっ♡」  
「はあ、はあ！ ヴィヴィは甘えん坊だなあ！ キスだけでこんなにエッチになっちゃって！ ヴィヴィの処女、俺が貰うからね？ ヴィヴィも俺の嫁になって？」  
「なり……………ますっ♡ マスターとずつと一緒がいいです♡♡♡♡♡ 処女膜、わたしにも付いているのでしょうか♡ 確かめてくださいマスター♡ わたしはあなたの物だって♡」

ピリッ、精密な腕力でチンポを突っ込める縦穴を破り作ってしまった。エロ下着を完全にセックス挿入だけに特化させたヴィヴィは、真紅の瞳にハートマークを浮かばせながら、イザヤの身体を抱きしめキスのおねだり。

通常のメタグロスとは内部構造から、全く別であるとは察しているが……………キスをスイツチにドスケベになるポケモンなど、聞いた事も見た事も無い。

「マ、マスター♡ わたしは焦らされているのですか♡ 寂しくて壊れちゃいそうです♡ 壊されるならマスターのチンポがいいんです♡ いっぱい中で出してください♡」  
「うっ……………う、お、ああああヴィヴィー…可愛いんじやああああああ」  
発掘してから三日も経過してないが、このメタグロスが愛しくてしょうがない。唇をわざと離しただけで、胸ぐらを掴んで抱き寄せてくる♡

自分から舌を入れるエッチなキスも、数分前までは知らなかったのに脳だけを進化さ

せているヴィヴィは、身体を追いつかせようと頑張っている、何と健気なのだろうかっ  
!?

「あつ……………先つば、入つて来まし……………ンツ♡ ハア……………フウウウツ♡  
ああつ♡ ミチミチつ……………♡ おまんこがマスターだけの形にい♡ もう少し♡  
んんんんつ……………グイグイすればあ♡」  
抱きしめてキスをして、パイパンおまんこをチンポと擦り合わせていたヴィヴィが、  
対面座位のまま腰を沈めていく。

強大な全長を誇る化け物チンポ、挿入すれば口から飛び出てしまいそうな迫力に、口  
内に溜まった唾液を「こきゅん♡」飲み干す仕草に、血管をビキビキにさせてしまう。

「ヴィヴィ！ 頑張つて！ もうちよつとで奥とごつんこだよ！」

「がんばります♡ につ、うううう……………♡ 硬あ♡ チンポヌルヌルだけど硬すぎてえ♡  
はあ……………はあ……………お迎えしたいのに♡ マスターの気持ち良くしてあげたいのにつ♡」

冷静なヴィヴィはエロスイッチが入ってから、ふやけて蕩けて鋼鉄が溶解された、メ  
ス顔で舌をだらけさせている。

焦るあまり狭すぎる膣口は、潤滑液でヌルヌルになったチンポを吐き捨ててしまつた。  
再挿入も手間取っている。



をキュンキュン♡ 膣キュンならぬ「玉キュン」させるヴィヴィは未永く幸せにしてあげたくなってしまう!!

「ンニヤ♡ ンンツゝゝ♡ まあ♡ マスター♡ ふうん♡ 腰いい♡ にくいって動かすの♡ んくう♡ くひやはああ………♡ いっぱいマスターと気持ち良くなれてるんです♡ ちゆるっ、ぐぢゅっ♡」

処女喪失したばかりなのに、高速グラインドで拘束チンポを起爆させる。

鋼鉄の乙女とは名ばかりに、膣内はぐっしより、ボコボコに蒸気するマグマがチンポを焼き尽くそうとする!

グニ、グニ、ググう♡

チュツ♡ チュチュツ♡ きゅぷるっ♡ ズズズニツ♡

小さな身体で精一杯、背中まで手を回し引つ付いたまま、テクニカルな腰使いにイザヤはメロメロだ! 初めてなのに知識だけを得てしまったヴィヴィは、男の——イザヤのキモチイイ部分が、頭の中で断面図として描けてしまっている。

「チンポがグニグニしてますう♡ 腰をお♡ ぐりぐり回してえ♡ はああ〜うっ、ああああ♡ すごいっ♡ すごいですっセックスうマスターとチンポするのハアアアツ♡ ああああ〜♡ へんになるおかしくなるコントロールできません♡ ふゆうう♡ にゃふああああ♡ 初めてなのにいっぱい♡ 自分からおま

んこしちやってるんです♡　くにやあああああ〜〜〜くうあああああ〜〜〜♡  
♡」

乱れっぷりがどんな女の子よりもスケベ！　本性を防衛プログラムで隠していただけなのか、分からないが一つだけ確かなのは、ヴィヴィを作った何者かはスケベだと言う事だ！

チンポを差し込んだまま、軸にして腰を揺さぶるヒネリを加え、精液の搾取を少しでも早くと目論むヴィヴィ。

イザヤも突き上げているが、ヴィヴィの腰破壊力が高すぎて、ぎぐぐぐ♡　子宮口の中にもまだチンポを入り込ませ身動きを取れなくしてしまった！

「こんな小さい身体なのに俺のチンポ！　子宮で食べちゃうんだねっ！　見た目と違って世界一エツチなポケモンなんだね！」

「わたしはああ♡　マスターの前でだけエツチな子になります♡　誰でもいいんじゃないんです♡　マスターだからイイんですっ♡　はああ♡　中でもっと硬くなってるの感じます♡　わたしもお♡　一緒にイキたいですっ♡　ぎゅっ〜〜〜しててください♡」

言いつつも………ギユウウウウッ！　下半身の感覚が無くなる程の膣圧迫。ヴィヴィ以外で射精は禁止と訴えかけるおまんこ。



しい、です……………」

粘性が非常に太く、濃く、ゴムパッチンを思わせるザーメンブリッジ。Hカップの谷間にも糸引きは残るので、ダブルブリッジだ♡

「ヴィヴィ……………はあ、はあ、少し休もうか？ 俺はまだまだ全然イケ——」

「……………もつと♡ マスターとエッチしたいです♡ わたしの身体使ってください♡」

「甘えん坊なヴィヴィは、M字開脚（エロ蹲踞）姿勢で、中出しおまんこを……………くばあ♡

ゼリー状の膜で内側から固定されているので、流れ落ちる事はありません。奥底で白く濁った物質を見せながら、イザヤに休息いらすの連続エッチオネダリ♡ 断れっこない♡

「ヴィヴィ！ ヤル気満々のステータスが六段階上昇しているだお!!！ フェエ！

フェラチオしてほしい!!！ じゅぼじゅぼ言わせながらヴィヴィの綺麗な顔を下品にさせながらむしゃぶりついて!!！」

「ひゃ……………♡ 恥ずかしいけど頑張りますね♡ チュツ……………♡ も、もう袋の中がズッシリなんですけど♡ 全部出した筈ですのに♡」

「ヴィヴィがエロすぎるから精液無くならないんだよおおお！ 責任取って全抜きし

てー！」

「ハイッ♡ んちゅっ♡ くちちっ、ニユポッ♡ ちゅばぽっ、ちゅう、ちゅ、ぢゅっ

♡ んぼっ♡ グヂユグヂユグヂユッ♡」

どっちもどっち、無敵最強絶倫チンポは空になっても、女の子さえその気であれば小枝から万年樹、すすく伸びた鬼神チンポを魅せ槍させられる。

側面からの優しいキス♡ 血管が写実的なまでに浮かび上がってはビクビクッッ

ッッ♡

「まふひゃーのちんほお♡ ぢゆるっ♡ ぢゅぽぢゅぽッ♡ らえきれいッッふあ

い♡ べひよべひよはへれえ♡ ぢよろろっ♡ ろぢゅじゅッッ♡ ぶぢぢっ♡

ぢゆるッ、ぶぶぶッッッほはああっ♡ ぜんぶ♡ おくちのなかでおねがいしま

す♡ かぶっ♡ スポッ♡ ズヂョッ♡ ブルヂユヂユッッッンポふうう!?

ッッ♡ ぢうううッッッ♡ ぢゅはああ♡ るぐッ、ぐぶぶッ♡」

おっぱいを揉まれながらのジユポフェラ♡

膝立ちヴィヴィは唾液でべっちやべちやになった口内で、舌の裏側と下唇で亀頭を挟み込んで、表面とは異なるザラザラした感触でイザヤを悶えさせている。

「くあああああッ、!?!」

首を振りながらお尻も振る♡



愛液お漏らしで股間を弄りたいが我慢している♡ 視覚でも興奮を煽りに煽る！

エロ知識を満杯にダウンロードさせているヴィヴィは、並列した4つの脳みそ全てがエロで埋め尽くされている♡ エロバーサーカーになったのだ♡

「んぶう♡ ぶほっ♡ ごぎゅうう♡ ヌヂユツ♡ ヌヂユウうううううう♡ ぐばッ、ぐばッ♡」

呼吸器官が存在しないメタグロス。生命維持はコアさえ無事なら永久的に活動が出来るので、喉奥までチンポをねじこんでも全く——問題が無い！ ヴィヴィとならイラマチオだって喜んでシテくれるだろう♡

「んんゝゝゝゝゝゝ♡♡♡♡♡ ぢゆるる、ずずずっ♡ ぬるじゅっ……………♡ んふうう♡ ぐ……………♡ シッ♡ ほわあああ……………♡ りゅうりゅう♡ じえんぶう♡

はあ、はあ、はあ、のみほひまひはあ♡ゝゝゝ♡」  
 ごつてりした精液が食道にまで巣を張っている。

呼吸に問題が無くて、イザヤの想いのこもった苦々しい精液を二気飲みしたのだ、ゴホゴホ嘔吐きそうになってもヤルべき事は変わらない。精液を飲んだら……………おくちチエック♡

「ゴクリッ……………！ ヴィヴィだからこんなに出たんだよっ！ 今度はまたおっぱいで挟んで欲しいな！」

「パ……………♡ パイズリ♡ 縦から失礼します……………♡ むぎゅツ♡ んんっ……………♡ 根元まで挟めなくてごめんなさい……………♡」

ワイシャツを閉じたヴィヴィは、膝立ちすれば丁度チンポに位置する場所に小窓を作り出す、ズリ穴である♡

ぷるんぷるんのパイ実が、圧縮加工されてギツチギチだ！

「いやいや！ 縦パイズリ出来るだけ凄いいおっぱいだよっ!?! ヴィヴィはいい子だ！ 無理難題にも努力してくれるんだもん！ いいこいいこくくく！」

「にううツ♡ にやああ♡ ふにやはあああくくく♡」

ぽにゅん、ぷにゅん、ぽにゅん♡

スポンジ生地のおっぱいが——

ミヂツ、ニユプツ、みちゅんみちゅん♡

水ようかんの中に閉じ込められているようにっ！

「今度カメラも使ってみようね！ パイズリハメ動画、チンポ挟んでるこの下に置いてさ！ 内部構造がよく見えるんだよ！」

「えっ♡ そんなエッチなことお……………♡♡♡ やりましょう♡ マスターがお望みならば♡ わたしもお……………♡♡♡ ひゃ、にやうう♡ おっぱいの奥がくくくコツ

コツされるのイイんですっ♡」

ハメ撮りを知らないとは言わせない、とつくにダウンロード済みなのだから。  
卑猥な言葉とプレイの予約に、興奮したヴィヴィは胸の中心部をグーパンする。

もにゅもにゅもみもみつゝゝゝ♡ チンポマッサージで射精促進♡ 射精管の滞りから精液の残り汁まで、徹底的に搾り取る♡

「ヴィヴィー！ おっぱいも妊娠させるからねっ！」

ギユムギユムおっぱいに骨盤をくつつければ、真横へ歪む♡ ワイシャツが引きちぎれてしまいそうなおっぱい♡

我慢汁がヴィヴィの首元まで飛び散る、イザヤの粘液を受ける度に肩が震える、膣筋から破瓜の色が残る紅いチンポ大好き液を流して、膣内射精の瞬間まで瞬きも禁止だ♡

「ああああうう♡ゝゝゝゝ熱いですっ♡ マスターのいっぱいびゅーびゅーしてる♡ あっ、あうん♡ ニヤひやつ♡ ……♡ ああ、おっぱいがベツタリして……………♡

下の方まではり付いちやつてます……………えへへっ♡」

ハデに乳内射精したイザヤ。乳内からベッドに零れる精液を一瞥し、「上手く出来たんですね♡」と舌ペロしながらガク付くイザヤをおっぱいで支え込むヴィヴィ。

「ニヤ……………はにゃ……………♡ マス、ター……………♡ わたしが上になります♡

ごほーしさせてください♡」

乳内でネバ付くザーメンブリッジを、暫し見つめていたヴィヴィ。「この精液が自

分の膣内に入っている」……………妄想すればまた欲しくなってしまう。

「ヴィヴィは自分から動くのが好きなのかなあ？ 色々な体位試してみようね！」

「ハイイ……………後ろからとか真横からも いっぱいセックスして中出しされた

いです♡ ……………ふにやああああ♡ またあ♡ 大好きチンポ戻って来まし

たあ♡♡ 上も下もお♡ お口から涎出ちやつてます♡ ふんっ♡ んきやあああ♡

あああああ……………♡ うああああ……………♡ おつきすぎてえ♡ しきゅーやぶけ

ちやいそうです♡ ふやああああ♡ くにう♡ んんうう……………んああああチン

ポお♡ マスターのチンポにごほーしするのすきい♡」

騎乗位でぼよんぼよん♡ 重力に囚われず軽やかでありながら、大迫力の乳揺れを真

下から拝む特等席！

ツインテールが乱れ狂い、ヴィヴィのロリアクメボイスもパンツパンツ♡♡

エッチな水音が弾けまくって殆ど聞こえない♡ ラブ握りは忘れずに、エロ蹲踞のま

まお尻だけを打ち付けるヴィヴィは、愛欲と性欲だけに従順な女の子だ。

「まふひやお♡ うああああ……………♡ ふくりやんできへまふっ♡ ぷくぷく

ひえ♡ うひやああ♡ まゆひやああ♡ ……………りやめえええ……………♡

えっひなこひよずっひたいい……………ニヤ♡ にやああいにあああ……………

……………♡♡ しいよれしやれひやら♡ おみやんこふわふわ♡ ひいいにやああ

♡ あああん♡♡♡

ブチヨツ……………！ ピュグピュグッ！

腹部、ちょうど繋がっている場所を指圧され、堪えようのない快楽を与えられた  
ヴィヴィは、強制的に首を後ろ倒れさせる衝撃を与えられ、イッてしまった。

後を追うようにイザヤも膣内射精、どくつ、どつくん……………生命の鼓動が集う、俺  
の子を産めと再び精液の塊が巣作りする♡

「はぁーはぁーあああ……………♡ いっぱい♡ マスターの……………  
はぁ、はぁ、ありがとうございます……………♡」

やはり精液は逆流しなかった。腹上で倒れ込んだヴィヴィを撫でるだけで、彼女は小  
刻みに身を振らせる、それだけでイッてしまっているらしい。

「ああ、搾られてる……………好きだよヴィヴィ、好きって気持ちに場所も時間も関係ない  
よね！」

「……………♡ マスター、す……………スキ、デス……………♡♡♡♡  
♡♡」

「……………ふっ、中出しセックスしたのにそれは恥ずかしいんだ！ ヴィヴィは可愛い  
なあ、よしよし」

「にゃくつ、んにゃ……………♡ マ、マスター♡ ずっと一緒に……………居てください♡」

鳥の雛は最初に見た者を親と思い込むが、彼女はセックスを通じてイザヤを おやだと認めたのだ。セックスは全てを解決する！

「マスター……………♡♡♡♡♡ もつとなでてください……………♡♡」

「撫でるだけでイッチやうし、キスだけでトロトロになっちゃうヴィヴィが好きだよ！」

「……………♡♡ いいですもん♡ エッチになるのはマスターと二人きりの時だ

けですもん♡ ふにや、にやああああ……………♡♡」

布団に包まりながら抱きしめ合う二人、イチャラブな空間過ぎて盗聴器が壊れてしま  
うアクシデント。

「ふう〜くん、結構あつさり堕ちましたわねえ、あのメタグロス。ヘアツハツハツハ

……………わたくしの新発明の実験台になつてもらいましょう、この薬を飲ませればあ

……………ヘアハハハッ！ まずはイザヤにくれてやりましょうか！ 大好きなマス

ターが三人に増える……………あのメタグロスはどんなエッチで応えてくれるのかし

らあ♡」

虹色の魔女は砂糖と練乳と蜂蜜と綿飴を混ぜ合わせたような、クソ甘い会話を途中ま  
で聞きながらオナニーしていた。

面白い遊び道具を得たと、Jカップの谷間に薬瓶を挟み込んで奇妙に高笑いする。

エッチな（ご褒美な）災難が鋼鉄少女を戦慄させる——25cmが三本、75cmものチ

ンポを前にして、彼女は耐えられるのだろうか、乞うご期待。

## エッチな蒼鋼少女の場合—4

「ヴィヴィ！ ひかりのかべ！」

「その攻撃は想定範囲内です」

強靱！

「ヴィヴィ！ ラスターカノン！」

「白銀の砲撃を受けなさい」

無敵！

「トドメのコメットパンチだ！」

「解き放つ、蒼穹の尾！」

最強！

「粉碎！ 玉砕っ！ 大喝采いいいいいいフハハハハハハッ！ ヴィヴィー強いぞー！ カッコいいぞー！ 可愛いぞー！ おっぱいデカイぞー！ ワハハハハハハハハハハハハッ！！！」

メタグロスは全ポケモン中でも、屈指の実力を誇る。

鋼の頑強さとエスパーの聡明さが一つとなり、最強に見える、実際最強でありトレー



ナーバトルを40戦こなししたが、全てにおいて楽勝であった。

ちなみに、戦った相手が雑魚だったのではない、名のあるエリートトレーナーばかりだったが、蒼き鋼のロリ巨乳少女と、究極性豪神の絶望的なまでに絶対的な超絶的なコンビの前には、レベル1のキャタピー程度でしか無かった、相手にならない。

「強すぎィ!? ヴィヴィは最高のポケモンだぜっ! いいこいいこ〜〜!」

「ふ、うん……………♪ マスターに褒めて貰いたいから……………頑張っちゃいました……………! ふあ、はああ……………んん、もつと、撫でてください、いっぱい甘えちゃいます、んにう……………♪」

バトル時は尻尻が一mmたりとも動きを見せなかったのに、おっぱいはぐわんぐわんの、ポヨンポヨン揺さぶられていた。ブラジャーが千切れないか心配になるミチミチの乳袋も下側から持ち上げながら、ニャンコヴィヴィの耳を愛撫する。

「ニヤわああ、っ。」

「あはは、ヴィヴィは全身性感体だからなあ」

「そんな事……………無いです……………」

「本当かな?」

「ほ、本当ですっ! まるでマスターとエッチしたい子みたいじゃないですかっ!」

「今の言葉忘れないからね?」

「……………はっ、ハイッ、わたしはエッチじゃないですもん、マスターに甘えたいだけでして……………くによっ、ふっ♪」

対戦相手がまだその場に残っているのだが、イチャ付く二人の視界には入っていない。

……………童貞には刺激が強すぎたらしく、ヴィヴィの背筋や太ももに手を這わせているイザヤに「リア充死ね」と吐き捨てるも、雄の本能は正直であり……………ズボン越しに勃起チンポを扱き泣いていた。

(マスターにぎゅっ~~~~~~~~ふあああ……………きもちい、です……………しあわせ……………♡)

クールで事務的な態度も、イザヤにだけはデレッデレ。嫁として将来は子たくさん夫婦になるつもりだ♡

「ふやああああああ♡♡ マスター♡♡ マスター♡♡ マスター♡♡ もつと強く♡♡  
ギュー~~~~しててください♡♡ マスターと繋がっていないと寂しくて死んで  
しまいます♡♡ ふにやハアアアン~~~~ツ~~~~♡♡♡♡♡♡」  
パチユツ、パチユツ、ズヂユズヂユツ、ズヌヌルルツ♡

近辺のラブホテルにて、ラブ握り中出し子作りセックスを求めてくるヴィヴィに応じて、両脚を大きく広げた正常位でチンポを、寂しがり屋の甘えたがりツインテール子の「くぼみ」へネジ込みまくる！

マスターとの膣内接触を覚えてしまったヴィヴィは、大量に仕入れてきたエロ知識を駆使してバトルが終われば、必ずセックスお誘いをしてきてくれる！ 自身のスカート内へ指先を触れさせながら！

「わたしはエッチじゃない！ あれれ？ おまんこ触らせて来たエッチな子は誰だったっけ〜？ 俺がこの瞬間にもっ、ハア、ハア！ ラブ握り責めしてる子がオネダリしてくるからでしよ〜〜〜！」

「意地悪言わないでくださいいい〜♡♡ マスター大好き♡♡ いっぱい抱きしめられたりパンパン打ち付けられたり♡♡ にやくううツ♡ 触れ合っていると安心するんですっ♡ はっ〜♡ はああ〜♡ そっ♡ そこ弱いですがああ〜♡ うううう〜♡ マスター♡ マスター♡ わたしっ、もっ、♡ ふゆううん♡ ななめからちんぽクルのすごおおっあああああ♡ あっ〜♡♡」

パイズリは既に3回執行済みなので、他の部位と比べて過剰な装甲が盛られているHカップの谷間からはドロオ……………♡ 精液ブリッジが糸を引いているままだ♡

首までテツカテカにマーキング♡

ヴィヴィのフォルムは○学生のそれである、胸を除いて。

かなりアンバランスな体格になっているが、ロリ巨乳は未発達部位が多いから股間にクル、女性の象徴で子作りには欠かせぬおっぱいだけボイ~~~~ンなエロス、大人用のブラジャーも窮屈だとかけしからなので、毎朝パイズリ一番搾りおっぱいセックスをモーニングコール代わりにしている。

(わたしの身体をもつと♡ 使わせてください♡ わたしはマスターのポケモンです、わたしの身体もマスターの物ですから♡)

不格好と判定していたロリ巨乳な自分に、大変な魅力を感じて股間を膨らませている、例えばザヤの性癖が周りと逸脱していたとしても、好きになってくれる味が一人でも居ると暖かく想う、永遠の婿 として他の男は受け付けられないおまんことセックス！

「ヴィヴィ！ 中出しスルからね！ 止めてって言われても受精させるっ！ おっぱいとおまんこから精液逆流させるんだあぁっ!!」

「ましゆたあぁぁ♡ ふにやニヤニヤア♡アアア~~~~♡♡♡ く~~~~♡♡♡ んんん~~~~♡♡♡」

恥骨が真つ二つになりそうな速度、ヴィヴィは優しくまったりしたセックスも、激し

性欲任せのセックスも、どっちも大好き♡

「ニャう……………ふああ……………ハッ、んっ、ふうう♡ ふっ………はっ、ふううー、はあ……………っ♡ マスターとするエッチなこと♡ なんでも……………すきです♡♡」

「ほお……………っ♡

「はあ、はあ、ああ、ん♡ おまんこにもマスターのがあ♡ 谷間と同時に逆流してますよお……………♡」

ファーストエッチでは興奮のあまり、精液粘度が高くなりすぎていたイザヤ。初貫通で膣内が出し慣れしていなかったヴィヴィ。

とろ〜り♡ 奥から女にされた「証」を見せ付けられるまでに、セックスを繰り返して来たのだ。毎日最低でも30回中出し！ 大半がヴィヴィからのお誘いなのだから、やっぱり彼女はスケベなのだ！

「ああああ、ダメだよヴィヴィ！ そんなエッチな姿見せられたら——もう一戦したくなるじゃん！ 今度は後ろからねっ！」

「にゃはあああ〜〜〜あああ♡ じゅぽじゅぽ♡ はお♡ あああ〜〜〜つ〜〜〜♡ おっ♡ ツのほおおおっ♡〜〜〜♡ まふひやめっへええつ〜〜♡ んくうう♡ あああああ♡ しゅぐイツひやらああ♡ あ♡ ンギううう♡

ハアアアア~~~~♡ ん。お。オオ。う。♡ ほウ。りゆうううツツ♡♡」

お尻を硬く、キツく掴み取られたヴィヴィが反応する間も与えられずに、装着できるサイズのコンドームが市販されず、特別サイズを制作して貰っても数回のピストンで破れてしまう、鬼をも殺す2.5cmをバック挿入されてしまう♡

粘膜が再び出主の体内へ引つ込む♡ 伸びる♡ また戻る♡

ヴィヴィのデコボコさんどうは（チンポにとつて刺激が強く狭い的な意味で）険しい！ おっぱいおおいから、後ろから突かれていてもプルンプルン♡ 主人公の

風格たるHカップがアメリカンクラッカーするので、惚れた男がブラジャー代わりに縛りあげなければならぬ♡ それも爪を立てて乳首を摘まんで♡ イザヤだけに責められ虐められたい♡ 悦びの悲鳴を上げるロリ巨ボディ♡ 気持ち良ければ何だつて許してくれるヴィヴィは快樂に弱い♡

「くあ……………ッ！ ガリガリに削れちまうぜチンポがよお！ ヴィヴィー！ キミはエッチが過ぎるんだっ！ 俺が腰痛くなつても自分からグワングワン動かしてきちゃつて！ 中出し交尾にハマり過ぎでしょう!？」

「はぁーっ♡ イイイーっ♡ しゅごツ♡ イイイーっ♡~~~~  
まふひやえつちしゅきイイ~~~~♡ おううううツ♡ によひお♡ おおお  
お。お。~~~~♡」

「美少女台無しなアクメ顔でえ！ 連続イキしおつてからにい！ そんなヴィヴィも大好きだからね！ キスしただけでイッちやうんだもんねっ！ はぁーあぁあぁっ!! 俺もイク！ 何処に精子出して欲しいか言ってみてヴィヴィー！」

「おくれひゅっ！ おまんこのおふう♡ イク……………イク♡ イク♡ まふひゃのちんぽれえイク♡ イク♡ イクッ♡ なまえっひこぢゅくりこうびいゝゝゝしゅごしゅきくれええイツひゃあ♡ イッゝゝゝゝ♡ ふうおおオッああああんっ♡ゝゝゝゝゝゝ♡」

前屈みになればミニスカートに浮かび上がる、採れ立て新鮮な桃と酷似するお尻♡大きく揺さぶった玉袋をクリトリスにぶつけながら、お尻の形が歪む！ 興奮材料がいわなだれの如く降り注ぐ！ 限界膣内射精で種付けは完了だ♡

「んっ……………♡ んぁ……………はぁ♡ んっ……………ゝゝゝ♡ はっ、はぁにやくう……………♡ ましたぁ♡ はぁ、はぁ、いっぱい、おなかたぼたぼですっ……………ゝゝゝ♡」

射精中のチンポが脈動するだけで、カ리를挟み込んでいる膣壁がビクッ、ピクンッ♡ 緩急が忙しい♡

「ふやつ♡ マスター撫でてくださいゝゝゝ♡ 幸せですっ……………♡♡♡ ちゅるぢゅぢゅっゝゝ♡ ぢゅぶッ、もむっ……………♡ゝゝゝんぶふううゝゝゝ♡♡





る。セックスから始まる恋でもいいじゃない！

「セックスしまくりで回路が壊れちやつたんじゃ……………大変だあ！　パイズリ修復だぞヴィヴィー！」

「分かりました♡　んぢゅつ、ぢゅつ♡　ぢゆるんつ♡　おつふあいほおふひえへ♡　ぎひぎひちんほごほーひしまひゅつ♡」

得意になったパイズリフェラ♡　崩れやすく取り扱い注意なプリンおっぱい♡　ワ  
イシャツの皺が集中線を描いている♡　触って揉んで挟まないとか……………インポだ  
！

メカなのに性欲が強すぎてしまうヴィヴィ、マスター大好き好き好きモードはつまり  
発情、キスだけでモードチェンジするとか緩い条件だ。

ラブホテルから脱出したのは深夜、休日で良かったとしか言えない。

ヴィヴィとしつぽりネットリ、一日中中出しセックスを楽しんでいたことになる♡

翌日……………朝パイズリ抜きでかるくくく三回、盛りスイッチがオンになったヴィ  
ヴィが「外してください♡」とフロントホックをズイズイ、頭の上に乗せてくるから

……遅刻寸前の8回腔内射精で、ヴィヴィは先程まで痙攣逆流してしまっていた♡

「ヴィヴィさん♪ 少しよろしいですか？」

「あなたは……アバリエルさん、でしたよね？」

「ヘアツハツハツハツ！ アリーで構いませんわよ」

イザヤの温もりが残っている、正午前。

マスターの為に負けたくないヴィヴィは、目を瞑りながらバトルのシミュレーションを行っていた。——夜のバトルは全敗してしまうし、実践を今夜もたくさんして貰うからいいのだ♡

七色ボイスが後方から響いてくる、絵に描いたような男の理想のむっちゃんムチムチボディ、下着が見えてもお構いなしのふざけたスカート丈は、ヴィヴィといい勝負だ。

イザヤの布団でお昼寝（身体を胎児姿勢に丸める、カワイイ）しようと眼を擦れば、現れていたのが擬人化スターミー。

「何かご用件があるのでしようか？」

「ええ、ヴィヴィさん？ あなたはマスター、イザヤが大好きなのですね。トロンやルーシャのそれとは、別のニュアンスも多分に含まれておりますけど」

正直、トロンには心を開きつつあるのだが、他の三名、道化師に神様に魔女と、ひじょくくききな臭い連中達とは、殆ど会話をしていない。



やるのか？ 手甲を取り出しながら身構えるヴィヴィ。喧嘩っ早く思われてしまうけど、手持ちで唯一肉体だけを求め、精神的な安らぎを求めない、爆乳眼帯魔女は日頃からイザヤ以外の男性をたぶらかし、路地裏とは言え堂々と野外交尾をしまくっているのだ。イザヤ以外の男と平気でエッチする彼女をヴィヴィは仲間と思えないのだ。

「へアハハハハッ……そう怒らないでくださいな、わたくしの性活はどうだつていいのです、ハイッ、魔女からのプレゼントです」

ぼにゆんっ♡ 数億もの男性を奈落へ引きずり込んで、パイズリしてきた谷間に細長くくひんやりした手コキを実現させる指を突っ込ませ、「どうして乳圧で壊れないのか？」疑問となる小瓶を取り出した。

「いいですか？ イザヤに口移しで飲ませてくださいね？ さすればあなたの理想が一つ叶うでしょう……へアー……ハッハッハッ！ 人助けのポケ助け！ もおつと気持ちいいエッチ、してみたいですわよね？」

「……………っ！ こっつ、こんな怪しいモノ……………！」

「信じるかはお任せしますけどね、当分同じ物は作れないとだけ伝えておきましょう。投げて壊すのは勝手ですけどね、ヘアッハッハッ！」

振りかざすヴィヴィの右手を、谷間で挟み込んでを静止させながら、コアとなつている虹色に煌めく眼帯を抑えながら、言うだけ言つて満足したと星形の台座に乗つたま

ま、彼女のラボへ戻っていった。

「これを飲ませれば……………もつと気持ちよくマスターと……………」

猛毒である可能性、は無いだろう。イザヤを殺せば計り知れない損傷になってしまう、世界中の擬人化美少女達がアリーを殺しに来るだろうから……………」

「媚薬か何かでしょうか？ マスターはそのような小細工を必要としない性欲の持ち主なのですが♡ 朝もあんなに……………出せば出すだけせーえき、濃くてえ……………やんツ♡ つー……………♡ マスター……………ギユツてされたいですつ、マスターのチンポおしやぶりたいです♡ おっぱいで包んであげたいです♡ 中出しもいっぱい……………赤ちゃん産みたいです♡ はあ、はっ、はっ、はあっ！ あああん♡」

セルフでスイッチを押しってしまったらしい。

だがヴィヴィはエロい！ じゃなくて、ヴィヴィは偉い！ オナるのを我慢して黒い紐パンをぐっしよりさせながらも、イザヤに可愛がって貰うまで堪えているのだから！ 「はあ、はあ、ナニが起こるのでしようか……………とつても綺麗な萌葱色の液体……………」

アリーを信用した訳では無いが、発情ヴィヴィはすっかり飲ませる事前提になっている。

例え効果が現れずとも、勝手に変な液体を飲ませたオシオキとして、虐められピスト

ンされればいいやあと………♡ 外見14歳、起動してから〇〇日のロリ巨乳ツイン  
テ美少女は、手持ちの誰よりもエッチだ。

「マスター♡ ちゅつ~~~~~~~~して下さい♡♡」

「ヴィヴィ~~~~♡♡♡ いつも以上に甘えてくるなあ♡ チュツ~~~~」

イザヤまで「♡」を付けちゃう、玄関でお迎えしてくれているだけでも萌える、チ  
ンポの先っぽから孕ませ原液を早漏させながら、ご飯とお風呂を特急で済ます。

ベッドイン♡ 他の手持ち達は空気を読んでくれたのか、外食に出かけているので朝  
までセックス！ ヴィヴィとだけセックス！

今夜は中出し何回で、き、る、か、な♡

「ぐちゅあ♡ ちゅぐつちゅぐるう♡ んやはあ♡ ますたーすきい♡ ちゅりゆるう  
~~~~♡ ちゅつ、ちゅつ、んりゆう♡」

飛びかかるようにハグをする。ツインテールの毛先をイザヤの腕に巻いて、逃げられ
なくする髪のアプ握り♡

唾液を絡めまくって互いの股間を弄る、カリ溝や裏筋に一指し指の爪が引っかかる、

チンポと共にブレイクダンス、止められないし止められない、エッチする雰囲気は消散しつつあったが、震えが収まった。

——突如、イザヤの身体が虹色の光に包まれる！

「……………？ マスターが……………三人につ……………♡♡」

「「ちよつｗｗｗｗｗｗ 俺のチンポデケエ!!!」」

全く同じ声に外見に……………チンポ！

合計で75cmのブツが前方から、左右からにじり寄りつつ軽口を叩いているのは『イ

ザヤとイザヤとイザヤ』

（へアハツハツハツ！ 大成功ですわねえ！ 対象を増殖させる薬でしたのよっ！

ヴィヴィさんのだあくくくくいすきなイザヤもチンポも三倍！ 分裂ではありません増殖ですわっ！ 何一つ力は失われてありません♡ アリーは両手に竿でも眺めながらオナニーしますわ♡ へアツハツハツハツ……………♡♡）

エツチな蒼鋼少女の場合―5

「どうしたヴィヴィ？ 大好きな俺のチンポが3本もあるんだぞっ!? 食らい付いても無くならない、ザーメン食べ放題だよっ！」

「突然増えたからびつくりしてるのかな？ むふふつ、飛び退いた反動でぼよんぼよんするおっぱい！」

「何時見てもいいよなあ！ ――なあ、俺と俺？」

「だよなwwwwww」

*注意、通常時でも無限大な精力なので、食べ放題です。

密かな夢であった、一人でも充分以上に愛してくれるマスターが、複数人居たらどうなってしまうのだろうか………と♡

ポケモンであるなら些細な現象（かげぶんしんなど）だが、イザヤは精力とチンポの大きさ以外は、れっきとした18歳の男性である。

「マスターが♡ 三人に………♡ はわああつ、大きくて太くて………硬くつてえ

♡ 私を気持ち良くイカせてくれるチンポお………♡ 三本もあるう♡

はあーはあーっ♡ で、でも………これって浮気になってしまうのでは………

「？」

すっかりメスになってしまった、ブレザーベストのボタンが弾け飛びそうな、Hの93ダブルボインの持ち主であるヴィヴィ。鋼タイプなのはバトルだけ、触ったら柔っこくて力加減を間違えたら壊れてしまいそうな細さ、キュートでとっても強い彼女は、今すぐにでもホコホコと湯気が上がりそうなくらい充血し、ミミズ腫れをお越し兼ねない血管の蠢く25cmを舐めしやぶりたい！

……………だが律儀なヴィヴィは、どのチンポが本物で、残った2本が増殖した物なのか？ 並列頭脳でサーチをしても全く判別が出来ないのだ。

「そんな事を気にしてたの？ もぉ〜可愛いなあ！ 浮気なんて思うわけ無いじゃん！」

「……………えっ……………♡」

正面のイザヤが下乳をゆったり、揉みしだく。

おっぱいに馴染む感触、紛れもなくイザヤだ！ 揉まれただけで膣キュンするなどイザヤ以外ではありえないのだから！

「判別不能ってそりゃそーでしょ！ 俺ら皆『イザヤ』何だから！ ほらっ、チンポをよ

く見て？ ヴィヴィと毎日種付けラブ交尾してるチンポでしょ？ 他の2本も同じ、俺

のチンポだよ」

「ふあ、あああつ♡ ほ、本当にい、浮気にならないんですか……………う？♡」

右側のイザヤがヴィヴィの肩を掴み、自らの25cmを握らせてくる。……………この

感触つ、やつぱり毎日おしやぶりして、挟み抜き、膣内射精してくれるイザヤの物つ！

「増えた原因なんて、まあ、どーでもいいのよ。ヴィヴィが満足してくれるんならいくらでも増えてあげるよ！ はいっ、両手にチンポだよっ！ ずっとこうしたかったんではよ？ エッチだなあヴィヴィ！」

「はっー！ はあああつん♡ ふーっ♡ ふーっ♡ そ、そうですね♡ この3本のチンポ、わたしのマスターの物です♡ 全部、全部っ♡ 三人とも大好きなマスターだからあ♡」

「そう！ だから……………ね？ フェラしながら両手シコシコしたっていいのよ？」
てっぺきガードの おんなのこも形無しである。

左側のイザヤも猛々しいミアレタワー、どう考えてもずる剥け無敵チンポです。我慢汁の匂いも全て同じ、最強性豪主人公は100ある力を3つに分けたのではなく、100のまま3つに増えたのだ！

「ジュポツ♡ んぽふうううッー♡♡ れぢゅぢゅうーっ♡ はもおおおっ♡ まふひやーのちんほお♡ いっふあい♡ ぢゅうくくくするっ、ずずずずずくく

くぐれぐつん♡ はあ~~~~はあ~~~~はあ~~~~♡ マスターのチンポ大好き♡ むぢゅつ、んぢゅつ、ぢゅぶぶツ♡ わらひれきもひよふなっへくらひゃい♡」

もうっ——我慢しなくて良い！

優先度+9、小柄のヴィヴィはメタグロス種の平均素早さを軽く越えているが、さらに音よりも早くまずは、正面の膨張性棒にパクリついた！

お口いっぱい頬張って、マスター以外には絶対見せないちよ~~~~下品なフェラ顔！

鼻の下を伸ばし、唇を口内へ折りたたむようにすれば、歯でチンポを痛める危険性は無くなる。合理的なヴィヴィらしい判断、それがとてつもなくエロいと指摘されたつて、じゅ~~~~♡ ず~~~~♡ 蕎麦やラーメンを豪快に啜る音を、チンポで鳴らしながら首を振る！ 舌を裏筋まで伸ばしながら固定する！ 視線はずっとマスターと！

「ハイッ！ ヴィヴィの超絶フェラ顔の完成でうううっ！ いいぞっ、もつとがっついて！ チンポは逃げないどころか3本もあるからねwww」

「手コキも忘れないでねー！ はああ~~~~極楽だあ、フェラは激しく手コキはゆつくり、器用だなあヴィヴィは！」

「あっ、あっ……………ひんやりな手が熱っ……………！ チンポに囲まれて興奮しすぎだ

ぞーヴィヴィー！」

（んんっくくくく） マスターのチンポお♡ おしやぶりしながらシコシコ♡ 両側から先走りのみずでっぽう♡ またとないかも知れないチャンスですっ♡ 合意ラブラブ輪姦♡くくくく♡ はぁーはぁー♡ 右側のチンポも♡）

射精欲がアガつて来た正面のイザヤは、休憩も兼ねて右側のイザヤとポジションチェンジ。

「ほむううッ♡ んむぢゅぢゅっ♡ ぢゅほっーぢゅほーっ♡くくくぶぎゅッ♡
ぶむッ、ううう♡ ペへやあぁ……………♡ ビクビクしてきましたぁ♡ おくちにだしますかぁ?♡」

「さっすが……………!! おしやぶり上手な子だなあヨシヨシ! 前立腺がすーぐムカつくのもヴィヴィイがエロ可愛いからなんだぞっ! 自覚ある? あらゆる仕草が俺を誘惑してるって!」

「ぢゅぱッ、ぢゆるッ、づづっ、ぢゆるるズズッ、ちゅぱちゅぱッ♡ あいまひゅ♡ まひゅたーひよえっひしゆりゆのらいしゆきらふっ♡ じゅぽ! じゅうううくくッ! ふむうう♡ あかひゃん♡ うみひやくへウズウズしひゃってまふっ……………♡」

フェエラされたばかりの右イザヤは、気合いの入りまくった子作り懇願お口奉仕にメロ

メロ、カリ首が歯の裏側を抉ってヴィヴィは息苦しそうに深紅の瞳を瞑ってしまうがお股のモジモジは増すばかり。酸素供給を行わずとも稼働できるヴィヴィでも、25cmはえずいてしまう巨大さなのだ♡ それでも根元から袋まで舌を往復させ、テカテカにする健気さに心を打たれる……………♡

「ん〜？ なら俺がイジってあげよつか！ フェラなら後でヤツてくれればいいから気にしないでね！ ヴィヴィが気持ち良くなればオールオッケーさ！」

「むむ、ううーううーッ、うううう、まふひゃーしよれはああ……………」
ぢゆる、んッ♡ んッ♡ んみゆうううッ♡♡

口でしゃぶって、手で扱いて、パイパンロリまんこを弄られる、全て同時進行！ 最高だつ……………イク間際の背筋硬直、蕩けきつたヴィヴィは陰毛が絡んでいようが亀頭を刺激し、自ら息の根を止める勢いで喉奥まで迎え入れる。

「んあああつ♡ んおおつ♡ んっ〜♡ あああああ〜♡ んぎゅあああ♡
♡ あ、ううううううッ」

クリトリスを人指しと親指でこね回され、ヴィヴィがイッた同タイミングで口内と右側の髪へ激量射精。

ヴィヴィの綺麗な蒼髪が、秒単位で雪景色になっていく。口内にも雪崩が詰め込まれヴィヴィでなかったら、本当に殺人事件になってしまっていた。イザヤも大興奮してい

たのだ♡

「ぶひゃ、うう……………♡　ング、あう♡　マスターのチンポ凄いです♡♡　はっーはっー………あのっ、おまんこを弄ってくださいったマスター……………♡　あなたにパイズリしたいです♡　膝の上に乗ってください♡♡」

「マジ??　何だかんだで他の二人が気持ち良くぶっかけてるの見ててさ、俺もヴィヴィにご奉仕されたくてたまんねーんだっ！　乳内を俺で染めちやうね！　えいっ！」

言うが早い、ブレザーを前開きさせていたヴィヴィは、割れ物注意の立て札を胸に引っかけたい……………たっ、ぶん♡

そしてブラジャーをストトン♡　後ろに回ったイザヤが黒ブラを枕代わりにしたり、帽子として被ったり遊んでいる。身体は小さいのにデカくてエロいブラを付けてるヴィヴィは、欲情を抑えきれぬ訳が無い。

「ああああ……………♡　マスターのご立派すぎます♡　わたしのおっぱいで挟んでも飛び出ちやって♡♡　ん、ペロペロツ……………♡　ふわふわですか？　好きな時に挿射してくださいね♡」

「くオオオオオ!!　やつばヴィヴィと言えばパイズリだなっ!!　バッキバキに膨れ上がったチンポを、デッカくて柔らかいおっぱいでガッツリ挟み込む!!!」

「チンポ挟んでる真ん中が、括れるから砂時計型になるんだよwwww　俺のチンポ舐め

る？ うおつ、言葉よりも行動でつてか！ あつ、あつ……………いいよつ、カリ溝ほじほじ……………気持ちいいよヴィヴィ……………」

「おいおいw 折角チンポが3本になったんだぜ、同時乳内挿入せずしてパイズリは語れないだろおくくwww 二番乗りい〜！」

ギツチン♡ ヴィヴィもイザヤも初体験の、チンポ2本刺しパイズリ♡

他の野郎が介入するなど許せないイザヤ、女の子は複数居てもOKだが自分以外の野郎は邪魔になる、冥界の彼方へ葬られてしまう。

ヴィヴィもマスター以外のチンポを挟むのは考えたくも無いので、本来なら実現はしない光景だ♡ 全部マスターのだからイイのです！

「んや、うツ♡ ち、乳首そんなにやに引つ張つたらあ♡♡ はあーはあー♡ わたし、凄いいエッチです♡ 2本チンポパイズリしちゃってます♡♡ ひ、にゃん♡ お、おっぱいの内側あ♡ 左右のカリ首でゴリゴリしやれ……………♡♡ はキュ、ンツ♡」

ぐっぼんっ、がっぼんっ♡ 谷間から同じ形状で同じ硬さで同じ持ち主のチンポが、亀頭隠れんぼ♡ 縦面積は（チンポがあまりに人外なので仕方ないが）包みきれずとも、横面積はHカップというサイズの暴力でエアバッグのように受け止める。

斜めへおっぱいを交互に動かす、ヴィヴィ得意のネジリこみエレベーターパイズリ♡
1本がカリ裏を持ち上げられ、1本は根元を圧迫される♡

時折「どつちにしようかな♡」と迷いながら、おっぱいを動かしながらお口でもキャッチ♡ 陰毛までムシヤムシヤしながら、2本同時に啞え込む事もあるのでイザヤも気がヌケない!

「俺は髪コキしちやおーかな! 毛根まで精子漬けにしちやうけどいいよねっ!? ヴィヴィは汚したい、好き過ぎるからぐちよぐちよにしたくなっちゃう!」

「どうぞ♡ わたしの身体使ってください♡ マスターの精液全身で受け止めますから♡ んっ、んはあ♡ はーあ、あっ、あ♡」

数多くあるヴィヴィの特徴の1つ、ポリウムあるツインテールをチンポへ巻き巻き♡ 女の命で尿道を擦って、ミゾに引っかけたり我慢汁をキューティクルのように浸透させる。

至宝の髪を汚されているのに、彼女はおっぱいをツンのめさせ軽いアクメ。髪だけでイッてしまう……相当開発されたがイザヤの経験歴の中でも異例だ、それだけヴィヴィがエロエロという結論だ♡

「はっーはっー♡ ちゅぶ、ぢゅぶぶっ♡ んぶりゅっ♡ はうう♡ チンポ♡
おいしいですっ♡ ちゅるっ! ぢゅっ、ぐうぐうっ♡」

「俺もーっ! むきゅむきゅ絶乳圧パイズリ好きー幸せっ! 一本ずつ舐めるんじやなくて同時におしやぶりしちやうヴィヴィエッ口お!」

「くおおおおっ！ 乳肉が手の隙間からハミ出るっ！ すんげーデッカ！ やっぱヴィヴィのおっぱい最高だぜっ！」

みっち♡ みっちゅっ♡ むっぽんっ♡ たぷぽっ♡ ふにゅふにゅっ♡ もぷんっ♡ ……………！ ドグッ——

「あああつ！ 俺もっ、イクっ！！ 白髪にするぞーヴィヴィ！！」

「んにゃああああつ~~~~♡♡♡ わらひもイツひやいまっ、……………ツーン、~~~~あ、くうう、ふにやうううう♡♡」

素晴らしいことに、射精快感も三倍であった……………ッ！

右上、右下、左下、無敵の射精が三連続、鋼タイプでもドロッドロに溶かす終末の使者となれるだけのホワイトアウト——ひとたまりも無い、しかしっ、中心で少女はイキながら耐えていた。

「んあ……………あひう♡ 髪もおっぱいもお……………♡ はあ……………っ、はあ……………んんっ♡ に、妊娠しちやいますよお……………♡」

バケツ何杯分の精液を集中砲火されたのだろうか……………見るも恐ろしい光景であるのに、ヴィヴィはまだ足りないしイザヤも陰囊がムカつきっぱなしだ！

「おおお~~~~シッ！ セックスだ、膣内射精だ！ イチャラブ4P交尾で孕んで貰うぞヴィヴィ！」

「今日はお尻の穴も開発しちやおつか？ アナルセックス久しぶり……………」

「んじや俺はパイズリしてもらおーかなつ！ 俺と俺が出した精液でニチャニチャしてつから滑りやすいけどさ、ヴィヴィならガツツリ挟める質量をお持ちでしょwwww」

お尻……………?!? ついに貫通されてしまう、戦慄するヴィヴィであるが既にイザヤが……………にゅぽつ、くぽあ♡

(あうう♡ おまんことお尻い♡ 両方広げられちゃってます……………♡ アブノーマルですのにつ、拒めない、拒みたくない♡ わたしの初めて全部マスターに……………♡)

手持ちの中ではヴィヴィは到って健全なプレイだけで構成されていた。せいぜい野外でエッチしたくらい、その程度イツシユでは珍しくないのでイツシユ基準では、恋人や夫婦との交わりを欠かしていないと評価され、トレーナー活動報告書に「○○と夜の公園で立ちバックを7回、騎乗位を10回、パイズリを22回しました」と記入していれば、子作り先進国イツシユへ多大な貢献を果たしていると、表彰されるのだ！ イザヤは毎月当たり前の様に表彰されるは、手持ちとのセックスを包み隠さず報告しているので大忙しだ！（ギラティナさんだけは除く）

「よお、いしよおおつ！ ウゝヌゝあゝ」

「すっげ……………俺のチンポとチンポが濃厚接触つ?!? 亀頭の感触がおまんこ皮一枚w

w w」

マラガツチガチのダブルバトル♡ 経験豊富になってしまったのに未経験♡ お尻とおまんこ同時挿入で声も上げられずヴィヴィはアクメダウン♡ 思考もメルトダウン♡

「カハツ♡ ウアツ!!? アアア~~~~ツ!!?♡ ケホツ、コホお♡ いいい、いじようじたいはっせい♡ しようふかのうなきかんにはいつへえ♡ しまひまひりやあつー♡ んんっ、うおあゝあゝっ、ー~~~~にゅっ、うあゝあふう、うっ♡♡♡りやめっ♡ おひりもまふひやーのちんほおぼえへひまいまひゅっ♡ りやふうーっ♡ ひゅふうううっ♡!!? おひりえっひっ♡ どんどんひろがっへ♡ くらうう~~~~りやああつー♡ いう♡ んりやあっ♡」

内側が（セックス的な意味で）脆いヴィヴィは、子宮をプッシングされるだけでも絶しかねないのに、お尻の穴まで同時に犯されて美少女が上げてはならない、野生の本能を解放した絶叫で喘ぎ倒す♡

ケツまんこも食べ応え抜群、バツクで貫く度にヒクヒク緩急するお尻を見ており「何かチンポ入りたい」と、野望にしていたイザヤ。

ヴィヴィはイザヤの性癖や求めるエッチに、悉く適合してしまうドチャシコスケベロリ巨乳な子♡ 駅弁ファックの2本刺し、前後からキスされただけでもギュムムムツ、平等に肉壁を押し付けて種子汁を必死におねだり♡ 直腸が損傷するであろうダブル

ピストンバースト♡ 人間で無いからいつくらでも欲望をぶつけ放題♡

こんな可愛いポケモン達が居るのだから、人間の女性の価値は最早0と言ってもいいだろう！ ポケモンが人間の子供を孕む確率は非常に低いので、中出しセックスは公に出せないだけで政府すらもが黙認する法律♡

コンドームの製造会社は全部潰す予定だ、種を維持する為には中出ししまくる！ 国民の協力が有り平和でエッチなイツシュが残存しているのだ♡

「駅弁しながらパイズリってwww エッチもオールラウンダーなんだね！」

「フニヤツ♡ くあん♡ ヘーっ、ヘーっ♡ あはっ♡ うりやううううう♡」

少し背を伸ばすだけで、開脚挿入され「とくせい：ふゆう」になっている蒼い少女のおっぱいへ、チンポが届いてしまう25cm。

亀頭が小刻みにシコシコされるっ、笑顔溢れる4P、絶えず行われるペロチュー、初体験なのにチンポを全包みするお尻、還るべき場所であるおまんこ。

アリーの研究が進んだらお口や両手も埋まるだろう♡ 何だかんだでアリーは国を愛情深く真摯に考えているが故に、エッチな研究を重ねているのかもしれない。

——いや、それはない。

「ヴィヴィー……！ イクよっ！」

「締まるうううッ！ イク間際の膣ホールドたまんねえ！」

「おおおっ！ お尻もチンポ啜え込んで離さないぞっ！ 1ストロークも一苦労だぜっ！ ヴィヴィの大腸まで貫くううッ!!」

「ふッ♡ お、おおーッ、まえもうひろもずちゅずちゅうッ♡ ーッ♡ ああああーッ♡ おくう♡ おくぐううう、くくくッ!! チンポチンポッ♡ まふひやーチンポおーッくふう、又、っーくくッ♡♡」

マスターにならどんな事でもされたい♡

受精の上から受精♡ 膣内と肛門に中出しされて、下腹がボツコリ、内臓と子宮が外側へ押し出される大爆発♡ オマケとしては強烈な乳内射精も♡ だいしゆき身ごもり液を全身に食らわされ、仰け反りアクメするヴィヴィはチンポとチンポとチンポで支えられているので、自分からゴリンッ♡ 2つの切っ先は本当に会遇を果たしてしまっ
た♡

自分のチンポとチンポが刃を交える、普通に暮らしていたらありえない現象、刺激にイザヤとイザヤはイキ分かれていた双子を抱きしめるように、ヴィヴィの体内で悦びの涙——要するに精液のげきりゆうに鳥肌を立たせている……………

「ひうーっ……………♡ ん、はっー、はっー……………♡ お尻エツチも……………♡ いいですね♡ マスター♡ 大好きです♡くくく」

膣、尻、谷間から精液を逆流させるヴィヴィ♡

分に受けました………♡ それはそれです、感謝をしている反面、立腹しておりますとも。一言でも相談してくださいれば喜んで………アリーさんには仕返し、ですっ!」
その通り! アリーは超絶サド………な言動に容貌をしているが、その実マゾマゾのマ・ゾ。

返り討ちにされる事が大好物なので、勝手にイザヤを増殖させ怒り心頭のまま4Pに
なだれ込むのが計画であった。

「へああ、う、♡ ちゅぼつ、ぐぶ………♡ ツ♡ ぐふううツ♡ んぼツ………♡
へうう、ちゅぼお♡」

「ヴィヴィに乳首摘ままれてイッチちゃったかあ〜? このままチンポ挟ませてやるよつ、うりやー!」

「おおーおー! 人差し指だけしか入ってないのにキューキュー縮みこんでくらあw ヤリマンなのにガバガバにならないのも、研究の成果なのかつ、アリー!」

「そーいやさ、アリーもケツマン開発まだだったよな? ヴィヴィと卒業日が一緒になるね♪ どーせ後でケツマンコ処女捧げてくれたんでしょ? ヴィヴィに見られながらケツアクメしてどうぞw」

「ふふふつ、アリーさんとは殆どお話もしていませんでしたからね、親睦を深める機会だと諦めてくださいいね………かむつ、ぢゅつ………かぶつ、胸、すごつ………乳輪

までやらしくて」

まさかの自体、ヴィヴィまで加わつての5P♡ 男とだけなら30Pまでした経験があるものの、女性がエッチに介入した記憶は23年の中で1度たりとも無い！
まあ、「そういう趣味」がないので混ぜる理由も無いし、男はみい〜んな独り占めするのがアリリズム（チンポデカイ男や童貞は全部食う）

その乳輪は龟头が二つ分の直径を持つ♡ 私服の——通称ギザギザおっぱい隠しのサイドから、時々輪チラしているのはハプニングである♡

ヴィヴィに乳輪くばあ、ぐにんぐにん♡ 肌が覚えているイザヤの指ではない、未成熟のロリ肌が力加減を「あえて」配慮せず、使い物にならなくする勢いで、トジター、ヒライター♡ 真紅の瞳が妖しいヴィヴィに、ぞわりっ………♡ 喉まで強ばらせ たつて喘ぎは無自覚に出っぱなしだ♡

「へああああ♡ お尻だけはああ♡ わたくしにだつて尊厳がありますの♡ ほ、ホントにイザヤだけのメス奴隷になっちゃ——

——ひゃぎ♡ いいいいいあ♡ ああああ♡ あ♡ つー♡ つー♡ へあつ、ううああああつー♡ ひやうつ、ふはああうううつ♡

ぬいてえ♡ へうツ?!♡ んお♡ あああつ♡ ちんぽぶぶがでええつ♡♡

パイズリ中出しされたがりポケモンが、尊厳という言葉を使っても竿は止めてくれない。アナルを穿られ、腸内をいたぶられ、前だけでなく後ろからも種付け欲求アリ♡

イジメるのもイジメられるのも大好きな、変態魔女は振り上げようとしたロッドを手放してしまい、完璧に二人のイザヤにチンポで囚われてしまう。ケツマンされてヨガつておいて、プライドも何も今更だ♡

「ひでえ声出してるぞアリー？ 最強で最胸の誘い受けだなっ！ 二穴責めされる妄想でオナつてたのかなwww」

「おっぱいでもおまんこでもケツでも、チンポ啜えてないと死んじやうのかよアリーはwww ふおおっ！ いいぞお！ デカケツ揺らしてチンポ蠢く！」

「馬乗り前後ファックは気持ちいいか？ お前が望んだ事だぞwww ヴィヴィはクリ弄つてあげて、思いつきり引つ張つてもいいよ！ アリーは強い方が膣キュンするマゾだからw」

「了解しました、んっ……………これがマスターの視点だったのですね……………♡ こうやってエッチして、パイズリも……………♡ エッチしてるアリーさんを見て、わたしもムラムラしちゃいますっ……………アリーさんにぶつけますね！」

「へやあああ♡ イギううううツ!!?? イツへりゆのひっ♡ マライひやはれええっ♡」

くくく♡へえア、ア♡キひうう、くくく♡♡キチャはあああつ♡はへ
 ああ、あああああつ♡おくやぶけはあああーっ♡

——この男は、ヴィヴィへあれだけ精子を放っていたのに、まだまだ枯れる気配は無い！

エロければエロいだけ、無限精巢が無敵の種子を宿す！ごつてり濃厚、口溶けは後に引く悪さ♡喉が濡れ死ぬ量でも目をヒン剥いて、覚えていないはずの「しおみず」を散り散りにさせる♡

「へえ……………あ、ふう……………うはっ♡おひりも、おまんひよも……………はうー♡いじややのれえ♡おほ、お♡こんにや、いいもによなあ……………んへっ♡へひやああくくん♡」

「オシオキ完了だねヴィヴィ……………さっ、アリーは放置しといて、第二ラウンドを楽しむとしよう！」

「今は冷たくしといた方が寧ろ疼くんだよ、アリーはw女の子が増える薬も作つてくれよな！」

「アリーの研究はイツシユを笑顔にしてくれるよ！待ち遠しいぜ、ヴィヴィが、トロんちゃん、ギラティナさんが4人5人6人……………むふふふふつww俺も同じ人数になりやあ快感もパねえだろうなあ！」

「はいっ♡ おっ、お尻の方も……………またシテください♡ チュツ♡ んひゃっ、またおっぱいまでチンポが……………♡」

後でまた構ってあげると、アヘイキする魔女をベッドに横たわらせる。オシオキしてもアフターは忘れないイケメンだからこそ、アリーは気に入って彼の手持ちとなった理由の一つだ♡

「あんっ♡ あんっ♡ にや、~~~~んんっ♡ もつとですっ♡ おしりい♡~~~~
 ♡♡ ガンガンしてくださいうはああー♡ おくひもっ♡ んぢゅっ、りゅんっ♡
 んむっ♡ はぢゅっ♡ りゅぶっ、んぱっ……………ぢゅぢゅっ♡~~~~っ♡♡」

大好きチンポチームを、一人で相手にするヴィヴィは最も参入が遅れた子であるが、最もエロい子になってしまった♡ イザヤの育て方には擬人化研究所のスタッフも感銘を受け、勃起するばかり♡ 有給がまた増えてしまいそうだ！

後日……………アリーが懲りずに、新開発した薬をヴィヴィが飲むことになる♡ 93
 cmが186cmおっぱいに♡ 両サイドから4つのおっぱいがのしかかるパイズリ♡
 トロトロロリマンが二つもっ!? どっちに挿入するか迷ってしまう! このゆびとま
 れおまんこっ!! 数的有利となったヴィヴィとヴィヴィは、イザヤという最強人類に勝
 てるのだろうかっ!?

激ラブセックスの果てに、勃っていた者は——

エツチな蒼鋼少女の場合―6

またアリーがやらかした！

ヴィヴィもそれを理解の上で服用したので、共犯であるが。

「ぺちゅぺちゅっ♪ まふたあ♡ わらひがふたりれるよお♡ んちゅはああ♡ れろ

んっ♡ チンポすつごくビクビクしてます♡」

「ちばちばっ♪ んふふっ♡ さゆうからふたりのわはひに♡ ちゅっ、ずずずう♡

ふえあちおされるのイイんれふねえ♡」

イザヤが三人に増え、ヴィヴィとエツチしまくってから数日しか経過してない。

懲りない魔女は「ヴィヴィを増やす薬」を与え、効力を充分に（身体に）教え込まれたヴィヴィはすんなり、飲み干して夜が待ち遠しく紐パンを3枚はダメにしてしまっていた。

「只でさえ可愛いヴィヴィが、2人になっておしやぶりいゝゝゝッ!! くはあ! 興奮がヤバイ! アリーには今回はオシオキしないであげっ、くお、おおっ! 尿道も穿ってくれるんだ! あっ、金玉撫でるのもイイ……………」

特に理由が無くても生ハメすれば、眼帯魔女は他の子を忘れてしまいそうなくらい、

Jカップを狂い乱しアクメってくれるのだが。

今はヴィヴィイとのエッチに集中だ、一品物なので複製にはまだ時間が掛かるといふ。

「すんすん♡ 精液の匂いが近づいてますね♡」

「髪で扱いちやいますね♡ 『わたし』も手伝って♡ マスター絶対悦んでくれるって♡」

「うん♡ 髪でもラ、ラブ握り……………♡♡ わたしと『わたし』がいつぱい気持ち良くしてあげます♡」

チンポが感動する、ハイテクロリ巨乳クルドスケベガールの、ダブル髪コキ！

姿形もおっぱいの大きさも、構成因子がそのままコピーされたヴィヴィイとヴィヴィイ。

セリフだけで勃起が辛いのに、左右からチンポと耳をふーふー♪

甘々モモンの吐息がイザヤの射精カウントを速める！

「いいですよ♡ イツてくくださいマスター♡ んぱつ、ちゅぶつ、ちゅぶつ♡ ちゅももお♡ おくひのらはれふくりやんれえ♡♡」

「マスターの弱点は分析……………いえ♡ 実践を積んでおりますからね♡ れえる♡

こほれふ♡ くちゅくちゅくちゅ♡」

「あつ！ あああつ！ そこつ！ トドメさす小刻みおしやぶり~~~~つ！ くらう、アッ」

女の命である髪。ヴィヴィのそれは見事な物で、細すぎる繊維が1つに調和され、ポリユルミーなツインテールを生みだしている。

——そんな、ヴィヴィいたらしめる髪をつ！ 欲望のまま精液シャンプー！

「にやくうう♡ もつとお、もつと汚してください♡」

「何時もより多い気がします♡ 髪までエッチにされちゃいました♡ んぐつ、ネバつ

こくて……………はあ♡ 癖はありますけど病み付きです♡♡♡」

仲良く精液を食べさせあいつ♡

他の誰でも無い、ヴィヴィとヴィヴィ、夢のような——夢では無い現実が、双子となった彼女らが繰り広げてくれている。感涙。

「よっ……………♡ 分かっておりますよマスター♡ おっぱいで挟んじやいますね♡」

「マスターの大好きなHカップですよ♡ あっ♡ チンポまたドクドクしてます♡ 血

管凄いい♡」

「うおおッー！ ダブルヴィヴィのダブルパイズリッーツ!? 俺っ……………死んでもいいっ！ 幸せの重さが集う!!」

お馴染みのフロントホックを外し、舌ペロしながらぽよっぽよおっぱいが登場♡

ブレザーも肩まで下ろし、半着衣でダブルサンドイッチ♡

ダブルパイズリも山の様に経験したイザヤでも、同種族どころか寸分の違いも無い子

達にパイズリされるのは初めてだ。

「死んだら許しませんよマスター♡ 皆さんやわたしが悲しみます♡ 死んでしまったらパイズリも出来なくなっちゃいますよ♡」

「じゃあ俺生きる！ もつとヴィヴィとエッチしたいもん！」

「マ、マスター♡♡ んちゅっ♡ わたしもマスターとエッチしたいです♡ 現在進行形でしちやつてますけど♡ むぎゅっ♡」

一突き間違つたら、もにゅ壊してしまいそうなやわつこさ。

どちらも当たり前だが同じおっぱい、ヌルヌル♡ 自分自身だから息もイキもピツタリなコンビネーション♡

チンポが行つたり来たり、お口での奉仕も加えながら、ミチミチっ……………塗り込まれた我慢汁に彼女達の唾液が継ぎ足され、ミツチ、ミツチ♡ リズミカルな確信的パイズリにイザヤはメロメロ。

「ふやああん♡ おっぱいにも種付け液来ましたあ……………♡ はっーはっー♡ んっ、ゆっ、ちゅうう♡」

「ちゅばっ、はあ〜〜♡ せーえきぜーんぶのみほします♡ こくんっ♡ んぐっ♡ はあはあ♡ ネバネバがお腹の中ではり付きます♡」

お掃除パイフェラまで自主的に。すっかりメスたる根底を（メカだけど）思い出した

ヴィヴィは、毎日子作りおねだりして昨晚もおっぱいとお口とおまんこに、散々中出しされ疲れ果ててもイザヤを求める淫乱つぷりには、苦笑するしかなかった。

「♡♡ マスター、おまんこ解れてますよ♡」

「どちらからでも♡ 一緒に気持ちよくなりたいです♡」

谷間と谷間、ズリ事後開示がダブルで迫るのだつ。

ちゅつぽん、ヴィヴィはイザヤが悦んでくれるならば、鼻の下を伸ばそうが啞えながらの舌出しだろうが、何だつてしてくれる♡

——贅沢おまんこセレクト。ラブ汁糸引きおまんこ♡ どっちも食べ頃♡ イザヤの為に温められて腰をうねらせながら、おねだり上手♡

「右のヴィヴィからセックスだ！」

「わはあああゝゝゝゝ♡♡ 太っ♡ ……………あんっ♡ んにゅっ♡ へはっ♡

へううゝゝ♡ んっ♡ マスターのチンポっゝゝゝ♡ 『わたし』に見られながら中出しセックス♡♡」

「そうだぞっ！ ヴィヴィにじっ—と視姦されて『ヴィヴィ』がチンポでアヘアアしてやるよ！ 可愛すぎるから虐めちゃうね☆」

「まつ♡ まつてくださ♡ えうう♡ はっ♡ あおおっ—ん♡」

精液ベツタリツイントールを、まるで手綱を操るかの如く引つ張られても彼女は感じ

ている。

背面座位、ギューギューされながらおまんこでギューギューし返す♡

イザヤがピストンを止めたら、ヴィヴィから腰をグラインドし膣奥に押し当てたま
ま、ガリガリとエラチンポで削り取られビクツ♡ ビククツ♡ 舌出し仰け反りアクメ

♡ だがイザヤはまだイッてない♡

「はあ！ はあ！ ヴィヴィにおまんこ射精キメる！」

「だひてくらはあい♡ んああああうまりゆううう♡ ちんぽねづいてせいえきはりめ
ぐしやれへまひゆううう♡ へえ♡ へにやああああ♡♡」

バトルで無敗のヴィヴィは、ベッドの上ではよわよわ。というカイザヤが強すぎるだ
け♡

子宮奥までネジ込まれて射精、背筋を垂直にさせイキ悶える間にも、おっぱいは下側
へ引っ張る。

首を振りながらパイズリで、尖った自分と『自分の』乳首が当たる度に、軽イキして
たエッチなヴィヴィは幸福のサイコブースト♡

「左のヴィヴィともセックスだ！ どんな体位がいいかな！」

「えっ、ええつと♡ はあ、はあ、後ろから♡ わたしを道具だと思ってガンガンされ
たあ♡ あ♡ はひやああう♡♡ もうかたいいい♡ マスターちんぽれメリメリ

しやれへええつゝゝゝ♡♡♡」

ヴィヴィのセリフを最後まで待たず、両手を取ってバック挿入♡

お尻の穴もヒクつかせていたので、後で中出しする予約をしてから、大きく開脚させ
獣体勢セックス♡

言うまでも無くもう一人のヴィヴィには、結合部が細部まで見えてしまっている♡

「へうっ♡ ふうーっ！ ふう♡ ふんんんゝゝゝっ♡ ぎゅんぎゅんしゅりゅつ

♡ おまんこれちんぽハギユツ♡ しゅきれふマスターああ♡ にやはっ♡ んああ
んんんうゝゝ♡」

真紅の瞳をチカチカさせ、絶望と似た面持ちで突かれ、自身でも腰を動かし快感を貪
るヴィヴィ。

絶望と快感は紙一重♡ 気持ちよ過ぎておかしくなりそう♡ 怖すぎて気持ちが良い

い♡

「ヴィヴィー!! このままイクッ！」

「らしてえ♡♡ はっーはっーああああ♡♡ けものしえつくすもだいしゅきい♡

みてえ、みれええもう一人の『わたし』いいいい♡♡」

おっぱいに出された精液が散らばる、子宮が壊れる勢いじゃないと彼女は満足しない

♡

喘ぎがいつそう高くなる、ピストンみだれづき、ヴィヴィに何Hitさせたか、分からないっ！

「あうっ!? ふえええええっ♡ あっ♡ うあああ♡ くんんんっ♡♡♡♡♡」

やっぱり、ヴィヴィはおっぱいを引つ張られたらすぐにイク。

子宮内にどっぽり射精され、菌を食いしばってアクメするヴィヴィに追い打ちおっぱい♡

連続イキしてます♡ 子宮の緩急で語ってくれるのが面白い♡

「はあ♡ ……………♡ つ♡ はあう♡ あっ……………♡ んっ♡ チンポ♡ 出しても出してても硬い♡ マスター、もっとお♡♡♡」

「今夜は寝かせませんよ♡ まだお昼前ですのに♡ エッチなスイッチ入っちゃいました♡ 今度は抱きしめ合いながらセックス♡ お願いします♡」

性欲のランクが六段階アップ、理性はハサミギロチン、メスの本能のまま好きな人とおだて屋さんごっこ♡

珍しくアリーに感謝しながら、無敵最強超絶豪根イザヤの相手を務めたダブルヴィヴィ。

残念ながらイキ付かれ眠っていると、一人に戻ってしまっただが……………「さびしくなっちゃいました♡」と、あれだけエッチしたのにまたオネダリするヴィヴィが愛しく

て——お仕事休んじやいました♡

「はあ、トロンちゃんのおっぱい！ 今日も中出しっぱいするからー！」

「旦那様♡ ご立派なおチンポ様にも……………ちゅっ♡ ヴィヴィさんとはどうでしたか？ ………………そうですか♡ 楽しそうで何よりです♡ あのっ、ワタシもヴィヴィさんにご奉仕エッチしたいです……………俗に言う3Pです♡ 明日にでも……………♡」

褐色おっぱいにチンポをむんずっ！

サイズが少し大きくなったらしい、全裸の方がましな罰ゲーム衣装を涼しい顔して着衣する、砂漠の民のお姫様との子作り！

敵無し最強主人公のイザヤは、最初のパートナーとのエッチだって全開だ！

「そうでした、ラピさんも明日に帰ってくるらしいです。……………4Pになってしまいですね♡」

ヴィヴィとのプレイ内容を伺いながら、砂嵐が舞っても艶を保ち続ける黒髪で亀頭をツンツン♡

微弱な刺激に追従するのは、チンポ側面からのおっぱい♡

彼女は大きさも去る事ながら、形も弾力も全てイザヤを悦ばせる為だけにある♡

ゝ
アゝアゝアゝアゝ
最初に子を宿すのは誰になるのか。♡♡♡

いつその事全員同時にオメデタ………♡

エッチな手持ちメンバー全員との場合—お姉ちゃんと朝エッチ編

究極性豪無敵エクストリームチンポ、人は彼を「性☆欲☆王」と呼ぶ——

セックスしてセックスして、中出しが種付けな日々かと思われがちだが、イザヤだつて普通の18歳。

若きポケモン擬人化研究者としての誇り、職があるので欠勤は偶にしかない。ギラティナさんが離してくれないとか、アリーに監禁されてパイズリ精液搾取地獄(天国)されたりで無い限りは！

「スカーラー、スカーラー………」

時刻は午前の6時前。夜中の3時までトロン、ヴィヴィと3Pしていたというのに、彼は全く睡眠不足を感じさせないスツキリした表情で、覚醒を果たしていく。

睡眠よりもセックス、食事よりもセックス、彼の三大欲求は表向き「睡眠欲、食欲、研究欲」だが、実際は無敵なので「膣内欲、口内欲、乳内欲」である。

呼吸さえ出来て、女の子と触れ合つてさえいれば、彼は絶対に死なないのだ。故に、無茶苦茶なセックス性交を繰り返したつて、この通り健全健康な朝を迎えられ——

「じゅるっ……………ぷひゃっ……………れろオ、んっ……………ぢゅぷっ♡ はぢゅっ、ぢゅぢゅっ……………♡ んぷああ、イザヤくんのおちんぽお……………♡ おつきいなあ♡ 私の穴という穴におちんぽ入れられちゃったんだよね……………♡♡」

そう、これも彼にとっては馴染みの光景。

帰ってきたメイドお姉ちゃん、ラグラージのラピが起床を確認するまで、ねっとり時間を掛けてお口ご奉仕を施してくれるのだ♡

「おはよお、イザヤくん♪ ゴメンね、おちんぽサイズまた測っちゃった……………♡ 2.5 cmピッタリだった♡ 明確な数値に表すとやっぱリドキドキしちゃうね♡」

「おっ……………おはよおラピねっ……………っ！ くらぐー！ 膣内とは違う酸素の通り道っ、ラピ姉のお口より少しだけ涼しくて……………あっ！? 亀頭フーフーはダメだっ て、ああっ！」

「ふー♡ ふうー……………♡ ご奉仕はね、ご主人様が起きたって射精するまで続くんだよ♡ おちんぽはとつくに『勃きて』いたけどね♡ ちゅずっ、ぬるるっ♡ わらひのおくひれえ♡ ずっぽ、ずっぽ、ずりゅう♡ いちはんこお……………いのお、らひへれえ♡ ずぞっ、ぢゅぐりうう……………♡ フツーフツーフツーフ♡ ずう……………ぞじゅ、ずじゅ……………♡♡」

たたみ掛けるような勢いは、激流の如く。敏感な場所は把握され済みだ♡

ご主人様でありながら、10歳年下の弟として、口調を「あの頃」に戻したラビは、妄想で研磨していただけあり、フェラチオご奉仕上達も異様に早かった。

それだけ彼女がドスケベで、お仕事で他の男を「ご主人様」としていながらも、性的ご奉仕を断り続けていた理由でもある。

エッチには興味が——むっつり——あつたけど、イザヤが相手でなければダメなのだ。練習という名目で他の男とのエッチ、考えた事はあるけど……やはりイヤなのだ。

（あつ♡ 脈がグツグツしてるね♡ もう、私がエッチなのはイザヤくんが魅力的だからだよ♡ お嫁さんになったんだから責任持つてご奉仕させてね♡）

ヴィヴィよりも遅くだが、彼女はイザヤと入籍を果たした。

手持ちであるならば、何人とだつて籍を入れても構わない。イツシュ独自にして最高の法律、各地の中出しされてメロメロになった擬人化ポケモン達は、大層に羨ましがっている。「イザヤ様の手持ちになりたいよお………」と。

「んうううツ♡ ングツ、キュツ♡ ……ごくつ、ンツ♡ ああん、ドロドロオ

……♡♡♡♡♡ ポケモンじゃないと窒息しちゃうてるぞお？ おちんぼの根元

からね♡ ググうーって、精液が飛び込んでくる瞬間がねえ♡ はっーはっー

……♡♡♡♡♡ お姉ちゃん大好きなんだあ♡♡♡」

一番搾りを頂く権利、メイド特権を活かせる彼女にはある！

唇まで覆い隠される濃さ、しつこいまでにネバる陰キヤな精液は、陽キヤの権化から貪り取る。

「ご奉仕中に頭を撫でられると、口では「お姉ちゃんなんだぞお」と、怒って見せるが尾はふりふり♡

「はあー、出た出たあ！ 今度はおっぱいで挟んで欲しいな☆」

「もお、エツチい……………♡ いいよ♡ お姉ちゃんのおっぱいで……………はあーはあー、もうギンギンになっちゃったおちんぼ♡ 気持ち良くぎゅーぎゅーしてあげるね♡」

人差し指を唇に当てながら、腰までぎっくりしているスリットを、ピラッ。

ガーターベルトの接続場所が、見えそうで見えない、あざといエロさを演出させながら、ガーターを親指で引っかけてから真横へ伸ばす。

自分が持ち得るフェチズムをよおおく分かっている、

（ラピ姉ったらパイズリだよなあ！ 俺の手持ちは皆パイズリ得意だけどさ☆）

朝のご奉仕は「比較的軽め」であるが、口内射精一発で終わるヤワな精神は持ち合わせていない。

頼まれないはありえないが、そうだとしても自ら志願していた、「パイズリご奉仕致し

ます」と……………理想的な歳上メイドさんだ！

「また成長しちゃった!？」

「んっ……………そうかもね、どうだろうねえ♡」

「いやっ、毎日揉んで挟んで、俺にはお見通しだよ？ 愛情たっぷりIカップからJにな

りかかっていると!？」

触れただけで「何カップか、何サイズか分かる」

イザヤへちよつと意地悪してみたが、あつさり攻略されるのだって、楽しんでしまえ

る。

おっぱいの持ち主ですら見抜けないであろう、コンマな領域の質量変化。

チンポからも感じ取る必要あり、手持ちのコンディション管理は、「おや」のお仕事な

のだから！

「モチモチおっぱいキター!! ふおお! ミッチミチに詰まった乳袋に突乳☆! ラピ

姉の胸骨トントンしちゃうよ!」

「んあ♡ 先つば届いてるね♡ おちんぼ大きすぎるぞお♡ はあ……………♡ 挟みな

がらね、イザヤくんの脈動と私の心音♡ 重なる瞬間が溜まらないんだあ♡」

悦び跳ねるチンポを、焼きたて餅のふんわりしながら、身を委ねられる温かいおっぱ

いで抑え込む仕草は、「めっ♪」と躡けられているようでもある。

エロメイドとして、躡けられているのはラピの方であるが……………

「ロマンチックなラピ姉も好き！」

「ありがとう♡ お姉ちゃん頑張るね♡」

挟み込みながらキス、じわじわ滲出していた膣液が、大きな拡がりを見せる。

着衣したまま寝転ぶラピは、小窓……………と表現するには、ボタンが2つも外されオ

レンジ色のブラの刺繍まで開示されている、イザヤ専用チンポ穴まで、ズリズリズリ

……………、横たわった姿勢のまま器用に前進させ、無事に接合を果たした。

「真横からの縦パイズリ!! 本当にラピ姉はエッチだなあ! すぐ新しいパイズリ開発

しちゃうんだもん!」

動き自体は軽くても、おっぱいは重力まで味方して「圧」は、精液を再び筆ろうと着

衣ホールドパワーを活かして、イカそうとしている!

ぷちゅちゅ、ぬっぷん、もぢゅっ、もちゅんっ。

粘液の香りはラピが大好きな物、交感神経がパイズリで書き換えられる、瞳をトク

ハート型にしなから、上半身をクネ動かし、チンポの支点を自由自在にこねる。

「イザヤくうん♡ お姉ちゃんのおっぱいご奉仕きもちい〜い?♡♡♡」

「あ、……………当たり前じゃん! 俺の精液が染みこんだおっぱい、すり潰されそうな乳

圧っ! ラピ姉しか出来ないパイズリご奉仕だよ!」

「あうん♡ 挟んでのに撫でちゃあ……♡♡ はあ、はあ、はっ♡ ふっ♡ うう♡ 私もおっぱいキツイ♡ びゅーびゅーしていいよ♡ おっぱいに中出ししてえ♡ イザヤくんのせーえき♡♡ せーえきい♡ はっーはっー！ ああああ♡♡」
元よりおっぱいを強調させる衣装。パイズリ願望を持つ「ご主人様」は大勢居たが、彼がお挟みするのはイザヤのチンポだけだ。パイズリNTRは無いので安心して頂きたい。

ズリ奉仕だけでもイケるようになったラピは、へそを突き出すようにして、膣内へ与える振動を強めていく。

チンポへの快感を緻密なまでに調べ上げ、「この前の最高を過去にする」、更新していくご奉仕はやっと、やっとイザヤへ愛情を注げられるラピの気持ちが溢れんばかりに、表現されている。

「キャッ……♡♡♡♡♡ このままっ♡ あう♡ びゅ……♡♡♡♡♡ びゅうううう♡♡♡♡♡ あんっ、おっぱい震えちやう♡」

おっぱいの膣内射精、即ち、乳内射精！

母乳の噴出を望むラピは、早く手コキをしながら授乳ご奉仕したくって、妄想オナニーしっぱなしの毎日なのだ。

トツプスの前後がへバリ付いている。ボタン変わりになる粘着白液が、ゆつくりと乳

内から引きずり出されていく……………

たっぽ、ずりゆっ……………ぬぼっ♡

「うわああ！ おっぱいが精液出してるよラピ姉！」

「……………♡♡♡ 中出しされちゃった♡ 精液は拭ちやうけど……………今日は

ね、このままっ……………♡ はっーはっー♡ 精液の匂いが付いたまま生活するねえ

♡」

おっぱいを抱きかかえるように、零れ行く精液を留まらせながら立ち上がる。

面白いくらいに糸を引いている精液アーチ、乳内と繋がったまま膣内へ挿入する、それ
れも一興だろう！

「お姉ちゃんがご奉仕しよっか？」

「ん〜！ 俺がお姉ちゃんを気持ち良くさせたいかなあ！ ガンガン突いてあげるね
！」

「もっ、もう♡ ……………私も抱きしめ合って、キスしながらセックスしたかったよ♡

はあ♡ はあ♡ キてえ……………イザヤくん♡ お姉ちゃんのおまんこ♡ いっぱい

使ってね♡」

奥ゆかしい縦筋内は、ひとりでに開閉を繰り返している、ラピの大人おまんこ。

恥ずかしくないように陰毛は整えられ、手触りの良い羽毛布団並の品質、それでいて

子宮口まで丸見えで、クリトリスをちよんちよんするだけで、顎まで仰け反らせ軽アクメする♡

体位は迷う、ポニテを乱暴に引つ張りながらピストンするバック——ラグラージだけあつて、四つん這い体勢を好む——もいろいろ……

「ふああんっ♡ お、ツ~~~~おふううツ♡♡ 大好きおちんぽおお♡♡ 子宮がズシズシ重たいよおお~~~~♡ ハウウ~~~~♡ くっ、ああああ♡♡ ふぐあああ♡♡」

亀頭だけ差し込んで、ラピの切ない反応を楽しんでいたイザヤ。

ラブラブな正常位での種付け交尾、自ら太ももを支えあげて、開脚する「お姉ちゃん」へ25cmの爆棒が喰る！ズグゴオオツ！

ロング丈のメイドエプロン、秘められし聖域を余さず晒す捲り上げ！

露出は多くないのに身体に張り付く素材だわ、おっぱい強調だわスリットだわ、肌面積の多さが戦力の差ではないと彼女は告げている♡

「ハアアア♡ へううううツ♡ おっぱいもお♡ ぐにゆぐにゆしていいからあ♡ へふうううー♡ ンンツ!? ……♡、ぢゅはっ、ははっ♡ んぷっ♡ れるっ、ぬろお♡ イザヤ……………くんっ♡ じゅうう♡ んんんう♡ はあー♡ これええ♡ おねえちゃんイッチやううう♡ おちんぽ引つかかるのお♡ きもちーのにかた

いのくるからあ♡」

蒸せるような熱氣、熱湯おまんこで溶け殺されそうなくらい、気持ちが良い！

膣壁の上をミヂツ、ミヂツ、カリ首で穿られラピは両手を宙に出す。

「ラブ握りして」、彼女は決まって正常位交尾では、ラブ握りを求めてくる♡

「ひいっ！ すげえ興奮してるね！ ほらっ、太ももまで愛液零れて、腰ぶつかった時

に糸引いてるよ！」

「いわないでへ♡ ええあああええ♡ わらひもうあたまおかひいもん♡ イザヤくん

すきい♡ だいすきい♡ しよれひかわかんないもんっああ♡ ほおう♡ あ

あっ♡ ふふああ♡ しきゅーのしよこお♡♡ イイ♡ イクイクうう♡ ふはあ

あああゝゝゝあああゝゝゝっ♡♡」

ラブ握りしながら、両手をベッドへ押し付ける。杭が打たれたような力強さ、正しく

「男」を感じさせられる、立派な男へ成長したイザヤとのキス♡

膣内は天上と床が1つになっっちゃうくらいに、狭々としているのに、子宮口だけは亀

頭を啜えきれるサイズにまで拡大している♡

精液シャワーで卵子洗い流されたい、生き残った卵子と精子が会遇する、メイドの象

徴たるヘッドドレスがズリ落ちてしまうピストン衝撃、ラピは歯を食いしばりきれず

に、瞳をチカチカさせながら甘狂ったシャウトを繰り返す♡

がら………はあ♡ はあ♡ ありがとう、イザヤくん♡♡♡」

忙しい朝でもエツチは欠かさず。

膺が痙攣しており、ラピは起き上がれなかったが、そこはイザヤ！

言い出せない彼女の身体を、スマートにお姫様抱っこしながらキスをする。

お姉ちゃんだけど、甘えたい。ラノベのタイトルにも出来そうな美術品にもなる、美
男美女のハグは朝食が冷めない程度まで続く。

エッチな蒼鋼少女―番外編

「ヴィヴィ！一緒に青春の汗を流しに行こうぜ！」

「……………汗、ですか。毎晩流している気はしますけど♡」

イザヤは見たくなってしまったのだ、ヴィヴィのえちえちスポーツウェア姿を！

有給を突き出して、準備は万端。体育座りで読書をしていたヴィヴィ、恐らく内容はエッチな内容が綴ってあるのだろう、カバーを偽装したって分かる！

「違う、普通の汗をだよヴィヴィ〜！健全な思考で健康な身体を作るんだ！」

「私もマスターも、健康極まりないと想いますけど。適度な運動……………は、激しい場合も多いかも知れませんが、体脂肪率は平均を下回っておりますし……………」

胸の体脂肪率だけは、明らかに異常がある。140ぽっちに90オーバーは入念な再検査が必要な為、……………と、思考が邪になってしまったが、「ヴィヴィのスポーツウェア姿が見たい」目的が、そもそも族である事は内緒だ。

「いいですよ、デートになっちゃいますね♪」

「そうだね！2人きりのデートだよ！」

お堅くてクールな鋼鉄美少女も、特定のワードを使えば意外とチョロい。

「デート」「一緒」「大好き」など、シエアよりも独占したがるヴィヴィは、自分からは言い出せないので、ガンガンアプローチするのがベストなのだ。

※

スリムストリートの、ジムにやって来た2人。

ジムと言ってもポケモンが戦う場所では無い、身体を鍛える場所である、念の為。

「ふおおおおりゃあああああ」

エアロバイクを高速で漕ぎまくって、バチバチと火花を出しているイザヤ。

ヴィヴィの着替えを待っている間の暇つぶし、細マッチョな肉体もこのジムで作られたので、鍛え慣れている。

「次は鉄アレイ60kgでも持つかー！ チンポに巻き付けて、引っ張ったりしたっけかなあ……………懐かしいぜー！」

イザヤも最初からバケモノチンポだった訳ではなかったらしい。チンポから血が出てくる努力を繰り返して、どんな♀ポケも悦ばせ、中出し懇願させる魔王チンポが完成したのだ。

「マスター……………お待たせしました。なんだかサイズが……………キツイのですが」

（おっ、ほおっ!! エチエチ！ オッキオッキ！）

タンクトップにショーツパンツ。男女でユニフォームは同じなのに——女性が着る

と、ここまでエロくなってしまうとはっ!

既に身体、胸に張り付いている黒いタンクトップは、歩くだけでドームの形状を崩しかねない衝撃が、たゆっ、たゆっ、歩音よりも先に届き、脇下からはサイズを一回り小さくした物を渡したので、前はパンパン詰めなっているにも関わらず、サイドは案外余裕があり横乳は苦勞せずに拝見可能だ。

ミニスカ以外のヴィヴィは見た事が無いので、とつても新鮮だ!

丈の短さは同等レベル、これまたサイズを小さく仕込んだので、ピッチリ下着のラインが移し込まれ、小さくも男を悦ばせてしまうだけ、お肉の乗ったお尻が上質のまま出荷されていく!

「いやあ〜! ヴィヴィは何を着ても似合うなあ! ささ、いつしよにトレーニングだ☆」

「そ、そうですか♡ ありがとうございます♡ はいっ! 一緒にですよ!」
格闘タイプと化したヴィヴィは、上機嫌にイザヤの手を握りしめ、不器用にはにかんでくれた。

※

「ふっ、ふっ、ふっ……………1999、2000、3セット目終わりました……………ふう、ちよつと疲れました……………」

ヴィヴィの足を固定し、腹筋を交代して行っていた。

勿論目的は、近接アングルでヴィヴィのおっぱいを、視姦する事である。

むによん、すう、もにゆにゆ、ぷわっ、上体が持ち上がり太ももに——固定しているイザヤの手にも——おっぱいがブチ当たっては、変形した形を元に戻しつつ上体を倒す。

一瞬だけ、おっぱいが真横へ広がりそうになるのが、重力に逆らっている萌えポイント。高次元でバランスのいいヴィヴィっぱいが、タンクトップだけで抑えられており、厳しく拘束をしているのだから、着せたのはイザヤなのに剥ぎ取りたくなってしまった——そんな事をすれば台無し（色々と）なので、脱がしはしないが。

「ボクシングは………抜かして、次はアレしよう！」

「はいっ♡ マスターもお身体がもつと立派になるんでしょうか、ドキドキしちゃいます♡」

パンチングバッグは、ヴィヴィの100万馬力パワーで絶対に粉碎してしまうので除外。

イザヤの腹筋を触るのが好きな手持ちの皆、ヴィヴィも例外なく鍛えられた凸凹にキスをしたり、下の方の「デコボコ」を自身の「デコボコ」に抜いたり挿されたりされるのも大好きになった。

ヴィヴィがどんな目的で造られたのか、未だに不明だが「エッチだからまあいいや」が、研究者イザヤの結論である。

「胸筋を鍛える、ですか？」

チエストプレスに座ったヴィヴィに、適当でありながら巧妙で、嘘だと見抜けられない詐欺師も真つ青な口車にも乗せられてしまったヴィヴィ。

「大胸筋は大事なんだぞ〜！ 腕だけ腹筋だけ、それじゃあダメダメ〜！ 筋肉の中心部を鍛えなければ、本来の力は発揮されないんだ」

間違つては無いが、間違っている。

ヴィヴィのぶるぶるおっぱいを、眺めていただけである……………

「んしょっ、んしょっ、んしょっ……………」

（おおおっ！ すげっ！ 谷間が開いて〜〜むぎゅっ！ タンクトップからおっぱい縦に飛び出そう！）

蒼髪ツインテガールはマジメにやっているのに、マスターはぼよぼよ、それでいてミチツ！ と引き締まるを繰り返すおっぱいに夢中である。

「はあーはあーはあー！ ヴィヴィちゃんや！ 内側のバーを持ってやってみて！」

「んっ、分かりました、ほっ、お！」

「ほおおおおっ！ みえみえみえっ!？」

縦移動から横移動に変更させ、左右へ腕を広げれば——見えてしまうのだ！ 薄い盾であったタンクトップは意味を成さず、ノーブラヴィヴィの桃色ぼつちに、口に含みやすい大きさの乳輪が！

「マスター？ 息が荒いですけど……………」

チエストしているヴィヴィよりも、見物してるだけのイザヤの方が、苦しげに悶えてフシユフシユ、獣のように鼻息を漏らしている。

「少し休みますか？ ふう……………わたしも汗だくに」

何とつ、餓えている獣に新鮮なお肉を与える行為！

タンクトップを指で軽く引つ張って、パタパタそよ風を送っているではないかつ！！

ピンクいのが見えそうで見えないが、ロリ体系ながら真逆を往く豊潤カップが大解放され、その狭谷を血走つた目付きで射止める。

「……………ヴィヴィよ、アツチで休もうか、一緒に」

「はい♪ ……………… あっ♡（あっ、え、マスターの……………♡ 形が浮かび上がって）」

只で戻れることは無さそうだ。

ヴィヴィは期待に大きな胸を弾ませ、イザヤの手を握りしめた。

向かう場所は——プライベートフィットネスルーム。

※

「んきゅっ♡ はわっ!」

やっぱりこうなつてしまった。というのも、ヴィヴィがスケベなスポブラを着用し、何気なく振る舞っているようでイザヤを興奮させてしまっていた、一連の流れは「全て計算済み」

「悪い子だ! エッチされたくておっぱい見せてたんだね!」

「ふやああ♡ ゆるひへくやはいいく♡ おっぱい♡ のびちやつ♡ ハア! ンッ♡」

ベンチプレスにおっぱいを握り締められながら、身体を倒されてしまうヴィヴィ。

ミニマムすぎて、両脚が床に付いていない。浮遊感のある戦闘には慣れっこだが相手が相手だ、イキりまくるチンポがショーパンの、裾からコンニチハ!

「あっ♡ マスターのチンポ……………汗だくですね♡」

「汗だくにさせたのはヴィヴィだぞ! お仕置きパイズリだ、責任持つて挟んでねっ!

ヌッ! ムウウウ! おっぱいだけああ! 筋肉質にならないでくれよなヴィヴィー!!」

スポブラ越しに乳首をシコる、親指と人差し指の腹を駆使させて、くるっ、スナップを効かせリズミカルに半回転させると、ニョッキリ、綺麗なお椀型おっぱいの中心が、ツ

ンツンロケットに早変わり♪ でもマスターにはデレッツデレ♪

「んにゆうう♡ やあ、破けちやいますよお♡ そんな♡ 勢いづいて♡ んやつ♡
んにつ♡」

スポブラで圧迫される馬乗りパイズリ！ 腹や腕を鍛えても、チンポだけはエッチを重ねなければ経験値を入手出来ない。

ニユツ、ニユツ、谷間に潜り込んで、ヴィヴィの顎まで届く亀頭。

繰り返される完全イザヤ主導ピストンに、中乳を引きずられ頭上へ投げ出していた両手を、ピクン、ピクツ♡ 歯を食いしばりながら、鋼鉄発情チンポの殺傷力に耐える、健気なヴィヴィも柔軟発情おっぱいを芯から締め上げて、応えてくれる。

ちなみに、ヴィヴィのほっぺは、おっぱいと同じ柔らかさであると伝えておこう。

「あんツ♡ マスター♡ ああツ♡ ひう♡ 我慢汁が額にまでえ♡」

「そんだけヴィヴィが興奮させたんだ！ チンポとおっぱい、そしておまんこも並行してトレーニングするぞお！ ハアー！ ああう！ キクうう！ ニチャニチャパイズリサイキョー!!」

汗の溜まつた三角池に、これまた多汗の亀さんが池を探して潜っていく♪

ヴィヴィが愛用する黒くてデカイブラジャーで、着衣パイズリは星の数ほどして貰ったけれど、面積が広くあまりエロの対象でなかったスポブラ——

「まこと！ イイもの！ だアアア!!」

「んぎゅウウ♡ ましゅはあああつ♡ ふりゅうううツく♡♡」

限られたスペースを突破しようとするおっぱい、乳輪がチラ見えてもトレーニングに励んでいた姿、そのどれもがヴィヴィの手の内の中、ならぬ「おっぱいの真上で転がされていた」

「はあゝつ♡ はあゝつ♡ ぢゆくぢゆく……………こんにや、にイ♡ せーえきへびやりちゅいへ……………んう♡ んううー♡ は、はあ♡」

短期間で努力値を（ブラジャーからスポブラ派へ）振り直された、強靱ザーメンが幼さとたおやかさを、同居させた半裸の少女へ牙を剥いた。

スポブラは内側から白く浸食され、元の生地の色が不明瞭なまでに、手厳しく種を植えてくれた、オスの匂いがむわんむわん……………狭い室内にダイマックス雲の如く広がっていく……………

「はあ♡ んゆ……………♡ マスター……………あ♡ あのつ、続き♡ してくださいますよね♡」

「スル！ ていうかお仕置きだから拒否権はないよっ!? 素直に『エッチしたい』って言えば、すぐ連れ込んだのに！ ヴィヴィったらわざと精液熟成させる作戦だったんだね！ むっつり！ おっぱい！ ロリ巨乳！ 大好き！」

「あつ♡ あつ♡ ごめんなさいマスター♡ マスターからの視線♡ 全部気になってしまつて♡ わたしも変な気持ちになつてしまつて……………♡ はっ♡ はあ♡ おしおき、されたいです♡ お願いします♡♡」

にゅばあ、くぶああ♡

身体が柔らかく、パイズリされるだけの大きいおっぱい、両立出来なければ参加券すら与えられぬ、パイズリ事後開示&おまんこ開示のコンボ技！

エッチなポケモンバトルも、イザヤとのラブリースターインパクト♡ で、そうそうたるドスケベメンバーにも負けない、戦闘力を備えたヴィヴィ。

どうすればイザヤが悦んで、気持ち良くシテ貰えるのか、頭のいい彼女は分析を完了し、オナニーでイメトレをしているのだ♡ わあくお♡

「ちゅぐ♡ にゆるっ、んぷ♡ ちゅはああ……………♡♡ まふたーほのきふしゅきいれふ♡」

「全然舌が回つてないぞヴィヴィー！ メロメロになりすぎでしょ！ ハアハア！ チンポ挿入するからね！ おまんこも汗だくだあ！」

マスター好き好きモードの彼女は、ギラティナさんですら目を疑う、淫乱巨乳つこになつてしまう♡

おまんこくぱっ、くぱっ、開閉トレーニングもそろそろ中断、おまんこは「ねらいの

まと」を強制所持させられ、貫くふといホネは、からぶりほけん！ などさせっこない！
 ！ 確定妊娠！発コース!!

「あああ♡ にゅううううううううううう♡ ちんぽお♡ おく♡ くいちゆくされ
 ふううううううううううう♡」

ずずずずつゝゝ♡ にゆぶつ♡ にゆるるつ♡ ぶちゆぢゆつ♡

熱量増々おまんこは、イザヤもビックリな高温。彼じや無ければ抜いてしまっていた
 だろうが、そこは最強人類！

子宮奥へ亀頭をネジこませ、早くも顎とおっぱいを反らしながら、乳首をぶるぶるさせ、
 滾った汗が水滴となつてプレス機へ流れ落ちる♡

「ある物は有効活用だ！ ヴィヴィのねつトロおまんこ！ ヒク付きが尋常じや無いね
 ！ ロリヒダが血管を捕まえてるよ！ 本当にエッチなんだから！」

「しゅふう♡ んしいい♡ へえー♡ へえー♡ へうううん♡ んぎゆううういゝゝ♡
 ひい♡ ひいひい♡ ましゆたーちんぽしゆごいれす♡ わらひのじえんぶ♡ ま
 しゆたーにしじゆんじや♡ ああ♡ んあくンんゝゝツ♡」

真つ正面からのセックス、ヴィヴィは対面座位を筆頭に抱きしめちゃうのが大好き♡

今だつて両脚をクロスさせて、パコつくイザヤの動きを制限させてしまいうくらいに、
 だいしゆきしちやつている♡

「こちらこちら！ 嬉しいけどチンポ出来なくなっちゃうぞ！」

「やらあゝ♡ いやあれすうゝ♡ ますたーギューっしてしてチンポさりたいいゝ♡

ふー♡ ふー♡ あああ♡ しょこっ♡ グリっしてしやれ、へええ♡ うあああつゝ♡

♡」

背筋がゴリランダー並のイザヤは、やむを得ずヴィヴィのだいしゆきホールドを一時解除させ、すぐさま胸板とHカップのクリアランスをゼロにする、ラブラブ密着で「動きやすく、抱きしめ易く」の理想的な体位を取ってあげる。

ヴィヴィと言えば「クロスーX」だが、まんぐり返しーVの字にさせられてしまう事も、同じくらい多い♡

ヴィヴィも攻撃種族値135パワーがあるので、絶頂と同時にだいしゆき万力を食らう可能性もある……一度、イザヤは腰を真つ二つにさせられてしまい、セックスが3日（たつた三日で回復するバケモノ）出来なかった過去があるのだ。

「それでもしちやうくらい、俺の事が大好きなんだよね！」

「しゆきいいいゝゝゝ♡ だいしゆきイイ♡♡ しゆき♡ しゆき♡ ますたー

ますたー♡ ああツ♡ ちんぽふくりやんれえ♡ ふうう♡ イキましゆっ♡♡ ま

すたーのくらしやひい♡ びゅぐびゅぐあちゆいのおおゝ♡ ましゆはああー♡

♡」

「ああああああヴィヴィ！ ヴィヴィ！ かわいすぎるだろおおああああ!!」

タンクトップが二つのおっぱいを、一つ包みにし激しい揺れを巻き起こす。

このままではヴィヴィのクーパー鞆帯が切れてしまうかもしれない!

イザヤはタンクトップを脱がさず(当然)むぎゆうううう♡ 自らの手でおっぱいを押さえ込み、さらなるヴィヴィの育乳を願っている!

ドズツ♡ ドズツ♡ ドズツ♡

彼女が鋼タイプでなければ——メタグロスでなければ、おまんこは鉄槍で再起不能にさせられていた。

チエストプレスが揺れてしまう、ピストンの衝撃に隣の部屋の使用者は、地震と勘違いして部屋から飛び出す、それだけのパワーを込めてもヴィヴィは——快感に変換させ受け止めてくれる!

「ニャアアアアアアア♡♡ まふっ♡ はああくくああああつっ♡♡♡

あふっ、うっ……………くふっ♡ ふっ……………んっ、ふう♡ あっ、ああつ♡

こんなにい♡ ふう……………ふう……………マスタあ、キス、してください……………んゆっ

♡ ちゅぷっ、レロ……………オ♡ レプレプツ♡ んぢゅ、るるっ、はあ、ん♡ だい

すき、です……………♡♡

2人は暫く抱きしめ合っていた。

体勢が崩れ、ヴィヴィが再び両脚クロスしてしまっただが、弱々しく脱力しており、耳にキスをするだけでビクーンッ♡ 両脚を伸ばしてからまたイツてしまった♡

「可愛かったよヴィヴィ、もうちよつとしたらシャワー室、一緒に行こうね」

「はあ、はあ、はあ……………♡ うん、いつしよ……………マスターと♡」

イツた後のヴィヴィが一番素直になる。

頬を撫でてあげたら、「うゆつ♡」と、よく分からない言語を発しながらも、きゆうきゆう……………

「あの、そんなにおまんこ締められたら、チンポ抜けないんだけど……………」

「ひゃわっ♡ マスターのチンポ♡ 血管がどつくんどつくん……………親指くらい太い

んですよ♡ そんなモノがおまんこの中を動いて、わたしのミゾを打つてくるんです♡

んふっ、このままもう一度しましょうか♡」

シャワーはもう数時間はお預けだ、シヨールパンを剛力で引き千切つてから、うつ伏せにさせられたヴィヴィは、お尻を両手で掴まれた期待感に、子宮を戦慄かせている……………

「ふう！ いっぱいトレーニング出来たね」

「は、はい……………♡ (いつもとあんまり変わらない気がしましたけど♡)」

エツチな手持ち全員との場合―蛙くのいち登場編

お仕事を終えたイザヤは、ライモンシティのポケ擬風俗店で軽く3人との中出しバトル！

メカクレ巨乳のリリーラ、ぽっちやり巨乳のヌメルゴン、丸呑みフェラのマルノーム
……………

良かった、凄く良かった！ イツシユは風俗嬢の品質も最高で中出しもし放題！ 他地方の風俗などゴミに思えてくるのだ。

「ふう……………チンポインポカードのスタンプは溜まったぜ！ 4Pが無料とかどの子とするか迷う〜〜！」

デザートリゾート付近を意気揚々に歩きながら、住居を目指す足取りは滑らかだ。家に帰ってもトロンやルーシャが求めてくるので、あくまでも風俗は研究兼ウォーミングアップ。本番の本番はこれからだ！

「……………誰だっ！ 影に紛れているんだろう？」

—— 闇は何も返答をしない。

イザヤでなければ見過ごしていただろう、そうして歩いて8歩後に自分の首は、ピア

ノ線のような暗殺器具が食い込んで、砂まみれとなりながら転がっていったのだから。「ひゅー、おつかねえなあ？ 俺を殺すつてんだろ、おうつ、やれるんならやってみるや」——闇は返答の代わりに、その口を黙らせてやろうと、何らかの投擲物を頭上から振るう。

「……………ツッ！ チツッ！ はええな！」

やはり、凡人であれば頭がハリーセンとなつて、破裂させられていただろう。性欲も身体能力も常識の定義に当て嵌められない、彼でなければ確実に命中させられていた。

「オイオイ、俺はバトルつても、ベッドの上のバトル専門がイイんだけどな？」 野郎だつたらこの場で殺すけど、女の子だつたら許してあげる——一緒に性別を与えられた悦びを——おっと、コソコソしてたら当てられるモンも、当たらないぜ！」

暗殺者と思わしき相手だろうが、無敵無双の彼はイキる事が許される。彼ほどの男となれば「様々に利用が出来る」と、組織から交渉を持ちかけられる事も多い。

その都度、巨乳の美少女ならばセックス返り討ちにして、手持ちにさせてしまうのだから、そういった向こう見ずな輩も減ったものだ。アチコチから放てられている暗殺道具は、全てを空振りに終えても男を始末出来ない。

「そろそろ姿現せよ、複数に見せかけた一人なんだろ？ タイマンでケリつけなきや俺は殺せねえよ」

ようやく臨戦態勢となるイザヤ。どうやら分からず屋らしいので、男だったら拳を、女だったらチンポを、その身に叩きつけてやらないといけない。

「……………」
すう、静まりかえっていた「闇」は、その身をもつてして返答をした。

それはしのびポケモンのゲッコウガ。投擲されたくないが、妙に粘性が強く掠められた肌が水の冷たさを感じたから、正体には気がついていたイザヤだが――

（エツ……………ロツ!?）俺が知ってるゲッコウガじゃない！ゲッコウガ種ってスレンダーな子ばかりなのにつ！おつ……………おつぱいデケエエエ！さっすがにアリーには負けるけど、鎖帷子の向こう側にはムチムチおっぱいの先っぼが、俺を待っているんだあ……………フツーフツ！チンポが一気にイキり勃つうう!!）

忍び衣装は彼女独自に改造され、インナー（?）であるレオタードの如く身体のラインが浮き彫りとなる低面積と組み合わせられている。

袖も斬り取られているのだろう、鎖帷子に収めきれないダイマックスおっぱいが無言ながら、自己主張として星一つ無い夜空の下で暴れる。

「カワイイね！殺す前にさ、俺を実験台に膣内射精の術を修得してみないかい!」

「……………」
青いショートカットの内側を、クリームのインナーカラーになっているのは、ゲッコ

ウガの特色が現れている。口元を隠しているマフラーは、本人の舌となっているのか、そういう柄なのかは不明であるが。

「ホント、殺生だからおっぱい触らせて欲しいですっ!!」

「……………」

（ちっ、話し合いセックスで解決う♪ …………… 作戦は無理っつと、残念すぎる！ 俺の手持ちにしたい……………! この子を孕ませられないとか、男として失格だろっ!!）

一瞬で闇に紛れたゲッコウガは、代名詞である特技・みずしゆりけんを使い、無言のままイザヤ暗殺を試みようとする目で追えない瞬足で、位置を特定させずに攻撃を絶やさない。

「これはキツイぜっ！ 俺じゃなきやもう死んでるっ！」

口調はおちやらけているが、理由は不明であれどゲッコウガの殺意は「マジ」

セクハラ発言にも動じず、地面を砕きながら突き刺さる手裏剣の威力に、勃起していたチンポがやや衰えていく。

が——そこは性欲魔神、闇に隠れた相手だろうが、おっぱいの揺らめきは逃さない!

ぼよんっ、ぼよんっ、ブインッ、ばにゅっ♪

任務遂行の邪魔でしか無い?

いやっ——女忍者はお色気こそが最強の武器!

何とか躲し続けているが、おっぱいも自動的に追ってしまうイザヤは、おっぱいを優先しすぎて手裏剣への反応が落ちてしまっている……………

「何て強い戦術なんだあー！　　お願いします！　　死ぬ前にパイズリさせてくださいっ！！」

「……………」

「えええーい！　　話の分からんゲッコウガだ！　　こうなりや俺にも

考えがあるんだよおお！　　……………ツ！　　うおおお、アアアアーツ！！　　すお、こお、

づああああっ！！」

「ツ……………」

服を脱ぎながら、イザヤはゲッコウガへ——ていうかおっぱいへ——突撃した。夜だ
がここは道路……………砂漠に片脚突っ込んでるが4番道路……………まあいいだろう。

「ふっ、降参したかい？」

右手におっぱいを（しかも二つ同時に引き寄せ乳輪近くを掴む）

左手はおまんこを。イザヤすら鈍らせるドエロ衣装の真上から、的確に縦筋の入り口へ手を当てた。

この技を食らった♀ポケは最後、どれだけの敵意を持っていても種付けセックスの事しか考えられなくなってしまふのだ！！

あまりにも効力が強いので、少々封印していたがそうは言ってられない。殺される前に犯す！ 合意中出しエッチへ持ち込むのがイザヤの――

「フンツ、くだらないでゴザルな」

「おおお！ クールなイメージをそぐわない凜々しいお声だね♪ ぐべへしツ!? うあッ！ 俺の技が効かない……………だど?」

「女であるセツシヤは、とうに捨てているでゴザルよ」

(……………の割りには、男を知り尽くしておまんこ搾りで任務遂行☆なエロい身体してるんですけど……………)

ゲッコウガの声をやつと聞いたのは嬉しいが、得意技がまさか無力に終わるとは想定外だった。

イザヤの頬をブン殴り、引き離そうとするゲッコウガ。そんな彼女をセクハラ固めで捕まえているイザヤは、殴られたって女性の象徴2点セットからは手を離さない!

「このまま殺すだけでゴザルよ」

(ヤバイツ！ 攻撃種族値200くらいあるパンチに裏拳だぜ！ 俺でもライフが削られまくつちまう！ どうすれば、どうすれば……………考えろイザヤ、頭じやない、チンポで考えろ……………ハッ!?)

どんなにお堅くて、おっぱいは軟らかいポケモンでも、身体をねつとり触られたら嬌

声を上げていた。

イザヤの常識が通用しないのは初めてだ、相当に修練したゲッコウガ、さらに仲間にしたいた欲がチン棒の血流を高速巡回させる！

「ゲッコウガ、お前の敗因はアア！ 俺に接近を許してしまった！ その時点でもう負けているだアアツツ！」

おっぱいから手を離すイザヤ。着地点は――

「……………ハツ！ んっ、んやあああああつー！ み、見るなああでゴザルうううくくく！」

「へへへ、ゲへへへへへッ！ テンプレ語尾もまたカワイイよゲッコウガ？ へえ、マフラーは舌じやなかったか、だがツ――」

自分からイザヤから距離を取ろうとするも、マフラーを返して貰わなければならぬ。
い。

暗殺者として極めて優秀で、おっぱいを揉まれ、おまんこを乱暴に弄られたつて、軟弱な女共と違い彼女は一滴の汗もかかない。寧ろ自ら触らせて、そのまま首を斬つてきた事もあるくらいであった……………のだが――

「返すでゴザル！ やっ、やっ！ セツシヤはそれが無いとおお！」

「こつちが素の性格だなっ？ やあくくなこつた！」

音も無く忍び寄り、疾風迅雷の素早さは影も形もない。

おぼつかない足取りでマフラーを取り返そうと、ヒラヒラさせているイザヤが頭上へ持ち上げたって、ジャンプする事すら忘れ手を涙しながら伸ばしている。一瞬でヘツポコ忍者に成り果ててしまったゲツコウガ……………

「キミは口元が隠れてないと、こんな感じになつちやうんだろ！ 返すから俺の仲間にならな——」

「ふざけるなでゴザル！ 誰が貴様の仲間になどお！」

……………ゾクゾクする！ 口調こそ強がるも、メツキの剥がれたゲツコウガはとにかく、マフラーを取り返さなくては任務どころか、人つ子一人居ない夜ですら、マトモな活動が困難なまでに恥ずかしがり屋なのだから。そんな彼女の命運をイザヤは握る、逆転だ！

「分かった、仲間にならなくていいからさ！ ほおら、さつきから目を逸らし始めた俺のチ・ン・ポ♪」

「ヒヒイイツ~~~~!!!? そ、そんな太くて大きい男根見た事ないでゴザルよおお！」
 (むっ！ 処女の香りがするっ！ エロい事はしてきたが純潔を保ってる忍者って……………ますます！ 俺の物にしてえ！)

魅力的な♀ポケである彼女を逃がしてはならない！ どんな手段を使っても絶対に

「墮とす」と決めたイザヤは、25cmもの鬼神チンポを軽扱きさせながら、条件を提示した。

「ゲッコウガちゃんのご立派おっぱいで、狭射の術を見せて欲しいなあ！ あ、紅葉合わせって方が分かりやすいかな？」

「い、い、嫌でゴザル！ セツシヤはそんな事したことは無いでゴザル！」

「ぬ……………ぬ あゝ 二いゝ!? パ、パイズリした事無いの??」

イザヤの方が驚いている。口元を腕で隠しながら「乳でそんな……………挟むなど……………」と、ブツブツ言いながらイザヤチンポをチラ見するゲッコウガ。身を振ればそれだけ爆弾おっぱいが揺れ、パイズリアピールをしまっていると気がついてない。

（何処までシタことあるんだ?? チンポ見ただけか? くっ、てつきり変幻自在のパイズリで、あらゆる男の陰囊を畳返ししてるモンだと……………）

だが決まった、「俺がパイズリを教えればいい」のだと！

そしてこれからも教え続けて、エッチな任務もハメ抜き通す淫乱忍者にしてやるんだと！

「もちろん任務の対象は俺だけね！ さあ！ 返して貰いたいんだらうっ?! 腹をくくれゲッコウガ！ デカパイでチンポ挟み撃ちしろっ！」

ゲッコウガは悟った、言う事を聞かなければマフラーどころではない、殺されてしま
うのだと！

イザヤはもう、ゲッコウガとセックスでパイズリされたくって頭がキレている！ あ
らゆる力を総動員して犯し堕とし、種付け懇願セックス玩具絶技パイズリ蛙に仕立てて
やると、凄みを利かせチンポを握らせた！

「挟め」

「……………！ くううっ！ 分かったでゴザル……………挟めばいいのだろう、挟め
ばあっ！」

（はい、俺の勝ちくううっ！ ゲッコウガのおっぱいは……………ふううむ！ Jカッ
プ……………ッ！ これはヤバいぜ、パイズリされたらどうなっちゃうんだよっ!!）

「あああああっ！ やらしい手つきでえええっ！ んっ！ くうッ！ ハアー！ あっ
!?! ンンッ！」

たかだか、下乳を掴まれただけで、メス声を荒げさせるようになってしまったゲッコ
ウガは、完全にイザヤだけの物になるうとしてしている、カウントダウンを自らが開始させ、
刻ませてしまっている！

御託はいいから、とにかくパイズリないザヤは、足払いならぬ、乳払いで容赦無くゲッ
コウガを転倒させてから馬乗りになる。

「しゃーない！　今回は俺が主導でシテやろう！　鎖帷子パイズリも捨てがたいが………今回は破つちまうぞ！　よおお〜し！　軽量ボディがウリなのに、どつしり構えた門構えおっぱいだ！　パイズリされ甲斐があるぜつ！　おっぱい処女も俺の物だ！」

「いやあああああつ！　酷いでゴザルうううう！　うううー！　ンギユツ！　ウウウウ〜〜〜！　揉み揉みしちやああつ〜〜〜！　ひっーひっー！　ツッ!？」

鎖帷子の穴に丁度乳首が引つかかるように破き、有無を言わずにチンポ挿乳？
みっちゃん？　ギユツ、くくくつ………う？

「く〜く〜ア、ツッ!？」　深い………深い………ツッ！　水タイプ潤いと悪タイプの殺傷力！　二つを合わせた母性に残酷性、そう、早イカセと永久乳寝袋を両立させている！　かあ〜〜〜！　イキたいけどイキたくねえ！　選べる美味しさのおっぱいだぜ！」

パイズリソムリエの資格を所有しているので、ついテイステイングコメントは辛口になるイザヤも太鼓判。処女であるのが不思議なくらいのJカップは、真上へ搾れば縦長へ、真上から両手を突き落とせば横拡がりに、フォルムチェンジまで備えていたフレキシブルおっぱいであった！

エッチな手持ち全員との場合―蛙くのいち陵辱墮ち編

「ヤダああつ……………男根が熱いよお……………ふあ、ん！ 動かないでえ……………胸え、揺らさないでええ〜〜！」

「そうやって抵抗すると、ぷるっぷるに揺れちゃうんだって！ 乳輪大きくてエロいねゲッコウガちゃん！ 口元よりも胸元をもっと隠した方がいいんじゃないの、あれじゃあ零れるでしょ！ このっ！ このっ！ 忍びなのにおっぱいは堂々とし過ぎだ！ エロ忍者あー！」

マウントを取られた事がない彼女は、イザヤの体重をかけたズリピストンの1往復1往復に、嫌悪する間も与えられず別の感情で早くも支配されつつある。

年頃なので興味はある、自身の身体は忍ばせられない暗器であって、時には誘惑しか弱い女と思わせつつ――ズシヤツ、という任務も繰り返してきた。

身体を縛られたって、電流を流されたって、闇に生きる彼女は動じないし屈しない。最後に立っていたのは常に自分であり続けた――

（セツシヤの知る大きさではないっ！ セツシヤが見てきた男共の男根はゾウドウ

……この男、イザヤはダイオウドウ……あつ!! んひつ! 武器が出せない
 ……情けないっ!)

女である事を捨てながら、女である事を活かし生き抜いてきたゲッコウガ。

マフラーで口元さえ隠れていれば、例えばパイズリされても冷静に切り返せていた。谷間の圧迫を強めチンポを折ってしまう、パイズリに夢中になっているところを真下からザツクリと。

……今の彼女はエロい声を発しながら、ギャン泣き一歩手前だ。

こうなってしまうたら「所詮自分は女でしかない」と思い知らされ、無念で拳を握るしかないのである!

「はぁはぁー! ゲッコウガちゃんさあ! おっぱいサイズJでしょっ!? こねモチおっぱいズリイイ〜! スルいおっぱいでパイズリい! パイズリ処女でしか味わえないファースト・パイズリなんだよなあ!」

グポツ、グヂュツ、仰向けにさせられ胸が壁となつてしまい、大半の視界が覆われているのだがズグツ、ブヂュツ、谷間を割って来るチンポの迫力は鮮明に開示されている。(はあ〜〜〜! 凄いでゴザルう……オスの匂いで頭ああ……惑わされてはいけないでゴザル! んはああつ! につ、握らないでええつ、ひゃふうううツ! 乳首吸つちやあああつ)

「馬乗りパイズリが似合うねゲッコウガちゃん！ 暗殺なんか止めて俺の手持ちになつてよ！ チンポならいくらでも暗殺していいからさっ！ おっぱいでもお口でもおまんこでもさあ！ 神速絶頂の術使つてよー、ねえねえねえ！ 今何されてるか分かるよねっ？ パイズリ！ はいっ、復唱！」

マシンガントークしながらマシンガンパイズリ。

彼女ほどの巨乳ですら、イザヤチンポは易々と貫通させ口元に、頬に、額に届かせてしまう。正に神のお社であるヤリ♂の柱だ。

「おっぱいの中でビクビクしてるよっ！ そろそろイク！ 初ぶっかけでイケ！ ゲッコウガあ！」

「イー！ イクツてえ！ 精液やあああかけないでえええっ！ ふああっ、ああっ！ ひゃあああつっくくくうああああ!!」

チンポ一本に負けてしまいそうなゲッコウガは、何とかイザヤの両腕を握ったのだが1ピストンされ、あっさり背筋浮きさせてしまう。

そろそろだと、イザヤは陸側へも手を伸ばしながら、筋を隠しているだけの面積しかないクソエロ衣装を横へズラす！

やはり、ビチャ濡れ！ 女の悦びを知らない女こそ、スイッチを入れてしまえば過去を取り戻すようにして間欠泉を起こす！

中でも水タイプは粘度が強い、さらに言えば彼女は粘液で武器を作りだすゲッコウガ種だ！

その気になれば腭液からでも手裏剣やくないは作れるのだろうか？

「ふうふう、後で試して欲しいな！ 精液が染みこんでいく初顔射のお肌？ 返り血よりも精液浴びる方が楽しいって分かった？」

「……………ヒンツ、ふああ！ うっ、ううう……………こんなあ……………胸だけで……………くうう、うあああああつ！ 殺せでゴザル！ 生き恥など晒すのはゴメンでゴザルううう……………」

パイ上にも中にも、ごっつりたつぶり精液を飲み込まされたゲッコウガは、おっぱいを遊具さながらに扱ってザーメンブリッジを創造させ「見て見て、伸びるチーズ！」と無邪気にはしゃぐイザヤへ向け、凜々しく潔癖で男嫌いな戦士テンプレともされる文句で死を選ぼうとした。

ブリッジが三本も……………パイズリが終わってもおっぱいをたゆませられ、望まずに取り付けられてしまった筋中へ這い寄る左手の、かき回す動きに耐えきれず顎を夜空へ向かせながら、再びのアクメを覚えさせられた。

「んああああ……………止めるでゴザル……………はあーはあー、ううー！」

「止めるワケないでしょ！ 俺の手持ちになつてくれないと！ さあどうする？ 毎日

「パイズリご奉仕するドスケベメイド忍者になると——」

「黙れええっ！ 殺せええ！」

「頑固ちゃんめ！ 頭ん中ボデイパージさせてやるっ！ うりやー！」

懺悔を与えたのに応じなかった。ゲッコウガが悪いのだと、アクメ汁を激流させ菌軋りしてくる彼女の膣まんこへ、何でも貫ける肉槍を振りかざし、そして………

「ツツツ……！？」 ああッ、あうッ！ イギヤア、ア、ア、ツ、~~~~~！
ヌッ！ ぬいッ、でえ、~~~~~ッ！」

血で汚れた彼女が保ってきて、決して捨てる事は無いだろうと思っていた純潔が、人類最強チンポでスターアサルト！

悪タイプ of 彼女にこうかはばつぐんだ！ 処女まんこは壊されてしまった！

「抜くのは嫌だけどヌキはしてあげるから！ すんげええー膣内！ 真っ直ぐ落とし込んでるのに迷路かあッ！ 正解の道筋をスジで捜すのに苦労するぜ！ おおおと、膣圧でチンポ塞いでキタあ！ このまま押し切るぜ！ うりやあッ！」

最も屈辱を与えられるとして、まんぐり返し種付けプレス！

大きく開脚させながら、彼女のお尻に座り込むようにして挿入し、処女を奪い去った。血で染まっていた身体が、処女の証でも染まる、何とも皮肉だろう！

「あッ？ んん~~~~ッ！ あッ、おおお~~~~ッ！ へうッ！ んへう~~~~ッ！ 男

根っ、入ってる！ セツシヤの膣内にい！ ヤダ！ ヤダヤダあ！ 貴様ああつ！ 絶
対に殺してやるでゴザル！」

墮ちかかっているが、まんぐりプレスを實行されても彼女は抗おうとしている。首を
絞めようと両手を伸ばしたが――

「あひいいつくくくく？ んうう？ あはあー？ ああー？ 膣があ？ 裂けるううツ
？」

「もう裂けたでしょ？ 俺の手持ちにならないと――もう動くの止めようかなあ！」
「……………えっ、こ、ここまでシテおいて……………」

「えっ？ だって嫌なんでしょ？ 処女奪えたからもういいかなって、さあて、チンポ抜
くかあ」

言うまでも無く演技だ。本当は虐めヌキ膣内精液支配したくて堪らないが、少しだけ
の我慢だ……………

「まつ、待つでゴザル！ はう、ンツ？ んひつ、はあーはあー……………？」

チンポのカリ首までを引き戻された。

……………この太いカリが幕を破き、壁を切り裂き子宮奥を叩いてきた。今一度顔を背
けて履いたが、横目でチラりするゲツコウガは「どこにも行かないで？」と、亀頭だけ
でも捕縛させようとおまんこを締め付ける。

「う………ッ！」 止めてって言ったたり待ってって言ったたり、どっちなんだい？ あつ、おっぱい触るのもいいや、俺の目的は達成されたしね？」

真上から真下へ、イザヤの視線もチンポの軌道も読めきっているのに、おまんこ以外に力が入らず首絞めも不発。寧ろイザヤには「そんなにセックス離れしたくないのw」と、興奮剤にしかなっていなかった。

「この姿勢結構大変なんだけど、セックス止めまあ〜す！」

「〜〜〜ッ！ 最後までするでゴザル！ セツシヤの初めてを奪ってにおいて………それで終わりだなんてあんまりでゴザルよ………望んだ相手でないとも言えども性交でゴザル………腔内に出すまでしないと殺してやるでゴザル………」

恥辱の臨界を越えたのか、腕で目元を覆いながら吐露する、エッチに弱々なゲツコウガ。

処女を奪ったのだから責任を取れ、という事らしい。彼女なりの考えがあるのか、暗殺対象でしかないイザヤとのセックスは嫌だけど、奪ったのだから最後までではシテ欲しいらしい………

「ま、すぐに『望んだ相手ではない』を訂正させてあげるけどね♪ おらいクぞお！ 確定必中妊娠子宮にさばきのつぶてだ！ 俺の命を狙ったのが最大の敗因だぞ！ チンポ啜えこみやがってドスケベめ！ 上の口もケツ穴も俺の物にしてやる！」

た？

「はぁー……………？ はぁぁ……………？ そんな、なぁ……………う！」

交尾汁に処女血、股間から流れ落ちるソレはゲッコウガの口内まで届き、口を一文字にしたが少し入り込んでしまった。

屈辱の味を噛み締めてしまった彼女は、それでも墮ちない。反撃の機会を伺うような殺意マシマシの顔つきだが、膣はキューーンと？ ハグを求めてしまつてイザヤの魔神チンポをしゃぶつたまままだ。

「手持ちになるまで中出しするからね！ 膣だけじゃないぞ？ 次はおっぱいに舞い戻らせて貰おう！」

デユポ、ンツ！ 逆流精液が結合部とのアーチを作り上げ、縄跳びでも出来る強靱な白き絆と素晴らしい評価を与えるが、ゲッコウガはまだイザヤを殺す気でいる。

これだけの辱めを受けても墮ちない、その意志の固さはヨシ！

「だからこそっ！ 墮としてやりたくない！ 欲しい物はエロで手に入れる！ それがいざや！」

「おっぱいの質感もエロく輝いてるぞ！ 汗と精液でだつくだけだぞ！」

「やつ？ ううううう？ また胸の中に……………やぁぁ……………」

絶対に貴様は殺してやるでゴザル……………ッ！」

連続5回もパイズリイキされ、開発チユートリアルを済ませたJカップは吠える。だがイザヤには効かなかった!

乳首もイザヤが弄りやすいように、勃起しパイズリ時におっぱいをホールドさせながら動かせるフックにもなった?

「んぷっ? ぢゅふっ? ンぽおっ? ちゅう、ぢゅくっ? ンやはあああゝゝっ? ぶぢゅっ、ぐりゅっ? ンぱッ、くちゅう?」

「うっは!? フェラ上手だねえゝゝゲッコウガちゃん! 身体がメスの悦びを知って、オスへの媚び方が目覚めてきたかなあゝゝ! ア! その溝を横からは……………イクッ!!」

初めてのおしゃぶり、横たわりながら啜えさせられ、イザヤに彼女が射精しているとしか思えないおまんこ液を弄くられている。

殺気の視線で睨まれているが、上目遣いフェラになっただけだ。

ゲッコウガなので体内の粘性は、通常水タイプよりも大きく勝っており、フェラチオに活かされチンポをねっとり包み込む。

火傷しそうな熱感、しかし水タイプのひんやり感、結果適温となつてずっと口マンコに挿入が出来る温度なのである。

「ブハッ……………! ゲホッ? ゴフッ? ぐう、口に……………はあゝ? はあゝ?

ヒグッ!!??」

「ケツ穴もいっただきまあ〜す！ ウオオツ！ チンポに激震くるう！ 腸液までもがネバネバトラップ仕掛けて流石忍者！ 精液食ろうときゆうきゆうしちやって可愛い〜！」

「や、があ、あ、あ、つ、〜〜〜つ、！ ウギヒツ、!? シイイ、イ、イ、イ、〜〜〜又、いでえええ、え、〜〜〜」

ゲッコウガを押し倒したまま——抵抗をする意志が揺らいでいるのを感じ取った——バックからヒク付いた尻穴蓄の初めても奪い去る！

狭さは膣よりも上だが柔軟性も膣と同じだ、無理矢理がまかり通って腸にドスツ！

ドスツ！ 泡を口から吐き出すが目の焦点がアヤフヤとなつて、尻を自分から回し込んでいる！

「渦潮アナルいい！ ホントはエッチに興味あつたんでしょ？ 毎晩ケツオナしてたり？ 俺の手持ちになればオナニーなんてしなくても気持ち良くなれるのに〜！」

「誰がああ？ 絶対イヤでゴザルうう〜？ フギツ？ イヒイイイイツ？ ガハツ？ フ？ ウフアアツ？ やめへえええ〜？」

肛門で射精中出し！ 口から出されたばかりの精液を吐き出したゲッコウガは、地面に倒れ込みながらお尻だけは緩急し、続きを求めている。

「クライマックスだ！ ケツ穴犯したチンポでおまんこ穿る！ まだ俺のポケモンにならないって言うかあ！ そうかあ！ じゃあ中出し虐めしてやる、うりゃー！」

「丁度バツク挿入が出来る体位だったので、お尻を引っぱたきながら挿入すると、ギチツ？」

（チンポが弾かれるっ！ この子、マゾなのか？ Jカップだしアリーと同じかよっ！

亀頭の啞え込み最高〜！ 金玉がクリにぶつかって嬉しそうに媚び回すおまんこお！ 逸材ゲットしたあ〜！）

マフラーを引っ張りながらピストンしたいが、巻いてしまったら反撃される恐れもある。

なので髪を引っつかんで、激烈な太さのチンポで汗と唾液と腸液の全てを経験したチンポを、精液逆流腔に還らせゲツコウガにも覚えさせる！

「んうオオオー？ ほオオー？ オツ？ イツ〜？ イウ？ イグツ〜？
ほあああ？ んオオ？ くほおおお？」

いい鳴き声になった彼女へ、ケツビンタのご褒美を食らわせる？

メス穴ツアーも「一旦」の終幕だ！ 口にはしてないがゲツコウガは快樂墮ちをキメている！

彼女は種族柄舌が長い！ ビチャビチャになった長舌が谷間に挟まれて、セルフパイ

ズリしながら四つん這いでおっぱいを揺らし込む！

これを媚びたと言わずに何と言えればいいのかっ!?

ペアアンツ！ イザヤの下腹がゲッコウガのお尻にブチ当たって、横面積を広くさせる歪む瞬間も堪らない！

ネヂユツ、ネヂユツ？ すっかり血は失せてしまった忍者まんこ、恐ろしい硬さのチンポが子宮の入り口を壁ドンする！

「大好きな中出しイクよおー！」

「きゃあああつ？ イグ……………う？ ハアハア？ イグのお？ きもちいのくるよおお？ ひいー？ ひいー？ うふううう？ くくくツ？ はっ？ あ？

イギユウ？ ンンンツツ？ インツツ………??」

全ての穴を支配されてしまったゲッコウガは、無事に着床を果たした。

何度射精したか忘れてしまったが、イザヤのチンポは根元が既にウズウズしており、お姫様抱っこしているゲッコウガのおっぱいに届いている？

「さっ、帰ろうか♪ 俺の仲間達を紹介するからさ、皆で楽しくエッチな夜を過ごそう！」

「……………っ？ はいい……………？ 主、さまあ……………？」

クールドスケベロリ巨乳、痴女盲目褐色おっぱい、妹オツドアイ悪戯おっぱい、ドス

ケベ神様つるぺたおっばい、メイドお姉ちゃんおっばい、ヤリマン魔女マゾおっばい。
そして——ドスケベマゾ忍者おっばいが仲間になった！

エッチな手持ち全員との場合―蛙くのいちと占い師とセックスその1

イザヤを始末しに来たゲッコウガは、何処かの組織の雇われの身であった。

セックスで返り討ちし、ドスケベ女忍者を手持ちに加えてから自宅に帰還した。

―ゲッコウガが手コキをしながら。

「おにーちゃん♪ お帰りなさー……………！ ぬわああ！ 誰なのオそのゲッコウガア！ おちんちんシコシコしてるう……………？ 羨ましいよオ……………？」

「イザヤあー！ 遅いぞ寂しいぞー！ 余をあまり待たすでないっ！ 帰宅後即交尾の約束を……………デエああッ!? 誰なのじゃ！ そのメスは！ マラを握り締めておるが……………？ フツ！ まだまだヘタクソなマラ扱きじゃなあ〜！ 余がお手本を見せてやろうか？」

何と、ルーシヤとギラティナさんが出迎えてくれたのに、手コキをさせたまま何食わぬ顔で挨拶するイザヤ。チンポだけでなく大物なる、メンタルは鋼タイプよりも頑強だ。

「紹介するぜ！ 新しく俺の手持ちになったゲッコウガ、ニックネームは『ミヤビ』だ！

ああ、ギラティナさんの指摘通り、エッチはさつき初めてしたばかりだから、あんまり虐めないであげてくれ。ん？ ドスケベマゾだから逆に……………」

闇の世界に堕ちていた暗殺者は、イザヤの霸王チンポによって「堕ちた」

彼には絶対服従のメスマゾ奴隷、帰宅中も駆弁ファックを求めたが、手コキしか命令してくれなかったので、綺麗な顔を歪ませるまで泣きすがりながら、おっぱいでイザヤの腕をすりすりしながら、媚び懇願したのだ。

(帰ったらセツシヤを調教してください……………?)

特性がへんげんじさいだけに、順応性能は半端じゃない。

メスマゾとして一生可愛がってやるとキメたので、セックススクールを開始させる！

「ギラティナさんとの約束も忘れてねーから！ 破れた世界でチンポ300連発しちゃうぞお☆」

「ふあああつ？ おめこお？ マラで擦られただけでイキそうじゃあくくく？ スルぞつ？ イザヤが新入りに夢中で、余との交尾を忘れていたら自殺してやるつもりだったんじゃくくくつ?!」

「ギラティナさんは、どうやつても死なないデシヨーが……………お兄ちゃん？ アテともエッチ……………？ お願いな？ ちよつとだけでいいからあ……………?」

モテる男は秒刻みのスケジュールを速やかに組み立て、予定外の事態にも瞬時に対応

する。全ては種付けセックスがしたいから！

そして宣言通り、……………をちよつとオマケして、ギリティナさんとは中出しセックス350連発、ルーシヤとは美乳パイズリで2回ヌカれて、お約束の脳ミソチューチューセックスからの、後背位で5回中へ出させて貰った。

「ふニヤあああ〜〜んツ？ イザヤあ？ ハッーハッーハヒインツ？ 相変わらず凄いのお〜〜〜？」

「ハフッー？ フウフウ……………？ 忙しいのにゴメンネエ？ アテ、満足したからあ……………？」

体液塗れになって、ベッドでクタクタになった二人は、出しまくって尚、顎まで到達するロングバレルの人外精力を向けられるミヤビを、羨ましがる眼差しを向けながら—
—幼い筋を自己愛撫している。

イザヤのマイルームには、複数名と、それこそ現在の手持ち全員と入り乱れても問題が無い、セックス用のキングベッドは配置されている。

「誰にも屈しなかつたくのいちが、チンポに屈しちやつたねw ちよつと前まで処女だったのに、マン汁激流じゃんw」

「いやあああああ??? 言わないでくださいいい? こんなにセツシヤは淫らだったなんてえええ? 主様に教えられてしまったでゴザルううううう???」

ドスケベ女忍者衣装のまま、マフラーだけは外されてしまい、快感に素直になれと命令されたミヤビは、忍者おまんこに突っ込まれ、的確にGスポをノックングするたつた一本の指に、悶え、喘ぎ、ムチムチの太ももや任務には邪魔すぎるJカップを、タマラシクくらいに揺らし早くもベッドシートに世界地図を描く。

「旦那様つたら? 新しい子が来てくれて燃えてますね? チュプツ、ンプツ、チュルチュルツ? オチンポ様おいし? ミヤビさんも恥ずかしがらないでください、素直に受け容れる方が気持ち良くなりますよ」

久々に登場した気がする、布面積1割の占い師にして、第一の嫁であるトロンが補佐を担当する。

イザヤに惚れたり、セックスに墮とされた子を連れ帰ったり、自ら「エッチが上手くなりしたい!」と懇願する♀ポケは大量に居る。

スクールの名目でエッチしまくる会場として扱ひもするから、ベッドは一ヶ月に1回は交換しないと耐久性が持たなくなる。毎晩何千もギシギシツ、そりゃあ持つ訳が無い。

「ふええええ……………トロン殿お……………」

「いい顔してますよミヤビさん。ワタシが男性への——いえつ、あなたの主でありワタシの旦那様でもある、イザヤ様が喜んでくれるエッチを教えてあげます?」

服を着ているハズなのに、全裸よりもある意味エロい二人。

お仕事の為に外出すれば、それだけでスケスケパレオからの、パンモロと薄布に浮かぶ乳首のコンボで、穢れを知らない少年を精通させる褐色エロボディ。

その身体を白染めしているのは、ミヤビに手マンをしながら亀頭をビクつかせる旦那チンポを、つまみ食いフェラさせてくれるイザヤだけである。

「あなたはエッチに対して、まだ恐怖心が残っています。エッチは怖いものではありません、旦那様に身を委ねましょう?」

何だか教祖を拝める神官を彷彿とさせる発言だ………トロンにとって、イザヤは神よりも称えるべき存在なのは間違っていない。

「どうぞ、オチンポ様にご挨拶してください」

きゅくつ? きゅくつ? にゅきゅつ?

亀頭を撫でて凶暴性を抑止していたトロンは、手慣れた動作で流れる様にチンポを扱き始めた。

「挨拶でゴザルかあ………お、おちんぽ様あ? 卑しくて、処女だったくせに淫乱の本性を持っていたセツシャに………?」

口淫をおくく? 口淫の許可をください

でゴザルう………はっーはっー？」

小声でトロンから耳打ちされたミヤビは、処女を奪ってくれたイザヤチンポに媚びる。

「上手にオネダリ出来たら、オチンポしてくれますよ？」と、言われたら全力で頭を下げ、下々を見上げそそり勃つチンポを、上目遣いしながら口内で唾液を糸引かせ、口元を横へ広げ開示する。

………まあ、オネダリが失敗してもセックスされるので、トロンが発破をかけただけなのだが。

「いいよっ！ 合格合格！ ていうか、俺のが我慢できないwww ミヤビのおっぱいもお口もおまんこも！ 3つのOを俺はモノになつたろ？」

「ヤリましたね、おめでとうございます！ 旦那様とのオチンポ確定ですよ………？ 後ろからジュポジュポされるのも、抱きしめながらグチヨグチヨ腰振るのも？ 全部許してくれますよ？」

「んひやうう？ 本当でゴザルか？ 主様あ？」

レズではないが、イザヤを補佐する関係上、受講者を導くために結局は、関係を持つてしまうケースも多いトロン。

耳に息を吹きかけるだけで、ミヤビは面白いくらい顎を仰げ反らせたり、二の腕で

？ 主様のおちんぼをいやらしくご奉仕する為でゴザルう？」

50 cm以上離れた位置からも、口内で折りたたまれていた舌が、本領を發揮しトロンの動きが止まってしまう程の、舌使いを披露させている。

重ねて言うが、ミヤビは「これが二回目のフェラチオ」だ、なるべくしてイザヤの手持ちになった、するべくしてチンポご奉仕をしている……………

「ワタシの方が負けていられませんね？ んぢゆつ？ くぢゆぢゆくく？ んぷはあ？ オチンポ様？ ワタシの深いところまで来てください？ はむんツ？ んツ？

ふぢゆぢゆツ？ んぼツ？ ぢゆぢゆぐくくくううう??」

対抗心を刺激されたトロンは、目隠しボールがズリ落ちそうな勢いで、亀頭にむしゃぶりついて喉フェラを開始させる。

(トロン殿……………凄いでゴザル？ ああ、ボコボコ鳴らしながらおちんぼの形が上

がって……………？ 下がって……………？ 苦しいからこそ興奮……………してしまう？

セツシャも理解させられてしまっている?)

これが先輩、これが最初の嫁となった女の覚悟、愛、業…………

私服は破廉恥だが、上品な立ち振る舞いのトロンが、イザヤのチンポの前では只のメスとなる。感心しながらも子宮を疼かせてしまったミヤビだが――

「ヂュルヂュルツ？ ミヤビひゃん？ おふひがとまつへまひゆよ？ おくひれエツチ

しまがら、ヂュボツヂュルツ、ボフツ？ おしやべえりしまひよう？」

意識すると「言いたい事があるのなら、チンポしやぶりながらしよう」

イザヤチンポは、二人のエッチな手持ちにフェラチオされたがっている……早く射精したそうに、我慢汁を悲しく垂らしている……

メスを覚えさせられた手持ちとして、優先すべき行為——

「んぢゅぢゅぢゅう~~~~？ あるじひやまあ？ まよこからのおしやぶり？ ぢゅばぢゅばぢゅばつ？ いかがでゴザルかあ?? れろう、れるれるれう~~~~？」

フェラ属性に変幻自在させたミヤビは、遠方から舌をさらに伸ばして、チンポの表面に巻き付けた！

ミヤビの舌が巻き付いたまま、トロンは激しくも第一嫁としての貫禄を漂わす、喉フェラでぐぼぐぼご奉仕？ ミヤビとの間接キスとなつて、思わず横縞エッチパンツを両手で抑える。

エッチな番外編—ヴィヴィと “あなた” の初えつち！

「マスター、今晚も失礼致します……………」

蒼い宝石よりも美しく輝くツインテール。

思春期という多感な心に纏わせる、衣装はかつての女性達の憧れであるブレザー。

胸元の白いリボン、ミニスカートに届く長さであり、そのミニスカートの丈は学園規律を明らかに違反している、非常識な短さであるが不思議な能力でもあるのか、ガードがやたらと硬い。

「また来ちゃいました、枕も持ってきました、えっと、お布団の中……………失礼します」
彼女が手持ちとなり半年。

普段は底無しのクールさを見せながら、紆余曲折の末に距離を縮めていき、厳しく物言いされながらも照れたり、喜んだり、様々な姿を晒してくれるようになった。

メタグロスの少女、ヴィヴィの就寝時間よりも少し前に、あなたの部屋のドアを控えめにノックしてきた。

寝巻きではなくブレザーを着用する、それは寝巻きのまま訪れて、共に布団と枕を共有した昨晚とは、明確な違いがあるのだと彼女の——お互いの——意志が無言のまま

語っている。

「……………」

今夜は枕こそ2つだが、布団は昨晚と同じく1つを2人で使っている。

あなたが右手を軽く動かすだけで、ヴィヴィの身体の何処かしらに触れてしまう。

「ん……………」

寝転びながらヴィヴィと見つめ合っていたあなたは「これから」を予感した緊張により、表情こそ平静を取り繕うとしているが心音は、ばくおんぱのように脳内へと響いていた。

同じ布団内でじつーと、見つめているヴィヴィにはバレているだろう。

唯一の手持ち、2人と存在しない相当な美少女。

どんだん頬や額を真紅に染めていくヴィヴィが可愛い。

「……………ね、マスター」

とりあえず照明を落としこんだが、暗くなってもヴィヴィと——あなたの——緊張と

高揚は全開示されている。

気のせいではないだろう、ヴィヴィの心音もドツ、ドツ、ドツ、ハイテンポに脈という命ある証を唄っている。

「んーと、えっーと……………キス……………昨日と同じようにしたい……………です

「……………」
 「あなたは情けなくなつた。」

本当なら男であるあなたがカッコよくリードしてあげたいし、そのつもりであつたのに、彼女の方から言わせてしまった。

「マスター、大丈夫ですよ……………」わたしも初めてなのは同じ、です……………」

ヴィヴィの太ももに当ててしまつていた手の甲が、一時的に宙ぶらりんになつたが——優しく、だけど不器用に、はにかんで小さな掌で包み込んでくれた。

あなたは童貞。だけどヴィヴィだつて初めてだらけ。

それでも彼女は勇気を出して、キスを希望してくれた。

……………震えている、呼吸だつて荒い、動悸だつて忙しい。

次に勇気を出すのはあなたの方だ。

「マスター、んっ……………」んりゅっ、ちゅっ、ぷりゅっ、んりゅう……………」

何度か深呼吸して、あなたは目付きが変わつた。

その間にもヴィヴィは掌を握り続けてくれて、まるで「頑張つて」と応援してくれているようであつた。

「ちゅっ、んふっ……………」ふにゅ、うあ、んっ……………」ちゅっ、んっ……………」はあー、

はあー……………」昨晚よりも近くて……………」マスターを感じる事が出来て……………」はあ、

はあ、キス、とつても素敵です……………」

昨晚もいい雰囲気になったが、お互いに中々アクションが出来ず、キスをして、ハグをして、そこから暫く真つ赤になりながら停止してしまっていた。

結局ヴィヴィが添い寝してくれた形となったが、二度もヘタれを踏まない、糞で堪るかとおあなたはヴィヴィの唇をじつとり味わった。

「ふう……………はあー、はあー……………マスター……………はあー、はあー……………んふ♪
キス、大好きなマスターと……………♪」

鋼タイプだけど瑞々しい、採れ立ての果物よりもフレツシユな触感。

キスの感覚が忘れない内に、再び交わる彼女は拒否も嫌悪もない。

あれこれと首の角度を変えたり、背中や首の後ろに手を回したり、慣れないなりに「気持ちいいキス」をしようとヴィヴィは奮闘してくれていた。

「マスター……………好きです……………もつとしましょう……………ちゅむつ、りゅう……………はむつ、ぺちゅ、ペろ……………んちゅぷつ、れえくろお、んれ? まふはあー……………ちゅぷるつ、んりゅうううう……………はあ、はあ、しゅひれひゅ……………んちゅあ、はあ、れるるる、んろお……………」

一旦キスを終えて、唇を抑え込んでいたヴィヴィ。

唇が離れる瞬間は「あつ……………」と呟いており、指で何度も唇をなぞったり、唾液

でネットついた舌先を唇に這わせたり、うっとりする声色からトリップしているのだと、推測は容易であった。

「はあー、はあー、ベロキシゆも……………しゆきれす、はあ、はあ、まふたあ、んっ……………
んうー！　ちゆるぷっ！　はちゅっ！　るずずうーっ！　れうう、んぢゅっ、ふっ
！　はあー！　はあー！」

昨夜のキスは緊張の極限であつた為か、息遣いこそ激しかったが言葉は交わせなかつた。

今夜のキスは違う、いつの間にやらデーブキスまでご所望するヴィヴィに、力強く返事をしてからたどたどしく舌を絡ませていくあなた。

「んちゅっ！　ふんっ！　はあ、ふう！　れるう、んりゅっ！　んにゅっ！　はあ、はあ、ひ、ひたはきあ、しひれへ……………」

技術は不足しているが、初めて同士なのだ、夢中になっているのだから気にはならない。

唇を頬張る、求める、触れて離れてを繰り返す。

脳に甘蜜が垂れて、その一滴一滴が深い陶酔感と、幸福感を2人で分け与えている。

「ん、はあ……………はあー、はあー……………よ、よだれ……………つながってましゅ……………はあ、とつてもえっち……………」

口内とを繋ぐ銀糸を、ちゆるンツ、音を立てずに飲み込もうとしても、どうしたって鳴る嚙り音に恥じらうヴィヴィが、また可愛らしくあなたの情欲を刺激してくる。

——ヴィヴィはエッチな事が嫌いだっただ。

あなたが——その気は無くても——身体を触ってしまえば、突き飛ばされたり罵声を浴びせられたり、酷い時は拳を振るわれそうになった。

「マスター、わたし……………もつとマスターとしたいです……………キスはエッチじゃないと思つてましたけど……………やっぱり、エッチ……………です……………」

自分からオネダリをするようになった。

信頼を築き上げられた、感慨深くなるあなたはヴィヴィの頭を撫でながら、再びキスをする。

「んやつ、んにゆつ……………るるう、ずつ、ぺちゆつ、はあ、んむう、りゆく……………つ、ぷひやつ……………あゝ！ マ、マスターそこ、あつ！ んつ……………くつ、ふつ……………く〜！」

唾液を混ぜ込み、交換しながら味や香りまで堪能していく。

ヴィヴィは紅く瞬く瞳をトロけこませて、あなたのナデナデに強く、ビクツと反応した。

拒否ではない、驚いただけだ。小さく頷いてまた目を瞑つてキスを続けようとした。

——そこにあなたは、新しくアクシオンを踏み込んでみた。

「んうう!! んやつ! ふきゆうう! ふうー! んうー! わ、たしの胸、知ってました……………はあ、はあ、気になっていた……………んですよね……………はあー、はあー……………」

——今までも偶然、背丈のわりにご立派なヴィヴィの胸に、身体が接触する事は何度かあった。

その都度不機嫌な顔になったり、哀れな視線を投げられたが、興奮は相当の物であつた。

「変だつて、わたしはそう思つてますけど……………マスターは? こんな体系のわたしを魅力に感じてくれているんですよね……………?」

——ヴィヴィは自らのアンバランスな、ロリ巨乳体系が好きではなかつた。

たつたの半年間でも、バストサイズだけはグングン育乳されていき、FからIに限りなく近いHへと育つてしまつている。

「んっ……………ありがとう……………ごこざいます……………! マスター、あなたはむ、胸

……………大きい方が好みなんですよね……………? 何となく気がついてましたけど

……………」

許されるのならば、胸を取り外してやりたかつた。

戦闘の邪魔、生活の邪魔、何一つ良い事が無い巨乳——自信が少しずつ持てるようになったのは、密かに想い続けていたマスターである、あなたの性癖を把握してからだ。

「マスターが喜んでくれるなら……わたしは、この体系でもいい……今ならそう言い切れます……! あやつ! やうつ! ふ、不意打ちで触るのはああ……! はふう! んやつ! あつ! 嫌じゃない……です……! はあ、はあ! 触つて、もつと触つてもいいですから……! はあ、はあ……!」

あなたの手を持ち、制服越しのHカップに誘導してくれた。

鼻息を荒くさせながら、あなたは指先で突いただけで、球体の全てが崩れてしまいそうなの、やわつこい感触にドパーミンを異常速度で分泌させる。

掌をいっぱい広げて、やつと掴み取れる。無駄と幸せの紙一重で、男女の相反する価値観の化身こそ、ワイシャツをシワだらけにさせてしまう、ヴィヴィっぽい。

「あつ! あつ! はあ! んやああ! マスターの手つきいやらしいです……! はあ! んふつ! ううう……! いいですよ、わたしは逃げないし拒否もしません……あなたに触れられたい……!」

球体を真下から持ち上げつつ、あなたは本能が命じるがまま、掌を小刻みに揺らしてみた。

ふるふるふるふるつ、男が愛して止まない乳揺れの鼓動、余波までもあなたが発生させているという事実。

もつと優しく愛撫してあげたいのに、クールつぶりを潜めたロリボイスで喘いでしまいうヴィヴィに、脳の回路が狂わされ考えるよりも身体を動かしてしまう。

「ああっ！ んくっ?! んっ~~~~! ダメっ! 声が止められなっ……………、マスターにいっぱい触られるの……………き、もちいい……………気持ちいいです……………あつ、言っちゃった……………はあ! はあ! もつと素直になれたらって……………そうすればマスターと……………」

——仲良しになりたい。

……………想いはあつても、ツンケンした対応をしてしまったり、羞恥が先行し重要な言葉が欠けてしまつていたり、素直になりきれない自分を「何て嫌な女」と自虐した事もあつた。

「とつても素直……………なれてますかあ? はあ、はあー、良かったです、難しいですね……………ホントの気持ち……………伝えるの……………」

こんな場面でしか素直になれない自分は、どれだけ不器用なんだろうと、胸を揉まれながら吐露する「隙間」がヴィヴィに生まれている。

ツンツンしているヴィヴィも、女の子らしく恥じらうヴィヴィも、全てのヴィヴィ

が可愛いとあなたは震える声で絞り出した。

その言葉に安心感を覚えるヴィヴィは、高鳴る心音と矛盾する落ち着きに包まれ、暫く乳揉みされながらキスを受け入れていた。

「……………ッ！ あのっ、先程から、本当は昨日から……………ずっと気がついておりましたけど……………」

敢えて気がついていない「フリ」をするしか無かった。

「マスターの硬くなつたの……………当たつてます……………んあつ、そんなに押し付けられてしまったら形状が全部分かつてしまいます……………」

覚悟はしていたがやはり象徴、ペニスを見た事は一度だつてないヴィヴィ。

落ち着きもすぐに消えてしまい、目を回しながらもヴィヴィは手を伸ばそうとしては、もう片腕で抑える。

「言つてみて、ですか……………マスターは意地悪ですね……………わたしに恥ずかしい想いをさせて興奮してしまうんですね……………エッチです……………」

パイツと顔を背けてしまうが、耳まで真紅に染まり、心なしか髪飾りの色まで紅く変色している。

あなたに対してわざとらしく、頬を膨らませ怒りの態度を見せてはみた物の、ソレを言わなければ先に進めないのも分かっている。

「……………ペニス、です……………マスターの絶対におつきい……………わたしはそのっ、ご存じだと思いますが経験も、他の男性のペ……………も見た事がありません……………比べようがありませんが、マスターのは絶対凄いのです……………」

最後に「入りきるのかな……………」と、不安と期待に満ちたセリフを吐いたヴィヴィは、頭頂部から煙を上げてしまう。

身体の冷却が追いつかぬ羞恥、遂に言葉にしまった「ペニス」

ついでと言わんばかりに、処女であると告白もした。

まあ、誕生して間も無いヴィヴィを保護したのはあなたなので、他の男と知り合う機会すら無いから知っての通りではあったが。

「あう、もつと言つて欲しいのですか……………意地悪マスターです！ ペニス……………はうっ、ペニス……………さ、触つていい……………んですか？ もう、しょうがない意地悪マスターです……………」

ヴィヴィも触りたい素振りを見せていた、ジーンズの股間部分が破裂しそうな元凶である、とても人間の身体に付いているとは思えない、鉄よりも固そうな棒。

ジジジジ、自らの小さい手でジッパをゆつくりと降ろせば、デロンツ！

びつくり箱のようにソレは飛び出して来た。

(……………っ、ここの段差、カ、カリ首……………でしたでしょうか……………中間部はでっ

ぷりとして……………根元には袋、睾丸の中にはせ、精子がいっぱい溜まって……………作られて……………プシウウウ……………)

スパコン頭脳で「ペニス」と検索すれば、膨大なデータベースから各部の名称が判明していく。

「こ、これはえつと、我慢汁……………です……………鈴口からトロトロ出てます……………この部分は裏筋で……………」

ヴィヴィの特性を知っているあなたは、意地悪と連呼されたので本当に「イジワル」がしたくなつてしまった。

ここは? これは何?

分かっている癖に質問するあなた。

両手で顔を覆いながらも律儀に答えるヴィヴィが可愛くて、耳にキスをして「睾丸」という答えを中断させた。

「んにやうつ!? ちよつ、邪魔したらダメですよ、はあ、はあ……………耳触つちやや……………やんツ! ああつ! イジワルです! にゅはああ! またキス、やつ! 身体がまたぼわわしちやいますからあく〜!」

耳が性感体という女性が多いが、ヴィヴィもそのようだ。

ポリウムあるツインテールで隠されがちだからこそ、チラと見えるのが堪らない。

「ふう、あにやつ……………はあ、はあ……………我慢汁、また出て来てます……………」
耳を唾えられながら、あなたのペニスを両手で持ち控えめな動作で、扱き上げてくれるヴィヴィ。

非日常の行為をしている、それは何時からか互いが望んでいた事。

(本当に今晚でマスターの全部……………わたしの全部をマスターに知って貰える……………)

なるべく無表情を作り出そうと——羞恥を覆い隠す為に——するヴィヴィだが、決行から1秒でもうフニャフニャと顔面から力が抜けていき、眉を下げながらキスに応じてしまう。

ガードの硬いヴィヴィも、こうなつては装甲などあつて無いような物。

「はあ、はあ……………ちゅりゅ、うう、むっ、ふっ……………うんっ……………ちゅぽっ、はあーはあー！ マスターが触れる場所……………全部……………気持ち良くなつてしまします……………」

ヴィヴィは難しく考えたり、意地を張ろうとするのを止めた。

少なくとも今晚は、素直なのが1番だと、あなたに身を委ねながらペニスを弄るのがとてもエッチで、昂ぶっていくと耳打ちしてくれた。

「ふっ—ふっ—……………ん、んえ？ マスターそこは……………昨日も気がついていて、で

すか……………そうですね、昨日もわたしは……………」

そろそろだろうと、今度はあなたが手を伸ばすのは、ヴィヴィの太もも——へと伝い流れている、粘性がやたらと強い液だ。

あなたが初めて触れる愛液。紛れもなくヴィヴィが性感を高めている証明だ。

「あの場はスルーして、今晚に指摘するつもりだったんですか? ………………やっぱり意地悪なマスターです……………」いいですけど……………」

相変わらず顔を背けてしまいが、ある意味「どうにでもなれ」の延長線上で、全てを許して全てを認めると決めたヴィヴィは、あなたに「これは何?」と意地悪く質問されても「愛液です」と、普段は絶対ありえないワードを口にしてくれる。

「んあ……………いやらしいですマスター……………今のわたしは足を触られただけで……………っ! あくっくっ! ンツ!」

ヴィヴィは受け容れてくれると確定し、あなたは妙に度胸が溢れて来ている。

初めてなのにもまるで経験豊富な振る舞いを、自然としてしまっている。

先の愛液名称質問や、ヴィヴィの目の前で糸を引かせるのだって、心臓をバクバクさせているが「行ける」と、ブーストが手助けしている。

「あううっ!?! い、今耳を舐めるのはあゝっ! ふううんっ!ズルいですっ! マスターはズルいですっ!」

普段は強気なヴィヴィイは、エッチの時は弱々しく、逆に女性に対してオクテ過ぎるあなたは、やたらと強く出てしまえる。

そんなあなたを「ズルい」と表しているのだろう。

「あんっ！ 下着まで……………もう濡れて濡れて……………全然隠せてませんからあ……………くああ……………ンツ！ そこ、だ、大事な場所ですっ……………はあ、はあ……………」

あなたは「ソレ」の名称をヴィヴィイに言わせてみたかった。

お堅い彼女が卑猥なセリフを……………男ならば、誰でも羞恥心を抱かせその反応を脳裏に焼き付けたいと思うのは普通であろう。

「……………も、もうっ！ お、おまんこ……………っくくく!! 言つてつて言われる前に自分から言つたまでですっーっ！ マスターはズルいんですっ！ 顔に『言つて』……………そう書いてあるんですっくくっ!!」

ズルいだろうが何だろうが、あなたはヴィヴィイの可愛くてエッチな姿を見たい。

好きで好きでヴィヴィイの全部が知りたい、太ももの裏にペニスを擦り付けながらキスをしたり、不規則なタイミングで胸を揉んだり……………遂には、何者の侵入も許していないヴィヴィイの女性器へも触れるまでに到った。

「紐……………なのは利便性を……………はうツ!? あ、はっ……………くあッ!! はッ

……はッ、だ、じよぶ……です……えっと、痛いとかじゃなくなつて……嬉しいですよ、から……」

普段がツンツンなのに、然るべき時にそんな反応をしてくれるのはそれこそ「ズルい」前腕を握られるが握力は弱々しい、それどころかあなたの緊張を解そうとゆっくり摩つてくれている。

「んにゃー！ はッ！ にうう！ マスター、止めないでください……もつと、お願いします……」

やはり黒であった、ヴィヴィのパンツ。

サイドを紐で結ぶタイプなもの、とつくの昔に把握している物の、興奮は飽き足らないというもの。

あの頃は着脱の利便性、及び実用性のみ追求で質素な黒色を選んだヴィヴィは、何も知らなかった。

(エッチに想われてしまう色、形状………男性のあなたを興奮させてしまうには充分に………)

自身の気持ちを理解してから、彼女は急激に恥ずかしくなってしまうていたが、後には引けないと履き続けている。

まだまだ子供な外見年齢なのに、胸だけは大人以上でさらにアダルトな下着。

ヴィヴィはギャップを凝縮させたような存在だ。

「蒼色も似合いそう、ですか……………エッチです……………うんツ!? はあ、でも考えておきます……………一緒に選んでくださいますか?」

ぐちよぐちよの愛液は下着越しに触っても、指と指に糸を引く粘度の濃さ。

これからはもつと数が必要になるねと、エッチ回数を示唆するセリフを言いながら胸、女性器への愛撫を欠かさないあなた。

「……………わたしはい、いいのですけど……………」

ヴィヴィはある意味ヤケクソだった。

素直になれている内に、言いたい事を言ってしまうと、今後のエッチも許可してしまっている。

やはり顔を背けながらだが、ヴィヴィはあなたの腕を握り快楽を受け容れてくれる。

「男性は回数制限、といいますか……………何度も出せる物ではないのでしょうか?」

検索結果を述べただけだが、ヴィヴィはあなたの「モノ」から生命を形作る、パズルのピースとなる精液が噴出するシーンを想い描いてしまい、首筋がビクツと震えてしまう。

(マスターはどれくらい勢いで……………量は……………濃さは……………摂取物に影響さ

れるとありますが……………匂いも……………はあ、知りたい……………知りたくなくてしまつてます……………はあ、はあ!」

もう止められない、止めたくはない。

死んでしまいそうな恥ずかしさなのに、もつと恥ずかしい自分を——本当の自分を——あなたただけに見て貰いたい。

「いいですよ、ブラジャー外しても……………」

延々と胸を揉まれ、筋を弄られるだけでも計り知れない快楽をもたらしてくれるが——

ヴィヴィは「マスターにも」気持ち良くなつて貰いたい。

甘蜜で意味を成していないとはいえ、あなたは下着をとづくに脱いでいるのに自分は着けたまま。

間も無く重なり合うのだからと、ヴィヴィは声を詰まらせながらもブ厚い拘束具の脱着を誘う。

「……………ん、構造が分かりませんか? ………………ふふっ♪ しょうがないマスターです♪ これはフロントホックと言いました……………こっちは、一緒にパチンで……………あつ——」

器用に片手でシャツのボタンを外してくれたヴィヴィに対して、手探りで背面にて指

を迷わせるが、ホックと思わしき物が見つからず焦るあなた。

童貞が故にスマートに行えず、てつきりヴィヴィを興ざめさせてしまのでは……………
そんな物杞憂であった。

口調は呆れているが、声色は浮ついたロリボイス。

優しくあなたの手を取り、ワイシャツのボタンを全て外し、明らかに積載量を超過している背丈とは、不釣り合いな巨乳が強震動を呼び起こす。

「あつ……………うっ……………胸、どうですか？ 形は変ではないと……………思います……………」

——重たそう、だけど柔らかそう。

散々触っておいて尚、下着と同じアダルトな色彩のブラジャーをハズされて、文字通りベールを脱いだヴィヴィの生乳。

「下から見るんですか……………物好きマスターです……………」
胸、おっぱいの前では男のIQなど消し飛ばされてしまう。

思考をフリーズさせながらも、本能のままテンガン山たる垂れが見られず、彼女の心臓の鼓動すらもくみ取ってふるっ、ふるっ、と震える柔らかなHカップ。

真下からの光景は山登りを開始する前の、登山家の気持ちである。

「ふやああああーっ!! んはやああ!？」

どれだけの急斜面だろうが、そこに山—巨乳があれば登りたくなくなってしまふ。

乳首は言うまでも無く、乳輪までもぷっくりと隆起させているヴィヴィの横乳を掴みながら、甘噛みでむしゃぶりつくあなた。

乳輪はペットボトルのキャップで隠せるか否か、髪ブラをさせずに餌を差し出された犬となって舌先で舐め転がす。

「マ— マスター—! そんなにじゅうじゅうされてしまったらああ〜っ!? くう〜!? あっ! ダメですマスター—!! キちやつ!? 何かキちやいますからあ〜! んあ! ふッ! んくうッ! あハああああッくくくッ!!」

優しくしたいと心に決めていた——出来なかつた。

ロリ巨乳な美少女が自分だけに生乳を、晒してくれている。

この子は何度悩殺してくるのだろう、あなたは心の何処かでは冷静にコメントを並べ立てるも、身体が言う事を聞く筈が無い。

幼児退行したかのように、ヴィヴィのピン張りした乳首を口いっぱい頬張って、ミルク以上の物を欲して荒ぶった鼻息で谷間の汗を落として行った。

「はあ……………ん、はっ……………ああ……………はあ……………ふーっ……………はうう……………」

ヴィヴィは拒まずにあなたを抱き寄せてくれた。

危ういと身体の状態を伝えるも、止まらないとも分かっついてくれた。

「あう……………これが……………オーガズム……………絶頂……………わたしはマスターに……………胸だけでこんなに……………っ」

ヴィヴィは胸愛撫だけでイッてしまった。

制服に付けている長く白いリボンで目を隠したつて、唾液でドロついた胸も、飛沫が跳ねてシーツに幾何学を描いた惨状、そして股を大きく開いている姿勢は隠しようが無い。

「はあ、はあ、はあ……………凄い……………」

乱暴にしちゃった、我慢汗をテラ付かせるも謝罪するあなたへ、何も悪くは無いとヴィヴィは首元にキスをしてくれた。

「……………っく……………エッチなこと、わたしは嫌いでした……………はあ、はあ……………でもっ、マスターと……………こんなに凄いだなんて……………」

言葉が纏まらないヴィヴィは、少しでも落ち着かせようと深呼吸をした。

……………深く吸い、吐けば双山も「どぶんっ」と大げさなまでにバウンドをしてくれた。

「今までのわたしが『わたし』で無くなってしまいそうです……………エッチ、好きになつてしまいそうで……………はあう……………はっ、はあ……………」

ヴィヴィの反応が可愛すぎて、あなたは脳とペニスの血管を肥大化させながら、彼女と同じ真紅の瞳を——野性的な血走りを見せる——向けながら、黙って髪を撫でているが——

「はあ、はあ、マスター……………？　辛いですよね？」

素直に傾くあなた。

ギチリッ、ペニスさがさらに硬質化する擬音がヴィヴィには聞こえた——

「……………ご奉仕させてください。ど、どのような事をするのか……………大体分かっております……………経験は勿論御座いませぬので、到らぬ事があるかもしれませんがそれでも——マスターにもっと、もっと気持ち良くなつて貰いたいです……………」

すつ、掌で微弱に回転させた亀頭は自身が飛び散らさせた愛液と、似ているようで濁りの面ではこちらの方が強かった。

「お口で……………フェラチオ……………ですよね？　すんつ、すんすんすんつ……………んあ、マスターのを触つているとはあ、はっつ、ふっつ……………不思議、舌が出てきてしまうんです……………」

「あの」ヴィヴィが、カリ首の溝に鼻の頭を押し付けながら、オスと性器独特な匂いを嗅いでいる。

「すんつ、すんつ、ふっつ……………ふっつ、すう……………んっ……………はっつ——

……はあ、はあー……………」

何処かリズムミカルに聞こえてしまうが、鼻を使って我慢汁をペニスの表面に塗りたくっている姿は、普段の凜として冷静で……………エッチな話題を出しただけでラスターカノンの構えを取っていた子と、同一の姿とは信じられないくらいだった。

「……………ぺちゅっ、んっ……………やっぱり変な味……………でもっ——」

怖かった、でも興味津々なのは本当だ。

何時までもあなたの芳香を味わうだけでは先に進めない、意を決した合図として大きくツバを飲み込んでから、先程キスをした紅い舌先で亀頭をチョンツ——

「ちゅっ、ちろっ、んりゅっ……………舐めたくなってしまいう味、なんですね……………んくっ、はちゅっ、ちゅんっ……………」

スパコン頭脳でいくらでも科学的にだとか、論理的な根拠を言い訳変わりに述べられるはする。

だがヴィヴィは頭が回っているようで、全然頭脳を活かせない。

(マスターが悪いんです、このペニスが……………スンスンスンッ！ わたしを狂わせてしまおうです……………)

狂いたい、もっと、あなたと一緒にならどんな風になってもいい。

「んえ、んれおお……………はあ、わらひい……………まふはーのぺにふう……………はっ、

はっ、なめはっへまふっ……………ちゅっ、んう、はああ、これえ、えっひひゆぎいい……………」

切っ先から根元まで、とりあえず一周舐めてみようとしたヴィヴィ。

観覧車やジェットコースターに乗り終わっても、もう一回もう一回とせがむ子を持つ大人の気持ち、今のあなたには何となく理解が出来た。

ヴィヴィにとつてフェラチオは未知の行為。

あなたが低い唸り声で反応したり、膝や指先をピクリと上下させてしまうので、ヴィヴィは「わたしは気持ち良く出来ている」と感受する。

「ぺちゅっ、れろれろっ、はあ、まふはー？ ひもひいれふはあ？ んっくくぶあ

……………んぶあ、ちゅくっ、れう……………♪」

それでもあなたの言葉が欲しいと、繊細な手つきでペニスを両手で支えながら、実に楽しそうな顔で舌を踊らせてくれている。

あなたはヴィヴィの蒼髪を撫でようとすると、亀頭を甘噛みされたり陰囊の輪郭を舐められたりと、ヴィヴィが新しい試みを休む間もなくしてくる物だから、ピクツ、ピクツ、撫でる代わりに腰を浮かせてしまっている。

「んう♪ よかつはれふっ……………チュツ」

喋りながらのフェラチオは反則だ。可愛さ的な意味でも。

どうすればあなたが良くなってくれるのか、何処が気持ちのいいポイントなのか。ヴィヴィの脳内に大切に保存されている「あなた」のフォルダに、次々と書き記されていく。

(んっ、血管がウズウズしてます……………この袋も……………あっ、出したがつているんですね……………マスター)

たどたどしさと初々しき、それでいて的確にクリティカルを出してくる。

ヴィヴィも初めての口奉仕で、ここまであなたを翻弄してしまっているのは想定外ではある。

「チュツ、ん……………ふっ♪」

親愛のキスを何度も何度も、パクついている鈴口へとプレゼントする。

ヴィヴィは耐え難い表情でシーツを握るあなたへと、労う声色になりながら伺つてきた。

「出しても大丈夫なのでしょうか？ そのっ……………回数制限など……………わたしの……………お、……………にマスターは出したのですよね？ お口に出せる分がこの中にありますか……………？ こんな事を聞いてしまつて申し訳ありませんけど……………」

陰囊を揉む手つきは指先で、くすぐる程度の微弱な刺激であるが、中で生成されている精液を練り上げているかのようで、あなたは眉間にもペニスにも青筋を増やす。

「……………いくらでも、わたしが相手なら……………ですか！ ゆ、有言実行させてしまいませんか？ ……………わたしはそのお、お口でもおま……………でも、何処でもマスターのを受け止める覚悟は出来ておりますのでえっとえっと!!」

瞳をグルグルさせながら早口になっているヴィヴィは、自分が口内を通り越して中出し承諾もしてしまっていると気がついていない。

本来の出どころは口ではなく、女性器の奥だからそのように発したまでである。

「……………つゝ!! さつきは言えましたけど……………やっぱり恥ずかしいんですよ？

お、おつ……………おおゝゝ！ おまつ、おまん……………こ……………はあ、はあ、言えました……………」

ヴィヴィにならいくらでも精液をブチ撒けられる。

男らしい宣言にヴィヴィは胸と膣の奥が、また締め上げられ心音も高くなる。

「お……………おまんこにもお……………おくちにもお……………はあ、はあ……………出して、いっぱい……………マスターの欲しいです……………マスターが出すところ見たいです……………精液、びゅつ、て……………びゅつゝゝ、て……………はあはあ！ んああ……………らひへくははい……………んう、ああゝゝん！」

——ヴィヴィは酷い空腹衝動に駆られている。

口の中へ精液を入れ込むなど、繁殖行為では無駄であると本能が訴えかけようが、彼

女は鬱血しかねないまでに血液の充満する長く、太いペニスを抜きながら口を開く。

舌の動きが「おいで、おいで」と、あなたの射精欲を誘惑させているエロティックさ。理屈ではない、論理的におかしくても飲みたい、あなたが愛しすぎておかしな行為でも全部したいと、完全に熱に浮いている鋼鉄ガールの舌は――

「んッ!! あはッ……………はッ!?! ああ! あ、んッ……………んッ……………!
……………ッ! あは、んう……………ちゅぐつ、んぐつ、ぢゅぐつ……………」

――着弾地点を自ら固定させてくれたお陰で、陰囊がベコツと凹む膨大な射精量にあな
なたは狼狽える事は無く、寧ろ自分で自分の射精に引いてしまった。

ペンキ、木工用ボンド、どう形容してもそれ以上に濃いだろう。ヴィヴィが熟成させ
てくれた精液が、食道をも白く染め上げている。

(……………っ……………これが、精液……………マスターの……………味……………美味しくは
ない、のに、いっぱい……………飲みたくなってしまいます……………何で? ……好
き、だから……………愛しているから……………そうに、決まっています……………)

初めての口内射精の感想、率直に「痛かった」

2
エッチな番外編—ヴィヴィと「あなた」の初えっち!—

収束された精子が怒濤に胃の中へ突っ込んで、ママになる者の身体だと喜び泳いでいる。

液状よりも鋭利な固形物にヴィヴィはムせてしまうが、表情には緩やかな笑みが浮かんでいる。

「……………少なくとも嫌では無いらしい。」

「はあ……………はあ……………マスターのですから、量が多くて味も不思議で……………飲む物では無いと理解していても飲みたくなっちゃうんです……………ちゆぐ、ぐりゅう……………んう、んうー、食道から胃袋までマスターので……………いっぱいです……………んぐんぐつ……………」

掌まで舐め干したヴィヴィは、そのまま床に落ちた精液すらも躊躇わず飲みそうな勢いで嚥下をしていた。

流石にとあなたは止めに入ったが、そこで自分が何をしようとしていたのかやつと自覚をしたらしく、口元をツインテールの毛先で隠して赤面をした。

「マスター……………好き、好きです……………ずっとずっと好きです……………はッ、はッ、はッ……………こんな時だけしか……………素直になれなくて……………」

指先を握ってくる力の何て弱々しい事か。

答えを聞きたい、だが怖い……………

彼女はチャンスが訪れていても、素直になりきれず甘えたくても甘えられない、自分が嫌いで嫌いで仕方の無い道のりを歩んできた。

「空虚だったわたしの心……………あなたが色を与えてくださいました……………厳しい事いっぱい言ってしまったけど……………あなたは優しく……………」

すっ……………

紐が解ける音がした。

彼女が身につけている物で、まだ結び目が解かれていない物——黒い紐。パンしか無かった。

「マスターはとってもいいお方です。わたしよりも可愛くて素直で……………選べる立場ですのにマスターはわたしを……………ありがとうございます……………んっ、ちゅぢゅ……………っ、んあ、ぶあ、んっ！ おいひ……………れふ……………まふはあ……………ちゅるるる……………ふーッ、んんううッ！」

あなたのお陰で彼女は変わった。——”変えてくれた”

液漏れ?

あなたがそう尋ねてしまいそうな、過剰な分泌を誇る愛液はヴィヴィの太ももの後ろや、真摯なまでに受け止め続けるシートに透明の輝きを投与させていく——

解いてすぐに投げ捨てた下着は「ベチャツ」と、水分をたっぷり含ませた重たい音を立て床に落下した。

「マスター……………いっぱい感謝しております……………わたしは——あなたの拳となり、盾となつて永遠を——」

想像通りではあつた。ヴィヴィの縦筋には無毛の一本すら肌で捉えない、神聖にして真性なパイパンだつた。

右手ではヴィヴィの縦筋、おまんこをクチュクチュ浅い箇所を優しく上下させながら、左手はヴィヴィの肩を抱いてやりキスをしているあなた。

童貞なのに器用な事をしていると、一指し指一本でも緩急させながらジワつと飲み込ませてくる膣内の感触に、あなたはツバを飲み込みながら再びキスをする。

「ちゅ、るっんう……………わたしだつてしょ……………処女……………です、もうどちらも卒業しちゃいますけど……………」

頬を胸に擦り寄せてくるヴィヴィの可愛さに、ペニスの強度はピークに達する。

(うわっ……………ここからお尻にまで届いています……………こんなに凄いの……………い

えっ、入って貰いたいです……………はっーはっー……………迎えられないと……………マスターと気持ちいい事……………いっぱいしたい……………!」

ベッドに仰向けとなって、両足を自ら開いていくヴィヴィは決心しながらも起動してから、最も不安な気持ちと嬉しい気持ちの狭間で葛藤している。

マスターも初めてのエッチ、満足するようなエッチをさせたい、でも自分も初めてで上手く行くのか……………失敗をってしまったら——

「あつ……………はいっ、落ち着きます……………すっー……………ふっー……………はあ、ふう……………そうですね、きつと大丈夫……………です……………」

不安が押し勝ちそうであったヴィヴィの頭を撫でながら、ギュツと強く抱きしめるあなたも緊張で喉が渴き餓えている。

（わたしも餓えてしまってます……………マスター、あなたが欲しいです……………わたしもあなたを満たします……………）

煩惱な神経が密集された裏筋が、ヴィヴィの膣口に擦りながら小刻みに竿を動かせるあなた。

素股のようになってるが、あなたはヴィヴィが笑ってくれるまでは我慢するつもりなのである。それはとてもツライであろう……………もう目の前にあるというのに。

「んはアア! あんツ! ンツ~~~~! はっー! ああー……………胸え! やっ

真紅だった瞳を「蒼に」染めながら、幸せな未来を描く契りの笑顔を見せてくれた――

「う……………う……………あ……………あ……………！ マスター……………大丈夫……………
 です……………ふっ、ふっ……………んっ！ あ、わたしでも血が……………っ!? はあゝ
 ……はあゝ……………マスターは……………んっ、あゝッ!? も、申し訳……………
 な、です……………おまんこ、ぎゅうぎゅうさせちやってます……………はッ、はッ
 ………………」

じゅぐツ……………心が一つになった次は、身体でも一つになった。

ヴィヴィの膣内で聳えていた最後の壁、あなたのカリを締め付ける膣内は、明らかに
 その先での窮屈さを警告させるようであった。

だが行かねばならない、ヴィヴィの膣内を「あなたに」合わせようと彼女も、両足で
 背中をホールドしたままグツ、グツと引き寄せてくれていた。

「はっ……………！ 気持ちが良くて……………何よりです……………わたしも……………
 マスターの太いので……………はあ、はあ……………っ！ いえ、痛みはもう無くなりま
 した……………マスターは痛みが引くまで待っていてくれた、そうですね……………優し
 い……………大好き……………んっ！」

人間で無いヴィヴィにも破瓜の血は流れる。

血を流した事の無いヴィヴィは安堵しながら、涙を拭うのも忘れキスを求めてくる。

「ちゅむっ、はっ、んくっ、んりゅう……………ちう、ちぷっ、むむう、ふああ……………マ

スターと一番エッチな事……………な! んあっ!? はっ……………はっ……………凄

……………おまんこでマスターの形……………分析しちゃってます……………」

ニユチニユチとまだ動いていないのに、音を立てて波打つ膣壁があなたの溝や筋を擦り上げてくる。

出会った当初はそれこそ「血の気の通わない」冷たすぎる少女であったのに——今は膣内だけでなく掌からも、温かい波動を感じ取れている。

「お待たせしてしまいましたね……………動いてください、マスターのいっぱい欲しいです……………一緒に——」

膣口からは根元まで突き刺さったペニスと、幼い質量の肉体から伝う紅い飛沫が上が

る。
あなたは鈍い声を出してペニスをビクつかせると、同時にヴィヴィも亀頭に合わせ縮小させてはカリ首に準じて膣肉を広げていく。

「ん、あ、ー!? ふーッ! ふーッ! んやあ! んうううう! ああ! んあああつゝゝ! 音も凄くつてええ! マスターとの繋がりが! はくゝゝゝうあ!?

ハッーハッー………ンンッー……!!」

膣内のメリハリが堪らない、胸をも接触させながら可愛らしく、あなたに全てを委ねている姿に脳震盪にも似た、痙攣があなたを襲っている。

「こんなに凄いなんてえ！ 知らなかったんですっ！ マスターとのエッチ！ ふや
ンッ！ あうッ！ 奥まで全部マスターのお………ん

ア！ ひやいいッ！ 知ってしまったんですっ！ 教えられてますっ！ はッ、あッ
！ ふっっッ！ うううッ！」

過剰なまでの愛液を分泌させていても、有り余る程の締め付けに精管がぶっ抜かれそ
うになる。

ヌヂユツ、ヌボツ、ブヂユツ、腰使いなどおぼつかないがヴィヴィには関係が無い。

とつても気持ちがいいから………あれだけエッチな事を嫌っていたのに、本当は
ずつとしたくて待ち望んでいた矛盾を秘めていた蒼き少女は、平常時とは比べ物になら
ない声量で吐露をする。

「マスターといっぱい触れ合えてーっ！ 凄く嬉しいんですっ!! 大好きになっちゃ
いますからあ！ 分かっていたから拒んでしまっていたんですっー!! んうー!
んッ！ ふううッ！ もつと！ マスターとしたいですっ！ わたしっ！ エッチな
子でいいですっ！ マスターと気持ちいい事出来るならエッチでいいですっ……

そうに発したら、頭から煙を出しながら羞恥で身体をクネらせる。

「マスター、毎晩寝る時にギュッとして欲しいです……………」

エッチの時だけ凶悪なまでに素直で甘え上手になるヴィヴィは、粒が敷き詰められた腔内をキュグツ、と粒ヒダをカリ首に巻き付かせるように蠢かせる。

「エッチもしてくれますか……………ありがとうございます！ いえっ、わたしからお願いしようかなと思っておりましたので……………はあ！ んっ！ んふう……………」

マスター……………おまんこ、こちら嬉しいって言ってます……………エッチしてると嘘ついてもすぐバレちゃいますね……………んちゅっ、れちゅれちゅれちゅ……………」

動くことを再開したあなたは、子宮口に亀頭を当てたまま小刻みに左右へ腰を回し込む。

「んえッ!!? そ、それは……………っくく！ んっ！ あっ！ あっ！ あああっくううッ！」

あなたも頭が回らない、どうすればヴィヴィが気持ち良くなるのか、文字通り股間に脳みそが移動している、本能だけで動いている。

「それも好きですよ！ マスターにされる事全部っ！ 全部とつてもいい！ はッー！ あああッー！ 毎日求めちゃうっ……………ずっとエッチしたくなっちゃう

……………もっとおまんこの奥押ししてくださいっ！ わたしもいっぱいおまんこで抱き

しめますっ!」

もう中出しするまで止められない。

ヴィヴィもラブ握りをしながら、自分から腰を揺すって新たな快感と、不規則なりズムにあなたのペニスから赤ちやんの素を搾り取るつもりだ。

「ンハアツ! ああツ! ひう、んいいツ! わたしはエッチですから! こういうのもしちやうんですっ! はーツ! んあああツーツ! きやふツ! うああツ! はいツ! 胸を吸われるの大好きです……! あうツ! おまんこもいっぱい締めちやうんですっ!」

上反りしたペニスが引き抜かれる光景、付着する血と愛液が糸を伸ばしてはまた貫かれる。

「くはン! ふやああツ! キます! 一番気持ちいいのっ! はひツ! あツ! へうううツ! マスターああ! 一緒っ! 一緒にいいいいツ!」

気持ち良すぎてイクのが怖い。

でもあなたとなら……

ヴィヴィは最後と言わんばかりに叫び、曇りも迷いも生じない蒼い瞳でもあなたを飲み込んでいく——

「はあツ! あつー! あああツー! んあつー! へうー! へツ……」

う、嬉しいです……………」

2度出した程度では萎えない、ヴィヴィが望むなら何回でもと、粘液に包まれているペニスの斜角はほぼ直角のままである。

「お疲れですよね? ……全然? むつ、ちよつとは疲れてくださいよ……………」わたしが馬乗りに……………あつ! 違いますよね……………んつ、マスター? わたしから今度は……………きじょうい、させてください……………」

照れているが顔を背ける事が無くなったヴィヴィは、素直にやってみたい事をお願いする。

頭上で揺れ動く彼女の巨乳を握り締め、沢山悪戯しながらの不意打ちピストン……………膣内射精を果たして余裕が出来上がっているあなたは、ヴィヴィの身体を堪能し尽くす計画を速やかに立てていく。

「はあああつ! ……こつちのも凄いですつ! マスターの届きすぎてええ……………」
くふうう……………」

いぎセックスをすればそんな計画は何処かへ消えて、本能だけで彼女の胸を頬張りながらお尻を掴み、ペニスをズリ回しアクメをさせていくのだが。

下半身はペニスへ叩き付けながら、両手はあなたの頬を捉えてキスを繰り返すヴィヴィの膣内は、前屈みによって大きく弧を描きながら締め上げるので、正常位とは感覚

が全然……………

「マスターあああ！ ギュツて！ んう！ ちゅぼつ！ んりゆりゆう！ ぢゅはつ！ はつゝあああつゝ！ 大好きい！ ちゅぐ、んぐう！」

大人しい子が乱れると止まらないのは、ヴィヴィも例外なくそうであった。

マスターとエッチをいっぱいしたい。衝動が彼女を突き動かしあなたもまた、受け止めては注ぎ込み初夜が過ぎていった――

「……………んゆつ？ あ、おはようございます……………ちゅぼつ♪ れるれるうゝ♪ ちゅ、ぢゆるう……………」

夢の中でもヴィヴィとバックで繋がっていた。

メタグロスである彼女は、四つん這いでのエッチが気に入ってしまったらしく、あれからは一度も引き抜かせずに体位を変えて出しても出しても膨らみ続けるペニスに「絶倫マスターです」と、言われた事も覚えている。

「もうお昼ですよ、エッチで疲れてわたしもずつと……………ちゅむつ♪ んゝぽつ、ぬるつ、はむゝつ、ぢゅゝごつ、ぢゆるごつ……………」

縮みこまっていた筈のペニスが、ヴィヴィの口内であるべき造形を取り戻していく。

舌の腹で豪快に亀頭まで舐め上げられて、あなたは言葉を途切れさせながらヌメる感触とツインテールを肩後ろへ直し、頬をもごつかせているヴィヴィの姿に血圧が上昇する。

「んっ、よつと……………パイズリ、です……………セックスし過ぎて忘れてしまっておりまして……………マスターはわたしの胸が好きなので……………してあげたいなって思っておりまして……………んっ、あつ!? 胸の中で太いのゴリゴリしてっくく! はっ—! はっ—! これだけでもイッチャウかもしれないです……………♪ んっ、あつ……………んしよつ、はっ—、マスターの熱くなつて来まして……………」

絶対にして貰おうと思っていたが、膣内への射精に夢中で乳内への射精がヌケ落ちていた。

「パイズリ」という単語のいやらしさに、ヴィヴィは汗だくの谷間を持ち上げながら口元を三角にしてセックス以上に恥ずかしがる。

そして恥ずかしさを拭い払おうと、体躯に似合わぬ巨乳であなたのを挟み込んだできたのだ。

「柔らかいので硬いの包んじやってます♪ ふっ—! ふっ—! わたしの心臓……………コアの鼓動が……………バレちゃう、1番近い場所にペニス……………はあ、ふうー、んう……………」

あなたよりずっと動悸が高速になっているヴィヴィ。

パイズリという行為上、仕方の無い事だがペニスが心臓を捉えているようで、何もかもがあなたの物となつていると眼を細めながら、谷間はむぎゆりつ、膣内に負けずの締め上げで射精を欲する。

「胸にもいっぱい精液ください！ はッ！ はッ！ はッ………んああ！ ああゝゝ
ゝッ！ あうッ！ んひやうッ！ はああ………いっぱい飛んで………はう、ん
ふっ………谷間もぐちやぐちやです………」

朝一番搾りの量と濃さ。ヴィヴィが求めてくれるならいくらでも回復してしまえるようになったあなたは、谷間で腰を浮かばせながらペニスを暴れさせる。

抑え込むようにして体重をかけているヴィヴィだが、圧迫感を強めて精液を搾りあげようとしていると気がついていない――

「はー、はー………えっと、こうするんですよ………？ あう、ンッ、マスターの精液で繋がって………つゝゝ!! 恥ずかしいけど嬉しい………です………」

たらふく膣内に押し込んできたのに、もう乾きを覚えているヴィヴィは射精量に瞳孔を拡大させながらも、じつゝゝゝと見つめながら根元をパイズリで擦りあげてくれた。いた。

ネバットロい精液が空中で橋を作り、胸を揺すつてもまるで壊れる気配がしない強固

さに、どれだけの精子が詰まっているのだろうとヴィヴィはドキドキしながら、精液の橋を親指で触っている。

「……………ふっ、ふっ、これは食べない方がいいですよね」

思わず精液を見つめながら口元を開き、涎を溢していたヴィヴィは相当精飲が好きになっっているが、パイズリ狭射した分は繋ぎ止めておこうと、中々に「分かっている」

「あのっ、お腹ぺこぺこだと思うのですけど……………一回だけ！ マスターとセックスしたいんです……………ダメ、ですか……………？」

ヴィヴィもあなたも夜通し水の一滴すら——ヴィヴィはたつぷり精液を飲みまくっていたが——口に含んでない。

カラツカラになった胃袋——やはりヴィヴィは胃袋も精液で漬けられているが——と羨びそうな身体。栄養素が不足しており視界がぐわんぐわんとする……………

が、ヴィヴィはあなたのお腹を摩った後に四つん這いとなり、後ろを向きながら白く染め上げられた膣口を開口させていく——

「はっ……………はっ……………後ろから、思いつきり……………んゝ！ あふうう!! 入って！ マスターの凄くブ厚いんですっ！ ハアッ！ ンハアアアッ！ ふアアア……………!! 大好きっ！ マスターとエッチするので大好きですからああつ！
ふうー！ ンアッ！ ハッ！ ハッ！ ダメッ！ すぐイッ……………ちやあゝ！

「丈をそのままに、笑顔で運んでくれた。
大好きです、マスター……………わたしのマスター!」

エッチな番外編—ラピ姉のおっぱいイキ

「イザヤさん?」

2人きりの時の恋人モードでは「ご主人様」から「イザヤくん?」と呼びたいように呼べるようになった、メイドドラグラージはおっぱいがデカイ。

100越えしカップは露出が皆無ながらも、メイド服のボタンを全て付けているからミツチリキツキツパンパン。

パイズリ穴を作るなんて簡単過ぎる、ボタンを1つずつ外す度に「ミチンツ?」と揺れながら、オレンジ色のブラが露わとなっていく……その過程だけでも射精できる。

「もお〜! 私だつてそのつ、恋人……? なんですからねえ? ヴイヴィさんばかりに構つて私はちよつと、かなり、凄く……寂しいですよ……」

ヴイヴィのエロ育成プログラムを制作し、実行させていたイザヤを見守るラピは構つてくれる—エッチ頻度が減少していてお怒り心頭。

無論、本気で怒つてはいない。超一流メイドも彼の前では恋愛経験皆無なお姉ちゃん。

重力に反逆するもつちもち、肌に触れたらぶつによぶによおっぱいを強調させて、目で誘惑すればイザヤは折れる。そう理解出来ているから行動に移したまでだ。

「キスして？ イザヤくん？ んぷッ、れりゆう？ んー？ ふー？ はあ、キスの一つで……お姉ちゃん気持ち良くなっちゃおう……？ ぷりゅっ？ んぢゆう、はっ？ んぷっ？ はあ、はあ……？」

キスの動きに呼応し片前になったポニーテールを、後ろへ直しながらのディープリキス。

おはようのパイズリフエラ、朝一番搾りをヌイている彼女だが、それだけでは同棲する恋人への性的欲求が募るばかり。

「おっぱい握って？ あっ……？ んふっ？ はあ……？ あ？ お姉ちゃんのおっぱい？ 独り占めするのはイザヤくんだけだよ？ ふあ？ んっ……くく？」

激長勃起チンポを逆手コキしながら、首と首を絡ませるようにうねり合うキスをしていたラビは、重量感たっぷりなおっぱいを掌タッチされて、朝愛撫されたばかりなのに—— 久しい気持ちを抱いた。

「あ、あ、っ？ ……はっ、はっ、う、ううう？ イザヤくん上手いなあ？ イザヤくんにされる事全部っ？ 気持ち良くなっちゃおうの……？」

ツンのめる形状の爆乳の弾力が強すぎて、キスをする為の距離を詰めるのも中々苦勞

する。何と贅沢なのだろうか？

谷間に腕を挟み込むポジション、これがラピとキスを堪能する最適解だ。

彼女の他種族よりも太く、麻呂な眉へとキスすればピクリと背筋とおっぱいを震わせて、可愛らしく反応をしてくれる。

「やんっ?」

彼女が胸元のボタンを一つ外せば、ボタンとの間が広がって龟头を突っ込めるスペースになる。

彼女のパーソナルカラーは青に思われがちだが、下着やニーソがオレンジ色なのでイヤは後者だと思っている。色相環に駆使した色気には常にドツキドキだ。

「ねっ? 後でまたパイズリ? してあげるねっ?」

キスをする為に挟みこんでいたイヤヤの腕を、二の腕で下乳を操り上下する。腕パイズリをされながら甘く囁かれて、パイズリ予約をしてくれる優しいお姉ちゃんは2人きりだとデレデレだ。

「イヤヤくん? あのっ、ボタン取れちゃいそうだから……? んう? 私がおっぱいで弾いて欲しいのお? もお? やってみるよ?」

乳圧で文字通り「はちきらせて」欲しい。イヤヤのお願いなら何だって叶えるお姉ちゃんなので、それくらいは――

「ふっ? あはは、お姉ちゃんに任せれば簡単だよお? 閉じ込められていたおっぱいがドンツ、て出てくるのがいいんだよね?」

性癖への理解が寛大なお姉ちゃんは、その気になればブラホックすらも胸筋と背筋で楽に外せてしまう。ラグラーズだけに怪力なおっぱい、でもおっぱいご奉仕は最高に柔らかい。

「はあ、はあ……ブラはしたままでいいの?」

外れ飛んだボタンが暫く床で回転していた。

イザヤは片手で収まる訳のないLカップを、欲望のままブラからハミ出そうな乳輪を親指で擦る。

ブラ上から愛撫され布地と指、二重の重みが乳輪に加わって膝が折れてしまいそうな、強い性感を与えられておっぱいがムズムズする。

「んっ? んっ? んうー? イザヤくんはそれでいいのかなあ? パイズリとか、はア、ん? まだいいのお? ……そ? お姉ちゃんのおっぱい両手で楽しみたいんだ? いいよ? イザヤくん上手で……ふううん、ッ!? あはあくくく? お姉ちゃんの気持ちいところ全部知られちゃってるからあ?」

おっぱい好き放題されて悶えているラピが見たいらしい。

背面に回ったイザヤはブラの材質、装飾、カップの大きさ、ラピのこもり熱。

全てを両手に染みこません勢いで、乳輪をグリつかせながらガーターにチンポを引っかけて、素股のように動き出す。

フェチ度の高いプレイでも、両手を上にあげて無抵抗のポーズをとりながら、ムチムチ太ももを不規則に動かして、激反りカリ太チンポを気持ち良くしてくれる。

「んああ……？　はあ？　イザヤくん？　ん？　んえ……？　後でブラ欲しい？　ふつ？　えつちい？　もういっぱい持つてるのに？」

恋人になっても洗濯中のブラジャーを盗んだり、ブラジャーの内側に射精してから付けさせてパイズリを希望したり、ブラジャーをチンポに巻いてラピをオカズに見抜きしたり。

防災頭巾の代わりになるクソデカイブラジャー、しかもお姉ちゃんが所持していたり付けていたばかりの物だ、興奮しない男はいないだろう。

「イ？　イザヤ、くうん？　ブラ越しで爪え？　カリカリさせるのも好き？　くうん？」

はえウッ！　ン　くうんお姉ちゃんキチャウからああ？　ふーッ？　うううくくく？　乳首あちゆう？　あーっ？　イザヤくんも？　ねっ？　ねえ？　太ももこしゅこしゅで一緒にいこ？　はっ？　はっ？　キ……キチャあ

「……?」

秘技・乳首カリカリ一点集中アクメ。

両手の人差し指で只管に、ブラ越しでありながらも突き破って来そうなお姉ちゃんの勃起乳首を、ピンピン弾いてグリグリコマンド乳力。

ムチムチお姉ちゃん太ももとガーターにカリ首を捕獲され、イザヤも耐え難い肉檻の感触に悶えていた。それでもラビを気持ち良くしたいと、耐えようとしていたが——お姉ちゃんの要望なら仰せのままに。

「ふーッ? ふーッ? もお? おっぱいだけでお姉ちゃん? イツちやつたあ? んふ、足にいっぱいイザヤくんの? こっちも熱いよ?」

人差し指を唇に当てて「めっ」のポーズをしながら、濁ついた白い液体がガーターの大半を覆い隠している量、そしてイザヤの熱をそのまま受けて余裕を見せようとする彼女も、愛液をガーターに伝わらせてしまっているの、バレバレになっているのも可愛い。「でもなあ、今のはどちらかと言えば……よいしょっ? ブラにイカせられちゃった、かもしれないからあ? 今度は生のおっぱい? イザヤくんに本当のクリクリされたいなあ?」

「ブラジャーが床に落ちた」「ゴトンッ?」

拘束から解かれたLカップは1mの距離が開いていたとしても、余裕で勃起した乳首

が当たってしまふ。今朝ハイズリ搾りされて、今し方「おっぱいの子宮」「おっぱいのクリトリス」を愛撫してイカせたばかりの、血管うつすら健康体お姉ちゃんおっぱい！

「ふハアアう？　　　　　すごっつ？　このままだとお姉ちゃん耐えられなくなつちやうかも　　　　　??！」

彼女のダイナマイトなおっぱいが、物理法則のまま上下しおまんこを馬乗りで打ち付けて、中出し搾りされるのも時間の問題であった。

エッチな手持ち全員との場合―蛙くのいちと占い師とセックスその2

ドスケベエロ忍者、ドスケベ褐色占い師。

性癖に応え、性癖を無理矢理ネジ曲げてしまう、魅力と精力に溢れた身体、おっぱいをプチ当てながら、仲良しフエラチオ。

「マジでチンポ痺れるぜっ！ 本当に気持ちがいいと……ああっ!? 頭ん中白くなつて！ 手足も反応しねえ！」

「んぱっ♡ んぢゅっ♡ ふぢゆるう♡ 主様あゝゝ♡ 拙者の舌で巻きイッてくださいませええ♡」

「ぶぐっ♡ ふぐう♡ んっ♡ んふっ♡ 旦那様♡ 胃袋も孕ませてください♡
♡ ワタシ達は旦那様のモノですから♡」

二匹のおっぱいを揉みながら、腰は二匹の腕に支えられ、立位を奇跡的に保っているイザヤ。

（Jカップなのに潜入調査してたのかよミヤビいいゝゝ！ トロンちゃんは握り締めやすい面積を保っていてくれえ！）

トータルバランスは、トロンのおっぱいが最もいいらしい。第一の嫁だけあるが、鼻根ではなく厳正なパイ揉み調査の裁定だ。

だが、身軽さを武器にする忍者であるのに、不向きな爆乳をブラ下げているミヤビ。仮にAカップならば、もう2〜3段階素早さが上がっていた可能性は大いにあるが

……

そんなものっ！ イザヤが認めない！ 大きくて、それでも素早く可愛いミヤビは最強なのだっ!!

「このドスケベめえええ!!!」

「うあああああんっ♡」

「ひゃうううう♡」

精子平等種蒔きスプリンクラー射精、唾液と我慢汁で潤う口内も、性欲がすぐに飢えを与えていたので、二匹は床に落ちた精液すらも、家畜の如く舌を這わせて飲み込んでいる……

「ミヤビさんのもくださいな♡ ちゅぱっ、はっ、はっ……♡」

「んんうー！ トロン殿お♡ 拙者はこんなにスケベだったでゴザるよお♡ んちゅん

ぢゅ、ぢゅう……♡」

百合キス精液交換を、背後から腕組みおっさんスタイルで眺めるイザヤは、チンポが

キョダイマックス。

彼の得意技「キョダイセイエキ」は、手持ちを確定妊娠させるとんでもない技である！

「ミヤビからするぞ！ ラップラブの正常位でな！」

背面や側面の生ハメ調教ばかりだったので、望んでもお預けされていた正常位……

「嬉しいです主様あ♡ セツシャの膈壁に主様を染みこませてくださいいい♡」

仰向けになって、ハイレグ状になっている布をズラせば、パイパンおまんこがケロムースを吐いて、くっばくば……

一歩間違えたら簡単に筋が見える。彼女の忍者衣装が卑猥すぎて、イザヤチンポはぐんぐんドリリンク並の、進化速度で精液が練り込んでいる。

「あはああ♡ キ、キたあ♡ 主様のお♡ はああ♡ あっああくく♡ この角度も好きでゴザるうう♡」

「クソツ！ 何で俺の手持ちは水タイプなのにおまんこは炎タイプなんだつ!!! ねっとうおまんこでチンポ火傷状態だぞっ!!? からげんき精液ブチこんでやるからんっ!!」

ラブ握り挿入に、ミヤビは悲鳴を上げて喜ぶ。

M字開脚でチンポを飲み込んでいる姿に、刺客として放たれた面影は無い。

「お願いしますうう♡ 拙者に主様の子を産ませて欲しいでゴザる♡」

「孕むと任務出来ないぞっ！ それでもいいの catt！」

「いいでゴザルっ♡ 主様が調教してくれたおまんこでっ♡ ギチギチおちんぼ締め付けて精液おねだりするでゴザルよおお♡♡」

「何てドスケベなんだっ!!? 俺好みなったマンコが裏筋ねぶって挑発してきやがるっ！ いい度胸だ、これからはチンポ大好き奴隷でベッドの上でしか任務できなくしてやるっ！」

耐久性が壊滅的なゲッコウガは、膣内の耐久性もカスつぺらい。

飛沫を上げている結合部、両足でイザヤの背中をロツクさせ、子宮口もぐちゅぐちゅ音を立てて、精液を引きずり込もうとしている。

「はああっくく♡ 主様ああくく♡ キス♡ キスをめぐんでくださいでゴザる♡」

「世話がやける淫乱忍者だぜっ！ 可愛いぞミヤビイ!!」

長く伸びる舌を絡ませて、イザヤの味を堪能しながら、膣圧でチンポを圧縮する。

確かに、こんな凶悪なおまんこであるならば、性交でターゲットを殺す事すらも出来ただろう。まあ、処女だったのだが！

「イク♡ 主様イクっ♡ ぢゅぱちゅぱっ♡ はあくく♡ へう♡ へふううんっ♡ はやいつ♡ おちんぼ早すぎてイクうううっくく♡♡」

中出しをされながら、ピストンさせる。

グリグリと子宮に押し付けていき、主無きポケモンであったミヤビへ、未来永劫「イヤ」を刻みつけられた。

「マーキング完了……トロンちゃんにも中出しキメたら、パイズリして貰うからなっ！」

「はっ……♡ はっ♡ 承知しました……でゴザる♡」

従順なメス蛙になったミヤビは、へんげんじぎいだけど、げきりゆうさせている精液を、愛おしそうに口へ運びながら、舌をアへらせている。

「旦那様♡ ワタシが動きますね♡」

疲れていないけど、気を使うトロンは絹パンを緩めながら、25cmへ跨がり始める。

パレオがスケスケなのに、捲る時は少し恥じらう。チグハグさが可愛いのだ！

「はあああ……♡ ミヤビさんのおまんこ汁が♡ ワタシの膣内へも♡ 旦那様あゝ♡

ちゅぷっ、んはっ♡ はっ♡ はっ♡ んぐっ♡」

彼女の腰回りの細さは、グラインドの上手さがあってこそでもある。

キスをしながらの、弄り騎乗位ダンスはお手の物。イザヤチンポという大舞台は、大量の精子を観客にしている。

「トロンちゃん！ 今日こそ孕ませるからねっ！ 夫婦セックスで50人くらい産んで

！」

ぎゅむっ♡

形よし、質感よし、軟らかきヨシ、エロさ最高のFカップを握り、トロンの背筋を仰け反らせれば、膣内も反りに応じて構造が変わる。

「ひゃあああうっ♡ 産みます♡ 産ませてください旦那様♡ 産まれた子達ともセックスしてあげてくださいっ♡」

「散々中出ししてるんだから、それくらい産まれてもおかしくないよねっ！ するっ！

子供達もトロンちゃんみたいに可愛いんだろうなあっ！」

イチャラブに抱き合いながら、パコる2人をオナニーしながら眺めているミヤビ。

自分はまだ「あの域」まで達せない。奴隷もいいが夫婦にもなりたい。

（疼きが止まらないでゴザる……♡ 青春を取り戻そうとしてるのでゴザるか♡ 拙

者は♡ 主様とイチャイチャ♡）

……硬そうな女ほど、案外乙女さが根底に埋もれていたりするのである。

「あっ♡ あっ♡ ふはああ♡ 旦那様あゝ♡ くださいっ！ 精液くださいいいいっ♡」

マジイキ痙攣で、膣がローターの超速振動よりも素早く、ビリビリ震えて精液を搾り取る。

トロンはイザヤの射精タイミングで、必ずイクエツちな努力値調整がなされている。

「フッ♡ フッ……♡ 旦那様の……確かに受け取りました♡」

褐色で引き締まったお腹を摩り、瞳は見えないが母親オーラを出しているトロン。

一列に並んだ子供達に、ぶっかけては中出しのコンボ、実現させたいと願う夫婦は、
瞳とチン先を繋げるザーメンブリッジから、絆の太さも窺えるだろう。

「——イザヤくん、じゃなかった！ ゴホゴホッ！ ……ご主人様、お取り込み中に失礼致します」

おもつくそ素を出していたが、仕切り直して扉を開けたのは、おっぱいラグラージのラピお姉ちゃんであった。

「うわおっ!? ラピ姉も混ざる〜?」

動じた振りをしているが、発情オナニーをしていた件など、とつくに察している。

お姉ちゃんのプライドを守る為に、敢えて口にしないイザヤは紳士なのだ！

「え♡ そ、その提案は魅力ではありませんけど♡ コホンッ！ ご相談させていただけます、私の同僚であるメイド達を、ご主人様の下で研修させたいと思うのですが、如何でしょうか？」

今は我慢、後ほどメイドとしてではなく、「お姉ちゃん」として、イチャラブパイズリセックスをすると、アイコンタクトで太眉を落ち込ませるラピ。

「メイド仲間!!? 一つ聞きたいんだけど、どんなメイドさんなのかなっ?!?」

「そうですねえ、とりあえず胸は私くらいには大きいですよ♪」

「今すぐつつつつつ!!! 連れてきてもいいよっつ!!! ほおおーっ!!! ふおうふおう
ふおーっ!!! おっぱいメイドオ!!! チンポ研修バッチコーイ!!!」

(こっ言えば絶対にお断りしない、単純だなあイザやくんたら♡)

ちよつとだけ嫉妬するも、メイド3人でご奉仕4Pもいいな……そして、その妄想は
現実となる。

(ランターンとギャラドスかあ! めつちやエロいのかなあ! 早くパイズリされてえ
ぜwww)

ヴィヴィのこっさりばいずりえっち

「……またですかっ?」

小柄な蒼髪ツインテールの少女、メタグロスのヴィヴィは眼を鋭く細めて、睨み付けてくる。

特にその気は無いが彼女は怒る時に、必ず腕を組むポーズを取る。

もにゅっ、そんな柔らかかく形の変わっていく擬音が、乳内から響く。

小柄だけドバストは軽く90cmを越えて、Iカップに近いHカップを備えている、理想的なロリ巨乳体型なのだ。

「どうせしなかつたら、泣きついてくるんですよ……マスターともあろう者が情けないですっ……!」

語気を強めてみたが、この程度では全然諦めないとも分かっている。何度も何度も泣きつかれてヴィヴィは折れているのだから。

「……分かりましたっ、やればいいんですよ……すぐ射精しちゃうんですよから、1回で終わりですからね……約束は守ってくださいね」

土下座する勢いで泣いていたのに、パイズリを許可されたら一変して、飛び上がって

喜んでゐる。

(また許してしまいました、わたしも甘いですつ……)

演技だと分かっているけれども、最後の最後には毎回許してしまっている。

しかも性的な要求、コメットパンチで粉碎して黙らす事が出来るのに、彼女がそれをしないと把握してあるが故なのだ。なぜなら――

「……っ！ そんな、下着を見たくらいでかつ、硬くさせないでください……」

ヴィヴィは「むっつりスケベ」だからだ。

「下着を外したいんですかっ……この間まで外し方も分からなかったのに……勝手にしててくださいっ！」

予想通り、ヴィヴィのブラジャーの色は黒であった。まあ、下着に拘らない彼女の持ちブラは、黒か蒼の二択なのだが。

何度も言うが小柄なのに、胸だけは凶悪なサイズをしており、ブラジャーなど顔が完全に覆える大ききさなのだ。

性格に言えば彼は最初からロリ巨乳が好きではなかった、寧ろ邪道だと思っていたが――大きいおっぱいは大好きだった。

「んっ……！ ちよっ、触らないでくださいっ！ マスターは大人しく横になって、ペ、ペニスを出してあげればいいんですっ！」

性癖を書き換えたヴィヴィには、責任を取って欲しい。……アホみたいな名目だがヴィヴィがむつりだと判明してから、かなり強気でエッチな提案をするに到る。

フロントホックを簡単に外せば、ふるふるッ、んっ。何度もおっぱいがバウンドしつつ、支えがなくなるとも綺麗な惑星型を保つHカップが弾けて、戻る。

あのヴィヴィが胸だけを晒し、何度も見られているのに未だに、腕でおっぱいを隠している仕草に萌えて、チンポは巨大なバトルタワーを作り出している。

「~~~~っ!! 挟みますからねっ、射精まで大人しくしててくださいね、んっ……んしよっ、ふわああ……あつっ……!」

表情こそ睨んでいるが、ヴィヴィの心臓はバクバクに緊張している。亀頭が左側のおっぱいにぶつかっていたので、言い訳も通用しなかったのだ。

何度も論破されてしまっているので、ヴィヴィは「戯れ言なんていいですからっ」、強行突破しながら遂にチンポを乳内に押し込んだのだ。

「はあ……はあ……雄々しくて、熱いですっ……身体中の血液がここに密集して……はっ……んっ、な、何ですか……わたしのパイズリ……そんなにされたかったんですか……変態ですっ……!」

工芸品のようなヴィヴィのおっぱいは、あんまりにも「割れもの注意」な軟らかさ。

おっぱいが大好きでも、最初期だけは躊躇してしまう……それほどまでに恐ろしい軟

ヴィヴィは性感体が多い。

首に耳に唇に、もちろん特徴的なおっぱいもだ。服越しにツンツンされるだけでも、フロントホックが外れてしまうほどに、乳首が勃起してしまうのだ。

要するにパイズリは、性感体を集中して責められているに等しい。特にカリ首が引っこ抜かれる（ズリ下ろす）瞬間が好きなのだが、彼女はバレていないと思っている。

「つつ!! 生理現象ですからっ……! そういう事は言わないでくださいっ! もうっ、生意気なペニスですっ! さっさと射精してくださいっ!」

乳輪ごと突起させてしまっているヴィヴィ。隠しようのない興奮を指摘されても、予め用意していたセリフで突っぱねるヴィヴィ。

「はあ! はあ! んうううふああっ! 分かりますっ! ペニスの中が! 精液が躍動しようと待ち構えていますっ! んふっ、んっ! ダメですからっ! 顔にはかけないでくださいっ!」

頑なに顔射だけは許してくれないが、本当はぶっかけられたいのも知っている。

じっくりとおっぱいから攻略すればいいと、まずはおっぱいを犯して、精液を染みこませるチャートに変更済みなのだ。

「ふっ……! んっ!! ふっ……ふっ……! ああっ……イク……! んですねっ……!

! おっぱいでぐちやぐちやにされてえ……ビュグビュグッ凄いのっ! またおっぱ

いがイツちやうつ……イツちやふううつ！ やつ、やあつ！ あつ！ あつ!? キちや
いますつ！ 凄いのでまたおっぱい……くくうううつ、うううつ！ あああああつ
……」

どちらの意味で「イツちやう」なのか、敢えて言葉にせず高速交互パイズリを楽しみ、
本能のまま射精管を重労働させつ……乳内射精。

顔射はイヤだと、イク間際に必ず亀頭までおっぱいで巻き込んでくれるので、安全に
乳内射精が出来る。出された種子は残らずおっぱいを浸らした。

「ふやああ……おっぱいに出しても……意味ないですのにつ……ハッー！ ハッー……
ふうううつ……こんなに出してつ……おっぱい……妊娠させる気ですかつ……バカげ
てますつ、んう、洗うの大変ですのにつ……やああつ……」

何秒間おっぱいの内側へと、発射されていたのだろうか。やつと収まり残り汁も搾り
尽くすようにして、ギユツと下乳が亀頭を越えて隠されていた、ペニスが極楽浄土のま
まヘタリこんだ。

（うわつ……おっぱいの間で……こんなに糸引いて……理解ができません、何の意味も
無い行為なのに……わたしはドキドキして……?）

亀頭と谷間を繋ぎ止めている、幾本もの白く濁った橋をぼつくと見つめながら、
ヴィヴィは心の中で言い訳をするが、次に頼まれたらまた断りきれないだろうなど、諦

めておっぱいを露出させている自分自身を妄想してしまっていた……